西畑村中野

村會議員 齋藤六衛

絢爛と明快とを併せ具して、本村有力者中に異彩を放つ氏は、溫厚なる資性と博識の才能とを有する村幹である。明治二十四年十二月、先考豐藏氏の長男として生を享け、大正元年習志野騎兵聯隊入營、上等兵に昇つて除隊せる優秀なる人物にて、一時北海道炭鑛汽船會社に勤務せることあり精勵恪勤、先輩や同僚の信任を受け、將來の大成を期待されたが感ずるところあつてこれを辭し、故郷に農耕の業に從ひ傍ら區長、農會評議員を歷任、現時村會議員に選ばれて輝やかしき事績を著はせるほか、小湊誕生寺信徒世話人に擧げられてゐる。また福壽火災保險會社代理店を經營する。長男勝雄氏は高輪中學校に在學し、頭腦明晰を以て鳴る。

中川村大野下

村會議員 藤平熊太郎

氏は溫厚明朗の人材にして言語叮嚀、人に接して懇篤なる人格者である。開祖以來十三代目に當り、先代佐兵衛氏までは代々名主をつとめし家柄にて、氏は先代の長男、慶應二年二月二日の岳降である。農業の傍ら養蠶を大々的に經營し、しかも自治界事業界にもその人ありと聞えたる活動家にて、區長代理二期、區長をつとめ村青年團の創設者であり、現在村會議員及び學務委員を兼ね、村の農業山林開發並に道路改修や架橋等に特に功勞多くして感謝狀及び表彰狀を受けたること一再ならず、事業會社方面にても卓越せる辣腕家と謳はれた人である。長男は明治十九年の生れ、二男は夭折し、三男は分家して目下北陸汽船會社に船長として勤務する。

中川村作田

村會議員 吉原亀藏

中川家は當村有數の舊家であり、尊父太郎右衛門氏は七十二歲の高齡を保ち、區長並に村會議員として村自治の爲めに多大の功績を遺して不歸の客となつたものである。氏も又明治元年七月十日岳降と共に家業の農事にいそしみ營々として村產業或は村自治の上に七十餘年の今日まで盡力し來つたのであるが、現在產業組合相談役、明王院檀家總代、氏子總代村會議員として村內長老として重きをなしてゐる。尙氏は村政に貢獻大なるものありとして縣より表彰されたことあり、夫人は愛國婦人會員たり且六人の子福者であつて、家庭は極めて圓滿である。因に氏の子息は現在支那事變に出征中。

中川村大野上

村會議員 元區長 小高豐吉

氏は衞生組合長、區長代理、區長等の

重職を經、その間村內衞生問題に、部落の和合協同に多大の盡力をなす、爲めに村民の推輓を受けて村會議員に擧げられ村自治に公正を念願として努力す。當家は相當古き家系にして一郎兵衞氏長男として明治十年三月岳降せり。古くより深く日蓮宗に歸依して常に心情を淨め一家極めて圓滿にして子福者なり。夫人は愛國婦人會員、長男要氏は氏の衣鉢を襲ぎ農事に專心す。三男は目下支那事變に出征中にして、家族としての襟衿又高潔を極む。

中川村作田

村會議員 小高惣平

三百年の家系をつたへる當地有數の舊家にして、曾つて區長を勤め部落融和の實を擧げた岳父惣五郎氏は八十歲にして現在尙壯者に列し得る頑健長壽の翁である。氏はその長男として明治十四年十月に生れ專心農業養蠶の家業に從事すると同時に又當村自治の爲銳意精勵今日に至つたもので曩きに、區長代理、區長等の要職に就きその間の努力は村民の多大なる推輓を受けるところとなり村會議員に推され今日に至つたものである。氏は又五人の子福者にして家庭頗る圓滿を極め長男辰男氏は家業をつぎ、二男は現在未だ中學通學中であると。

中川村札森

村會議員 池田梅吉

一意、至誠奉公の精神を以て鄕黨のため寢食を忘れて奔走盡力し、令名燦として四隣に輝やかしき氏は、頭腦明晰にして資性英邁なる陰德多き人格者である。二百年來の由緖深き舊家に、先代伊平次氏の長男として、明治十二年一月を以て呱々の聲をあげ、祖業たる農耕の業に淬勵しつゝ、區長代理、區長、消防組小頭等をつとめ、孜々として公共に殉ずるの覺悟を以て盡瘁し、特に消防事業に功績顯著なりし故を以て、先年消防組より表彰さるゝの名譽を有した。現在は村會議員に選ばれて村政に參畫し現實に即應した理想を以て村勢の進運に努めてゐる。家族六人あり、子女は長男敏雄氏（明治四十二年生）以下一男一女をかぞへ、よき家庭人として他の羨む生活を送つてゐる。

勝浦町串濱

前勝浦町長 岩瀨常三郎

電話勝浦一五四番

氏は八面六臂の活躍家、當地方に於ける政友會系の先輩として重きをなす。明治三年の出生にして、若くして銀行業務東京米穀取引所等に關係深く、大正六年勝浦運輸倉庫株式會社を創立して專務取締役に任じ、現在は同社取締役として活動するほか、昭和漁業株式會社監査役、外房遊覽自動

車株式會社取締役、勝浦造船所取締役等事業界――殊に交通運輸業界に重きをなし、名聲嘖々たるものがある。また信用組合理事もつとめ當町の人望頗るあつく町會議員二期・町長二期の閲歴を有し、人柄といひ手腕といひ名望といひ比類稀なる材幹である。令閨むめさんは良妻賢母の女性、長男右京氏は勝浦合同運送株式會社重役、令孫は五人をかぞへる。

國吉町

久貝源一

元國吉町長
元縣會議員
元郡會議員

元治元年六月、當地有數の名門たる久貝家に生を享けたる翁は、專修大學の前身たる專修學校に政治法律經濟の三科を修め、明治二十四年縣會議員に當選したが、翌二十五年郡有志と意見合はずして辭し、大井憲太郎氏と共に東洋自由黨を創設次で大島柳内兩氏とその機關紙新東洋を發行せる自由改進兩黨時代よりの政治的經歴の持主にして、後、實業界に轉じ、群馬縣吾妻郡草津上の原鑛山、大多喜町製糸工場信弘社を經營したが、北清事變の勃發に際してこれを廢し、天津に至つて不二商會を設立戰時雜貨の販賣に從事した。明治三十四年縣會議員及び同參事會員に當選、翌年故ありて政友會を脱し憲政會（現民政黨）に入つて今日に至り、町長三回十餘年、夷隅軌道會社長等を歴任せる郡内民政黨系の長老である。

中川村大野下

前縣會議員

藤平和三郎

人格あり、財産あり、學識あり、村一番の信望家として全村民の信任と尊敬を一身にあつめてゐる氏は、見るからに悠々たる風格の持主にて、人に接しては溫厚、事に當つては毅然、縱横無盡の才腕は、先年縣會議員として活躍して縣政界周知のところである。當地方屈指の名門といはれ、開祖以來四百年に及ぶ舊家に、先代左通氏の長男として明治五年八月に生を享け、縣會議員、村會議員、その他各種公名譽職に擧げられて功勞多く、各方面よりの表彰は一々列擧の煩に堪へない。長男は東京市にて辯護士を開業、次男は東京市東亞鐵工所に三男は東京電燈會社横濱支店に勤務、四男及び五男は南米に雄飛し六男は現役軍人、以下三名の家庭にあり子息に惠まれた幸福者である。

長者町井澤

元長者町長

金綱烝

當家は數百年來の舊家たると同時に、當地有數の資産家として著名であり、先代直氏は初代長者町長並に縣會議員等に

選ばれたる人望家である。家業は醤油釀造業、すでに三百有餘年の歴史を有する老舗にて、製品は縣下は勿論のこと縣外にまで移出される。氏は先代の長男にて明治九年四月四日の出生、同三十年早稲田大學を卒業せる英才にて三十一歳の時縣會議員に選出されて重選二期に及び若き敏腕家と謳はれ、その他助役、町長二期、町會議員數回、初代消防組頭、町農會長等を歴任學校增築その他に功績あり、民政黨系の傑材にて、茶ノ湯、挿花、俳諧等雅趣豐かな趣味の人であり、資性溫厚、町の長老といはれ、德望家である。因に夫人は國防婦人會顧問の地位にある。

上野村法花

前上野村長

長田一也

いふまでもなく、わが日本の精華は、御歴代の宏大無邊の御聖德と古來億兆臣民の誠忠無比なる臣節とによつて、美しく發揮せられてゐる。氏の如きは、實に精華中の一人であり、鄕土の誇りとする人材である。明治二十一年四月を以て先代垂穗氏の長男に生れ、資性溫厚篤實の譽れあり、家業多忙なるに拘らず、早くより自治公共の事に盡力し、村會議員に當選すること四回、後、村長に擧げられて卓越せる手腕を揮ひ、名聲四隣に響き渡り名村長と謳はれた。産業組合の發展には功勞特に顯著なるものあり、現に産業組合理事をつとめてゐる尙、尊父は收入役、助役、村長、村會議員に歴任せる自治功勞者である。家庭には母はる刀自、令閨まさ氏長男穗積氏 茂原中學校出身）、二男裕二氏（帝大法學部在）のほか三人の令息がある。

總元村八聲

前總元村長

本吉九郎吉

不偏不黨公平無私の逸材たる氏は一面農業に熱心なる篤農家としても有名である。先代平治郎氏の長男にして、明治六年五月を以て生をこの世に享け、幼少の頃學に親しみて頭腦明敏を極め長ずるや衆望を擔つて幾多の公名譽職に推され、産業組合監事助役、村長として本村自治産業の進展に寄與貢献せること尠少ならず、村農會長たりし氏の手腕も人々のすでに知るところ、その他青年團長に推されては若き時代人の指導誘掖に盡して功あり、村會議員に選ばれること三回、區長たること二

期、赫々たる功績は永遠に消ゆべきものではない。されば各方面より表彰されること數度に及んでゐる。家族は五人あり令孫一名を有し、家庭は頗る幸福平安である。

西畑村紙敷

元西畑村長 勳八等 君塚正親

當家は土地有數の舊家にて代々名主をつとめ、先考六左衛門氏は戸長、村長等自治制初期に於ける功勞者にして、氏は明治八年その長男として生をこの世に享けた。青年會創立當初同會長に推され、また初代農會長に任じて本村農業政策に盡瘁し、村會議員に選ばれること八回、三十二歳の少壯にして村長の椅子に推されし手腕ある人望家であり、郵便局長として通信文化に貢献すること十有八年、小學校合併問題惹起の際はその解決に當つて特に功勞あり、あらゆる點から村治功勞の第一人者と稱される。溫厚なる人格者にて、盆栽に趣味が深い。なほ夫人むめ子さんは國防婦人會分會長、長男六左衛門氏は前在鄕軍人分會長にして現郵便局長、次男正氏、三男文雄氏、四男通雄氏は共に醫科大學を卒業せる潑剌たる國手である。

西畑村小苗

元助役 勳七等 君塚倉松

當君塚家は土地有數の舊家にて、三百年餘の由緒ある歴史を有し、代々名主の役をつとめた家柄である。氏は先考健治氏の長男にて明治六年九月を以て生を享け、同二十六年徴兵され、日清日露の兩大戰役に出征せる實戰の經驗者である。明治四十年朝鮮にて憲兵を拜命、漸次累進して憲兵軍曹となり、職務に恪循して成績優良であつた。歸國後は農耕の業に從ふ一面、村會議員區長寺院總代、氏子總代その他の要職に推されて種々村のために貢献し、また助役、學務委員等も歴任、現在は耕地整理組合長及び寺院總代を兼任する。四男四女の子福者にて、長男五雄氏は中學校教諭、次男公義氏は東京の某會社員三男朝衛氏は衆議院速記課に、四男省一氏は東京中央電信局に勤務する。

上瀑村横山

村會議員 元上瀑村長 伊島伊之助

全村民衆の總意を代表して襄に村長に就任するや、一意村勢の發展と村民の福祉增進につと

めて縱横の手腕を發揮し、殊に産業の振興に意を用ゐたる氏は、藁工品副業をして、今日の隆盛に至らしめたる功勞者にして、今や同副業が村民經濟に重大なる役割を演じて年毎に利益の增大を見つゝあるは、實に氏の努力の然らしめた結果である。曾ては收入役、區長、郡養蠶組合聯合會長、縣養蠶聯合組合副會長、村農會長、横山養蠶實行組合長等をつとめ現時村會議員七期目、方面委員、學務委員等を兼任するほか、四十餘年來の寺院總代、三十有餘年來の氏子總代をつとめ縣養蠶組合聯合會や大日本蠶絲會より表彰を受けし功勞者である。因に當家は元祿年間以前より名主をつとめし舊家、現在の家屋は百四十年前の建築にて、氏は先考六左衛門氏の次男にて明治四年八月の岳降である。

千町村松丸

前千町村長 大曾根文治郎

氏は大曾根伊勢守の末裔にて元治元年正月十日の岳降、消防組頭六ヶ年、元松丸村會議員、千町村會議員、學區聯合會議員、地主總代、學務委員、小學校新築委員、衛生常設委員、村農會代表、郡會議員、千町村長等多方面に亘つて活躍貢献し、

産業功勞者としては郡より自治功勞者として郡長より消防功勞者として縣知事よりそれぞれ表彰を受け、現在は學務委員、千町村産業組合監事等の公職のほか國吉町所在上總水電株式會社の重役を兼ねる。

中川村大野下

前中川村長 田邊惣次郎

本村に於ける政友會系の人材として重きを成す氏は、明治三年二月二日の岳降にして、長じて横須賀重砲兵隊に勤務し除隊後農業の傍ら自治に關與貢献するところ尠なからず、私設消防組時代からの消防功勞者で、公立に變更後第二部長に任じ、後組頭に選任また農會長村長の重職を歴任現時三期目の郡農會副組長をつとめ從來各方面より表彰されしこと枚擧に遑がない。長男宗太郎氏は明治二十一年の出生、同夫人は國防婦人會役員である。

長者町

青年團長 從七位 勳八等 峰島利平

氏は劍道の達人として著名なる武藝家である。嚴父喜助氏は年齒喜壽に達するもなほ矍鑠たる元氣を有し、町會議員、方面委員に選ばれて自治並に社會事業に盡瘁されつゝあり、毅然たる態度と豪快の性質とは町民の尊敬をあつめて燦たる

光芒を放つてゐる。氏はその血を享けて剛毅の氣性を有し、長男として明治十九年四月二日を以て生れ、東京市錦城中學校を經て中央大學法學部を卒業、明治四十三年より昭和十年迄二十有六年間警視廳に勤務して帝都の保安警備に當り、昭和七年二月より八月までの間千葉縣刑事課長たるほかは、世田谷、青梅、府中、杉並等の各署長を歴任本廳に在つては刑事課長をつとめ、その職分に忠實に恪循して名聲があつた。夫人照子さんは國防婦人會班長、養子昌文氏は宇都宮税務署に勤務し、その將來を嘱望さる。

中川村札森

元中川村長 勳八等 **江澤賢草**

武勳に輝き、自治に功勞多き氏は、先代市太郎氏の長男にして明治元年八月の岳降である。尊父は農耕の業に従事する傍ら村會議員その他の公名譽職に推されて鄉土の繁榮に盡力貢献した先驅的材幹である。氏はその血を享け頭腦衆にすぐれて明敏、家業に精勵しつゝも克く公共のことに竭し助役、區長、衞生組合長、村會議員等たること多年に及び、また村農會長、村長などの村内樞要の任務に就き、虚心恒懐私利私慾を捨てゝ衆庶の福祉の増進に全力を傾注し、一々枚擧に遑なき程の治績を顯はした。日露戰爭にも從軍して皇軍の精華と謳はれる程の働きをした人、今や村内の長老として、特に重きをなしてゐる。現在長男は海軍に在役中、次男は千葉縣巡査、三男は滿洲國警視として活動してゐる。

中川村大野上

元中川村長 **田邊廣鄉**

政友會系の傑材として自治界に異彩を放つては、本村元老中の第一人ともいふべき功勞者である。農耕の業に従事して篤農家と謳はれつゝ、一方自治公共のことに力を注ぎ區長代理區長等を早くよりつとめるほか全村の人氣をさらつて村會議員に當選し政黨色を瞭かにして議員中に儼然たる地位を示した。また衞生委員村農會長にも擧げられ、村政各方面に亘つて寄與貢献尠少ならず、後、ォール中川村の信任をあつめて村長の椅子に就き卓拔の手腕と明晰な頭腦とにより村政に一大飛躍を遂げしめたのである。現在は信用組合監事及び土木委員として盡力を續けてゐる。

因に當家は相當の舊家にて、先代貞吉氏は八十四歳まで長命した。氏はその長男にて明治七年一月二十九日に呱聲をあげた。家族は八人、夫人は國防婦人會に關係して功勞がある。

西畑村弓木

前西畑村長 **渡邊定太郎**

正義實直の人と謳はれ、全村民の信望を身一つにあつめて名聲赫々たる氏は、代々名主をつとめし土地有數の舊家たる渡邊家の當主にて先代定五郎氏の男、生れは明治二年十月である。定五郎氏は初代西畑村助役を經て村長に選任されし實力ある才腕家である。氏もまた夙に村治に參與し、村會議員三期重任のほか、助役、村長、村農會長、その他の要職に歴任し、村道の縣道への編入、學校問題の解決等に際して手腕を發揮、當地方に於ける政友會系の有力者である。准養子秀次氏は元愛知縣三河鐵道株式會社支配人たりし事業家肌の材幹である。因に當家は定五郎氏夫妻、定太郎氏夫妻、秀次氏夫妻と三代三夫婦健全の幸福の家である。

西畑村三條

元助役 **君塚諦啓**

氏は溫厚にして篤農の士として普く知られ、常に性格の陶冶、意志の强化につとめ、自己を鞭達すること强き、不斷精進の人格者である。村元老としての搖ぎなき位置も、日頃の修練の結果に他ならない。政友會系の人にして、當地方政界の重鎭を以て目され、曾ては村助役をはじめ、區長、學務委員等に任じ、東奔西走寢食を忘れて、よく鄉黨のために盡力せる功勞者である。長男北郎氏は明治二十八年出生にて横須賀重砲兵隊に勤務せる砲兵軍曹、現時昭和火藥會社に勤務し恪勤社員の範とされる。因に當家は鎌倉幕府時代より現地に居住する舊家にて、先祖は代々名主をつとめ、先考五郎左衞門氏は戸長役場時代副戸長に推されて村政に盡された人、氏はその長男にて、安政六年七月の岳降である。

西畑村平塚

元助役 **野口至誠**

名は體を現すといふ。實に氏はその名の示すが如く至誠赤心の人であり、眞摯誠實の人格者である。明治二十年八月二十九日を以て呱々の一聲をあげ、幼より頭腦明晰にして讀書を好み、衆童に伍して一頭地を擢んじ文字通り群鷄中の一鶴たる觀があつた。長じては克く家業農に淬勵努力して家産を増大せしめ一面自治社會に貢献す

ること多く、曾ては助役として信望を一身にあつめ、村農會副會長に推されては農業の技術的改善に力を用ひ、現在は專ら農會評議員として指導の任に當つてゐる。因に尊父信雄氏も元助役たるほか、村會議員數期に亘つて重選せる德望家であり、氏の養子正之氏は村役場に奉職中にてその將來を囑望されてゐる。

西畑村田代

元西畑村長 **市原布次三郎**

温容溢るゝ人格者とは、正に氏の如き人物を指していふ言葉であらう。謙恭篤實にして陰德多くしかも威福並び行はれる實力家であることは本村民の一つの誇りでなければならない。先代善左衛門氏の長男として明治八年三月呱々の聲をあげ、幼時すでに神童と呼ばれた明晰なる頭腦の持主にて、長じて農を營みつゝ自治公共のことに參與し、寺院總代、信用組合理事、耕地整理組合長をはじめ、村會議員三期、助役、村長、村農會長、區長數期をつとめ、村政の偉大なる功勞者として、その治績を讃えざるものはない。實に不出世の材幹であり溫情家である。政友會に屬し、政黨方面への盡力も尠くない。長男藤壽氏は消防組部長をつとめる。因に家族は八人、雇人は二人をかぞへる。

西畑村三條

元助役 **君塚竹治**

和協一心、赤誠奉公の精神を以て社會公共のために盡瘁する氏は本村が有する偉材であり、功勞赫々たる手腕家である。しかも元老中の第一人であり、全村民の信頼と尊敬とを一身にあつめてゐる人格者である。慶應三年十月を以て先考龜次氏の長男に生れ、夙に家業農に淬勵して家運の造成に資するところ多く、傍ら村會議員、區長等に選ばれ、鄕黨のため自己を忘れて盡力貢献して力量の程をあらはし、また助役に任じては實務家的手腕を發揮せる有數の人材である。長男恭三氏は陸軍中尉にて、村會議員、郡在鄕軍人分會聯合會長等を歷任、現在は西畑村產業組合販賣主任として令名を馳せてゐる。父子相揃つて公共のために盡瘁するは誠に欣慶に堪へないところである。

長者町東小高

學務委員 **岡野源吉**

先代朝吉氏長男として明治十八年一月の生れであり、朝吉氏は區長として部落融和に數十年の長き奉仕をなす今尙七十六歳の高齢を以て存命中である。當主源吉氏は元役場吏員として町政の實務に從

事し農會幹事として二十數年勤續す。町農產の開發に多大の貢献を爲せり。依つて推され町農會副會長、同會長を歷任愈々その功績を擧ぐ、眞に町農產の父ともいふべく、現在は學務委員として專ら町兒童敎育の爲めに盡瘁なしつゝあるが、氏は古くより天臺宗を信じ華を去り實に就くの風格の人であり殊に園藝の事に通じ今尙その研究に子息信義氏と共に沒頭稀に見る篤農家としての譽が高い、げに氏が町農產の爲めに多大の功績を擧ぐるも偶然のことに非ず。

西畑村紙敷

學務委員 **君塚四郎**

篤農の人として農業改善改良研究を積むこと多年、本村農產業上に多大の貢献を致せる氏は資性英邁にして堅固なる精神を有し、擧措活潑、若き頃は狩獵に趣味深く銃砲の達人であつた。明治十四年七月十五日故君塚勇吉氏の三男に生れしものにて、尊父は村の世話役その他各種公名譽職に歷任せる功勞者である。氏も家業に淬勵しつゝ早くから公職に推擧せられ、區長たること四期、また村會議員多年をつとめ功績燦として本村自治史上に輝かしく、政友會色濃かな人材との定評を受けてゐた。現在は學務委員三期、氏子總代檀徒總代等をつとめる。養子孝元氏は海軍志願兵として現役を勤めたる海の勇者、目下營々として家業にいそしんでゐる。

中川村大野下

學務委員 **野村繁社**

敎育界の殊勳者、自治界の健鬪家との定評あり、鄕黨のため寢食を忘れて東奔西走して貢献尠からざる氏は、明治十六年六月の出生にて先代久左衛門氏の養嗣子である、夙に茂原農學校に入つて螢雪の功を積み、優等の成績でこれを卒業するや直に敎育界に身を投じた。小學校女學校等に歷任し、敎鞭を執ること三十有余年、生徒兒童よりは慈父の如く慕はれ父兄よりは萬雷の如き喝采を受けた名敎育家である。

退職後、悠々の生活を送つたが、擧げられて學務委員となり區長を兼ねて村の繁榮と敎育の振興に努力してゐる。夫人は愛國婦人會並に國防婦人會員として、婦人運動の尖端に立つてゐる。長男信平氏（明治四十三年生）は東京に在り、長女は家事見習中である。

中川村增田

學務委員 **鈴木正巳**

營々としてその半生を若き國民の養成に費して來た氏は、郡下有數の名敎育家

と謳はれる。抑々當鈴木家は增田部落隨一の舊家にして代々農を以て家業とし、部落の聲望頗る高き家柄である。先代修一氏は助役をはじめ、村會議員、區長等村内各種公名譽職に歷任し名聲赫々たる自治功勞者として誰知らぬ者はない。氏は慶應元年に生を享けた。刻苦學究に努め、小學校に奉職して教鞭を執ること二十數年の長きに及び、その後產業組合理事、村會議員を經て、現時學務委員及び耕地整理委員を兼任し鄕黨のため盡力するところ多く、曩にその功を表彰された令閨は愛國國防兩婦人會に關與貢獻し、長男（明治二十四年生）は千葉市に在住する。

鈴木氏一家

中川村札森

學務委員
元村會議員

江澤一哉

三百有余年の連綿たる家系を保ち富主は十八代にあたる、尊父謹一氏は前中川村長として當村開發伸展の爲め多大の努力を盡しその功績は村民に讃へられてゐる。當主江澤一哉氏は明治二十九年一月二日謹一氏長男として生れ爾來誠心農業に從事すると共に、尊父の氣宇をついで村自治のため盡瘁し氏の溫厚なる人格と氏の日蓮宗信仰者としての眞摯なる熱意は村民の輿望を得て曾つては村會議員並に產業組合役員等の名譽職に就任せり、現在は學務委員として、村内兒童教育のことに意を拂ひ併せ消防組頭として銃後國民の村行事等に從事してゐる。因に家族は七人にして家庭圓滿を極め一男三女の子福者である。

長者町

長者町尋常高等小學校長

松崎翠

二百數十年連綿の家系を有する舊家に生れ岳父藤松氏は生前長者町收入役として町民の輿望を負ひ十數年の長きに亘り町財政の爲めに多大の貢獻を遺して幾多知友町民の痛惜裡に現職中他界された。氏は藤松氏の長男として生れ、大正二年の春千葉縣師範學校を卒業直ちに現長者町小學校に訓導となり十八年間奉職、次いで御宿小學校に奉職二年有余にして興津東尋常小學校長に榮進一年有半にして更に興津尋常高等小學校長に榮轉して此處に二年間を過し昭昭十二年四月氏の生誕の地であり且つ教育生活の故鄕ともいふべき長者町尋常高等小學校長に榮進したものであるが、氏の教育的經營の理念は「職員協同精神に務む」に歸結され、縣教育界に多大の功績を殘しつゝある。

總元村部田

總元尋常高等小學校長
總元青年學校長

關將司

氏は溫厚なる紳士にして、常に小學校

教育の根底に思を錬り、教育報國の外他念なし。大多喜中學校卒業後千葉師範二部を出で直ちに縣下大原小學校に奉職十三年の間專心に訓育の行に從ひ、よつて水澤小學校長に榮轉昨年四月現總元小學校長に轉任せるもので、轉任以來、村内學務關係者と協調又父兄の意ある所を汲み、學校經營並に農村教育本然の探究に沒頭してその實を擧げてゐる。因に氏は關家の養子にして二男二女の子福者として家庭極めて圓滿であり夫人は愛國婦人會員として銃後の活動に參加してゐる。關校長今日までの教育的研究の所產は愈々實行の機となりその經倫は多大の期待を受けてゐる。尙郡教育會より教育功勞者として表彰された。

中川村

中川尋常高等小學校長
中川青年學校長

白井勇次郎

氏は眞に教育家らしき教育家、兒童父兄の信任頗る厚く、また昭和八年十月に多年教育に盡瘁せられたる功により高等官八等を以て待遇せられ、正八位に敍せらる。令兄は元村長をつとめし才腕家、氏は明治二十三年五月二十四日の出生にて大正二年に千葉師範學校を卒業せる俊才大多喜小學校訓導を振出しに、勝浦小學校に六ケ年勤續し、大正十一年四月校長に榮進、次で郁文小學校長、長者町小學校長、布施小學校長等を經て、中川校長となつて今日に至り、中川青年學校長を兼ねるほか郡教育會理事三期を經て現時同會特選評議員、縣教育會評議員をつとめ令名嘖々たるものがある。この間に於ける氏の教育研究、學校經營に對する眞摯な努力は既に定評がある。夫人は大多喜小學校在職十七年に及ぶ女流教育界の英華、長男囡恭君は大多喜中學校在學中、他に二人の令孃がある。

總元村三又

前總元村長

磯野己之松

わが日本帝國の臣民たるものは國體の本義を確認しこれを第一義としてすべての行動を決して行かねばならない。氏が家業たる農に精勵しつゝ社會公共の事業に貢獻し、無利無慾の立場から鄕土の繁榮を翼念し居るが如き、誠に國體の本義に徹したる行爲といふべく、天壤無窮の皇運を扶翼し奉る尊き仕事といふべきである。明治二年二月を以て先代太兵衞氏の長男に生れ耕地整理組合長、村農會長、村會議員、助役等を歷任して卓拔の手腕を發揮し、次では村長に選任されるや全力を擧げて理想鄕總元村の建設に邁進、幾多の功績を積んで表彰數度に及び、殊に產業組合

の創設に當つては並々ならぬ功勞があつた。因に女婿八次郎氏は明治十一年生れにて、三十歳を頭に五人の令孫がある。

布施村上布施

布施小學校長 勳八等 **吉野六郎**

當家は代々名主、戸長をつとめ本村きつての舊家にして農業、酒造業を業とし氏は尊父謙太郎氏の長男として明治二十年三月十日の岳降である。千葉縣師範學校卒業後教育界に入り、生誕の地に校長として歸鄉、村兒童の教育に青年子女の指導に鄉土に即せる教育を標榜して鋭意努力を續け、現在氏は女子青年團並に青年團及婦人會顧問、學務委員の名譽職にあり。氏は又童話の研究深く、詩吟に對する造詣あり之を直接教育上に實施して多大の効果を擧げてゐる。殊に奉仕的精神と勞務愛好の氣風の振作には意を用ひ我が土地の我が教育といふ熱意は全校職員の完全な統制と相俟つて實績顯著なるものがある。

西畑村庄司

在鄉軍人分會長 勳八等 **高橋大**

現在のわが國民は銃後の國民にしてしかも單に銃後の國民ではない。第一線に銃を握つて奮戰する勇士と同樣に、精神上の戰鬪行爲とその覺悟とを要求されてゐる。玆に於て氏の如き軍人的精神の旺盛なる豪毅の人が必要なのである。實に氏は在鄉軍人の模範とすべき材幹にして、鄉軍のため功勞尠なからざる手腕家である。明治二十九年三月、先考徹氏の長男に生れ、陸軍工科學校に學び、赤羽工兵隊勤務を經て世田谷陸軍自動車學校技術准尉となり退職、この間實に十有余年に及び、皇軍の技術的方面に經驗を積みし典型的軍人にして、退役後は在鄉軍人分會長として引續き今日に至り、兼ねて區長代理の要職をつとめ、怒濤の如き賞讃の聲を浴びてゐる。

中川村作田

中川村軍友會長 **關玄太郎**

今や日本は戰時體制の非常時下にあり、產業に教育に文化に政治に國民精神を總動員してゐる。かゝる時要求されるのは、氏の如く意志堅固にして信念に強き毅然たる人物である。誠に氏は日本男子の典型とも稱すべき人、明治十四年七月二十日、先代常吉氏の長男に生れ、偶々佐倉步兵聯隊に現役兵として勤務中日露戰爭が惹起され、勇躍征途について武勳を樹て、凱旋後は、農業經營に精勵しつゝ社會公共の事に竭し、役場吏員、耕地整理組合評議

員をつとめ、また朝鮮にて多年巡査を拜命勤務し、現に恩給受給者である。現在昭和十一年七月發會せる軍友會（會員百余名）の會長として鄉軍の固めに任じてゐる。家族は七名をかぞえ、夫人は國防婦人會に關係し功勞が多い。

布施村下布施

在鄉軍人分會長 **高師清**

勇猛果敢向ふところ敵なく、戰へば勝ち勝てば進むわが皇軍の強いのは、單に武器が精鋭であり作戰が上手であるからばかりではない、兵一人一人の心の中にある大和魂の發露があるから強いのである。而して皇軍の模範とも稱すべき人物、明治三十七年十一月五日を以て生れ、兵役に服するや陸軍衞生上等兵に任じ善行證書、下士適任證を下附され、除隊後在鄉軍人會長鈴木閣下より表彰さるゝの光榮に浴し、現在は本村分會長たるほか消防組救護班長として活躍されてゐる。

總元村堀ノ內

消防組頭 **酒井兵治**

堅忍不拔の精神を有し信念に強き氏は、一面溫容溢るゝが如き人格者である。抑々當酒井家は村內屈指の舊家に入れらるべき相當の家柄にして、代々農を以て家業とし、氏は明治二十三年九月を以て先代佐吉氏の長男に生れた。家業多忙なるにも拘らず消防組部長、同小頭を經て消防組頭たることすでに四ケ年に及び、本村消防の恩人にて、先年縣知事より消防功勞者としてその事績を表彰せられた。また區長代理區長をつとめること永年、部落今日の繁榮を招來せる手腕家にて、村農會評議員、耕地整理組合評議員等も歷任、現時產業組合評議員に推され寄與貢獻ますます顯著なるものがある。家族は十人の多數、長男兵左衞門氏（大正三年生）以下二男二女の愛息愛孃がある。

古澤村桑田

消防組頭 **江澤眞**

氏は溫厚にして老巧、自治界の一偉材と稱され、本村元老の一に指を屈される。尊父五右衞門氏は八十二歲にて他界せられるまで村會議員、區長等をつとめ村政に盡瘁された功勞者である。氏はその次男にして明治十七年五月を以て生をこの世に享けた家業は農、その改善改良に就いては常に

熱心に研究をつづけ、幾多の成果を收め精農家と謳はれてゐる。また消防組部長村會議員二期、區長五期、農會評議員等を經て現時消防組頭、方面委員、學務委員、寺院總代、農家組合長等を兼任し、政友會系の重鎭として村内の信望をあつめてゐる。長男敬和氏は長生中學校卒業後、上京して某會社に勤務する。尚、令兄江澤直作氏は日露戰爭の際常陸丸にて征途の道すがら船と運命を共にした勇士である。

布施村下布施

消防組頭
青年團長
三上兼雄

祖父忠左衛門氏

當家は藤原氏の末裔たる名門にして、江戸時代には夷隅の領主安倍家御用商人を勤めた。先々代は忠左衛門兼廣と稱し戸長、小學校長に任じ文明開化時代の農村に裨益する一方桂林亭里月と號し俳諧に巧みであつた。由來當家は代々俳人出で、里曉、硯露等特に著はれ、芭蕉直系の月院社系俳人である。先代貞雄氏も春湖、覺齋の兩門に學んで句作に長じ、傍ら區長、村會議員、村長、郡會議員等の公務を歷任しつゝ、家業に精勵し家產を治めて地方一流の資產を築いた材幹である。氏はその四男、明治二十九年九月十一日を以て生れ、大多喜中學校を大正四年に卒業、尊父の逝去後二世花月館と號し、花の道、連句講習錄等の著書あり、俳名全國に知られ、加へて消防組頭、青年團長、郡聯合青年團理事等の名譽職にある。

中川村八乙女

中川村青年團長
前小學校長
渡邊八三郎

當家は二百五十年餘りの舊家にして、先代友吉氏は村會議員をはじめ、區長、耕地整理組合長、その他の公職を歷任せる自治功勞者として知られる。氏はその養子である。明治十五年八月十九日を以て呱聲をあげ、千葉師範學校を卒業後、縣下初等教育界の偉材といはれた活動的名教育家にて、勝浦小學校長並に同實業學校長たること多年に及んだが、健康勝れざることありて退職したが折原縣知事より時計を贈

られて表彰され、又縣教育會、郡教育會その他各方面よりの表彰數度に及んでゐる。現在は青年團長（三期目）として若人の指導に當つて居り、信望四隣に普く高い。令閨も亦永年教育界に身を置きし人、長男成美氏は廣島文理科大學在學中の秀才、他に次男弘夫氏がある。

東海村若山

青年團長
藍野貞二

氏は早くより鄉土の發達に貢獻するの態度を以て一貫せる新人中の英華である。現村長たる藍野家の分家にして、先代貞助氏の次男として明治四十一年七月二十三日に生を享けて、俊敏若鷲の如き潑溂たる人望家である。大多喜中學校を經て東京農業大學に學び、地方に置くには惜しき材幹、若年にして區長をつとめ、現時引續き

その任にあるほか、青年團長、產業組合理事等に任じ鄉土のため社會のため寢食を忘れて明日の時代のため指導誘掖にあたられ、絕大の信任と尊敬を拂はれてゐる。實弟正三氏は東京商工出身の若き技術家として將來性に富む青年である。なほ尊父は助役、村長に歷任して村政に盡瘁されし功勞者にて、六十五歲を一期に他界した。

中根村押日

青年團長
金杉孝

前途ある新人として普く嘱望と期待をかけられてゐる氏は、金杉覺氏の長男にして明治四十二年五月七日の出生、茂原農學校を優等で卒業せる秀才である。昭和八年以來青年團及び國防協會理事として團體の協同的行動につき特に盡力せる若き才腕家である。當家は代々農業の傍ら神官等をつとめたる家柄にて、尊父は產業組合專務理事に推されて信望あり、令弟は目下北支事變に出征中の勇士である。

千町村小高

小高農家組合長
青年團小高支部長
田中直作

本組合は農家經濟生活の改善伸展に、農具の共同購入、農產物の共同出荷に、組全員一同一致協力よくその効果を收め堆肥、苗代の品評會、審査會を開催して品質の向上を圖る等、春の萌芽の如き伸長振りを示し、又生活改善の一方法として無盡を設ける等、田中組合長以下全組合員協力一體の努力は眞に組合の模範たり。日夜同組合の發揚以外に思念なき現組合長は、又青年團小高支部の部長である。部落青年の中心的人物として信認を博し活動を續けてゐるが部落融和發展の上に多大の功績ありといふべく且又氏の少壯氣鋭にして質實溫厚の人格は今後に於ける村自治への活躍を期待されてゐるを見るべく、まことに輝かしき前途をもつてゐる。因に氏は明治三十三年三月二十一日の岳降である。

勝浦町串濱新田

町農會副會長
元町會議員
關辰之助

當家は現在關姓を名乘るも先祖は神島姓を呼び、初代神島道意は享保年間上村

侯に御典醫として侍し、其の後代々御殿醫を務めたり、先代に至りて醫業を廢して農業を以て業とせり、當町稀に見る由緒正しき家系である、當主辰之助氏は明治元年三月二十日宮司氏の長男として岳降、氏は古くより日蓮宗を信仰す。大正八年夷隅郡畜産會總代たり。昭和七年小麥增殖指導實行委員に亞いで小麥增殖奬勵委員に夫々千葉縣知事に命ぜられ農産業に裨益貢献する所大なり。社寺總代、漁業組合理事區會議員の要職を歷任殊に町會議員在任中は町自治の爲に功勞あり感謝狀を受く殊に氏の町農會副會長としての十有九年の今日迄町農會に於ける精勵と功績とは町民の深き感銘を呼ぶ處である。資性溫厚篤實にして、その家庭に於ける圓滿振りはまた大に羨むべきものがある。

勝浦町松部

松部區長 **吉野治平**

當家は、先々代治兵衛氏が當地に別家一家を興したものにて、農業及び漁業を兼營し、新興の氣に滿ちた家である。先代は長吉氏と稱し家業に熱心なりし誠實家、氏はその長男にして明治十五年十月二十八日を以て呱々の聲をあげ、夙に祖業を繼承して恪循勉勵し、漁業頓に隆盛に赴き、鰹漁を主とし、十八噸積の發動機船を有し漁季には多數從業員を傭入れて華々しい業績を擧げてゐる。資性溫厚篤實、家業の傍ら區長代理を永年つとめたる功によりて感謝狀を贈られ、現時區長、漁業組合理事、信用組合監事等を兼任し、特に漁業組合には貢献多く、功勞者として表彰されてゐる。なほ家庭には母堂のせき子さん健在し、夫人あき子さんとの間に、長女かん子さんがあり、一家和平にして、幸福な生活を味はつてゐる。

總元村堀ノ內

總元信用販賣購買組合長 **齋藤孫四郎**

氏は、人格的にも思想的にも著るしく幅の廣い人である。抱擁力が豐かで、德望高く、夙に村會議員並に區長等數期をつとめ、また消防組小頭として活躍し、現在は產業組合長の要職にあり本村產業經濟の發展向上に盡すところ多大なるものあり、兼ねて村會議員、耕地整理組合會計主任、に擧げられてゐる。出生は明治十四年先代榮吉氏の長男である。愛息三人ありて二人は支那事變で江南戰線に出征勇戰中外に令孫二人を有す。因に氏が組合長たる總元信用販賣購買組合は事務所を大戶に置き、組合員四百五十名にして出資總額一萬五千圓、貯金一萬四千圓、購買年額

三千圓、販賣年額一萬圓の概況を示してゐる。

西畑村松尾

松尾區長 **君塚元良**

清廉といふのが氏の人格を表す最も適切な言葉であらう。溫厚篤實の中に氣品を有し、威と福と、兼備する偉材である。明治三十五年八月二十五日、先代元吉氏の長男として呱々の一聲をあげ、家業に奮勵して家運の隆昌を招き、傍ら社會公共に盡すところ多々あり、統計調査員としての功績の如き特に顯著なるものあり、現在は松尾區長及び總代に推され、部落民の信望を一身にあつめて颯爽たる手腕を發揮してゐる。誠に氏の如きは稀有の人材といふべく、ひとり松尾部落のみならず、廣く鄕黨の誇りでなければならぬ。因に尊父も區長部落總代をつとめしことある名望家である。現在家庭には母堂いくさん令閨はるさんのほか五人の子女を有し圓滿である。

上瀑村下大多喜

產業組合長 **大宮市太郎**

國家の興隆は一村の繁榮に基因し一村の繁榮はいふ迄もなく全產業力を有効に運營することによつて招來される。氏は產業經濟の發達と充實に力を致して功績多き敏腕家としてその力量手腕と豐富なる識見とは、全村民の等しく畏敬するところである。明治五年十月十六日、先考孫藏氏の長男として生を享け、夙に農耕に從事して篤農家の譽れを有し、收入役、助役、村長等村自治の重責に歷任せる信任篤き才腕家、また村會議員三期、村農會長、區長四期、その他あらゆる方面から村政に竭され、現在產業組合理事を經て同組合長に任ずるほか方面委員を兼ね、貢献愈々甚大なるものがある。趣味は園藝。家族は六人、令孫清氏は、大多喜中學校に勉學の秀才である。

千町村神置

神置區長 **枝川猪兵衛**

氏は故榮太郎氏男長として明治八年十月二十一日生誕であるが同家は德川時代より二百余年連系の名主の家柄である。村內有數の地主として多年農業方面に精勵貢献する處あり、現在神置區々長、千町村產業組合監事として、且又千町村農會評議員及代議員として村產業開發に部落融和の實を擧ぐべく努力なしつゝあるが、曾つては千町村產業組合評議員、賀須賀井養蠶組合長、並に村會議員等の村政、產業の要職に歷任し幾多の功績を殘

し村民に多大の感謝を受けてゐる。老齢にもめげずの恪勤溫和の人格は未だ今後の村治並に產業の上に多くの期待を持たれてゐる人である。

中川村大野上

大野上區長 **太田大助**

中川村消防組の功勞者として嘖々たる名聲を馳せる氏は、また區長、衞生組合長、區長代理農家組合總代等幾多の名譽職を歷任部落の興隆繁榮に、村政の圓滑なる進展に、また地方衞生狀態の改善に、幾多筆紙に盡し難き功績を殘して來た村幹にて、特に消防關係事業に於てその功績顯著なるものあり、表彰されるの光榮に浴してゐる。現在は區長並に農家組合長の重要任務に在り部落民の絕對的信任と尊敬を受けて活躍をつゞけてゐる。抑々當家は約三百年以上を經過する本村有數の舊家にて代々部落の信望をあつめて篤農の聞え高き家柄である。氏は先代房吉氏の長男明治九年二月十六日を以てこの世に生を享けた。長男は大正六年出生にて目下家業を手傳ひ、將來の大成に備へてゐる。

浪花村岩船

區長 元小學校長 **吉田重雄**

當家は三百年以來由緒の家柄、中葉の頃權大僧都宗辨和尙を出してゐる。氏は金藏氏の長男として明治二年四月二日の岳降千葉縣師範學校を卒業後二十四年間縣下小學校長として多大の貢獻をなすところあり縣當局より表彰さる。敎育界を退いてよりは歸鄕祖先の祭祀專らにして旁ら村治の爲めに盡力す元漁業組合幹事現在は區長として部落融和に盡瘁中。

西畑村紙敷

紙敷區長 **麻生正善**

氏は溫厚篤實の人格者、加ふるに博識と多才とを以てし、部落民全部の信賴と尊敬とを一身にあつめてゐる名區長である。人の面倒を見ること多く、文盲の者には屆書その他書類の代筆までしてやるといふ程の親切な人である。曾ては統計調査員、國勢調査員等をつとめたることもあり、紙敷部落の指導者として功績は永へに輝やかしい。家業は農業にして木炭製造を副業とする。先代金藏氏は區長代理、檀家總代等をつとめたる功勞者にして氏はその長男、明治二十二年七月二十日の出生である。家庭には尊父及び母堂つねさん、妻女まきさんあり、子女は長男清藏氏ほか四人の令孃をかぞへ、和氣靄々として幸福な家庭生活を送つてゐる。

西畑村押沼

方面委員 **石崎庄次郎**

弓術に趣味を有しその達人といはれ、當地方切つての名人たる氏は、明治六年

十一月の岳降、夙に社會安寧秩序の保持と取締に任ずる志を立て、明治三十八年千葉縣巡査を拜命、爾來縣下各署に勤務恪循し、大正十四年三月退官に至る迄滿二十ケ年間、孜々として倦まざる勤務振りは同僚の模範たりしのみならず、廣く全警察官の誇りといふも過言ではなく、大正十四年には警察協會長若槻禮次郎氏より金百十六圓を贈呈され、又內務大臣より特にその功を表彰された。現在は悠々農耕に從ひつゝ方面委員及び學務委員を兼ねて盡瘁尠なからず、曾ては村會議員にも選ばれし事ある人望家である。家族は八人、和氣靄々他の羨む日々を送つてゐる。

中川村柿和田

柿和田區長 **平川秋藏**

自力實行の手腕家たる氏は、一面信仰心に厚く、敬神崇祖の思想を深く涵養せる人格者である。先代六次郎氏は家業たる農耕の業に從ひつゝ部落の有力者として幾多の役員を歷任したる功勞者にして氏はその血を享けて明治十八年九月呱々の聲をあげ、區長代理、衞生組合役員に任じ、現時區長の要職にあり、部落の指導者、鄕黨の誇りといはれ、事蹟と共に名聲また赫々たるものがある。夫人は國防婦人會員にして戰時體制下に於ける銃後の固めに努力を惜まず、良妻にして賢婦人、農村婦人の模範として仰がれてゐる。なほ家庭には長男倉次君（明治四十二年生）のほかに次男君あり、和氣に滿ちたる靄々の感戶外に溢れ、幸福の限りをつくしてゐる。

浪花村

區長 前村會議員 **岩瀨由周**

尊父幸藏氏の男として明治二十三年の岳降にして代々農を以て家業に從事し來つたが、當主由周氏は事業的才幹に富み醬油釀造並に漁業に着手、爾來醬油釀造はその研究蘊蓄を傾け聲價を得て既に年年七百餘石を製出するに到つてゐる。氏は又產業開發の爲めに意を用ひて村自治の爲めに貢獻し、且つ村會議員三期を勤め現在では區長として、部落融和の爲めに盡力し、部落民に氏の溫容なる風格と共に欣慕されてゐるが「己を律する秋霜烈日の如く人を遇する春風駘蕩の如し」とは實に氏を最もよく具現せるものといへるであらう。因に氏は最近漁業のことに意を用ひつゝある。

千町村松丸區吹良

吹良農家組合長 特別戶數割調査委員 **嶺島昇**

吹良農家組合は稀に見る優良組合にし

て組合組織の根本目的たる、農家經濟生活の確立に着々として良好なる成績を擧げ、農具の改良購入の改善、農作物の品評會、審査會、種子の改良選定等その成績見るべきものあり。殊に貯水池、用水池の完成を見たことは最も大きい功績といふべきである。現組合長嶺島昇氏は組合員一同と協力一致今日の成績を擧げ得たのであるが、他に、千町村特別戸數割調査委員をも勤めてゐるが、元青年團支部長三期、松丸常設委員三期、農會代議員、統計調査員等を歴任して、多數人の信望を得、殊に夷隅川を利用せる用水池の完成に當りてはその主動力となり功績著し。曾つて青年團より表彰されてゐる

勵自力自修の努力主義者にして、家業に熱心なる傍ら克く公共の事業に關與貢献し、消防組部長に推されるや部下の信頼を博して名部長の名を馳せ、また區長たること多年、久我原部落をして今日の隆盛に導きたる

總元村久我原

久我原區長 **關 寒 作**

久我原部落興隆の基礎を愈々確固不拔ならしめた偉大なる功勞者——これぞわが關寒作氏である。明治十年一月六日を以て先代丹治郎氏の長男に生れ、刻苦精

手腕家にてその功績は一々枚擧に遑がない。現に耕地整理組合工事員を兼任する。家族は十人、長男幸利氏、愛孫四人がある。因に先代は農業を營みつゝ村助役、村會議員、區長等を歴任せる逸材にて、年齢八十、現に壯者を凌ぐの元氣をなし綽々たる日を送つてゐる。

西畑村弓木

弓木區長 **渡邊兵一**

弓木部落のエキスパートとして人望高く名聲嘖々たる氏は、曾ては青年團支部長、或ひは在郷軍人分會評議員等をつとめ、明日のために若き人々を導いた功勞者であり、その功績は燦然として永遠に輝くであらう。資性溫厚篤實にして英邁事に當るや周到を極めかりそめにも粗雜に亘ることなく、一つ〳〵の事業を堅實に築きあげて行く人である　現に區長に推されて部落の繁榮を圖りつゝあり、將來は西畑村を背負つて立つべき材幹である。因に當家は、その開祖を詳かにせざるも、相當由緒ある名門にて、當村屈指の舊家と稱され、先代兵五郎氏は區長、社寺總代、その他の公職に任じたる人、今なほ矍鑠として壯者を凌ぐの元氣を有し游優の日を送つてゐる。氏はその長男にて明治三十五年三月十五日の岳降夫人ふくさんとの間に四男二女がある。

千町村松丸區

農家組合長 **田邊源一郎**

氏は明治二十一年の岳降であるが生來資性溫厚にして、事に當りては常に誠心

熱意の人である。篤農の士であつて、元千町村統計調査委員たり又向耕地整理組合長として耕地の整理合理化に盡力せり。南中村農家組合長に就任以來副組合長二四組合員と協力一致して、組合の目的たる、各農家の經濟生活の打開伸長に多大の成績を擧げつゝある。農具改善、購入の低廉化、種子の改善、共同出荷、或は農産物の審査並に品評會を開く等積極的に組合充實を圖りつゝあるが、田邊組合長の手腕は小安副會長の助力と相俟つて今後に多大の期待を掛けられてゐる

中川村八乙女

八乙女區長 **佐藤千代松**

氏は日露戰爭に從軍せる勇士、高粱茂る滿洲の野に轉戰幾十回、武勳赫々たる護國の華である。凱旋除隊後は農業經營に精魂を打込み、孜々として夙夜淬勵してゐたが、その人格と手腕とを野に置くに忍びずとなし、先年全部落民の輿望を擔つて區長代理の要職に擧げられ期待に背かず幾多の功績を致し、後、引續き區長に推されて今日に至つた。現時推されて農家組合長を兼ねる。抑々當家は始祖を詳かにせざるも相當の舊家にして代々篤農の聞えあり、先代氏は區長代理をつとめた人である。氏はその長男にして明治十六年九月を以て生れた。家族は五人、令閨氏は國防婦人會に關係して貢献多き才女、長男正雄君は大正二年生れ、次男及び三女は東京市に在る。

總元村八聲

八聲區長 **磯野問**（アキラ）

仁德深く溫情に富み、威福並びに行はれる氏は、明治十七年十二月の出生にて長じて先代重太郎氏の養子となつて家督を相續せるもの、先代は村長、助役、村會議員、區長等幾多の重職をつとめたる村治有數の功勞者である。氏は夙に教育者として立ち、先づ青海小學校の教壇に立つて在勤九ヶ年、後、總元村小學校に轉じ、こゝに十有六年間の長きに亘つて第二の國民を養成し、その薫陶を受けて社會に巣立つた人々は今も氏の德を讃えて止まず、曾ては郡教育會より賞狀を授與されたる教育功勞者である。退職後推されて區長代理となり、次で區長に任じ　現に衞生組合委員を兼ねて貢献しつゝある。家族は五名、長男重郎君は東京豐島師範學校に次男は大多喜中學校に共に在學中である

中川村行川

行川區長 **鈴木末吉**

如何に精巧な機械と雖も、それを運轉

する人に當を得ざれば、結局、何等有效に使用することが出來ない。自治に於ても然りである。天然自然の惠澤に浴してもこれを有効に利用せざればあたら寶庫も荒蕪の地と等しくなる。本村行川部落は、わが鈴木末吉氏を區長として戴き優秀なエンヂニアを得た機械の如きものである。氏が區長就任以來、部落の繁榮目に見えて顯著なるものあり、將に天性的自治の手腕ともいふべき人材で、全部落民の信望を一身に背負つてゐる。曾て區制實施前に於ては部長として活動し、明泉寺檀家總代を兼ねたることもある。家族は十人の多勢、長男茂氏（明治三十三年生）は消防組に關係し、同夫人は國防婦人會に關與する。愛孫は男四人、女五人の賑さである。因に氏は明治八年七月十日の岳降、先代作兵衛氏は村吏員を勤めた人である。

總元村石神

石神區長　**坂輪重司**

篤農の士といはれ、農業經營に研究的態度を以て望む氏は、農業改善の先驅的功勞者とも稱すべき人である。しかも家業の傍ら區長代理として部落のために盡力し來り、今また區長並に耕地整理組合役員を兼ねて公共の福祉の增進につとめ事績頗る顯著なるものがある。實に本村自治產業戰線に活躍する精鋭にして、今後の活動と大成とは全村民の等しく囑望するところである。

因に當家は約三百年以上を相嗣ぐ本村屈指の舊家にして代々農耕の業に從ひ由緒正しき家柄である。先代三五郎氏は區長代理をつとめしことのある德望家にて、氏はその長男、明治三十一年三月三十一日を以て生を享けた。家族は五人長男朝雄君は大正十年の出生、次女は昭和二年の出生である。

中川村正龍寺

正龍寺區長　**麻生孝三**

氏は俊敏に富み溫厚の人である。明治二十八年十月十五日を以て麻布常吉氏の次男として生をこの世に享け、夙に家業たる農業に從つて日夜精勵し、篤農家を以て稱されたる實直眞摯の努力家である。先年推されて區長代理に任じ部落のために盡瘁すること尠なからず、また農家組合副組合長として部落內農家の經營指導に當り功顯著であつた。その後區長に推戴せられ、現に衛生組合長を兼ねて寄與甚大なるものあり、部落の恩人として普く信望がある。また消防事業にも功績多く、曩に表彰されるの名譽を有した。家族は八人、夫人は國防婦人會に關係し、長男榮吉君

（大正十年生）ほか二男二女がある。因に尊父も區長その他をつとめたる人材である。

總元村堀ノ內

堀ノ內區長　**高梨喜代治**

當家は約三百年を閲する舊家名門にして、先代倉吉氏は農業に熱心なりしのみならず、村助役、郡會議員等に任じたる地方自治の功勞者として令名高く、氏はその長男、明治二十四年五月二十五日を以て呱々の聲をあげた。消防組部長たること多年及び本村消防組の發達に關しては種々の功績あり、縣知事より表彰を受くるの光榮を有した人で、現在は區長として部落の興隆をはかるほか、耕地整理組合評議員、衛生組合委員等に就任、小我を捨てゝ奉公の赤誠を捧げてゐる。しかも精農家としてもまた有名である。日蓮宗に信仰が深い。家族は五人にて、長男岩雄氏は大正八年生れにて青年學校在學中、次男は大正十一年生れにて東京に居住し、長女は大正十四年生れである。

中川村札森

衛生組合長　**池田榮次郎**

氏は日蓮宗に歸依して信仰厚く、昭和七年源藏氏長男として生れ、其の後分家農事に精勵す。嚴父源藏氏は八十六歳の高齡に達し死去す。生前は篤農家として終始一貫農業に努力せり、榮次郎氏又その遺志を襲ぎ寧日の暇なき有樣にして、元區長代理を勤め現在區長、衛生組合長として村衛生機關の充實に努力併せて部落の和合協力に盡瘁す、その溫和にして駘蕩たる人格は村民より敬仰さるゝ所となる。氏は養嗣子を迎へ既に愛孫二人あり家族六人常に春風の如き緊密なる和合の家庭を持し、夫人は國防婦人會員として銃後施設に協力しつゝある。

總元村黑原

黑原區長　**末吉市松**

小我を捨てゝ大我に就き銳意奉公の誠を致せる氏は相當手廣く穀物商を經營する商略家である。機を見るに敏、時に應じて融通無碍の手腕を發揮し、家運の隆昌旭日の如く傍ら農業を副業としてゐる。嚴父喜六氏は七十八歳の長命者にて今なほ壯者に伍して劣らざる元氣を有し、氏はその長男に當り、明治二十年八月七日の出生である。農商二業を兼營して繁忙なるに拘らず、夙に區長代理、區長に任じ、また消防組に參與貢獻多くして賞狀を贈られたことあり、現在は區長のほか農家組合長衛生委員を兼任する。誠に氏の如く精力

的活動を續ける人は少なく、その自治に産業に消防にと盡瘁せる功大である。謂はゞ當部落の至寶である。家庭は六人、子供は長男信雄氏（大正二年生）のほか二人の令息がある。

中川村増田

増田區長　**江澤三郎**

氏は營々孜々として十餘年間區自治のために盡力、部落の和合緊密にして統制ある而かも農事の各戸に研究開發を見つゝあるは、區民の協同はもとより乍ら實に氏の献身的努力に俟つもの多く、氏は又増田農家組合長を經て現在衛生組合長増田農家組合副組合長として區衛生機構の充實、農家經濟生活の改善指導等にも亦多大の貢献をなせり。氏の溫厚にして信念熱意に富む人格は多くの人望を得將來を期待されてゐる。因に氏は明治二十四年の岳降にして家庭極めて圓滿なり天資溫厚、しかも俊敏の氣性に富む人材である。

總元村大戸

大戸區長　**岡田彌一郎**

嚴父彌衛門氏は永く區長代理として部落開發の爲めに盡力され、彌一郎氏はその長男として明治十八年九月九日の岳降である。家庭極めて圓滿にして長男操氏既に二十八歳に達し息女三名を持つ子福者であり、殊に八十歳の高齢を保つ祖母に對するいたはりは日蓮信若としての氏の德行として多くの人に敬仰さる。區長代理より區長に既に二期を勤め部落和合協同を圖り又耕地整理組合員として多年精勵盡力し表彰感謝を受けたり。資性篤實溫容にして且仕事に當り誠心あり多人士の推輓を受く、今後の村政に期待さる人であらう。

もまた至信の道そのまゝである。當星野家は今より四代前に創家せられ、爾來農耕を以て家業とし、先代德治郎氏は區長代理、耕地整理委員、衛生委員に推されて貢献多かりし人氏はその長男にして明治二十一年六月二十一日を以て健かな呱聲をあげた。家業の傍ら宗教方面の研究に沒頭するほかに、公共方面にも關與、區長代理、區長、衛生組合役員、消防組小頭等に歷任して公衆のために奉仕するところ尠なからず、現在産業組合役員並に引田區長を兼ね、功勞愈々大なるものがある。當村發展に貢献大なる功勞者として氏は今や衆望と尊敬と感謝を一身に集めてゐる。家族は六人、長男正元氏は大正三年の出生、長女は大正五年生れ、家内圓滿、一家益々繁榮の一途を辿つてゐる。

中川村引田

引田區長　**星野高之助**

宗教の研究に趣味を有し、殊に日蓮宗に關する研鑽を積んで造詣深き氏は生活

中川村大野下

方面委員　**孤田熊太郎**

堅忍不拔の精神と剛健の氣象の持主にして國民精神發揚の模範的人材たる氏は、凜々しき中に溫情を含み、儼然たる中に融通自在のところあり、信望普き人格者として知られる。抑々當家は先代六郎氏が分家創立せしものにて、氏はその長男として明治五年九月十五日に呱々の聲をあげた。夙に農に從ひ耕作に專念しつゝも擧げられて區長代理、區長二期をつとめ、また多年消防事業に關與し、本村消防組小頭、同部長に歷任して幾多の功績を積み、現在は專ら方面委員として活躍してゐる。尙長男氏は在鄕軍人分會長その他の名譽職に任ぜる人望家にて、愛孫四名があり氏に取つて最も光榮とするのみならず國家の慶事と稱すべきは、愛息愛孫等男子は悉く兵役に服したことである。

中川村増田

増田農事實行組合長　**鈴木正司**

農家經濟力の伸展と沿ふては自力更生策への協同合致の精神を具現すべく、且村産業充實の一支柱として、昭和八年増田農家組合を創立、その組合長に就任、以來氏は組合發展の爲めに盡瘁努力して組合員一同の協力熱意と相俟ち漸々その基礎をして確固たらしめた。組合事業の發展擴大と順應すべく組織の變更をも餘儀なくさるゝに到り昭和十一年經濟部、總務部、耕作部の四部門を置き、組合名もその實行力を體して増田農事實行組合と改め今日に到る。尙當組合は産業組合を通じて共同販賣共同出荷をなしてゐるが組合長鈴木氏の努力は實に當組合發展の父ともいふべく組合員多大の信頼を得てゐる。因に鈴木氏は明治二十四年の岳降である。

中川村大野上

上總水電社長　前縣會議員　**藤平眞平**

當家は十數代傳承の舊家にして、且當地方稀に見る實業の家である。氏は既に八十有六歳であり藤井家興隆の人である氏は上總水力電氣株式會社々長としてのみならず縣下自治の爲に多大の功績を殘し村會議員、助役、臨時村長、縣會議員村長等の名譽職にあること數十年、縣下唯一の功勞者として縣、郡、市方面より度々表彰感謝狀を受く、古くより日蓮宗を信仰、奉公の信念强く、深き思慮ある實行力は溫容なる人格と共に多數人士の推輓を受くるに到れるものなり。氏は又子福者にして長男左京氏は現在上總水電監査役たり。其の他米國或は各地に皆よく相當の地歩を收めて成功せり。之皆翁の信念に滿てる教導父權のよろしきを得たる爲めならんか。なほ當家の如く父子そろつて稀有の材幹たる家は稀である。

中川村大野上

藤平左京

學務委員
上總水電監査役

岳父眞平翁は縣自治の功勞者として且つ又實業界の重鎭として知られ、氏は翁の長男として明治十四年三月七日岳降す氏も亦自治の爲めに貢献爲めに各方面より幾多の表彰を受く、現在上總水力電氣株式會社監査役としてその才腕を揮ひ且又學務委員として兒童教育の爲めに眞摯なる盡力をなし村民多大の信任を受けてゐるが、氏は明治大學法學部の出身にして日蓮宗を信仰しその信念と博識は事業に自治的貢献に愈々廣莫なる伸展を見せつゝある。因に長男は千葉縣廳に奉職してゐるが氏の兄弟も亦夫々高等教育を受け相當の成功を收めてゐる。氏の今後はその明朗活達なる人格と共に事業的にも政治的にも多くの期待をかけられてゐる

勝浦町

千葉合同銀行勝浦支店

地方財閥による地方金融の自決しいふ意味に於いても千葉合銀の存在は多くの意味と役割を果してゐるといへる。當支店は勝浦町金融の中軸ともいふべく、行員七名同郡御宿町に御宿出張所あり行員二名を置いてゐる。現支店長松浦英司氏は明治四十四年以來銀行界に入り手腕德望兼備の人である。當銀行の今後は氏に俟つところ頗る大なるものがある因に氏は明治二十八年の岳降である。

大原町小濱

日東養鮑合名會社

特殊漁業鮑漁並に養殖を目指して、七萬七千圓の資本を投じて設立された當社は、その特殊漁目なる故によつて年々優秀なる成績を收めつゝあるが、現在既に六十名の從業員を擁して愈々發展の峯芒を見せつゝある。當社は安西元縣會議長の發起になり爾來安西氏理事長たりしが現在は安西氏は、露崎甚太郎氏を理事となし自己は代表社員として席を置くのみである。

勝浦町墨名

玉川乘合自動車部

電話勝浦二〇五番

經營者越後氏

當乘合自動車は、昭和五年六月勝浦驛構内に營業所を置いて勝浦驛及び興津驛間のバスを經營し創めたもので、爾來外房勝浦灣沿線とて日々隆盛の一路を辿りて今日に至る、資本金二萬圓、乘合自動車のほか、貸切、貨物等の事業も行ひ、沿線には勝浦海水浴場や妙覺寺があり清遊客踵を接して後を絶たない。經營者越後貫輝氏は明治十五九月十五日の出生にて現勝浦町會議員たるほか千葉縣自動車協會理事の要職に在り、且つ自動車業のほか罐詰類漬物類、その他一般食料品營業をなし、有名食料品として知られてゐる。實に氏こそ事業界の雄である。

西畑村筒原

西畑水電株式會社

當社は、大正十二年六月の創立に係り株主七十八名、資本金六萬圓を擁し、村内並に總元村の二ケ村に電燈及び電力の供給をなすを以て事業とする。社長野口萬吉氏は筒原部落の草分けたる舊家に、先考十郎左衛門氏の長男として文久元年三月八日に生れた。資性剛放、明治二十五年より大正二年に至るまで村會議員に任じ四十二年より大正二年までは村長の椅子にあり、その他村自治に寄與貢献されしこと頗る多く、當會社設立の功勞者として著名である。支配人兼技師長にして社長の令孫たる野口清磨氏は明治三十九年の出生、東京市神田電氣學校の出身にて、專ら會社經營に重責を負ひ、若き敏腕家として將來を嘱望されてゐる。

千町村松丸

田邊診療所

田邊信夫

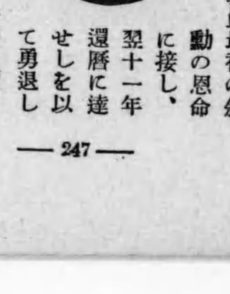
當村民の健康の司として田邊診療所の存在は田邊信夫氏の滋味溫容の人格と共に村民に多大の信望を收めてゐる。明治四十年四月千葉縣大多喜中學を卒業、千葉醫學專門學校に入りて卒業後、佐倉順天堂病院研究科に於いて臨床の實地研究をなしその術熟と共に千葉縣市原郡菊間病院に招かれ施療に當り大正四年東京市淺草に獨立開業せしも醫療施設の都邑偏頗の實情に感ずる所あり翌年七月現在の地に診療所を卜し、爾來二十有餘年專ら村衛生の爲に盡力し現在に至るが、千町村小學校々醫、郡醫師會理事として活躍又千町村青年團長として非常時農村青年の指導の重責を擔つてゐる。因に氏は明治十九年六月七日の岳降、盆栽、菊等の趣味淺からず。

西畑村中野

村會議員

吉野一松

氏は文久二年三月二十八日を以て故吉野兵右衛門氏の四男に生れ、後、同別家吉野庄三郎氏の養嗣子となる。登高學舍東京國人社等に學び、明治十三年大田代小學校長に任じ、その後數校を轉任して同二十九年郡書記に拔擢せられ、郡教育會理事、郡農會幹事等を兼ね、三十三年再び教職に返つて國吉校々長以下數校の校長に歷任、大正十年郡内教員最初の叙動の恩命に接し、翌十一年還暦に達せしを以て勇退した。爾來神職に就き、神社中心即皇室中心主義の下に社會教化に盡瘁の傍ら村會議員、方面委員等を兼ね、昭和六年來日本わらべ道場總中幼兒聚樂園を自宅に、その分園を神社に設け、また支那事變以來銃後の守りを確固たらしむべく、武士道即日本精神の養成につとめてゐる。氏の如き人格高潔にして各方面に貢献多き功勞者は實に稀に見るものである。



浪花村字小澤

三神晋

社掌

氏は明治十年六月五日忠德氏の男として岳降、幼より資性溫厚篤實、眞に神職を完うするの器にして、日常座臥常に端然たり、氏の祖は鎌倉時代以前に遡り、曾て藤原兼貞（友成）肥後國阿蘇神社に奉仕し後伊勢國に移り、或夜月明に舟行して暴風に遭ひ當地岩船に漂流し、上陸して神を祀る即ち諏訪神社の由緒なりと爾來父子相繼ぎ諏訪神社の神事を掌れり村社諏訪神社の祭神は、建御名方神、彦火瓊々杵尊、神倭磐余彦尊、外數神にして、御神德あらたかを以て聞ゆ、末社七十五神を數へ創建は弘安二年なりといはる。例祭は毎年二十三日にして、氏子六百有餘戸に達す。

勝浦町出水

覺翁寺

出水山善福院覺翁寺は總本山京都智恩院直末で、阿彌陀如來並に慈覺大師作三尊木造立象を本像となしてゐる。當山草創の開基は舊勝浦城主植村土佐守源泰忠で遠江國よりこの地に封ぜらるゝと共に善政よく町開發に努力し、且つ篤信家であるところから、淨林寺を創起して歴代領主の菩提所と定めたが、後ち二代泰勝他界の際、その幼名覺翁丸をとつて覺翁寺と改稱、信譽南光を開山とし、法燈相繼いで今に至つた名刹である。境内の重塔は明治二十八年十月の再建に成るもので、寶藏物夥多、正月十九日の開基法要をはじめ宗祖忌會、涅槃會、彼岸會、降誕會、孟蘭盆會、十夜大法會等を執行してゐる。現住職は第十六世戒譽大忍（大日方大忍）師で檀家百五十餘戸、總代に府川治、石井長兵衛、石井萬藏氏等が擧げられてゐる。

大多喜町櫻臺

城照山福壽院醫光寺

當寺は眞言宗に屬し、文正三年安房國安房郡八幡村の住人鍼醫師鈴木友貞氏によつて基を開かれた。本尊は不動明王。中川村作田の明王院は當寺末である。基本財産として山林五百坪、畑二反八畝餘田八反五畝餘あり、境内面積二百七十坪本堂は大正四年の建築になる。三月三十一日の弘法大師供養、八月二十四日の施

餓鬼は盛大を極め、毎月二十八日の念佛講も盛んである。檀家四十五戸、總代は田島隆太郎氏、尾高常吉氏、尾高豐太郎氏の三名、現住職關根宥信師は日本大學宗教科出身の大知である。

老川村小澤又

補陀落山水月寺

吉田楚眞師

當寺は、如意輪觀世音菩薩を御本尊とし、臨濟宗妙心寺派に屬し、峩岩和尚大禪師を開山とする。即ち至德元年九月山水庵なるものありしが、後年、鑑堂繭和尚なる名僧出でて山水寺を建立して今日に至り、圓照寺の末寺に當る。山門にかゝる額の補陀落山の文字は、有名なる佐野玄龍の眞筆である。毎年一月一日の祝辰には山門不出の行事ありて殷賑を呈す境内面積二段六畝あり、山門、本堂、庫裏等の建造物がある。檀家約三百戸を數ふ。現住職吉田楚眞師は妙心寺派第九宗教支所長にして二十有七年前の入山、特に地方社會事業に盡力し、附近住民より極めて尊敬せられ、特に現下時局に對應して銃後の護りに精進してゐる。

西畑村平澤

法受山妙嚴寺

當寺は、日蓮宗身延派に屬する當地方の名刹にて、池上本門寺を本寺とし同寺八代目日調上人が文龜年間に開山せるもの、御本尊は仰ぐも尊き宗祖日蓮聖人である。末寺八ケ寺を有し、寶物多數あり檀家は約百餘戸にのぼる。境内面積四反歩に餘り、境外に三町餘の山林あり、森嚴幽邃の氣内外に滿ち溢れ風景最も良好である。祖師堂、本堂、庫裏、山門、鐘樓堂その他の建造物あり、祖師堂は天正年間里見氏の建立されたものである。法燈連綿三十八代に及び、現住職山口辨朗師明治七年十二月の岳降にて、早くより佛門に歸依せし大知識、宗祖の教訓を今の世に活用し、社會事業その他の貢獻尠なからざるものがある。

東村長志

福祐山常修院顯妙寺

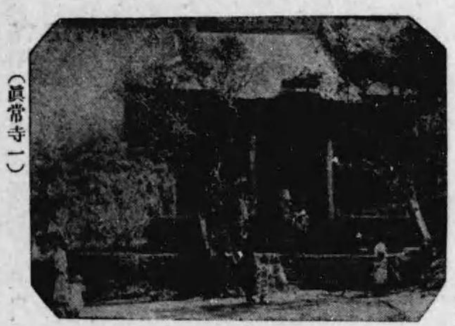
當寺は長志字桔梗臺に在り境内は四百五十六坪にて東葛飾郡中山村法華經寺の末寺なり。寺傳に文化十一年の總國長志村顯妙寺略緣起に曰く、もと金剛山勝曼寺と稱せしが永仁元年日常日蓮の法弟來り寺僧應海と法論をなせし時應海屈伏し遂に日常の法弟となり、名を日慈と改め寺を福祐山常修院顯妙寺と改稱して、天臺宗より日蓮宗に改め、日常を開山とし日慈を第二世となせりと、顯妙寺過去帳に據れば開山より四十餘代五六百年を經たりと見へ、されば當寺の創建は鎌倉時代の頃ならん。尙當時緣起によれば享保七年火災に罹り古記什寶概ね灰燼に歸せりと、現在寶物として、日蓮眞筆と稱せ

らるゝ三面大黒畫像並に日常眞筆と稱する各一幅あり。現住職松山貫識は熱意有り、而も溫容の士として僧行の譽高き師である。

布施村

寶藏山眞常寺

當寺は毎年三月十三日の虛空藏菩薩の祭禮を以て聞へ、菩薩の虫封じの御靈驗は殊にあらたかなものとして有名であり一宮、東金の他町よりも參詣者が踵を接する有



（眞常寺一）

（眞常寺二）

樣である。當山は大岩存高大和尙の開山になり、開基開山以來二十九世の法脈相傳ふる曹洞宗の古寺にて、威稜院殿武山正文大居士を開祖とし、本堂に阿彌陀如來を安置せり。行基菩薩作と稱せらるゝ國寶的虛空藏菩薩の像は銅葺の法舍に安置さる當寺の開山會は毎年十月二十五日執行され本寺は君津郡馬來村眞當寺にして、末寺七ケ寺に及ぶ。現住職渡邊眠龍師は稀に見る得信の人であるが、因に當寺檀家は布施村の全部　御宿の一部を以てなる主なるものは田村將軍の建立にして國寶に指定される價値あり、當地方に於ける名刹である。鴨根の山上に位し、四周眺望絕佳、珍寶什器多數を藏し、檀家は約百戸、毎年八月九日の四萬八千日には遠

中根村

音羽山清水寺

阪東三十二番の靈場にて、千手觀世音を本尊とし、天臺宗に屬する當寺は傳敎大師の草創に係り慈覺大師を開基とする本堂、仁王門四天門鐘樓堂庫裏等堂宇の

近より參拜者雲集して殷盛を極める。現住職井上顯海師は在職十七年に及び信望高き大知識である。師は又、資性高潔なる人格者である。

海上郡

鶴卷村

鶴卷尋常高等小學校

和衷協力を校是とする本校は、適切妥當なる學習訓練の練成と敎育の充實とにより兒童實力の進展向上に邁進しつゝあると共に、熱と愛と聰明さとを以て、總努力、總親和、克く敎師の示範實踐をモットーとし訓練を實習性にまで徹底せしめ、養護に於ては、敎師と兒童の接觸の機會を成るべく多くして精神的にも肉體的にも積極的な鍛冶練達を計り兒童體位の增進と保健衞生とに留意してゐる。されば敎授時間の充實、敎化の實際化鄕土化、出席率の向上は本校の特色である。

飯岡町

横田清藏

飯岡町長
縣會副議長

氏は現に千葉縣會副議長として縣政に於ける重鎭たり。且縣政友會の巨頭として重きをなす縣治各般に及べる巨大なる功績枚擧に堪へず。又飯岡町長として町政上の中樞に鞅掌し高潔にして無私、溫容にして勃然たる風格、該博な見識は町民絕大の信望を擔ふ。商工會々長、信用組合長、消防組頭等、町治の全面的責任者としての赫赫たる功績は名町長の聲澎湃たるものあり。因に氏は若くして敎育家たりし人、元海上郡敎育會長等を勤めしことあり。

飯岡町平松

鈴木周藏

功七級　勳七等　役

當家は代々名主を以て傳はる屈指の舊家たり。嚴父市右衞門氏は區長並に町會議員等を多年歷任せる人。氏は其の長男として明治九年一月十日岳降、曩に助役、郡會議員、町長、町會議員として町自治の上に巨大なる事績を致し、町民多大の信望を擔ふ現に亦助役、軍友會飯岡分會長として誠心眞摯、高邁なる識見を以て町政諸般の

實際に鞅掌します〳〵その貢献を大にし町民の期待に沿ひつゝある。因に家庭は長男夫妻に既に令孫あり極めて圓滿春風和合の家として知らる。

嚶鳴村

嚶鳴村長 村會議員 **崎山太良右衞門**

當家は干潟開發當時よりの舊家として普く知られ、代々鄉黨の信望厚かりし名門の家柄である。先代慶治氏は戸長その他の要職に任じ、自治制實施當時の村治に功勞甚大なるものがあつた。氏はその長男に當り、明治十七年二月十五日を以て生をこの世に享けた。鄉校卒業後、伊藤塾に通つて漢學その他の學問を修め、長じては家業の傍らよく自治公共のことに關與盡瘁し嚶鳴鶴卷瀧鄉傳染病豫防組合長、金錢債務調停委員をはじめ、干潟水害豫防組合長たること八年、郡農會副會長を一期、また郡畜産組合創立に奔走して初代組合長に推され現在は副組合長に任じ、大正十年頃は消防組頭に選ばれて活躍した。現在嚶鳴村長として敏腕を揮ふほか、村會議員、産業組合長、村農會長、琴田耕地整理組合長等の要職を兼ね名聲嘖々たるものがある。

嚶鳴村東琴田

嚶鳴村收入役 **菅谷仁右衞門**

當家は香取郡萬歳村溝原の出といはれ、開祖は不詳なるも現在の地へ移りてより約二百年八代に及び、代々農を以て家業とした。氏は先代辰二郎氏の長男にして、明治二十一年十一月一日を以て生をこの世に享けた。夙に村會議員に當選活躍し、農村の向上發展は先づ以て人の和にありとの見地より、部落民の理解により東琴田刷新會なるものを設け産業の發展、部落民の親睦、貯金、共同販賣及び購入等の事業を行ひ、設立以來すでに三年、今や部落民に益するところ頗る多く、現在は他の部落にもこの種の機關の設立を見るに至つた。誠に氏の努力たるや實に絶大である。資性は實直、昭和十二年十一月には收入役に推され、引續き今日に及んでゐる。四人の愛娘あり、長女は富浦村より慶二氏を養子に迎ひ、家庭は和氣に滿ちてゐる。

三川村

三川村長 **鈴木長三郎**

氏は曩に助役、村會議員たり、現に村長、村會議員として、現下農村の疲弊打開の之が中樞たるべき村青年の精農報國の精神態度を養成すべく常に戮心協同と愛勞の本旨を以て村政諸般のことに當り

着々その效果を擧げて氏の溫厚にして眞摯の人格と共にその人望澎湃たるものあり、昭和十年十二年の二回に亙りその功顯著なりとして、千葉縣市町村會の表彰を受けた名實併有の名村長たり。氏は尊父太七氏の次男として明治十四年七月三日の生れ、家を繼ぎて齋家克く、道道塾に於て、修身理道の經程を修めし人である。家庭は九人にして眞言宗の信者、常に春風駘蕩の如き和合の氣に充ちてゐる圓滿な家庭なり。

三川村大林

三川村助役 **高野米藏**

氏は明治十五年二月二十日豐松氏長男として呱々の聲を擧げ、元村會議員として三期の永きに亙り功勞のありたる嚴父の衣鉢を襲ぎ、夙に村政の刷新、村産業の發展を思念、溫厚篤實の人格は多大の推輓を受け、現に助役、村會議員、大利根用水組合役員として、鈴木村長を輔け村治各般のことに盡瘁して巨大な功績を殘しつゝあり。統計調査員、方面委員、資力調査員に任じ千葉縣當局より功績顯著として表彰されてゐる。資性圓滿醇厚の人格を備ふる勤直精勵の人である。家庭は子福者にして九人の多勢、而も圓滿和合の家として知らる。

豐岡村

豐岡村長 **越川惣右衞門**

當家は極めて由緒に富む土地切つての名門にして素封家たり。今より約千三百余年前藤原鎌足の息女が關東に逃れ下總國現在の匝瑳郡野田村に上陸せる時の警備の武士の統卒者が、當家の祖先と云はれ、現に野田村に鎌足の息女の後を祀る內裏塚が殘つてゐる。又代々近鄉七ケ村の大名主を勤め、祖父孝之助氏は縣會議員たりし人、嚴父惣右衞門氏又縣會議員、村長其他の名譽職に歷任して、殊に財政、豫算のことに明く地方並に村自治の上に巨大なる業績と功勞を殘した人で六十九歲にして逝去するや惜慕の聲澎湃たるものがあつた。氏はその長男として明治二十四年七月三十一日に生れ、茂原農學校卒業後祖父、嚴父の衣鉢を襲いで、常に村治の擴充、村民の幸福を祈願して寧日なく爲めに翕然、村民の推挽を受くる處となりて村會議員、農會長、校長を歷任してその貢献するところ多大なり。現に村産業の中樞であり且必須缺くべからずとの信念の下に産業組合の設立に盡瘁中であり三月頃には創立の模樣である。實に三代相傳の村治功勞の家として氏の人望は赫々たる業績と共に愈々顯著たり。因に家庭は四男三女の子福者にして常に靑風和合長者の生活に充ち〳〵てゐる。長男惣衞門氏（二十五歲）は旭農學校出身の俊器英才にして、また當主の衣鉢を襲ぐ材幹として將來を囑望されてゐる。

旭町成田

新行内喜三郎
町會議員 勳八等 功七級

剛毅果斷、熱血の士として識られ、革正派の旗頭たる氏は、政治を趣味とし政治に生きる男性的氣慨の人である。明治十四年九月六日、先代吉太郎氏の長男として生をこの世に享け、長じて新行内家十代目を繼承今日に至るものにして、日露戰爭には勇躍出征して名譽ある負傷により勳八等功七級を賜り、凱旋後は專ら自治公共のために盡瘁し、消防組頭、在郷軍人分會副會長、海匝耕地整理組合會議員たること多年、現時町會議員に當選活躍中にて町政の刷新につとめ人事關係の整理、町債の償還に特に力を致し功勞顯著なるものあり、なほ目下在郷軍人分會名譽會員である。令閨モトさんとは琴瑟相和し、長男吉太氏には夫人クニさんを迎へて令孫六人あり、家庭は實に圓滿長女ツルさんは中和村長部高木秀氏に嫁してゐる。

飯岡町飯岡

土屋六郎兵衛
町會議員 勳八等

現在町政自治に協力し、刷新の實を擧げることに努力したいといふ強き信念の下に、絶えず盡瘁をつゞけつゝある氏は戸長役場時代の戸長を勤めた清治氏の長男、明治十二年四月十二日の生れ、陸軍工兵補充兵として日露の役に出征、勳八等に叙せられた譽れある勇士である。爾に在郷軍人分會長として勤め、現在は町會議員、飯岡信購販利組合專務理事、軍友會々員等を兼務、熱心活躍貢献してゐる村内の人望家である。

鶴巻村蛇園
村會議員

浪川好太郎

當家は當地有數の舊家たる「作左衛門」家より分家して五代に當る。嚴父子之助氏は早くより他國に在り昭和二年死去、爲めに氏は祖父惣吉氏より庭訓を受く。惣吉氏は幼時より學事を愛し剛毅果斷、公正の道に邁進、郡會議員、助役、村會議員として、村自治の上に大なる足跡を遺し昭和三年一月自治功勞者として表彰され七十四歳の高齢を保つた人である。

當主は明治三十三年十一月十一日子之助氏長男として生れ、爾來祖父の膝下に育ちその衣鉢を襲ぐ。元青年團長、統計調査員に任じ村青年の中心として活躍、現村會議員、農會代議員として村政に鋭意貢献なしつゝあるが、氏の厚き奉公慈惠の思念と熱意に富む資性は村民多大の信望を得、將來村の中樞に動くべき人として期待されてゐる。一男三女の子福者で家庭圓滿。

瀧郷村清瀧
村會議員

石上一五郎

氏は總藏氏の養嗣子となりし人にして

實父藤右衛門氏は助役、村會議員として村自治に功績多かりし人でまた天資溫厚しかも篤實なる人格者である。當家は元戸長役場たり總藏氏はその書記たりし人にして當主は

家業を亞ぎて傍ら、元農會評議員、干潟水害豫防組合評議員、土木委員、信用組合役員區長の職にあり多年村治に盡力し人望あり、推輓されて村會議員たり、因に氏は明治十五年一月の岳降なり。

嚶鳴村中琴田
村會議員 勳八等

菅谷正三郎

初代平右衛門氏は菅谷五左衛門氏の二男に生れ分家して一家を創立、二代平右衛門氏は本家五左衛門氏の長男に生れ、幼名は酒造藏、長じて本家を嫁に讓つて當家を繼いだ。これ即ち先代にして、村役場書記、收入役、助役等十有餘年間奉職の功勞者である。當主はその長男にして明治十五年十一月十一日に生を享け、日露戰爭には奥軍に屬して勳功あつた。區長、收入役、學務委員等を經て、現時村會議員並に干潟水害豫防組合役員をつとめ、區民の信望頗る篤い。長男昇氏は旭農學校の出身である。

矢指村足川
村會議員

岩井喜一郎

當家の祖は茨城縣猿島郡岩井町に於て岩井郷を領有したる由緒ある家柄にして太田の合戰に敗れ、岩井儀胤氏の時、文明十二年、當地に移り住み、爾來代々農を家業となして十七代今日に至つた。氏は先代の長男として明治十四年九月四日を以て呱々の一聲をあげ夙に東京青山師範學校に學び、拔群の成績を以て卒業後は、帝都小學校に教鞭を執ること二十ケ年、幾多の俊才を育て、多數の英器を世に送つた。教壇を退くや、歸郷して農業に從事し、爾來十年今日に至り、その間區長たりしことあり、また永らく村會議員に當選し、現時金錢債務調停委員を兼ねてゐる。因に長男良一氏は朝鮮京城師範學校出身にして名教育者と謳はれて居り、次男謙二氏は目下千葉師範學校に勉學中の秀才である。

三川村上宿
村會議員 勳八等

加藤彌助

氏は勤勉實直の人格者である。その祖は未詳なるも、約五百年來の舊家と稱され、氏は明治十五年七月十日先代清次郎氏の男に生れた。同三十五年近衛歩兵第四聯隊に入營、日露戰爭には第一軍に屬して出征、勳八等に叙せられた勇士である。現在村會議員、學務委員、區長、統計調査委員等を兼ね、至誠奉公の道に生きてゐる。こう夫人との間に五男三女あり、三男贊三氏は津田沼鐵道聯隊出身にて東京目蒲電車勤務中、四男章氏は現海軍三等兵曹、五男清次氏は海軍工機學校

在學中誠に軍國に相應しき家庭である。

豐岡村八木

村會議員 伊藤義平

當村會に於ける最年少議員、特に懇望されて出馬したといふ實直眞面目なる氏は今、多年懸案中の產業組合の創設、村民の福利增進を期すべく活動してゐるが外に資力調査委員、小學校後援會評議員等を兼ねてゐる。曾てはまた青年團副團長、同團長、在鄕軍人分會會計理事、區長代理などを歷任、その功決して尠くない。家は二百年來、農を本業となして來た舊家で、父君喜助氏は村會議員二期、區長等に推された村自治の功勞者、氏はその男、明治二十九年六月一日の出生。

旭町千潟驛前

町會議員 高橋總藏

町內の一大革新を企圖し、旭町に於ける次期町長並に縣會議員の有力候補者として期待される氏は淸濁併せ呑むの氣慨を有する豪放磊落の積極的性格の持主にして、政友會に於ける當地方の重鎭であり自治的には革新派の領袖である。抑々當高橋家は、豐畑村に於て代々農業を營める舊家にして、當主の代に至つて當地方に移轉し、

米穀肥料商を創めて今日に及ぶものである。即ち氏は先代吉藏氏の長男にして明治十年五月二十九日の出生、日露戰爭には赫々たる武勳を樹てた勇士であり、現在家業の傍ら町會議員三期目、所得稅調査委員を兼ねてゐる。家庭には兩親健在し、令閨は豐畑村高橋吉兵衞氏の長女にして、長女さつさんは椿海村より通夫氏を養子に迎へ七人の愛兒がある。

飯岡町橫根濱

町會議員 學務委員 高野武四郎

當家は嚴父啓助氏の代より酒類卸販賣薪炭練炭豆炭等の卸賣をなし當町の紳商として知らる。氏は明治二十五年一月七日四男として

呱々の聲を擧げ家督を繼ぐ。天性純潔且つ明晰なる頭腦の持主である。自家事業の發展のみならず自治の事に當るや極めて誠心眞摯、現に町會議員、學務委員に推され銳意盡瘁しその貢獻多大。昨年小學校に御眞影奉安殿を寄附した。又趣味として小鳥の飼育をする等氏の心事の明朗慈惠に優れたる證據たり。ウメ夫人との間に榮次郎君あり家庭は圓滿である。

嚶鳴村高生

村會議員 鈴木英逸

當家は隣村萬歲村より轉居して十一代に及び、代々農を業としたが、五六代頃

までは油製造業をも營んだ。先代國太郎氏は慶應三年の出生にして昭和九年十月六十八歲にて逝去するまで、一生を通じて村治に盡力したる功勞者である即ち村會議員、學務委員、助役、村長等に歷任のほか各方面の名譽職に任じ、事績一々枚擧に遑がない。趣味は讀書であつた。

先代國太郎氏

當主はその長男として明治二十年五月二十四日を以て生れ昭和八年學務委員に推され同十二年五月には村會議員となり公事に竭してゐる。三男一女を有し、長男謹爾氏は大正三年の誕生である。尙令弟省氏は佐原中學校四年より名古屋高校に入學、更に東京帝大經濟學部に學び、卒業後住友銀行に入社、のち望まれて井上中將の養婿となつた。

三川村曾根

村會議員 鈴木庫松

當家は代々農を以て傳ふる家系にして明治十九年九月十日豐次郎氏の男として呱々の聲を擧げた。明治三十九年兵にて旭川步兵二十八聯隊步兵上等兵である。人格溫容にして、一見柔和なれど心底極めて果斷剛毅に富む、曩に消防第一部部長、區長、大利根用水組合議員、在鄕軍人分會班長、副會長等を歷任して顯著なる功績を擧げ人望あり推挽されて村會議員となり益々村治各方面に盡力してゐる。殊に昭和十年統計調査委員として、縣當局より表彰されてゐる。家庭は夫人サダさん、長男淸一氏に既に令孫三人あり極めて圓滿である。

豐岡村八木新田

村會議員 菅谷嘉平

當家は「三左衞門」の家號で知られた當家は、相當年代を累ねた舊家、代々農を家業となして今日に及んでゐる。先代元吉氏は精勵努力の人、村會議員等に擧げられて盡瘁してゐる。當主は明治二十年二月二十二日、その長男に生れて家業を助け、實直且つ何事によらず熱心な人を以て鳴り夙に人望を集めて現村會議員、統計調査委員、農會審査員、甘藷生產費調査員（縣下にて五名）資力調査委員、二期目區長、受檢

組合長等を兼務、それ〴〵盡力、村民の期待に副はんとしてゐる。

旭町網戸

町會議員 **加瀬雄作**

當家は連綿二十數代農を業とする舊家にして、現在は酒造業を營んでゐる。曾祖父及び祖父二代は門弟百人以上を敎へし篤學者である。當主は先代安太郎氏の次男にして明治十四年二月一日に呱聲をあげ、網戸部落のため多年貢献し、町民長敬の的にして、元町長玉置政吉氏、同加瀬健治氏とは姻戚關係にある。農に耕地整理組合長學務委員三期、網戸區長三期その他をつとめ、現時町會議員二期目の任にあり、町政界の重鎭にしてその功勞甚大なるは廣く知らるゝ所であり、町勢の發展を第一の念願として熱心に活動してゐる。親分肌の所あり、積極的にして正義の觀念に强い。表彰も數度に及んでゐる。家庭には令閨やすさん、長男武雄氏、同夫人たの子さん、令孫四人等あり、次男三男は他家の養子となり、五男勇氏は加瀬晋平氏長女ときさんを迎へた。

飯岡町小網町

町會議員 **向後久三郎**

電話飯岡五七番

當家は始祖以來久三郎氏を襲名した相當な舊家を以て響いてゐる。氏は明治二十九年三月二十日、先代久三郎氏の長男に生れ、久治氏と稱したが、現在は父君の名を襲名、澱粉製造業に熱心從事してゐる。他面また常に町内公共方面に關心を有ち、曩に區長に選ばれ、消防部長に推されるなど人望を贏ち得、しかもその期待に副ふ多大なるものがあつた。今や信望更に高く町内重要人物の一人として名をなし、今後に一層の望を囑せられてゐる。性溫順にして果斷、町政參與を念とし、趣味に釣魚がある。閑あれば即ち一竿を肩に悠悠太公望をきめ込んでゐる。アキ子母堂なほ鬘鑠として家事を見、サダ子夫人、また夫君を助けて剩すところがない。

嚶鳴村後草

村會議員 **小川昇**

電話嚶鳴二番

養豚業界の雄と稱され、商運益々隆盛なる當家は、先代音吉氏が當地に移住創業せるものにて、その祖は山武郡片貝町の人である。ヤマヨの屋號は縣下に普く、一年間約一千頭を取扱ふ盛業にて今後ます〳〵發展

の機運に惠まれてゐる。氏は明治二十三年八月三十一日を以て呱々の聲をあげ、家業の傍ら區長をはじめ幾多の公名譽職をつとめ、現時村會議員二期目のほか、縣畜産組合代議員、海上郡川魚業組合役員を兼ねて功績あり、當村公設電話架設に當つては氏の奔走と盡力に俟つところが多大であつた。二男一女を有し、長男信夫君は大正四年生れ、次男定吉君は大正八年生れ、長女あき子孃は大正十一年生れである。

三川村下宿

村會議員 **大久保榮一**

大久保家は代を累ねること七代目當村切つての舊家として、また唯一の縣會議員を出したる名望家として四邊に響いてゐる。先代昭二氏は弘化四年生れの當九十二歳、なほ矍鑠として餘世を樂しんでゐるが、往年縣會議員に推されて縣治に參與、硬骨議員の名を馳せて縣民の福利增進に盡力した功績は、今も縣下に讃へられてゐる。當主榮一氏は實にその長男として明治十一年八月二十五日の出生、父君の衣鉢をうけて夙に村治に進出、現村會義員の名を以て活躍、村民の期待に副はんことを終始思念してゐる。母堂喜久子刀自また健在、當主夫人は香取郡東條村夏目の掛巢家の出で内助の功勞者である。なほ長男繁君はいつ子夫人を迎へ、三夫婦揃つての目出度い家庭をつくつてゐる。

豐岡村八木寺内

村會議員 **平野顯二**

氏は海上郡鶴卷村の素封家にして同村初代村長として令名のあつた千葉武兵衛氏の次男として、明治二十六年十一月十六日に生れ、幼にして俊秀を以て知らる懇望されて當平野家に入り爾來齋家精勵して完し、養父實氏は日清日露兩役に從軍して功あり勳八等を受けし人である。顯二氏は夙に村治産業の上に深く思念する處あり、曩に在鄉軍人分會理事、分會長、消防組頭等を經て現に村會議員、小學校後援會副會長として、産業組合設置問題、模範敎育村としての敎育徹底に越川村長等と戮力率先して、之が實現に寧日なき努力を竭し、村民多大の輿望を擔ひつゝある。

尙多年消防組頭として服裝に設備に改革を加へ功績顯著にして知事より年功章並に功勞章を授與された。稀に見る熱意眞摯の村幹として今後益々村治の中樞に多くの期待を囑望さるゝ人である。貞子夫人との間に一男三女がある。家庭は春風駘蕩、圓滿和合の家にして、近在羨望の的となつてゐる。

旭町太田

町會議員 **越川武雄**

氏は溫厚なる苦勞人にして、抱擁力に富み町民の信頼が頗る篤い。山武郡蓮沼村秋葉猪之吉氏の次男として明治十四年九月二十四日に生を享け、長じて越川茂一郎氏の養子となり、家業の傍ら區長に任じ、現時町會議員、方面委員、金錢債務調停委員等を兼ねてゐる。令閨つねさんとの間には二人の愛息がある。因に養父氏は旭町長たりし人材にて、旭農學校の建設、耕地整理の完成、旭町道路整修等幾多輝やかしき業績を遺して來た。

飯岡町

町會議員 **寺村勘兵衛**

電話飯岡一〇番

寺村家は開祖以來十七代目、土地の舊家として知られた家柄、先代勘兵衛氏は町會議員、區長等に選ばれて盡力貢献した町治の功勞者である。當主はその長男明治二十八年二月十九日の出生、歡一氏と呼んだが、昭和十一年二月父君の名を襲ぎ呉服、網商を營んで今日に至つてゐる。夙に父君の衣鉢を繼いで町治方面に進出、現に町會議員、千葉魚網工業組合長を兼ねてそれ〴〵盡瘁し、期せずして衆望をあつめてゐる。資性圓滿、しかも果斷快活な人、人のためには自らを棄てかゝるといふ仁俠に富み極めて好感をもてる。昭和十一年度消防署に寄附した廉によつて町から表彰されてゐる。家庭は兩親健在、和氣靄々たるものがある。

嚶鳴村江ヶ崎

村會議員 **諸持國英**

氏は溫厚着實にして理性に富み一つの事業に着手すれば萬難を排してこれを貫徹遂行する熱意を有し、且つ努力家である。これがため一部に反對者無きに非るも人望高く、村會議員に選出されることすでに三回に及び、昭和七年三月助役に就任するや鈴木村長を補佐して卓拔の手腕を縱横に發揮し名助役として謳れた。特筆すべきは耕地整理事業の大恩人にして、大正六年より昭和三年まで旭町嚶鳴村聯合耕地整理組合長に任じ、現時海匝耕地整理組合副會長を兼ね、寢食を忘れて盡力せる功績は永久に記錄さるべきものである。因に當家は開祖未詳なるも部落切つての舊家にして、先祖は香取郡橋村字諸持の住人なりとも傳へられる。氏は明治二十二年の出生である。

豐岡村小濱

村會議員 **向後八十松**

當家は土地切つての舊家たる「新左衛門」家より先代茂兵衛氏が分家したるものにして、氏はその長男として明治七年十月十日に呱々の聲をあげた。資性極めて溫厚篤實、而も誠心の人にして曩に區長として部落融和に盡瘁、現に推されて村會議員として、村自治各般のことに貢献してゐる人望厚き人である。長男幸一氏（四十歳）亦現に統計調査員たり。村治將來に囑望を以て俟たる。家庭はなつ夫人との間に三男三女あり、長男幸一氏とたけ夫人の間に令孫六人といふ繁榮の家たり、常に春風の如き和合を以て知らる。

旭町成田

町會議員 **鎌形藤作**

德望家として普く尊敬をあつめてゐる氏は先代皆吉氏の長男にして明治十八年一月十日の出生である。抑々當家は代々旭町網戸に住する舊家にして先代皆吉氏の時成田に移つて鐵工業を創め、當主は大正十二年よりこれを繼承した。明治四十年より大正十年まで十五年間旭消防組第二部長に任じ、消防功勞者として知事より表彰され、現時町會議員に選ばれ、町政の圓滿なる運營に盡力しつゝある。家庭には母堂かつさん、令閨みちさん、令息雅一氏、同健二氏その他がある。

飯岡町飯岡

町會議員 **石橋銀三郎**

剛にして果斷、漁港完成のために邁進努力しつゝある氏は、曾ては納稅徴收係として在勤すること二十ケ年、その功勞を多として郡より表彰されたほどの人物であり、また區長四期を重任して相當の業績を稱へられてゐる。今、町會議員に選ばれて町治のために活躍してゐるの外、信用組合調査委員、海産物加工組合代表者を兼ねて盡瘁貢献、町内の人望を高めてゐる。氏の家は父君惣平氏の時に分家獨立して魚商を業となし今日に及んでゐるが、氏はその長男、明治七年十月十日の出生、父業を繼いで實にこれ大ならしめてゐる。夫人キリ子さんとの間にハル子さんがあり、養嗣子重吉氏を迎へて和煦靄々たる家庭に浸つてゐる。

嚶鳴村西琴田

村會議員 **宮野豐藏**

當家は隣村萬歳村より移り來り、當主を以て七代目

とする。先代卯之助氏は明治五年の出生にして、同四十一年助役となり、四十四年四月には衆望を擔つて村長に就任、寡言なるも村治には熱意を以て當り、特に養蠶の發達に力を注ぎ農業の傍ら蠶種製造業を營み、大日本蠶糸會より表彰を受けたることあり、大正十年三月五十歳を以て逝去した。弓術に達してゐた。當主はその長男にして、明治二十八年十月二十日の出生である。夙に村治に盡力し、村會議員に當選すること前後三回に及び各方面の情勢に明るく、將來性ある人材として村民の信望が厚い。家庭には母堂はる刀自健在し、令閨くにさんとの間に令嬢のみ六人を儲け、長女もとさんに養子四郎氏を迎へ家庭頗る圓滿である。

豐岡村小濱

村會議員 **岩井辰之助**

氏は明治十四年二月十日當村岩井與五兵衛氏の三男に生れ、十七歳の時晴れて當家の養子となりし人、先代松太郎氏は明治四十二年前村長宮内太重郎氏と相諮つて五部報德會を設立し爾來三十餘年共同販賣に共同購入に今日の偉大なる業績を擧ぐる基礎を作つた人、村内斯種組合組織の先鞭を附したもので村産業の上に及ぼせる功績又多大なるものがある氏も亦嚴父の衣鉢

を襲ぎ、報德會顧問として發展に努力するのみならず、區長として部落の開發和合に眞摯なる貢献をなし、圓滿主義の篤實なる人格と共に信望をあつめ推輓されて村會議員として多年村治の上に活躍してゐる、家庭はつや夫人並に令息勇藏氏同夫人こうさんの間に一女あり頗る圓滿和樂の家である。

飯岡町萩園

町會議員 **平野彌七**

氏は當家四代目の當主として明治三十一年三月十日、元區長故兼吉氏の長男に生れ、精麥業に鋭意して今に至つてゐる衆望を擔つて曩に區長に推され、現在は町會議員として町政に參與、其功績を擧げてゐる。なほ氏は熱烈なる不動尊の信仰家、テイ子夫人との間に六人の子女がある。

嚶鳴村西琴田

村會議員 **根本子之次郎**

溫厚にして謙讓の美德を有し、眞摯誠實を生活の信條とする氏は、葛城村關戸の舊家として

知られたる菅谷要作氏の二男にして明治十四年一月三十日を以て生をこの世に享け、長じて根本喜右衛門氏の養子となり分家して初代となり今日に至つた。諸事熱心にして苟も輕忽のことなく、家業農に關して常に研究的態度を持し、進歩的方法を以て農業の改良を實踐し範を垂れた篤農家であり、先年その人格を慕はれて村會議員に選出され、爾來一身を忘れて公事に奔走、部落の繁榮と村民の福祉增進に一意淬勵の誠を致してゐる。令閨りんさんとの間には長男一女あり、一女は他に嫁し、長男由太郎氏（明治三十六年生）は氏に肖て謹直誠實の人物、よく家業に從事し、四人の愛兒を儲けて家庭圓滿である。

飯岡町八間町

町會議員 **赤羽竹次郎**

先代は江戸宰領を勤めたる素封家にして氏は明治十二年十二月二十五日治助氏長男として呱々の聲を擧げた。「粉骨碎身以て一身を町政の爲め盡瘁する」を以て信念とし曩に區長として四期半、現町會議員、玉崎神社氏子總代、御嶽教巴講社總代として眞摯なる貢献を續けてゐる人望家である。殊に資性淸廉高潔にして謙讓信義に厚く、その圓熟せる人格は人に說かず自ら

悟り律するの佛陀的信仰と共に町民の敬慕を受けてゐる。政黨關係なく、佛敎の尊信厚く、殊に家業たる菓子製造卸業に於いて誠實孜々として倦むことなき精勵は廉價榮養の營業方針と共に益々繁榮聲價を高めてゐる。家庭は夫人との間に多數の子供さんあり頗る圓滿である。

嚶鳴村後草

村會議員 **浪川嘉兵衛**

當家の祖は、四國に於ける戰國時代の覇者長曾我部盛親の孫にして、四國より京都へ出で、德川二代將軍秀忠公の頃、京都より當地へ移住し、當初は半農半漁を家業としたが、當地の開發によりて專ら農業を營むやうになり、爾來十數代の歷史を積み今日に至つた。先代氏は區長耕地整理組合長等をつとめたる部落發展の恩人である。當主は明治二十三年十月四日の岳降にして、家業の傍ら永年村會議員を勤め、現時後草區長を兼ねて、部落民の信望測り知られぬものがある。家庭には母堂よしさん健在、令閨しんさんとの間に二男二女あり長男明氏は明治四十四年出生にして旭農學校卒業後家業に精勵、次男平八郎氏は旭農學校一年生であり、令孫二名あり、家庭は和氣靄々として圓滿の限りを盡してゐる。

飯岡町横根濱

町會議員 **桂山富太郎**

電話飯岡三番

短軀無髯、商才に張り切つた氏は明治二十四年四月十日、先代定吉氏の長男に

生れ、一度父業（米及び肥料販賣業）を繼ぐや精勵努力、常に非凡の手腕を揮つて今日の大をなし、地方業界の中心人物として崇敬されてゐる。今、町會議員たるの外商工會役員、軍友會々員を兼ねて活躍し功勞大なるものがある。因に氏は騎兵一等兵である。

ゐるが、「自治は一人で確立するものではない、町會議員としての名を汚さず、進んで町政に參與し、一般町民と協力一致、町治の刷新、潑剌たる新興の飯岡たらしめよう」との抱負を以て、町内のすべてを解決しようとしてゐる熱心の人士である。曾ては區長、飯岡産業組合監事千葉無盡株式會社監査役などに擧げられ

飯岡町字下永井

町會議員　**石毛縫右衛門**

氏は明治二十二年三月十日の岳降にして、曩に區長として部落の融和に盡瘁し現に町會議員、飯岡町漁業組合長として町政の中樞に參畫、殊に漁業方面に於ける功績顯著なるものあり。氏の抱負は當町勢の發展は漁獲事業の發展に俟つ他なくそれが爲めには、速急漁港の完成が肝要なりとし、これが實現に眞摯なる努力を續け斯業界の感謝を受けてゐる。又飯岡合同運送株式會社長として運輸事業に貢献多大にして、政友會に屬し町政の上に重きをなす溫容熱意の人格者である。家庭はなか夫人との間に二男一女あり常に春風の如き和合の家である。

飯岡町本町

町會議員　**水野金太郎**

氏は天賦意氣と熱意によつて生きる人である。曩に町會議員消防組頭として町政に參與して貢献する所頗る大、更に推輓されて第三期目の町會議員、並に方面委員たり氏は若くして下駄表、製網等の事業に從ひ順調なる業績を辿り、約十年前、當時「伊助屋」の經營不振なるを譲り受け、屋號を水野屋と改稱、氏の熱意はその經營によろしきを得て逐年發展現在使用人十餘名に達し當地方第一流の料理店旅館となつた。因に長男は現に飯岡信用組合横根濱支部長として將來を嘱望されてゐる。

飯岡町横根濱

飯岡郵便局長　學務委員　方面委員　**宮島芳兵衛**

氏は明治三十一年十一月四日の岳降にして飯岡小學校より銚子商業を卒へ俊才

として知らる。懇請されて宮島家に入り芳兵衛を襲名、當家は土地屈指の素封家たり。氏は曩に町會議員二期を勤め、現に學務委員、方面委員として、學校施設の改善、貧困者の救濟等に眞摯なる抱負を持し、殊に學事功勞者として昨十二年賞勳局より表彰された。資性豪放にして磊落、而も緻密なる頭腦の持主であり、郵便局長として、町通信諸般のことに公平迅速なる統轄振りを顯現し、町民多大の感謝を受けてゐる。又溫容にして剛毅の人格は町政の將來に益々貢献さるべき人として名聲あり嘱望されてゐる。家庭は母堂カッ子刀自、チカ子夫人にして常に春風和合の家として知られてゐる。

嚶鳴村中琴田

旭町郵便局長　**鈴木武治郎**

遞信報國の一念に燃ゆる氏は、取りも直さず、確固たる日本精神の所有者である。常に文化の先端を走り、文化産業の伸展に拍車をかける役割を演ずるものは遞信事業であり、これに從事する者、氏の如き人材を必要とすること勿論である。氏は局務に熱心にして、局員の指導誘掖にも心を竭し、溫厚な性格は普く信望の對象となつてゐる。家庭的には三男一女の父親である。當家は氏を以て六代目にあたる。先代良助氏は安政三年十二月の生れにして昭和四年四月長逝し、この間明治二十三年四月村長となり、後、縣會議員に選出、自治に裨益するところ頗る多大であつた。讀書及び圍碁に趣味を持つてゐた。當主もまた先代に似て讀書は古今東西に通じてゐる。因にその出生は明治十六年十二月二十八日である。

旭町十日市場

元旭町長　**伊藤龜太郎**

海匝耕地整理組合の偉大なる功勞者として昭和十年耕地協會より表彰せられた氏は、當代稀に見るところの手腕と人格の具備者である。抑々當家は部落切つての舊家にして、先々代は名主をつとめしことあり、先代熊次郎氏は寺子屋を開いて育英に盡瘁せる陰德家である。氏は先代の男にして明治三年十月五日の岳降夙に自治産業界の人となり、町助役を經て大正八年には町長に推され、在職中、海匝耕地整理組合の設立に奔走して多年副長に任じて同組合事業の發展に竭すところ多かつた

また町會議員、町農會長等にも歴任、町教育の統制振興にもまた格別の意を用ひ文字通り名町長と讃美され、得難き材幹と珍重された。今は元老として優游の日を送つてゐられる。

瀧郷村松ケ谷

元村長　勳七等　**木内孫兵衛**

當家は千葉常胤の子東六郎大夫瀧頼後九代目木内下總守は木内氏の祖先にして

正慶年中に瀧治當松ケ谷部落に土着し木内孫衛門改めて孫兵衛と稱し、爾來代々襲名の舊家である。現孫兵衛翁は八十五歳の高齢を保ち、日露戰役當時村長として活躍しその功により勳七等を受け、尙郡會議員、村會議員として、地方自治の爲めに多大の功績を殘せり。殊に學校關係、岩井不動尊樓門の改築に就いては盡力多大にして村長の信望を得たり。子息瑛一氏も亦父の意志を受け繼ぎ、村青年男女の智德啓發、自治精神の涵養に努めた。その他村諸方面の役員として手腕あり將來村の中心人物として囑望された人であつたが、不幸卅九歳にして死去した現戸主（令孫）孫一郎氏も亦祖父、嚴父の衣鉢を襲ぎ、茂原農學校を卒業、現在村會議員として、村治の上に活躍し將來を期待されてゐる。因に氏は明治三十三年の岳降である。

嚶鳴村江ヶ崎

元嚶鳴村長　江ヶ崎清三

當家は開祖以來約千二百年を閲し連綿六十代を相嗣ぐ本村第一の舊家で、名主をつとめた家柄であり、村内に於ける江ヶ崎姓の家は皆當家より分れたものである。先代雅次郎氏は收入役、村會議員の公職をつとめ大正十三年に逝去、氏はその男にして大正五年より昭和三年十月まで村長に任じ小學校增築や水溝築設等の事業を行ひ、また助役、村會議員をつとめたこともある。長男清司氏（大正二年生）は法政大學經濟學部の出身である。

矢指村

元矢指村長　江崎常七

資性溫厚堅實、苟も邊幅を飾らず、一意公事に盡瘁せること多年、村治の功勞者として江崎常七氏の名を知らぬ者はない。道路の改修、役場廳舍の新築等の難事業は氏が村長在任中の業績にして、今や本村自治の運營は圓滑に、產業は益々發展し、交通もまた愈々便益を加ふるに至りしも、その基礎を形作りしは偏へに氏の努力と敏腕とに依るものである。されば村元老中の第一人者とまでいはれるもまた宜なる哉である。村農會長、消防組頭を兼任せしことあり、それ〴〵の方面に各充分驥足を伸ばし、赴くとして可ならざるなき多才敏腕の人と謳はれ、衆望普く、令名遠近に轟き、全村の信賴を一身にあつめた。誠に氏の如き人材を有することは鄕土の誇りである。

旭町網戸

元旭町長　元郡會議員　玉置政吉

當家の始祖は、玉置荻生と稱し、武藝に優れたる武士にして、享保六年逝去すと傳へられる。爾來代を累ねること二十二代にして當主に及んだ。先代勘兵衛氏は名主、消防組頭などをつとめしことあり、當主はその男にして文久三年七月一日の岳降である。和歌俳句等に趣味を有つ雅致ある性格の所有者にして、家業の傍ら自治公共の事業に參畫貢獻することは頗る多大なるものあり、耕地整理組合理事、町會議員、郡會議員、その他の公名譽職に歷任し

その人格と識見と手腕とを認められて、後、町長の重責に推され、旭町の發展のため寢食を忘れて夙夜淬勵の誠を致し、名町長と謳はれた。現在は方面委員二期目及び學務委員の任にある。長男幹一氏は明治十六年の出生にて、大連三越支店に勤務する。

瀧鄕村岩井

元瀧鄕村長　勳八等　塙武雄

當家は飯岡町上館城主の後裔にして、その土地名を取りて塙と名乘り、家號を太郎右衛門と稱した。四百年前より當地に土着せるものにして、德川時代には大名主をつとめ、寺子屋を開きしことあり苗字帶刀を許された家柄であり、また享保年間の砂間耕地開發、また干潟上訴等に關係した記錄が殘つてゐる。當主は先代英太郎氏の男にして明治十六年五月二十日の出生、日露戰爭には忠勇無比の働きにより名譽の負傷を受け、勳八等に叙されたる勇士である。若冠三十一歳の時村長に選任されし德望家にして、村會議員、學務委員等も歷任、在鄕軍人分會に於ける功勞者として知らぬ者なく、また瀧鄕校友會財產維持としても功勞顯著である。現在は專ら方面委員をつとめてゐる。長男太郎右衛門氏は旭農學校を出て家業に精勵してゐる。

嚶鳴村後草

元嚶鳴村長　浪川庸太郎

當家は相當由緒深き舊家にして、先代は明治十年頃戸長をつとめ、その後諸種の村公職を歷任せる自治功勞者として知られ、また祖先中には名主をつとめ德望一鄕を風靡した人もある。當主は夙に家業に精勵する傍ら自治產業のことに關與盡瘁し、昭和三年には助役に推され、同六年引續き村長の要職に就き、明晰な頭腦を以て卓拔の手腕を發揮し、名實共に名村長たるの名を恣にした。また養蠶實行組合長たること十ケ年の長きに亙つてつとめ、現時同組合理事に任じ、養蠶經營の改善普及その他功勞頗る顯著なるものがある。なほ二男孝二氏は八日市場養蠶學校を卒へ、現在家業に從事の傍ら養蠶敎師をつとめ、三男覺三氏は千葉縣土木課に勤務、四男四郎氏は千葉師範學校を出て銚子市の小學校に奉職してゐる。

瀧鄕村清瀧

元村長　阿蛭源三郎

當村干潟開發當時よりの舊家であつて代々農業であつたが先代源兵衛氏酒釀造

業を創めしも現在は再び農事を以て家業としてゐる。翁は既に七十六歳の高齢にして、日露役當時兵事係として活躍爾來收入役、助役、村長、村會議員、農會長干潟水利組合其他村治政の爲め盡力すること二十有餘年功勞多く村民の信望を集めた人である長男瑞氏（四十四歳）は銚子商業卒業後東京市に於て活躍せしも、病を得て歸鄉爾來農事に精勵し温厚なる人格者である

瀧鄉村幾世

元瀧鄉村長　**掛巢安太郎**

當家の祖は寛文年間今の香取郡東城村小南下宿より移住、干潟開發當時これに關係し、幾世繩入帳等今なほ保存せられ苗字帶刀御免の名主をつとめて來た。先代慶助氏は官選戸長をつとめ自治制施行後初代助役に任じたる功勞者である。當主はその長男にして明治十年十月二十日の出生、三十一歳の時村長に推されたる德望家であり且つ手腕家である。また旭郵便局長たりしことあり、郡會議員にも選出せられ村長は前後三回に及び、その他村農會長をつとめ、地主會を起して地主對小作人の融和を圖るなど、自治産業上に輝やかしき幾多の業績を遺し、現在は專ら村會議員として自治に關與し、村發展のため力を注いでゐる。書畫に趣味が深い。又令閨せいさんは國防婦人分會役員である。

瀧鄉村

元助役　**掛巢卯之助**

當家は當村干潟開發當時即ち三百年以來の舊家にして翁は文久元年四月十日の岳降、向后峯藏氏に師事し檢定を受け千葉縣訓導となり、明治十六年當郡小南村小學校に奉職、大間手小學校、時修小學校を經て當村瀧鄉小學校に奉職、爾來明治四十三年迄、二十五年間の教育生活を續け地方教育の上に眞摯なる貢獻を續けた人である。又退職後は學務委員、助役等を歷任村政に盡力現在尙高齡にして小作調停委員を勤む、長男市太郎氏又現村會議員、現産業組合理事、前統計調査員、青年團長、在鄉軍人役員、農會長（八ケ年）等の重職を歷任し村治に功勞ある人、日露戰爭に出征、功あり勳八等を受けた。令孫鴻氏（三十一歳）は現に青年團支部長として將來を期待さるゝ人である。親子父子三代そろつて自治、産業、教育にと盡瘁貢獻せる功勞實に多大である。

瀧鄉村清瀧

元瀧鄉村助役　**宮內孫三郎**

當家は干潟開發當時豐里村森戸より移住せるものにして代々孫右衞門を襲名し、當主を以て十三代目とする。先代金太郎氏（文久元年生）、同令閨つきさん（慶應元年生）共に健在、當主はその長男にして明治十九年三月の出生である。夙に國勢調査員、消防組頭、統計調査員、青年團支部長を歷任、助役もつとめたることあり、農事にも研究心篤く、苗代競技會に於て特別賞を授與された。長男孫右衞門氏は篤農家として著名である。

瀧鄉村岩井

學務委員　**遠藤英志**

遠き祖先を尋ぬるに、佐倉藩士遠藤佐次右衞門吉正なるもの、慶長十九年の大阪の役に討死し嫡男當地に來り土着、その弟は仙瀧寺第一世長仙法師と傳へその直流たる遠藤家より分れて氏を以て八代目とし、初め農を業としたが、中世酒醸造業を營み現在再び農に還へた。先々代は名主をつとめ苗字帶刀御免の家柄である。先代は村會議員、區長を爲したる人望家、當主は匝瑳郡共和村赤座家の出にして先代の養嗣子となり、家業の傍ら學務委員に任じ生れは明治二十七年五月である。

嚶鳴村東琴田

學務委員　勳八等　**鮎田勇治**

當家は新屋敷家の分家にして初代である。本家は、干潟開發に際し、檢分使に隨行せる武士にしてそのまゝ土着、代々農を業とし、一時代官を勤めたこともある。分家第一代たる氏は本家の先代虎吉氏二男にして明治十六年九月九日の誕生日露戰爭には第三軍に屬して勳功あり勳八等に叙された。曩に區長たりしことあり、現時學務委員及び軍友會役員を兼ね名望燦たるものがある。令閨いのさんとの間には一男一女あり、長男勇氏は目下支那事變に出征中、長女きくさんは旭町へ嫁してゐる。

豐岡村常世出

學務委員　**星野彌五郎**

當家は五百年前の開祖と云はれ、常世田切つての舊家である。一代の成功者として知名の星野友七氏の生家たる五郎右衞門家の分家

たり、氏は明治九年二月三日伊助氏長男として生を此の世に享け、天性質素を本旨とすれど、公益公共の事業には卒先して眞摯なる盡力する溫容なる人格の人である。曩に村會議員二期を勤め現に學務委員として村治の上に貢献なしつゝあるが、曾て塙縣道の抗爭、或は當村八祖村道の拮抗に當り氏は身を以て之が解決に當りて私財を寄進する等、何れも圓滿解決を見、近郷村民の澎湃たる感謝を受けてゐる。家庭はとく夫人との間に二男子あり、長男賢司氏（二十六歳）は旭教愛中學の出身、既にちよ夫人を迎へて一男一女の令孫あり。次男正氏二十歳は公民中學卒業後志願兵として本十三年三月滿洲守備に當ることになつてゐる。

嚶鳴村後草

學務委員 **浪川確治**

當家は四國の豪雄長曾我部家の後裔にて、德川初代の頃當地へ移住せりと傳へられ、本村屈指の素封家である。氏は溫厚にして常識に富み、言語明快、人に接して多大の好感を與へる人格者である。明治二十年六月二十五日を以て先代五郎兵衛氏の長男に生れ、家業たる農業に奮勵しつゝも克く社會公共のために盡力し區長、消防組部長同小頭に歷任、その手腕と識見とは萬人の等しく認めて讃嘆するところ、現學務委員並に大利根用水組合會議員の要職を兼ね益々公事に淬勵してゐる。令閨やすさんとの仲に三男二女あり長女は他に嫁し、長男勇氏（大正二年生）は才媛と謳はれるたけ子さんと華燭の典を擧げ二男靜男氏は小學校時代よりの秀才にて目下東京陸軍通信學校に在學中である。

旭町太田

旭町農會長 **加瀨清**

氏は潑剌たる積極的性格の持主にして進取の氣象に富み、財力あり、名望高く前途有望の新人である。抑々當家は頗る由緒ある舊家にして、先々代喜三郎氏は酒造業を營み、町長に推されて功績多く旭電燈會社（現在東電に合併）を興して社長に任じ、また加瀨代議士の後援者にして縣政界にも重きをなし、各方面から表彰無數に及んでゐる。先考理三郎氏は中央大學卒業後一年志願し、入營中不幸他界された。當主は明治四十年二月十三日の出生、茂原農學校の出身にして、夙に二十六歳の時、町會議員に選出されし事あり旭町軍人分會長、青年團長にも任じ、現在は專ら町農會長をつとめ、軍人分會顧問を兼ねてゐる。文子夫人との間には長男芳文君をはじめ、次男忠君、三男惠治君がある。

嚶鳴西村琴田

學務委員 **高安太重**

資性明朗快活、人に接して懇篤、人望

嘗く高き氏は、明治三十一年三月十日の出生にして先代米太郎氏の長男である。盆栽に趣味あり、家業農に精勵の傍ら自治公共の事に盡瘁し、曩に村會議員として縱横に活躍されしことは未だ村民の記憶に新しく、現在は專ら學務委員をつとめてゐる。令閨ふくさんとの間には五人の令息あり、長男太衛門君は現に旭農學校に在學中である。因に當家開祖は不明なるも干潟開發直後に當地へ移住したるものと傳へられる。

豐岡村小濱

消防組頭 **岩井賢之助**

當家は土地切つての舊家にして、「與惣兵衛」家の分家として、連綿三十八代の家系を有する。嚴父故鶴吉氏は日清日露に重砲隊に屬して拔群の功あり勳八等に敍された人氏はその長男として明治三十一年十月二十日の岳降、若くして村產業の發展を專念し十年前園藝組合を設立して共同販賣共同購入に多大の成績を擧げたが氏はその組合長となり。八ケ年の後ち小濱第二農家組合に組織變更するに際し引退して顧問となる。當組合の主事業は「澤庵漬」の製造出荷にして東京練馬より講師を招聘して品質の研究を續け現に小濱大根の名を顯して現に年二千樽の製作をなしつつある。これ等の優秀なる業績も亦氏の眞摯なる活動に俟つものにして、氏の人望澎湃として起り、曩に消防部長、消防副組頭、區長等を歷任、現に消防組頭、資力調査員、園藝組合顧問等に推輓され益々村治の上に貢献なしつゝある。家庭は母堂並にさき夫人との間に一男三女あり圓滿を極めてゐる。

嚶鳴村後草

消防組頭 **崎山金三**

當家の始祖は不詳なるも、江ケ崎源左衛門家の分家にして、當部落としては屈指の舊家である。氏は先代清次郎氏の長男にして明治二十九年一月二十七日の出生、不言實行の實力家にて、公共のために自己を捨てゝ專心事に當るの氣慨を有し、區會議員、耕地整理組合副長、青年團長等を經て、現時消防組頭、區長村農會副會長、江ケ崎農事實行組合長等を兼ね、青年團長時代、質實剛健の氣風を養ふ目的を以て「剛健訓練」を計畫、團員三十五名を引率して茨城縣下に三泊四日の旅行をなし各種の苦艱を體驗、所期の目的を達成し大成功を收めたことがある。東京時事新報社、郡聯合青年團、旭嚶鳴聯合耕地組合等より表彰を受けてゐる。家庭には母堂つねさん、令閨かつさん及び一男三女

がある。

瀧郷村清瀧

在郷軍人分會長　鈴木岩太郎

嚴父酉松氏長男として明治三十年九月一日に生る。

當家は明治三十年先代の分家に初まり四十年來現在の所に旅館料理業を營み繁榮を極む。氏は海上普通高等學校卒業後明治大學法科專門部に學び大正十一年警視廳巡査拜命警部補となり昭和八年歸鄉爾來在鄉軍人分會長、消防部長、防護團副團長、選擧肅正委員、武德會旭町支所常議員、國防婦人會顧問として村諸般の事に功績多く、殊に青年の指導訓練に腐心しつゝあり、尙在鄉軍人分會は縣下模範分會として表彰された。氏は又警視廳在職中關東大震災、共產黨檢擧に當り、職責を全うし數度の表彰を受けてゐる。村政の將來に多大の期待を以つて俟たるゝ仁士である。

旭町網戸

網戸區長　加瀨晉平

氏は材木商加瀨讓氏の次男にして前町長加瀨健治氏の實弟である。明治十七年二月二十六日を以て生をこの世に享け、資性衆にすぐれて英邁、陰德多く、人格高く、博識の譽れあり、鄉黨の信望嘖々として普きものがある。現時網戸區長に推されて居り網戸區は旭町に屬するも住民の殆どが農業に從事し、順調なる平和境と稱されてゐるが、それは一に氏の公平無私にして且熱心なる働きの賜にして、氏は「地方政治は先づ人の統御にあり」をモットーとし正しき政治を望んで將來に飛躍せんとしてゐる。趣味は園藝。夫人ろくさんは飯岡町波川善兵衛氏の三女にして氏との間に長男泰亮氏（明治四十一年生）、次男俊輔氏（明治四十三年生）を初め、敬三郎君、逸一郎君、省吾君等の愛息あり長女ときさんは加瀨雄作氏の息に嫁してゐる。

飯岡町下永井

元區長　石毛和平

石毛家は實龜十年以來の當地草分けの舊家で、農を本業となしたが敬神崇佛の念に厚く、妙見菩薩の海上守護として九十九里に顯現さるゝや、これを別當妙見山長德寺に安置して信仰心を培つた。現在の海津見神社は即ちこの長德寺を改稱したものだといふ。先代伊助氏はこの由緒ある家柄に生れて農に精進し、他面推されて町會議員二期、初代消防小頭として盡瘁、その功を稱へられてゐる。當主はその長男明治九年一月二十日の出生、曾て消防小頭區長、國勢調査員、衞生組合評議員、飯岡土地賃貸價格調査囑託等に選ばれて活躍するところあつたが、現在はたゞ一意多角經營による農業報國へと精進してゐる。昭和十二年東京稅務監督局より功に依つて賞狀並に木杯を贈られた。

鶴卷村蛇園

素封家　加瀨基弘

氏は嚶鳴村中琴田の素封家元縣會議員故鈴木武三郎氏の次男として明治三十八年に生れ、加瀨孫三郎氏の養子となり今日に至れるものにして、加瀨家は代々農を業とせる村內切つての素封家である。養父は元村長をつとめ、現學務委員及び方面委員を兼ね、その他各方面の公名譽職に經驗ある自治功勞者である。氏は明治大學卒業後佐倉步兵第五十七聯隊に勤務せる步兵少尉にて、又永らく銚子市役所に奉職し昭和十二年辭職した。曩に在鄉軍人分會長に推され、今海上郡聯合青年團長に任じてゐる。國家中心主義を世界觀とし、國防問題には特に熱心に研究し、昭和十二年度關東防空演習には、銚子方面監視隊長として全力を盡した。實直勤勉、他日村長縣會議員たるべき人として將來を期待されてゐる。

嚶鳴村高生

區長　江橋榮治郎

當家は九代間傳はる舊家であつて、氏は、元村會議員、學務委員として村治制の上に多大の貢獻をなした人である現在は專ら區長として區の融和開發に盡力して人望あり、明治六年六月十八日、先代市右衞門氏の長男として生れた。令息嚴氏（三十九歲）は嚴父を扶けて區の爲めに盡力してゐるが、元消防組部長を勤めた人で父の衣鉢を尋いで村政の將來に期待されてゐる。令孫六人あり家庭圓滿である。

三川村犬林

方面委員　常世田藤三郎

氏は温容にして毅然たる資性、常に三川村內の圓滿なる自治の遂行を思念肚裡する人である。曩に區長、統計調査員、資力調査員、臨時國勢調査員、農會總代等に歷任して、部落の融和發展に村自治に功勞あり、現に方面委員としてその職責に犧牲的精神を以て當り村民より多大の聲望を受けてゐる。氏は明治二十五年三月二十日の岳降、懇請されて當家に入りし人であるイチ夫人との間に二男あり家族大勢にして極めて圓滿常に春風和合の家として知らる。

同窓會代表として時の文相鳩山一郎氏に陳情して遂に目的を貫徹せしことがあつた。喜美江さん、幸春君の一男一女を有す。

嚶鳴村中琴田

前村會議員 **鈴木仁司** 當家

先代武三郎氏

の祖は海上郡矢指村の人にして、當部落鈴木大本家の分家に當り現在で九代目である。先代武三郎氏は明治二年の出生にして昭和四年十一月永逝したが、明治四十年に助役、翌四十一年八月村長となり、後、縣會議員に當選、縣政界に重きをなし、その功績少からざる自治界の偉材であつた。氏はその長男にして、明治三十五年八月二十日を以て呱々の一聲をあげた。旭農學校卒業後、衆望を負うて村會議員となり村治村政上に寄與献策をなした。現在母校同窓會副會長（會長は現校長）に推され、先年母校の五ヶ年制が三ヶ年制に改められんとするや、

旭町千潟

米穀肥料商 **林友平** 當家は香取郡古城村萬力に於て數百年の歴史を有する舊家にして、先代友藏氏は明治三十三年旭町千潟に於て米穀肥料商を創始、漸次繁榮を來し、溫厚篤實の中に清濁併呑の度量を有し、家業の傍ら千葉縣米肥商組合長、町會議員、縣會議員等に擧げられたる成功者にて、現時古城村に歸つて悠々自適の日を送つてゐる。氏はその長男として明治二十七年五月二十六日に出生、曩に千葉縣米肥商組合副會長たりしことあり、また第八區長の任に在りたること三期、從來論爭絶えざりし第八區を現在の如く平和境たらしめた人望家にして、中庸を得た進歩的紳士である。令閨えいさんは共興村井波戸良夫氏の令妹、長男喬太郎君は銚子商業學校在學中、他に次男昭七郎君、長女登美さん、次女富美さんがある。

飯岡町飯岡

名望家 **向後理三郎** 當家は元祿五年の創家、連綿農を本業とし代々名主を勤めて土地開發等に盡力した名ある家柄である。先代縫右衛門氏は夙に名望家を以て鳴り、町長たる十二ヶ年、町會議員たる三十有四年、その功績一々枚擧するに遑なく、勳七等青色桐葉章を下賜さ

れたるの外、知事、農會總裁、産業組合中央會千葉支會等より表彰されたほどである。當主理三郎氏は明治二十八年十一月十日の出生、後ち同家に望まれてその後を繼いだ人であるが、常に農産物の改良に趣味を有し、これが達成に專念してゐる。曩に土地賃貸價格改訂調査囑託に推されて功あり、昭和十二年十月東京税務監督局から表彰された。春秋に富む氏は將にこれからの人として期待をかけられてゐる。因に祖母並に養父氏共健在。

瀧郷村清瀧

飯田醫院長 **飯田作樂** 氏は日本大學醫學部の出身にして母校附屬病院内科室にて八田博士に實地指導を受けること約三ヶ年の後、歸郷飯田醫院を繼承今日に至り、村醫並に校醫を兼務する。抑々當家の祖良折氏は館林松平藩の御典醫にして内科を能くし、三折氏を經て周鼎氏の時當地に移つて内科産科を併せその仁德を高めた。先代三郎氏は明治十四年の出生にして早稲田大學政治科に學び祖業を繼がざりしも當主作樂氏をして繼承せしめた。三郎氏村長の任に在ること六年餘、模範町村の視察、産業開發等、村發展の爲め終始一貫寢食を忘れて努力奔走し、自治功勞者として名譽ある表彰を受けた。昭和六年五十一歳にて永眠、作樂氏はその男にして明治四十二年三月十五日の出生である。庭球、弓道等に趣味あり、新進刀圭家として人氣をあつめてゐる。

嚶鳴村中琴田

中琴田區長 **飯島文治** 氏は實直眞摯にして德望あつく、苟も私利私慾に捕はれることなく、公益を慮つて寢食を忘れて奔走貢献し、他の一面極めて農事に熱心なる精農家である。明治十九年一月一日先代佐内氏の長男として生を享け、家業の傍ら現時區長及び消防組小頭の任に在り、一意奉公の精神を以て功績頗る顯著である。二男三女の子女あり、長女は旭町へ嫁し、長男榮太郎氏（明治三十八年生）は令夫人との間に四人の愛兒を有す。

嚶鳴村琴田

鈴木宣三 當家は中琴田の舊家鈴木家（當主鈴木仁司氏）より分れ、分家獨立以來五代に及ぶ。先代鈴木儀左衛門氏は安政三年一月に生れ、昭和八年八月七十八歳を以て他界した。十八歳の頃より村政に盡力し明治二十八年には村長となり、また縣會

先代儀左衛門氏

議員、衆議院議員等に選出され、干潟水利問題、學校問題に關しては一身を忘れ全力を傾注し、その他各方面の公共事業に關與して一生を奉仕せる當地方隨一の偉材である。當主はその養婿、渡邊市太郎氏の令弟にして明治十一年の出生である令閨やすさん（明治十三年生）との間に二男一女あり、長女清さんは他に嫁し長男義一氏は旭農學校卒業にて目下支那事變に出征中にて夫人との間に令孫一人がある。なほ二男二氏も旭農學校の出身である。

嚶鳴村東琴田

前村會議員　**鈴木庄藏**

謹嚴誠實にして衆望あつき氏は、明治十七年九月七日、先代庄左衞門氏の長男として生をこの世に享けた。抑々當家は相當の舊家なりしも、中古祝融の災に遭つて古記錄類を烏有に歸せしためその詳細を得ることを得ず、誠に口惜しき限りである。先代は寡言窮行の努力家と稱され人にして、村會議員、收入役を經て明治四十四年助役に任じ、大正二年五月引續き村長に推された名望家なりしが、同八年二月五十九歳を一期に幽明境を異にせられた。氏は即ちその血を享けて英邁、且つ謹嚴の中に慈愛を含み、曩に區長をはじめ、學務委員、村會議員等を歷任せる自治界の功勞者である。母堂いゑさんは尙健在にして、一男五女の子女を有し、長男隆氏は大正三年生れにて旭農學校に學び現在家業に精勵してゐる。

嚶鳴村高生

素封家　勳八等　**鈴木庄藏**

部落切つての素封家鈴木英逸家より分れて二代目の當主鈴木庄藏氏は先代庄右衞門氏の長男にして、明治九年十月二十日の出生である。日露戰爭の時は第一軍に屬して出征各所に轉戰、激戰幾回、勳功頗る多くして勳八等白色桐葉章を授與された。村會議員、學務委員、その他各方面の委員等に任ぜられ、村のため區のため盡力勤なからず、殊に氏自ら出征の經驗あるに鑑み、出征兵士並にその遺家族の救恤に就いては並々ならぬ努力を拂ひ、普く德望家と稱されてゐる。資產に富み奢らず溫厚な精農家にして、現在方面委員を囑託されてゐる。令閨ひささんは本家鈴木家の先代國太郎氏の令妹にして、一男二女あり長男莊逸氏（明治三十三年生）は瀧鄕村より夫人つねさんを迎へ三男一女を擧げ、家庭圓滿を極めてゐる。

嚶鳴村後草

素封家　**高梨惣助**

當家は後草部落の草分けとしての舊家與五兵衞家（現戶主高梨晟氏）の分家にて開祖當時は半農半漁であつたが現在は農業を以て家業としてゐる舊家である。

氏は明治二十七年三月二十日の岳降にして保次郎氏の長男、資性謹直にして公正を以て第一義とする人である。元消防組小頭、部長、戶數割調査委員を勤め現在區長代理として部落の融和開發に專心し氏の人格と共に區民の輿望を擔つてゐる氏は次期の村會議員として、その欲すると欲せざるとに不拘推輓さるること明白である。氏は亦家業に從ひて眞摯の篤農家を以て知らる。二男四女の子福者にして長男惣市氏は旭農學校を卒へ現在既に夫人を迎へ家業に從事してゐる。家庭極めて圓滿である。

旭町太田

素封家　**加瀨繁**

當家は當地方草分の舊家にして三百年前より相續く由緒深き家柄である。先代樗逸氏は若くして東京辯護士會副會長となり、三十五歳の時衆議院議員に當選、花井卓藏博士と共に中立派として大いに活躍し、新川治水事業を完成せる手腕家であり、代議士たること四回、五十六歳を以て病歿したが、特旨を以て正六位勳三等に叙せられた。旭町內に花井博士の文を刻せる碑が建てられてゐる。當主はその長男にして明治二十五年の出生である。千葉合同銀行旭町支店長代理として勤續十數年、地方財界の重鎭にして、近き將來の町長及び縣會議員の有力候補者に目されてゐる。令閨登喜さんとの間には、長男衞氏（東京帝大工學部在學中）長女幸子さん（銚子高女出身）があり、なほ實弟俊一氏はイギリス大使館書記官である。

嚶鳴村後草

素封家　**浜川吉左衞門**

當家の始祖は若林宗作といひ、信濃國小縣郡松尾の城主海野小太郎信濃守信之公に仕へ、二十五人扶持十兩を受け御膳所頭取たり。その三男總作分家して、大澤彌藤太と名乘り、江戶は本所二つ目の高井對馬守の家臣となり、御用人御小姓頭取となる。その三男鐵三郎が天保九年十二月當部落浜川道右衞門の養子となり現在五代に至る由緒の舊家である。先代故重太郎氏は村會議員、公設消防組初代組頭として村治に功勞の多かりし人である。氏はその長男として明治三十六年五月十六日に生れた。資性溫厚にして熱意に富み未だ若くして德望篤く將來を期待さるゝ人である。二男三女の子福者にして、しげ夫人は旭町加瀨雄作氏の四女なり、家庭圓滿である。

飯岡町

波木醫院　**波木尙八**

當醫院は昭和十年七月の開業にして、內科、小兒科、物療科を專門科目に擧げて波木尙八氏の寬容にして瀟洒而も俊敏醇厚の人格風貌と相俟つて聲望高く、殊

に昭和四年日本大學醫科卒業後東京警察病院內科に於ける研究は、氏の臨床的經驗とその蘊蓄を物語るものであり。氏の溫情にして深究を極めたる醫學的溫床は益々以て地方衞生に醫療に多大の貢獻をなしつゝある。現に飯岡小學校々醫を務め町兒童の健康の父として功績顯著であり、父兄の信賴と感謝は澎湃たるものある。明治卅六年一月七日の岳降にして未だ春秋に富み眞に町醫界の爲めに絕大の期待と信賴を以て優る人である。家庭は愛子夫人との間に愛息要君あり極めて圓滿である。

嚶鳴村中琴田

素封家

齋藤昇司

政兵衞家の分家にして、初代安藏氏、二代庄二郎氏を經て三代現主昇司氏に至り、本家は代代名主をつとめたる舊家である。氏は先代の長男に當り、明治三十八年十月二十六日の誕生である。農學校在學中より果樹栽培に趣味を有し、趣味に合致する仕事は結果に於て必ず大成するとの信念の下に、昭和元年、齋藤園を創設、桑園三段歩を改植して葡萄及び桃の栽培に從ひ着々實績を擧げ、現在では七段歩に擴張した。斯業の先驅者ともいふべく、創業當初は香取、海上、匝瑳の三郡を通じて僅かに四人の同業者を見るに過ぎなかつた。また曾ては青年團長に推され、現時消防組部長及び村農會評議員を兼任す。母堂とよ刀自健在し、靜子夫人との間に長女とし子嬢のほか二人の愛息がある。

嚶鳴村後草

崎山俊治郎

勳八等 功七級

當家は、始祖不明なるも、現村長崎山太良右衞門家（十代目）は當家の分家なるより見てもその草創の古きを窺知される。先代佐野右衞門氏は天保十四年の生れにて、幼にして父を喪ひ、母の手により養育された。明治三十年村長に推され同三十六年再度村長に選任、この間村會議員、助役等に任じ、佐倉銚子間の鐵道開通に奔走、飯岡驛設置に就いては殊に盡力し、當時不毛の原野たりし廣原も、爾後戸口年と共に加はり、現在二百三十戸の廣原街を形成するに至つた。大正三年七十二歳を以て他界された。當主はその次男、明治十三年十一月一日の出生にして、資性溫厚、人に接するに寬容の態度あり、聲望普きものがあり、また日露戰爭の勇士として勳功多き人である。なほ長男佐市氏は目下支那事變に出征中。

旭町網戸

村木商

加瀨了介

電話旭町五八番

誠實にして高潔、鄕黨の信望を一身にあつめてゐる氏は、商略に長じ、商機を見るに敏なる手腕家である。明治二十七年七月八日を以て銚子市熱田家に呱々の聲をあげ大正六年請はれて先代加瀨健治氏の養子となりたるものにして現時材木商を營んで當地方の第一の財產家と稱され、傍ら信用組合役員、運送會社重役等に推擧せられ旭町の融和と發展をモットとして多彩の活動を展開してゐる。趣味は釣魚。令閨貞さんとの間には長男健一氏（大正十三年生）をはじめ次男浩君長女綾嬢次女美佐子嬢、三女婦美嬢がある。因に養父健治氏は當地方切つての名望家にして多年町長の任に在り、公平無私の才腕は町民の讃嘆措く能はざるところであつた。

父 建治氏

飯岡町飯岡

笠原醫院

電話飯岡一一番

新潟醫專の出身、刀圭の妙手とその德望の高きとによつて信望の極めて厚い笠原久次郎氏の經營にかゝる當院は、もと渡邊醫院の名の下に數十年來繼續開業、後今の名に稱改めて現在に至つてゐる。內科に外科に共に患家の信賴深く、いつも門前市をなすの觀がある。氏はまた豐岡及び三川兩村小學校々醫として現任中である。

旭町

實業家

加瀨房吉

氏は元町長加瀨健治氏の實弟にして、明治元年十二月二十日の出生、長じて現住地に分家獨立し木炭建具杉皮荒物雜貨商を經營隆盛を極めて今日に至つた。敬神崇祖に意を注ぎ、村社熊野神社に鳥居を、東漸寺に門柱を、共に御影石にて建立献納した奇篤の士にして、社會奉仕の數々の陰德を累ねてゐる。園藝に趣味あり、庭園を躑躅園となし、數千株の美事なる躑躅を栽培し、今や旭町に於ける名所の一に數へられ、毎年五月には十日間庭園を開放して一般の觀賞に供し、近鄕より毎日數千の人が來觀し、銚子築港所長平井工學博士は「極樂や近き網戸の花の園」なる感嘆の一句を寄せられた。長男卓郎氏は同夫人けい子さんとの間に三男五女を儲け、長男房治君は佐倉聯隊に入營中で同夫人とくさんは加瀨雄作氏二女である。

躑躅園

嬰鳴村後草

篤農家　平野照逸

當家は相當由緒ある舊家にして、先代孫平氏は明治十一年平吉氏長男に生れ、大正八年村助役に就任、次で同十年村長に擧げられ、この間各種公職に就き、寡言實行、よく村治に盡力した。昭和三年五十一歳で永眠、村民一同よりその死を惜まれた。當主はその息、明治三十二年十一月二十五日の出生にして篤農家として知られてゐる。祖母たかさんは八十餘歳にて健在、なほ家族は夫人いゑさんのほか四男一女の愛兒があり、長男敏雄氏は旭農學校出身である。

椎柴村野尻　椎柴村長　滑川昇

千葉家の家臣にして下總國見廣城を預りゐたる滑川内匠介が當家の祖である。のち歸農して當地に住し、且つ利根川を利用して回漕業を營み、海上、香取の兩郡にわたる附近三十三ケ村の名主總代を勤めたる當地方屈指の舊家、名門の家柄である。先代藤兵衛氏は村長を歴任せる功勞者であつた。當主は明治二十年三月一日この世に生を享けた。曾て村會議員助役に推され盡瘁してゐたが、現在は遂に村長の重任に就き、また村會議員を兼ねて鞅掌精進盡力してゐる。また氏は各部落にある農家組合を合併して産業組合を組織し、村民の福利增進をはかるを念願としてゐるが、氏の如き人物は實に稀である。また古錢に趣味を持つ人格圓滿溫厚な人、家庭は令閨きみ子さんとの間に三男二女あり、長男泰男氏は千葉醫大出身の俊器英才にして、現在「滑藤藥局」を營んでゐるが、潑剌たる營業方針と顧客第一の信條により益々隆盛に向ひつゝある。

鶴卷村見廣　鶴卷村長　穴澤松五郎

氏は穴澤十三戸の總本家たる當家先代久兵衛氏の男として明治十三年十一月十四日の岳降である。人格高潔なる士にて推されて自治の爲に盡瘁せる事多年、助役、村會議員區長、農會長、學務委員、郡甘藷出荷組合長を兼ねて精進、現在は村長の重職にありて、なほも鞅掌精進してゐるが、その功枚擧に遑なく昭和八年の春には地方自治功勞者として觀櫻御會に召された。氏はまた農事研究家として聞え、甘藷栽培には前後二十ケ年全財産、全精神を傾倒して遂に穴澤式甘藷苗床仕立法を案出した。家には令閨よし子さんとの間に三男一女あり、夫人は國防婦人會長として

盡瘁してゐる。

飯岡町下永井　町會議員　齋藤善助

電話飯岡五六番

昭和工業株式會社取締役たるの外、大日本特許肥料株式會社、國産特許肥料株式會社、太陽化學肥料株式會社、大成化學工業株式會社等の特約店を兼ね、銚子市をはじめ海上、匝瑳、香取の各部落を販賣區域となして飛躍なしてゐる氏は、米穀肥料卸小賣業を以て多年地方に鳴り且つ町自治の功勞者として稱へられ、今も現に町會議員、商工會評議員、千葉縣東部肥料研究會々長等に擧げられ、しかも町政に對しては、あらゆる機會を有效に捉へて自治に一身を捧げ、以て刷新向上を圖らんとするの熱と信念との下に參與してゐる人望家である。氏は明治十九年三月四日の生れ、先代忠右衛門氏に望まれてその養嗣子となつた非凡な才幹と群を抜く機智とを有するこれからの人として推稱されてゐる。

飯岡町下永井　町會議員　向後松之助

電話飯岡四二番

氏は明治二十三年六月廿五日、先代佐七氏の長男に生れ、澱粉製造並に土木請負を兼業して町内の素晴らしい人氣を博し、曾ては區長代理、區長、家屋税調査員、國勢調査委員等を歴任し、現在は町會議員として町治に重きをなしてゐる。氏はまた昭和六年十月に松山澱粉工場を設置し、現に十五人の從業員を督勵して製産品の向上をはかり。千葉、東京その他主要都市に販路を擴張してゐるが、評判極めてよい。

鶴卷村倉橋　村會議員　勳八等　石毛才次郎

明治十五年二月十五日先代龜吉氏の長男に生を享けた氏は實直にして溫厚、人望高き人格者である。なほ當家は約七十年前火災にあひ記錄書類燒失の爲、開祖不詳なるも當村屈指の舊家にして累代農を家業とし、家號を才兵衛と稱せる家柄である。氏はまた日露戰役に出征せる勇士にてその際の勳功により勳八等白色桐葉章を賜る、なほ自治に携はる事多年、曩には區長、村農會長、在郷軍人分會副會長統計調査員、消防部長として盡瘁貢献、現在なほも村會議員の重職に鞅掌してゐるが、その功一々枚擧に遑なく、道路問題電燈問題に特に功あり、村民より感謝されてゐる。また郡農會より表彰を受けた事がある。家には母堂つま子刀自なほ矍鑠令閨なか子さんとの仲に三男一女がある。

飯岡町飯岡　飯岡信用購買販賣利用組合監事　佐久間大五郎

五百年の間連綿と續き、累代名主、戸

長を勤めて名ある當家に先代四郎左衛門氏の男として慶應三年一月二十日生を享けた氏は曾て町會議員、區長を勤めて功

ある溫厚實直な人格者である。現在はなほも信用購買販賣利用組合の監事として老軀を提げて盡瘁中、その多年自治に產業に對する功績尠なからず、郡農會、町役場より表彰を受けた人である。

鶴卷村倉橋

村會議員 **石毛幸治**

累代名主、戶長を勤めて功勞多き當家はまた當村一の舊家でもある。先代新左衛門氏は青年時より公共の爲に盡瘁、村總代戶長を勤めたるのち村長に推された絕大な當村の功勞者。當主はその男として明治十三年四月三日生をこの世に享けた。氏もまた尊父氏の衣鉢を襲ぎ村會議員、學務委員其の他の重任に選ばれて努力せる人格高潔なる溫情の人、功勞多く表彰を受けて家庭は十數名の大家族にて、その圓滿振りは近在羨望の的となつてゐる。

飯岡町萩園

元町會議員 **向後喜一郎**

資性溫順、言語流暢、動作また機敏なる氏は、夙に町內の信望をあつめ、區長を振り出しに町會議員として町政に參與し、また陪審委員にも推されてそれ〴〵盡瘁貢獻して功を高めてゐる。今は公職を離れてゐるが、その心は終始町治へ、產業へと注がれてゐる。氏の家は町に知られたる舊家父君鐵之助氏は農に精勵する傍ら區長に推されて多年區のために活動した功勞者だつた、氏はその長男、明治二十二年五月一日の生れである。

鶴卷村倉橋

村會議員 **千葉伊之助**

公共の爲に盡瘁するを己が使命としてゐる氏は明治二十三年四月十一日先代武兵衛氏の長男に生を享けた。祖父氏は名主、戶長を勤め、また尊父氏は初代村長に推されし功勞多大なる人であつたが、當主も家業の傍ら自治發展の爲に努力、曾て區長二期農會長一期其他の公職を兼任して鞅掌精

進道路問題には特に功あり、また郡農會より數度表彰を受けた事がある。現在はなほも村會議員として村民の福利增進の爲に全責任を以て鞅掌してゐるが、また信用組合理事としても盡瘁中であり、多大の貢獻をなしてゐる。なほ當家は累代農を家業となせる家柄、當主は十代目である。家に母堂とく子さん健在、令閨はる子さんとの間に三男二女あり、圓滿を極めてゐる。

飯岡町飯岡

區長 **高橋達次**

氏は明治二十年十月三日の出生、愛媛縣氷見町の小學校を卒へて以來苦學力行、自己の目的に邁進して海工學館並に東京月島の香高海機學校に學び、終に二等運轉手より一等運轉手として合格、多年の志望を果して日本郵船、東洋汽船、三井汽船、その他の社外船に乘船し、大正七年一等甲種運轉士となつてからは中村組小樽丸等に乘船、熱心その職に勵むところあつたが同十三年病を患ひて職に堪へず、止むなく辭職して現在地に居を定め、履物商を營んで今日に及んでゐる。商人としての氏は既に堂に入つたものがあり、斯業者間に特に信望厚く、また土地の衆望を負うて今、區長に推されて盡瘁貢獻してゐる。家庭にはヒデ子夫人との間に長男勇君があり、洋々たる春風駘蕩の觀がある

鶴卷村倉橋

村會議員 **島田玄省**

天資英邁、日本醫科大學の出身にて村會議員中の白眉と稱される明晰機敏なる氏は明治十四年九月二十四日先代治郎左衛門氏の男に生を享けた。當家は累代雜貨商を家業とせる家柄であるが、氏は醫を志して勉學を積みし人、現在消防組救護班長を兼ねて盡瘁中であり、その功大なるものがある。特に縣道開通當時道路促進會員として努力、遂にこれを達成せしめた。

飯岡町行內

區長 元助役 **菅谷佐右衛門**

曾て助役、收入役、町會議員、農會長區長小作調停選任委員、土地賃貸價格調査委員を多年歷任、功大なる氏は明治十六年九月一日先代丈右衛門氏の長男に生を享けた。なほ當家は初代一郎右衛門と稱し當村屈指の舊家なるもその年月日明かならず、現在に於て明かなるは元祿年間紅井圓翁信士妙東信女と記した位牌あり又干潟八萬石の大名主であつた名門の家柄でもある。累代名主を勤め、教育に意を注ぎし功勞多大なる家にして、當主

は讀書に趣味を持つ人格高潔な溫厚の人現在は區長、小作調停選任委員としてなほも盡瘁中であり、氏のこれ迄盡力せる

菅谷家の人々

功勞大にして表彰も數知れない。家に母堂くに子刀自なほ健在、令閨くら子さんとの間に三女ある。

鶴卷村見廣

村會議員 **穴澤甚左衛門**

溫良にして篤實、篤農家として聞える氏は明治十八年八月二十日先代勇次郎氏の長男に生れた。當家は當村屈指の舊家にして家號を甚右衛門と稱せる家柄、尊父氏は區長、村會議員其他を歷任せる當村自治の功勞者、小學校舍增築問題には工事委員として特に功勞あり、村當局より感謝狀及び

銀杯を贈られし人である。當主また曾て區長、農會長、消防部長に推されて盡瘁せし事あり、現に村會議員、信用組合理事として鞅掌中である、その貢獻せる功大なるもの有り縣知事、郡農會、村農會より表彰された事がある。家に父母健在令閨もと子さんとの間に一男四女がある

飯岡町下永井

區長 **網中豐吉**

明治五年四月八日生れの氏は質實敦厚な人格圓滿なる士、先代友藏氏の懇望により當家を繼ぎし人で、曾て區長、玉崎神社總代人、講大寺世話人を勤めてゐたが現在は區長

二期目を現任中、功勞大にして海產物製造業を營み、信用組合員であり魚港促進會委員でもある。また御大典記念水產共進會に出品、表彰された事もある。なほ當家は天保以來の舊家にして、近在に聞える家柄である。

鶴卷村倉橋

村會議員 **島田英一**

當家は家號を喜兵衛と稱せる十五代連綿と續く家柄、累代農を家業として現在當主も農に從事してゐるが、篤農家として聞え高き人である。なほ先代清藏氏は

村會議員、區長、農會長を多年歷任して衆望を一身に集めた功勞大なる人格者であつた。當主はその長男、明治二十九年三月二十九日生れの資性溫厚にして情に厚き人物、曩に區長代理より區長へ、消防組幹部より部長へ、また青年團副團長統計調査員、國勢調査員を兼任して全責任を以て鞅掌なし、各方面に貢獻せる功勞頗る大なるものあり、現在はなほも村會議員として盡瘁中であり衆望を一身に集めてゐる。また當家は累代長命の家系にて祖父、祖母共に御大典の際天杯を下賜された家柄でもある。

飯岡町飯岡

區長 **川名靜**

當家は吉宗將軍時代より二百數十年を經たる當村屈指の舊家にして、先代源太郎氏は名主を勤めたる村自治の功勞者であつた。氏はその男、明治三十一年二月十五日生を享けた。小學校卒業後上京、寫眞技術を修めし自力獨行の士にて、現に寫眞業を營み繁榮を極めてゐる。資性剛健なる手腕家にして推されて區長代理を勤める事多年、現在は區長、消防組副組頭の重任にありて、粉骨碎身、自治の爲に獻身的努力をしてゐる。よし子夫人との間に二女がある。

鶴卷村倉橋

村農會長 元村會議員 **石毛市郎右衛門**

曾て村會議員、在鄕軍人分會長、消防副組頭、區長代理等を兼任し、村發展の功勞者として尊敬の的となつてゐる氏は明治三十年九月十日先代峯藏氏の長男に生れた。氏はまた篤農家としても聞え、溫厚の人格者にして現在なほ農會長の重職にありて盡瘁貢獻をなしてゐる。その自治に產業にと各方面に多年貢獻せる功勞多大にして尊敬の的となつてゐる。なほ尊父氏は日清の役に出征、また日露の役にも出征したが、奉天の大會戰に於て壯烈なる戰死を遂げた國家防衛の功勞者である。

飯岡町萩園

區長 **加藤佐兵衛**

曾つて、當區は岩崎村と稱してゐたが當家はそれ以前より連綿と續く家柄、現在氏はその岩崎村の墓が全部當家內にあるその家に先代捨松氏の長男として明治四十八年一月三十日生をこの世に享けた篤農家として聞え高き人、その家業の傍ら自治方面にも意を注ぎ、現在區長の重任にありて盡瘁してゐるが、曾ては十年前に區長を勤めし事あり、また農業調査員として盡瘁貢獻せし事もある。その功大なるものあり、郡農會及千葉縣より表彰された事がある。家はとり子夫人との間に四男四女あり、圓滿な家庭である。

鶴卷村蛇園

區長 **野澤榮治郎**

資性衆に勝れ、頭腦明晰にして村民の指導者的立場にある氏は明治三十年六月一日、百八十年餘連綿と續く當家に生を

享けた。幼少より學を好み、また公共の爲なら常に率先、その範を示し衆望を一身に集め、尊敬の的となつて二十四歳に既に村會議員に推され、二十六歳にて村農會長の重職に就き、二十九歳の時には村民一致を以て消防組頭に推輓された。現在は村長、縣消防協會理事を兼ねて盡瘁してゐるが、その村政に貢献せる功勞なからず表彰も受けてゐる。なほ氏は劍道に秀れ、現在三段にして、自宅に道場をひらき門弟二〇〇名がある。

飯岡町

飯岡共同澱粉組合會長 佐藤好雄

明治三十六年九月三十日生を享けた氏は資性剛毅果斷その中に溫情を持つ人格者にして、現在飯岡共同澱粉組合會長の重任を勤めて盡瘁してゐるが、曾ては青年團長、在鄉軍人分會長其の他の公職を兼任して盡力せし事あり、その功大なるものがある。表彰も數度にのぼつてゐる。なほ尊父秀吉氏も現に區長、產業組合理事として父子そろつて盡瘁貢献してゐる。

農會長 野口忠平

農會長として產業發展の爲に鞅掌してゐる氏は明治二十八年四月十九日先代重太郎氏の長男に生れた。無言實行をモットーとする實直なる人格者にて曾ては町會議員として活躍貢献した事があつた。なほ氏は當村共同澱粉工場の主任でもあり、當地方產業方面に盡せる功勞は大なるものあり尊敬と感謝の的となつてゐる。

町會議員 渡邊彌七

天性溫順にして活達なる氏は明治卅年三月十五日野口重太郎氏の次男に生れ、のち當家先代善藏氏の懇望を容れて當家を繼ぎし人、現在共同澱粉組合委員として活躍中でありその傍ら町會議員、區長、農會奬勵員を兼任して盡瘁してゐる。また曾ては在鄉軍人會班長其他各方面に鞅掌精進せし事あり、その功枚擧に遑なく縣知事よりも表彰されてゐる。

鶴卷村見廣

方面委員 元村會議員 君塚吉太郎

讀書に趣味を持つ氏は明治十四年八月二十日先代常吉氏の三男に生れ、明治四十三年に分家し一家を成せる獨力獨行の人物、尊父は澱粉製造業を營みし人であつたが、氏も現在本縣重要農產物甘藷の消化機關である澱粉製造業を營爲してゐる。その業績赫々たるものあり、販路は銚子、千葉は勿論の事、關西方面に迄亙つてゐる。氏はまたその家業に精進する傍ら村自治方面にも意を注ぎ、曩には村會議員に推さ

れて盡瘁せしことあり、現在はなほ、方面委員として一意專心、全責任を以て鞅掌してゐる。その功勞も枚擧に遑なく、表彰も數知れず縣から四度に渡つて表彰され、郡、村當局からも前後數度功を顯彰された、特に小學校增築に功がある。

飯岡町大島

勳八等 今井富藏

當家は安政の時松本頼太郎氏に創められ代代農たりしも祖父の時代より水產業に從事するに至つた。氏は明治十六年十一月五日與助氏長男として岳降し、二十一才のとき海軍に現役志願して三等兵曹となり、勳八等に叙せらる。夙に町政の發揚に意を用ひ曩に區長、消防部長、町會議員等を歷任して治績顯著なるものあり。資性眞摯謹直にして剛毅果斷、而も溫容の風格は町民の瞻仰を得てゐる。趣味として武道を愛好し、政友會に屬す。家庭はマツ母堂、ケイ夫人令弟春吉氏にして、子なく、春吉氏は現在重砲兵曹長であるが、當家の相續人に決定されてゐる。常に春風の如き圓滿な家庭である。

嚶鳴村廣原

素封家 島田勝助

當區開拓の功勞者として衆望を一身に集める氏は先代八郎右衛門氏の長男に明治十四年九月一日生を享けた。當家は累代鶴卷村に居を構へてゐたが、明治三十八年に當地に來り材木商を營み、爾來三十有餘年氏は營々として家業に專念、今日の隆盛を見るに至つた。氏はまた區長として現に四期目であり、區の發展の爲に身を以て努力、曾て二十戸餘りしかなかつた當區も現在は二百餘戸あり商家が軒を並べてゐる。實に氏の功績は大なるもの、當區隨一の材幹と言つても決して過言ではない。はる子夫人との間に三女がある。

飯岡町

素封家 野口平八郎

當家は其開祖不明なるも土地有數の舊家であり又代々農を營み素封家として知らる。氏は榮助氏長男として大正三年十月二十五日に呱々の聲を擧ぐ、資性溫容にして眞摯なる態度を持し、專ら農業に精勵して耕地の整理、農產物の改良に意を用ふ。若くして篤農齊家の念强きは以て他の模範たり前途なほ春秋に富み將來を囑望さるゝ人である。家庭にヒデ夫人との間に二女あり、常に春風和樂の生活を營み極めて圓滿である。因に當家の菩提寺は山川村福藏寺である。

鶴卷村見廣

村治功勞者　島田乙藏

當村開拓の舊家たる當家は明治五年二月十八日先代茂兵衛氏の長男として生を享けた氏は人格圓滿なる紳士、尊父氏は助役から村長へと歷任し日露の役の際には內治の功により勳八等に敍せられし功勞者、當主はまた農村產業振興の爲に專心努力し、また敎育方面には一生を捧げて盡力する決心あり、偉大なる人物として、今や尊敬を一身に集めてゐる家に三男四女あり、長男利一郎氏は四十三歲。次男俊平氏（三十七歲）は東京高等師範學校出身にして今中等敎育に專念してゐる。三男隆氏は三十一歲、今次の事變に出征中である。

先代　茂兵衛氏

嚶鳴村後草

名望家　浪川肅太郎

七月十日先代市治郎氏の長男として生をこの世に享けた。なほ當家は浪川清右衛門氏の分れにて當地草分けの舊家、當主は十四代目に當る。資性英邁なる氏は軍隊在營中模範兵としてよく軍務に精勵し賞を受くる數度に及び、家に在りてはよく家業たる農に精進し、またその傍ら專ら鄕土の發展向上及び、公共の事業に身を以て鞅掌、村民のよき相談相手として且つ萬事の指導的立場にありて尊敬の的となつてゐる。なほ氏は、特に法律問題計理問題に明るく、當地方の民政系の重鎭でもあり、氏の功勞、形の上に現はれずとも頗る大なものあり、衆望を一身に集めてゐるも故なきではない。尊父健在長男儀左衛門氏は二十二歲の眞面目な青年であり、他に一男二女がある。

頭腦明晰幼時より勉學に精進せる氏は明治三十一年

飯岡町飯岡

鄕社　玉崎神社

玉依比賣命を祭神とする當社は景行天皇御宇、日本武尊東夷御征討の際の創建になるもので享保十四年大漁祈願してその神驗顯著なるを以て正一位玉ケ崎大明神の神階神號を宣下せられ、明治六年鄕社に列せられ、同三十九年幣帛供進神社に指定せられた。廣大な境內に元祿十年の造營に係る社殿壯麗雄大を極め、縣下屈指の建築物と言はれてゐる。寶物に日本武尊の御座船の舳先に揭げし浪切の御旗、源義家の奉獻せる劍一振、矢の根一箇が藏されてゐる。每年舊曆一月十五日四月一日、九月十五日が舊幕時代より三祭と稱さる。また氏子數千八百戶に上り現社司は四十四代目神原勇司氏である。

椎柴村猿田

猿田神社

社司

當社は人皇十一代垂仁天皇二十五年の鎭座にましまし、猿田彥大神、天鈿目命菊理媛命の三柱の神を祀り、神光赫々として日守夜守に朝廷國家を護り奉り、億兆蒼生の危害を守護すること幾星霜、上は御皇室を始め、將軍武門より神田寶物等の寄進あらせられ、下は遠近の諸民步行を運び志を傾けその神德を敬仰せざるはない。永祿九年兵火のため殿宇烏有に歸し翌年海上左衛門尉廣秀建立、後、延寶八年改築、これ現在の本殿にして準國寶に認められてゐる。氏子は下總・上總・常陸三ケ國にわたり、檀那場と稱し、特殊地域四百七十六ケ村に及ぶ。往古より小兒の守護神、育兒開運の神として七五三歲の小兒霜月中、參詣祈願をなすもの陸續として引きも切らない。

鶴卷村見廣東海道

雷神社

島田茂一郎氏

景行天皇の五十三年、皇子日本武尊東征の偉績を親しく巡幸あらせられ、伊勢より轉じて上總に入り、東海の最東端なる下海上（今の海上・香取・匝瑳の三郡）の一角に一社を造つて別雷命を奉祀したこれ即ち當社にして、往古雷大神の稱あり康和年中雷大明神と號し、後、現社名に改めた。鄕社にして、天穗日命を配祀する。

（神社そのー）

（神社そのニ）

旱魃の時雷雨を降らす神德有り。農山村の信仰をあつめてゐる。堀河天皇康和四年、高見銚子地方の海上に大震動ありて止まず、天皇は當社及び香取郡東大神、豐玉姬神の三社に命じて臨時祭を行はしめ之を鎭めた。即ち高神の濱三社祭の起原はこゝに在る。社域は眺望絕佳。氏子

は千五百戸に近く、穴澤松五郎氏外七氏を總代とし神職は島田茂一郎氏である。

矢指村西足洗

浦賀神社

當神社は貞和元年十一月七日に創建せられ、祭神は面足命及び惶根命の二神である。古くは第六天と稱し明治元年足洗神社と稱へたが、同二十二年十月浦賀神社と改めた。境内には元文二年寄進の御手洗、文政三年九月及び嘉永四年十一月に建設したる石燈籠各一對がある。現堂宇は昭和十二年の改築に成り、權現造の鳥居は陸軍少將加瀬倭武閣下の寄進である。社掌は千本松三郎氏、氏子總代は江崎常七氏、伊藤伊太郎氏、加瀬清右衛門氏ほか二名である。

瀧郷村岩井

仙瀧山龍福寺

人皇五十代桓武天皇の御宇、延曆七年春三月、弘法大師當地に來り給ひ、立木を以て不動明王並兩童子を一刀三禮に彫刻し護摩祕法を修し、壇場の東方の岩を獨古を以て加持し給へば、不思議や法水忽ち湧出せるため、これを加持獨古瀧と稱した、三伏炎天にも縮水更になく、護摩結願の日に、散杖一本を瀧の上に投ぐればそのまゝ逆に倍莊し、また他の一本を瀧の側の岩に挿せばこれまた前の如く繁茂した。また慶長年中隣在民俗、瀧水の流れを水田に引かんとて土を掘りけるに、岩窟震動して光を放つこと電光の如く、石の寶劍が現れた。これ靈寶の第一として、今に保存される。かくの如き由緒あり、新義眞言宗智山派に屬する古刹にして、里見氏、千葉氏の歸依も深かつ

（龍福寺そのー）

（龍福寺そのニ）

た。なほ現住職は倉崎寛聽師である。

嚶鳴村琴田

福聚山海寶寺

當寺は始め太田村下新田に在り、元祿四年今の地に移つた。越前國瀧谷寺の末寺に海寶寺なる寺名のみ殘り實在せざるものあり。延寶九年、慶範上人瀧谷寺の住職たる時、これが寺名をうつして一寺を建立し海寶寺と稱し現在に及んだのである。新義眞言宗智山派に屬し、本尊は大日如來である。なほ當寺内觀世音菩薩はイボを治すといふ靈驗あり、また境内安置の子安弘法大師は安產子育の大師樣と稱して信仰がある。椿湖埋立後の堂宇建立にして干潟三社五寺の一に數へられ兩界曼荼羅、釋迦涅槃像、十六羅漢像その他の寶物多數が保存される、いづれも美術的價値あるものにして大方の觀覽に應じてゐる。檀家は凡そ四百餘、總代は服部畊石氏ほか六氏、住職は吉田麟如師である。また慈眼院と稱す。

（右）吉田麟如師
（左）田法運師

矢指村野中

金剛山長禪寺

伊藤住職

往古十萬石の格式を以て稱せられた當山は、應永八年九月、山城國醍醐山金剛王院大僧正實賢六代の法孫長範上人により開基され、新義眞言宗智山派の中本寺にして愛染明王を本尊とする本寺は京都の智積院、海上、香取、山武三郡に亙つて十五ケ寺の末寺を有す。惠心僧都眞筆阿彌陀圖一軸、弘法大師眞筆愛染明王繪圖一軸は珍重の寶物にして、毎年四月十三日の結願會には老若男女無慮數萬の參詣ありて當地方の名物とされる。檀家は千五百有餘戸あり、檀頭は岩井市右衛門氏、總代七人、現住職は第六十四代伊藤堯信師である。また清淨光院と稱す。

三川村

玉崎山東圓寺

山岸住職

當寺は阿彌陀如來を本尊とする新義眞言宗智山派の古刹にして明德二年、唵海上人により飯岡町玉崎に建立されしものにして、當時玉崎大談所神宮院別當瑞寶寺と稱す現飯岡町玉崎神社は當時境内の鎭座社であつた。千葉氏が佐貫城占領の時、不幸兵燹に罹りしため、現地に新に

一宇を建てゝ遷齋し、東圓寺と稱し今日に至つた。聖德太子の御作といふ十一面觀世音を寺寶として所藏する。現住職山岸照應師は明治三十五年出生にして智山大學の出身、曾て三川村青年團長をつとめし人望家である。また神宮院と號す。

三川村

蓮醫山福藏寺

當寺は今より約五百年前至德三年の創建に係り、開基は定嚴和尙、藥師如來を本尊とし新義眞言宗智山派に屬する古刹にして、二十一代定智氏の時(三百年前)現堂宇が建立された。本寺は太田幸藏寺末寺は五ケ寺を有す、弘法大師の作と傳へる不動尊の幅を寶物として藏する。曾て、賀陽宮殿下の御參詣を忝けなくせし藥師如來は靈驗のあらたかなるを以て遠近に聞える。現住職西川照英師は明治四十一年出生にて、智山大學の出身當山第五十七世に當る。人格高潔なる人物にて檀徒間の信望頗る高い。別號は妙覺院。

匝瑳郡

八日市場町

鍼線裁縫女學校

平山女史

本校は、明治三十三年八月平山とみ子女史の功によつて創立せられ、三十九年實業補習學校となり、同時に郡教育會囑託裁縫科正教員講習を開始し、爾後益々その成績を擧げて合格者多數を輩出せしめたる優良校である。大正八年からは縣委囑の講習を開始し、鶯塚平內氏が校長となつて今日に至る。女子に對しその身心を鍛錬し德性を涵養すると共に職業及び實際生活に須要なる智識技能を授くるを目的となし、栗山長太郎氏によるマツサーヂ教授は、本校の特殊施設としてその特色を發揮してゐる。生徒は匝瑳、海上、山武、香取各郡に亙つて百名を算し卒業は四百名の多きを數へてゐる。因に本校創設者平山女史は吉田村神澤七兵衛氏の長女にして東京の渡邊裁縫女學校出身の人である。

東陽村宮川

越川裁縫女學校

本校は女子の淑德を涵養し、普通和洋裁縫その他女子に必須なる實用の知識技藝を授くるため、今より約三十年前東京女子專門學校の前身たる渡邊裁縫女學校を卒業せし初代校長越川智加女史によつて創立された。本科二ケ年、速成科一ケ年の二部に分れ、生徒約百名、教授時數の八割までは裁縫實地教授をなすを特色とする。現校長越川千代子女史は初代校長の女、昭和十年の就任である。因に卒業者累計は五百名の多きに上つてゐる。

越川校長

共和村

千葉縣海匝耕地整理組合

當組合は設立以來すでに二十年の歷史を有し、共和村及び旭町を區域とし、七百四十町に亙る廣大な地域は全部工事完了の運びにあり、縣下耕地整理組合中有數の優良組合として廣く知られてゐる。初代組合長金谷惣治氏は大正八年より同十一年まで勤務し、同年九月飯島平治郎氏が組合長となり今日に及んでゐる。副組合長伊藤榮吉氏は曩に縣會議員、郡會町會議員、學務委員、町長等の要職を歷任せる自治界の大立物にして、現在は共和村學務委員の任にあり、家業製袋業は頗る隆昌を呈してゐる。なほ同じく副組合長赤澤武郎氏は共和村々會議員、水害豫防組合會議員を兼ね、鄕土のため盡力貢獻するところ甚大である。

八日市場町

椎名榮藏

八日市場町長

永年辯護士を開業、當地法曹界の重鎭と仰がれてゐる氏は、更に政友會千葉支部の巨頭として、前郡會議員として、二度目の現町長として、また多年にわたる郡町村長會長として盡瘁貢獻しつゝある功績は儼として光り匝瑳、香取二郡の中心的人物とされてゐるが、この傑物を町長となす本町の今後こそは一層の輝きを見せるであらう。本町は郡の中心地をなし、元郡役所の所在地であつた外、區裁判所、警察署縣蠶業試驗所、縣立匝瑳中學校等の所在地でもある。現在人口約九千をかぞへ、郡下物資の集散地で、商業極めて殷賑を見せ、新興潑剌たる、伸び行く町を以て將來に多大の期待をかけられてゐる。

八日市場町籠部田

菊間豐

八日市場町助役 八等勳

氏は香取郡豐和村大寺松治右衛門氏の次男にして明治七年六月二日の出生である。同十三年菊間八郎右衛門氏の長女さくさんに入夫緣組し、同三十六年分家獨立した。實家林家は豐和村切つての舊家にして代々名

主をつとめ、實父及び實兄竹松氏は共に村長をつとめたる名望家である。養父氏は喜壽の祝の時令孫七十七人ありし長者にして氏もまた愛孫二十數名を有する大家族の長として榮えてゐる。曾ては多古銀行及び總武銀行八日市場支店長を永年つとめ、棒信用組合長を十七ケ年勤續した。現在は八日市場町助役たるほか匝瑳郡聯合軍友會長、八日市場町軍友會長、縣佛教社會事業協會匝瑳支部常務理事等の要職を兼ねてゐる。長男馨氏は大正六年より二十年間小學校校長として教育界に在り高等官八等の待遇を受けてゐる。

豐畑村川口

豐畑村長 **加瀬谷一**

公平無私の人望家にして村政の圓滿なる遂行に努むる氏は明治十八年十一月七日の出生、先代四郎兵衛氏は郡會議員、村長、村會議員、助役等を歴任せる自治の功勞者である。氏も家業たる農の傍ら村治に意を注ぎ、曩に村會議員、區長を勤め、現在は村長の樞機にあり、一意專心村發展の爲に盡瘁、その功勲なからず、特に村役場新築に際しては一身を挺して努力、遂に偉大なる功績を殘したのである。養嗣子榮治氏は日支事變に出征してゐる。

平和村平木

平和村長 **川口長三郎**

氏は明治三十七年千葉師範を優秀なる成績を以て卒業後、共興小學校、富浦小學校、旭小學校等各地の小學校に奉職、遂に校長の重任に推された教育功勞者である。明治十七年、慶太郎氏の男として生を享けた。尊父氏は村長を勤めし功勞多き人格者にして、氏また、その志を繼いで公共の事に意を注ぎ、昭和十一年九月村長に村民一致を以て推輓され、また產業組合長、方面委員の重職にも推されて盡瘁貢獻してゐる。當村は今や氏の如き人格高潔なる名村長を得て、產業に交通に自治に發展の一途を目指して邁進してゐる。氏の如き人物こそ文字通りの偉材である。

椿海村椿

椿海村長 **菊間八郎右衛門**

當家は代々八郎右衛門を襲名して來た當村切つての舊家にして、先代八郎右衛門氏は村長の要職にありたる村治の功勞者である。氏はその男、明治二十三年六月十日生をこ

の世に享けた。氏も尊父氏の衣鉢を襲ぎ現在村長の重任にありて、一意專心村治の發展に盡瘁してゐる。氏はまた、珍らしき子福者にて、合闔せつ子さんとの間に六男三女あり、長男秀夫氏は農大出身の俊才にて現在父君を助け家業に從事し次男寅昌君は慶應大學在學中、三男譽浩君は中央大學に四男晥二君は早稻田大學に、五男享君は農種學校にそれ〴〵在學中であり、また長女きみ子さん、次女くに子さんは二人共東金高女に在學中である。令息令孃、それ〴〵立派な成人振りに當家は近村近在の羨望の的になつてゐる。

匝瑳村

匝瑳村長 **佐藤清**

快活にして沈着、正直眞面目にして克己持久心に富む氏は、縣下町村長中にその人ありと聞えたる人格識見手腕三者兼備の名村長である。自治に關與することすでに古く、大正六年九月初めて村長に選任さるゝや、克く經濟の充實、產業の發展に努力し昭和三年七月再度村長の椅子に就くや、教育の振興、交通網の整備等村勢發展上必要なる幾多の事業を完成し、氏ならではの感を深からしめた。昭和十年七月三度目の村長に推されて今日に至り、村民のため寢食を忘れ宵衣も苦しからずとして働いてゐる。また本村產業組合の設立には功勞特に多く、創立と共に組合長に推されて引續き今日に及んでゐる。因に氏は先代大兵衛氏の男にして明治十九年十一月廿九日の出生である

豐榮村飯倉

豐榮村長 **片岡健曹**

黨せず偏らず、衆議を尊び輿論に重きを置いて行動する氏は、產業組合長、土地賃貸價格調査員を兼ねる名村長である。曾ては民政黨系の偉材といはれ、一時民政同志會なるものを組織し、布施種一郎氏を會長に自らは副會長となつて活躍したが、地方農村に政黨關係あるは自治の圓滿なる運行を阻止するものなりと自覺し、政黨關係は不可なりとの見解により、折角の同志會を惜し氣もなく解散した氣慨と果斷の人である。明治十六年六月二十四日の出生にて、尊父は片岡岩松氏、長じて十代目の家督を繼ぎ、早くから村會議員に選ばれ、重選三期に及んだ。家業は農、副業に蠶種製造業を營む。はつ子夫人は南條村臺故鈴木文次郎氏の息女、長男巖氏（明治三十八年生）のほか二男三女を擧げた。

南條村小川

南條村長 勳八等 **鈴木昇**

衆望をあつめて村長の要職に就任するや、本村の名譽を更に光輝あらしめた氏は、自治界稀に見る才腕の人と稱され

る。香取郡日吉村の産にして明治十七年一月四日の岳降、長じて先代清藏氏の養子となつて今日に及び、小學校教師たること二十有五年、南條尋高小學校長、八日市場小學校長を經て昭和五年後進に途を拓くために辭職したる教育界の偉材にして、昭和九年四月助役に推され、同十二年四月引續き村長に選任、現在に至り同年六月より銚子税務署管内土地賃貸價格調査員を兼ねてゐる。家庭には一男二女を有し頗る圓滿である。因に當鈴木家は約十七代連綿たる舊家にて、祖先は一郡十八ケ村の庄屋を勤めたる由緒正しき名門である。

東陽村谷中

東陽村長 **越川保三郎**

村民の信望頗る厚く、昭和四年七月村長就任以來今日まで引續き三期歴任の氏は實に郡内は勿論のこと縣下にその名を知られた名村長である。抑々當家は約二百年前の大火に依つて古記錄多數を灰燼に歸したるためその詳細を傳へ得ざるも極めて古き名門の家柄にて、先祖は千葉氏の家臣として武藝の譽れ高かつた。氏は明治十二年五月五日の節句に呱々の一聲をあげた。助役、村會議員たること永年に及び、現在は村長たるほか土地賃貸價格調査員を兼任し、村勢の發展に一身を忘れ寢食を忘れて盡力してゐる。令閨みつさんは香取郡中村飯田長右衛門家の出、氏との間に一女あり、香取郡中村より丈夫氏を婿養子に迎へ、大正十四年初めての愛孫を擧げた。家庭は圓滿にして近在の羨望の的となつてゐる。

八日市場町

町會議員 **中川賢之助**

當家は十數代の舊家にして地主として知られ分家は下出羽町内だけで十軒あり、五代前の祖は學者にして水戸に私塾を開き人倫の經程を說いた家柄。先代賢之助氏はまた町會議員六期をつとめ、その間助役を二期間任じ、停車場建設に多大の功績があつた。氏はその次男として明治三十四年九月一日に生れた。在鄕軍人分會理事、消防組役員に歴任、町會議員二期目及び土木委員を現任し、小學校改築に際し盡力尠なからず、町發展には產業組合の擴充改善が第一なりとしてその方面にも貢獻甚大である。また繭市場理事、朝日旅行社長等の職に在る。趣味は旅行及び讀書

劍道は二段の腕前を持つてゐる。蝶子夫人は榮村及川太郎兵衛氏次女、氏との間に長男虎兒君ほか二男三女あるも、家督は實兄立治氏の次男身也氏が襲ぐことになつてゐる。

共和村新町

村會議員 **吉田喜三郎**

當家は名主組頭その他鄕土のために幾多の公名譽職に就き、代々村の有力者と稱されし舊家にして、先代七兵衛氏は收入役として村治に貢獻する一方、落花生芋の栽培に先鞭をつけ、これを本村副業の第一たらしめた農業指導の功勞者である。當主はその長男、明治二十一年二月十五日に生を享け、夙に助役に任じ、現在三期目の村會議員をつとめ兼ねて學務委員及び干潟蔬菜聯合會長として活躍してゐる。謹嚴潔白、村有數の人材といはれる。長男喜一氏（明治三十五年生）は頭腦明晰なる材幹にしてその將來を囑望されてゐる。

平和村上谷中

村會議員 **角田利平**

身を以て民衆を指導するの人格を持つ材幹を探すことは、人多き中にも容易ならざることであるが、氏はその稀有の材幹の一人である。明治十九年二月一日を以て先考熊次郎氏を父として呱聲をあげ、資性溫厚篤實にして寡言實行の手腕家と稱場せられ夙に村會議員に選ばれて活躍し、引續き今日に於ても重選その任にあり、また養蠶實行組合長、統計調査員、國勢調査員等をも歴任、信念に燃ゆる一擧一動はこれ悉く衆庶の模範とするに充分なものであつた。現在は村會議員のほか農事實行組合長を兼ね、令名愈々高きを加へてゐる、家庭は令閨とりさん、弟養子忠雄氏その他多數健在せられる。因に先代は村會議員二期、收入役、區長代理等に任にたる自治の功勞者である。

椿海村椿

村會議員 **木原隆**

當家は始祖新左衛門氏より約三百五十年を閲する當地屈指の舊家にして代々農を營み、德望家として聞えた。氏は先代米藏氏の長男として明治三十年三月二十九日に生れた。資性溫厚篤實にして頭腦明敏、一を聞いて十を悟るの材幹である。在鄕軍人分會副會長及び消防組部長たること多年、先年軍人會長並に縣知事よりそれ〴〵功勞者として表彰された。現在は專ら村會議員として活躍され、家庭には嚴父米藏氏、夫人りきさん、長男昇君、二男廣君、長女あささんがある。

匝瑳村大浦

村會議員 **須合民爾**

當家は須合和泉守の後裔にして、須合

甚兵衛氏の分家に當り、代々甚右衛門を襲名し、名主をつとめたる名門の家柄である。先代佐一郎氏は村自治産業の功勞者として知られる人格者である。氏はその長男に當り、明治十八年十二月三十日を以て呱々の聲をあげた。茂原農學校に學び、村農會長、消防組頭、在郷軍人會長、軍友會長等を歴任し、現時村會議員二期目を任ずるほか區長の職に在り、村民の信望頗るあつきものがある。

豊榮村飯倉

村會議員 **土屋庫之助**

部落屈指の舊家といはれる當土屋家は代々郷黨の信望厚かりし家柄にて、先々代宗助氏は飯倉郵便局長、村會議員、學務委員を歴任し、學校增築の際は多大の私財を提供せる献身的功勞者、先代澤治郎氏は區長代理をつとめたるも大正十五年永眠、氏は明治二十一年六月八日に生を享け、長じて先代の養子となり、消防組頭を經て村會議員を現任する名望家である。なほ長女は隣村吉田村より恒三郎氏を養婿に迎へ一男一女の母である。

東陽村上原

村會議員 **竹内朋**

資性溫厚、公私共に心身を捧げて努力し信望篤き氏は、竹内道之助氏の長男にして明治二十三年二月五日の出生である。夙に郡農會代議員、消防組頭、村農會長、區長等に任じ、現時村會議員のほか匝瑳郡工場懇話會副會長、消防組顧問、篠原養蠶實行組合長等の要職を兼任する。令閨もとさんは山武郡の人、三男三女を儲け、長男榮一氏（明治四十三年生）は旭農學校の出身隣村より夫人きよさんを迎へ二男一女の父となつた。因に先代は村會議員に區長をつとめた村幹である。

南條村母子

村會議員 **齋藤輝繼**

氏を知る人にして心からの敬意と感謝の念の湧かざる者はあるまい。それほどに氏は仁德の人なのである。抑々當家は前縣會議員齋藤清平氏の分家にして氏を以て四代目とし、氏は先代乙藏氏の長男として明治二十六年九月二十日を以て生をこの世に享けた。先代は村會議員、收入役、區長等村自治に功績顯著なる材幹であつた。氏も早くから消頭組頭、青年團長をつとめ

公共のため極力盡力し、現時村會議員に選出されるほか母子區長に推され、夙夜郷黨の福祉を念願して活躍貢献少なからざるものがある。令閨との間には一男一女あり、長女愛子さんは大正五年生れにて自宅に在り、一男正平君は昭和五年生れにて小學校に通學勉強中である。

八日市場町萬町

町會議員 **齋藤彌重郎**

氏は香取郡常盤村の舊家にして大地主たる齋藤家に明治十五年一月二十五日に生れた。實兄彌右衛門氏は現常盤村會議員をつとめてゐる。氏は明治三十六年明治大學法科を卒業し、直に朝鮮に渡り、二十七歳の時郵便局長を拜命、次で大正七年一月歸郷し、旭小學校教師たること十年、また郡農會設立の農民學校教諭を兼ねた。現在は町會議員三期目、第四區長、學務委員土木委員二期目、八重垣神社氏子總代等を兼任し、正義に立脚せる明晰な頭腦と圓熟せる人格の所有者にして、町民に廣く信頼を受ける長老級の材幹である。趣味は和歌及び梅若流謠曲である。令閨よしさんは八日市場町福島辰三郎氏の令姉養嗣子友三郎氏（實兄彌右衛門氏次男）は埼玉縣日本農士學校在學中である。

東陽村宮川

村會議員 **椎名省三**

尚武の精神に富む氏は、先代牛之助氏の長男にして明治十九年八月十六日の誕生である。先代は日露戰爭當時村長に任じて功多く勳七等青色桐葉章を下賜された功勞者である。氏もまた早くより自治公共に竭し、現に村會議員、宮川耕地整理組合會議員、上宮川區會議員等を兼任する。また本村藤城氏並に縣武德殿に於て劍道に精進し、昭和九年六月大日本武德會より四段を允許され、現に同武德會特別會員同匝瑳支所監事としてその方面に盡力しつゝある。

平和村東谷

村會議員 **片岡隆治**

氏は、聰明類尠しとまで云はれる人材である。資性溫篤にして質實、人に接するや懇切を以てし事に當るや周到の用意あり、自治界稀に見る偉材である。明治十九年六月一日、先考豐吉氏の長男として呱々の一聲をあげ、長じて近衛歩兵聯隊に入營勤務

せる名譽の人、除隊歸鄉後は專ら家業に精勵したるもその聰明と人格と手腕とに信賴をかけられて早くから村會議員、匝瑳郡養蠶聯合會評議員、消防組部長、郡農會代議員の各種公名譽職に擧げられ、村會議員は現在も引續きその任にあり猶ほ八日市場繭市場總代を兼ねてゐる。家庭には母堂とりさん、令閨とみさん、養子清氏、同夫人しげさんがある。

豐榮村富岡

村會議員 **飯島一太郎**

約二十代を連綿として相繼ぐ舊家に、明治六年一月十三日を以て生を享けたる氏は、村會議員、學務委員、區長等をつとめたる先代重三郎氏の長男に當り父に肖て早くより區長、收入役、學務委員に歷任、また村會議員たること多年に亘り、自治功勞者中に異彩を放つてゐる。山武郡大總村鈴木家より迎へたる令閨みねさんとの間には三男三女あり、長男重躬氏（明治二十六年生）には更に九人の愛兒がある。

東陽村谷中

村會議員 **伊藤仙一郎**

わが伊藤仙一郎氏である。明治十三年十月十五日を以て伊藤伊助氏の長男として呱々の聲をあげ、農業に從事しつゝも、區長、村會議員等に推され寢食を忘れて鄉黨のため奔走せる功勞者である。令閨みすさんとの間には三男一女あり、長男進之丞氏（明治四十一年生）は夫人みかさんを迎へ三女の父である。因に先代伊助氏は村會議員、區長たること多年に及ぶ鄉土繁榮の恩人である。

誠心誠意の人、犧牲的精神に富み信望全村に普きは

南條村小川臺

村會議員 **鈴木正義**

氏は戰國の勇將武田氏の末裔に當り、明治五年一月二十五日の岳降である。先考仙太郎氏は郡會議員、村會議員數期、助役、村長等をつとめたる自治界の先覺者、次弟誠氏は東京市中野區に齒科醫院を開いて盛業中、三弟憲友氏は東京市大森區に寫眞館を經營、これまた隆昌を示してゐる。氏は家業に從事しつゝ村農會長、消防組頭、小川臺區長等の要職に歷任せる敏腕家にて、現時村會議員並に村農會代議員、區評議員顧問をつとめ、鄉黨の福祉增進のため夙夜淬勵公事に奔走してゐる。令閨ゆう氏は須賀村の人、四男一女を儲け、長男誠之進氏は看護兵として滿四ヶ年間滿洲派遣軍に勤務し、除隊歸鄉中、今回の支那事變に召集せられ赫々たる武勳を樹てゝゐる。

東陽村谷中

村會議員 **越川一**

氏は越川團治氏の次男にして明治十八年五月五日の岳降、令兄昇藏氏が日露戰爭で護國の華と散りしため家督を嗣いで今日に至る。海城中學校卒業後明治大學豫科に學びしことあり、農業の傍ら副業として數年前より養兎業を營み、現在百數十匹を飼育し、將來の發展が期待されてゐる。公的には村會議員に當選活躍してゐる。敏子夫人は高知縣の人、東京和洋女子專門學校の卒業にして、長女恒子さん（大正九年生）は夫人の母校和洋女子專門學校に在學中である。

平和村平木

農事實行組合長 元村長 **戸村德次郎**

三百年間連綿と續きたる當家は累代農を家業となせる當村屈指の名ある家柄である。先代安藏氏は村會議員二期、組長を勤めし村治功勞者にて、氏はその養嗣子、明治十二年六月十五日の出生である。資性溫厚篤實、人望を一身に集め、現に農事實行組合長の重任にありて盡瘁してゐるが、曩には村長、區長代理、村會議員、青年團長、消防部長を勤め、その功績一々枚擧に遑がない程である。實に氏の如きは村治の功勞者で產業の父といふべきである家に七人の家族が人の羨む程の圓滿振りを見せてゐる。なほ長男安敏氏は近衞上等兵、次男勇氏は野砲兵伍長である。

豐榮村飯倉

元豐榮村長 **片岡重右衞門**

氏は豪放磊落、竹を割つたやうな性格の人にして、思ひ立つたら徹底的にやり遂げるといふ氣慨の人である。片岡重治氏（大正二年逝去）を父として、明治十六年一月二日を以て健かな呱々の一聲をあげた。長じて片岡家八代目の家督を嗣ぎ、家業に從事して家運の隆興に更に拍車を加へ、一面早くから自治及び公共の事に關與貢獻し、村會議員として八面六臂の活動をなすほか、助役に推されては村治更生の父と謳はれ、次で村長に選ばれるや、從來の陋習を脫して生新革正の氣を村政に漲らし、名村長と賞讃された才腕家がある。令閨さくさんは香取郡豐和村內山石井家の出、嗣子なく、山武郡大總村坂田より仁郎氏を迎へて養子とした。因に尊父は明治四十二年頃助役をつとめた村幹である。

南條村芝崎

村會議員 **佐久間喜以知**

獨自の見識を有して自治界に君臨する氏は、佐久間家六代の當主にて、先代元吉氏の男、出生は明治十九年九月十四日である。耕地整理組合長及び區長を歴任のほか、多年村會議員の要職にあり現在は土地賃貸價格調査員を兼ね、名聲嘖々たるものがある。令閨きくさんとの間に二男一女あり長男良助氏は豐岡村押田家より夫人を迎ひて一男一女を儲け、次男榮氏は本村岩澤家養子となり、長女は鐵道吏員内山悅氏に嫁した。因に先代は收入役、村會議員、區長等を歴任せる信望家であつた。

平和村上谷中

元平和村長 **太田好太郎**

當太田家は平和村屈指の舊家にして、先代市太郎氏は村長をはじめ、幾多の公名譽職に歴任せる自治功勞者である。氏はその長男、明治六年を以て呱々の一聲をあげた。曩に村收入役に推され、次で學務委員に任じ、更に村民の輿望を負ふて村長に選任、溫厚篤實の中に毅然たる含蓄を有し、謹嚴にして周到、事に當つては熱心、克く平和村の發展向上を策して功あり、名村長と稱された。また多年村會議員として活躍しつゝあり、現在自治方面以外に千葉貯蓄銀行監査役、東金銀行取締役等地方金融界に重きをなしてゐる。長男市郎氏は明治二十五年十月の誕生にして、大多喜中學校卒業後千葉師範二部に學び印旛郡遠山村小學校、椿海村小學校次席訓導等七年間教職に就いて後、千葉貯蓄銀行に入り、昭和九年八日市場支店長となり今日に至る。

南條村臺

村會議員 **山崎定吉**

諸般の村政に參與貢獻して名聲高き氏は、明治三十年十月二十四日、山崎子之助氏の長男として出生、農業を家業とし數年前より製絲業を營んで業界にその名顯はれ、傍ら公共事業に盡すところ多く臺區長たること多年に及び、事績一々枚擧に遑なく、感謝の的となり、衆望を擔つて村會議員に推され、現に活躍中であるが、氏の村自治界の中樞人物たるは萬人の認めるところである。夫人は山武郡大總村の人、琴瑟相和して偕老の契りも堅く、一男四女を有し、家庭は頗る圓滿長男保君（大正六年生）は昭和十二年横須賀海兵團に入團、長女みつ孃（大正十年生）は現に横芝町へ裁縫の研究に通ひつゝある。なほ横芝町出身の成功者として有名なる東京市目黒區所在のドレスメーカー女學院の杉野校長は氏の近親の人である。

平和村上谷中

元平和村長 功七等 勳七級 **林信亮**

溫厚篤實の人格者と稱される氏は、先代久作氏の長男にして明治九年三月八日の出生である。日露戰爭には第一軍に屬して出征し、戰功により軍曹に昇進、勳七等並に功七級金鵄勳章を賜はりし勇士である。曩に永年村會議員をつとめ、また村長に推されて村治を鞅掌せる敏腕家にして、村民の信任頗る篤く、現在は學務委員、教育後援會長、千葉縣蠶種同業組合副長等を兼ねてゐる。抑々當家は開祖以來十四代、當村屈指の舊家にして代代名主戸長等をつとめた家柄である。先代久作氏は郡會議員、平和村初代村長を第一期としてその後二回村長をつとめ、日露戰爭當時村長として功勞あり勳七等青色桐葉章を下賜された。現在日本赤十字社特別社員である。尚ほ當主夫人つる子さんは前國防婦人分會長、養子武君は房總合同蠶業會社常務取締役である。

東陽村上原

元東陽村長 **越川平太郎**

資性溫厚と稱され人望普き氏は文久二年二月七日の岳降、先代五郎兵衛氏を父とする。家業たる醤油釀造業は三代前よりの創業にて今や山武、香取、匝瑳の三郡に販路を確保し、年毎に隆昌を加へてゐる。郡會議員、助役、村長、產業組合長、村會議員等幾多の公職を歴任し、地方自治產業に寄與するところ甚大なるものがある。長男英司氏は明治二十三年の出生、學務委員として村のため盡してゐる。

南條村小川臺

村會議員 **鈴木喜十郎**

高雅の人格と卓拔の才腕とを以て地方自治界に名聲を馳せる氏は、鈴木濱吉氏の長男にして明治二十二年六月十三日の出生である。當家は相當由緒深き舊家にして、代々農を業となし、三代前の祖は松葉庵素月と稱し俳句に秀でたる雅人であつた。先代は村會議員四回、區長三回をつとめたる自治功勞者で、氏はその薫陶を受けて早くより社會公共のために奉仕するの念慮あり、區長、消防組頭、村農會總代を歴任、現時村會議員、村農會長、產業組合理事を兼ね、普選施行前より普選即時斷行を叫びし進歩的人材、肥料國營、米檢の一回檢査施行等、すべての點に一歩進んだ信念と主張とを持つてゐる。一男一女を有し、長男文治氏は大總村神保家より令夫人を迎へ、既に二兒を儲け、春風駘蕩たる家庭にある。

る。明治神宮造營に際し、勞力奉仕團を代表する縣下三名中の一人に選ばれた名譽の人である。令閨ツトさんとの間には一男三女がある。

南條村芝崎

村會議員 野村卓爾

當家は德川幕府以前よりの舊家にて先祖は孫兵衛と稱し、四隣に德望の聞え高かつた。先代伊輔氏は村會議員、區長等に推されし人格者、氏はその次男として明治二十三年十月二十二日に生れたるも、令兄夭折して家督を嗣ぎ今日に至つた。農耕に從事しつゝ消防組頭、在鄕軍人分會長、青年團長を歷任して手腕を揮ひ、現時村會議員、產業組合理事、芝崎養蠶實行組合長芝崎耕地整理組合長等を兼任する。青年團長時代、青年の指導誘掖に努めたる功多きを以て時事新報社より表彰され、消防組員として精勵他の範となすに足る故を以て縣知事よりの表彰二回に及んでゐつた。後ち村長、村會議員其他の各公職に推されて盡瘁し、その功勳なからず、特に村長時代の頃、村民の反對を押し切つて遂に道路を開拓し、いまでは曾て反對した村民から感謝されてゐる。資性英邁、功多き人格者である。現在は信用組合監事の外は凡ての公職を辭し悠々自適の日を送つてゐる。氏はまた史實探求に造詣深く、その著は役場に保存されてゐる程貴重なる文獻である。

南條村生尾

信用組合監事 前村長 從七位 勳五等 匝瑳富二郎

當家は匝瑳連猪熊が當地方の賊を勅命により平定し上奏の結果、當地方に匝瑳の名を賜りその名も匝瑳の姓をゆるされし由緒ある家柄にして、祖は當村の老尾神社に祭られ先代吉光氏はその神職をつとめし人である。氏はその長男、明治五年六月二十九日生を享けた。氏はにつと日淸、日露、日獨、各戰役に出征せし陸軍主計大尉の勇士にして、功により從七位勳五等を賜

南條村芝崎

村會議員 椎名喜一郎

當家の祖は椎名帶刀と稱し、代々當地芝崎城主椎名家の家老職であつた。明治末期に祝融の災に罹つて古記錄はじめ貴重の什器等多數を烏有に歸せしは誠に殘念であつた。

氏は山武郡蓮沼村三橋好造氏の長男として明治二十七年三月十日を以て呱々の聲をあげ、後椎名隆助氏の養子となつて今日に至つた。早くから村會議員及び芝崎區長の要職にあり、部落のため鄕土のため一身を捨てゝその繁榮に寄與し人望普く、曾ては學務委員に推されて學事に奔走せしこともある。令閨かつさんは香取郡吉田村の產、氏との間に四男四女あり長男帶刀氏は旭農學校出身にして現に家業農に從事し、二男民治氏は匝瑳中學校を出て目下陸軍士官學校入學準備中、長女玉江孃、次女初孃は共に女學校在學中の才媛である。

豐榮村新

學務委員 前村長 江波戸貢

當家は二十五代連綿と續きたる大地主にて代々名主を勤めし名門の家柄である。先代賢治氏は十六ケ村の戸長たる外村長、村會議員として當村の發展に偉大なる足跡を遺せる功勞者。氏はその次男として明治十五年六月二十七日生をこの世に享けた。曩に村長、助役、其他推薦されし公職數知れず、當村の大恩人として普く敬慕され、縣より表彰を受け、その盡瘁せる功績、枚擧に遑なき程であるが、特筆すべき事は當村小學校增築は氏の力に依つて完成されたる事である。昭和十一年病氣の爲公職を辭し、現在學務委員四期目を勤めるのみで、悠々自適の生活に這入つてゐる。長男馨氏は陸軍步兵少尉にて日支事變に出征、名譽の戰傷を受けたる勇士である。

南條村虫生

前南條村長 深田正

氏は本村屈指の舊家たる深田又兵衛氏の次男として明治十二年一月二十五日に生れ長じて分家獨立一家を創設した。明治四十五年三十四歲の若さを以て虫生區長に推され、大正六年村會議員に選出重選せられ、自治公共への盡瘁は愈々本格的となり大正八年村收入役に推薦を受け、翌九年第一回國勢調査員を囑託、同十年村農會總代となり更に消防組頭を歷任、十三年助役に任じ、引續き昭和四年村長に選任、同八年まで在職した。長男信治氏は現虫生區長である。

共和村鎌數

前村會議員 栗本萬平

當家は本家十二代、分家四代も續きたる當村屈指の舊家にして、先代甚司氏は永年戶長を勤め、村政並に產業に盡瘁せる功勞者である。氏はその男として元治

元年十二月二十五日の岳降。氏は夙に養蠶方面に意を注ぎ、養蠶講習會を開くなど、養蠶研究家として全國的にその名が馨き、また澱粉製造並に落花生の生産を研究し、有望なる副業として村内に普及せし功績は特筆すべきである。またその傍ら村會議員

學務委員、區長として盡瘁貢献、衆望を一身に集めてゐる溫厚なる人格者である。長男繁樹氏も父君の志を繼いで、現在養蠶實行組合理事の重任にある。家は六人の家族にて、その圓滿振りは近在の評判になつてゐる。

豐畑村泉川

豐畑郵便局長 從七位 勳七等 **林　茂**

先祖代々農事を以て家業となし、十一代を傳ふる舊家である。氏は傳氏長男として明治十六年八月十一日に岳降す。先代は無私恬淡溫厚なる人格者として知られた人である、氏も亦その資性を承けて頗る人格圓滿なる人、元村會議員、學務委員、方面委員、等を歷任し常に圓滿平和を希求して村治諸方面に努力村民の信望をあつめ、現に郵便局長として村通信事務に貢献なしつゝある。遞信事務に從事すること二十有餘年精勵の功績により從七位勳七等を授與された。家庭はとく夫人との間に四男三女あり中二女は既に嫁し、長男好一氏（二十七歳）は夫人喜代さんを迎へ既に令孫二人あり。家庭極めて圓滿である。

豐畑村井戸野

學務委員 旭公民學校教諭 產業組合理事 **大木　榮**

氏は明治十三年八月十九日の出生にて後ち先代甫之松氏の懇望に依り當家に入りし人である。當家は祖父貞甫翁より氏の長男矢指小學校訓導秋雄氏に至る四代に亘つて累代教育に盡瘁貢献せる當村切つての名望家である。貞甫翁は常陸山本鹿洲先生に醫學を修め、東條一堂師に儒學を學び、後ち當地に家塾を開き、醫の傍ら三十年に渡りて數千人の門弟を敎へたる偉大なる人格者にて、勝安芳伯其の德を彰して建てた石碑がある。氏は現在旭公民學校に

奉職してゐる傍ら學務委員、產業組合理事の重任にありて盡瘁してゐる。曩には共和小學校に二十年、豐畑小學校長として五年勤續せる敎育功勞者にて一生を敎育事業に献身の決心を持つ人格者である

南條村臺

學務委員 **鈴木重衞**

約十代を閲し、代々名主をつとめたる當家は部落有數の名門である。先代久太郎氏は村會議員に當選四回、助役一期、

村長一回等をつとめたる自治功勞者にて現に綽々たる餘生を幸福に送りつゝあり氏はその長男、明治十七年二月一日を以て生れ、姉妹なく、五人の令弟を有し、次弟大治氏は香取郡村上家の養子となり三弟恒治氏は豐畑小學校訓導、四弟は明治製糖士別工場に勤務する等、各方面に活躍していづれも健在である。氏は千葉中學校の出身にして、曩に村會議員、臺區長に任じ、現時學務委員として寄與貢献尠なからず、名聲四隣に普きものがある。三男三女あり、長男重右衞門氏は茂原農學校卒業後佐倉歩兵聯隊に一年志願せる豫備陸軍歩兵少尉である。現に今、本村在鄕軍人分會長として令名を馳せてゐる。

八日市場町富谷

元小學校長 **高橋淺治郎**

當家は代々六郎右衞門を襲名せる相當の舊家にて、先代六郎右衞門氏は村會議員數期をつとめたる自治功績顯著なる手腕家、七十四歳を一期に永眠した。氏はその長男、明治元年十一月十五日を以て生る。振起中學校を經て明治十六年千葉師範學校に入學、卒業後山武郡岩山小學校長となり菱田小學校長を兼任、當時僅に十八歳であつた。次で千葉市尋常小學校訓導、福岡高等小學校長、米倉小學校長を經て、八日市場町に全町一校の小學校設立とな

るやその校長に擧げられ在職二十五年、大正十年退職したが、直に八日市場町名譽助役に推され、更に八日市場敬愛女學校敎頭に聘されて昭和十二年まで十五ヶ年間女子敎育に盡瘁せる縣下敎育家中の異彩である。長男登氏は現に敬愛女學校敎諭、二男勝氏は濱松師範學校敎諭をつとめてゐるが、共にその將來に多大の望みを囑せられてゐる。

東陽村原方

村會議員 產業組合長 **伊橋善一**

努力の人であり誠意の人である氏は、先代松太氏の長男にして明治二十二年十一月三日の誕生である。農に精勵する傍ら村會議員、產業組合長に推されて貢献甚だ多く、本村自治產業界の一異材と稱される。令閨てるさんとの間には長男隆雄氏（大正元年生）のほか一男二女がある。因に當家は部落の最舊家にして代々名主をつとめだる家柄先代は村長、村會議員等に任じた自治界の先覺者的傑物である。

南條村傍爾戸

消防組頭 **大木仁助**

不動の信念に生き、統御の才に長ずる

氏は、山武郡二川村鈴木家の人、明治三十四年八月二十六日を以て生れ、大木良治氏の養子となつて今日に至る。大木家は德川幕府以前より當地に居住し、代々名主戶長等をつとめた家柄で、祖父良亮氏は村長、產業組合理事、地主會々長等に推されたる信望家、養父良治氏と共に健在する。氏は夙に統計調査委員に任じまた消防組副組頭たること多年、現時同組頭の重職に任じ、功勞益々顯著である。二男一女の愛兒あり家庭圓滿を極めてゐる。

共和村鎌數

金錢債務調停委員 勳八等

品村周作

自治功勞者として、感謝狀、記念杯等數知れず表彰を受けし氏は、分家三代の後裔にて勇藏氏の長男である。祖父周藏氏は落花生の研究家と知られ、氏も現在落花生の栽培に從事し、組合長や同業組合委員等を兼任、盡瘁してゐる。その傍ら自治方面にも意を注ぎ、曩に村長、村會議員、其他の公職に永年鞅掌精進し、現在は調停委員の重任にありて衆望を一身に集めてゐる。功多く勳八等瑞寶章を賜つた。

豐畑村川口

川口區長

鈴木壽

氏は質實圓滿なる德望家にして區民の信望を一身にあつめて居る。抑々川口區は平和境として知られ、昭和十二年度に於て六萬五千貫の芋を產し、共同販賣によつて村第一の好成績を擧げ、區長の德望により近在に於ける圓滿成功を謳はれる農區である。納稅組合は納稅完了を以て毎年紀元節に表彰を受け、尙出征軍人家族に對して勞力奉仕を以て助け、組合集合所、協行組合を組織し、すでに二千圓の貯金を數へるに至つた。抑々當鈴木家は十數代を經る舊家にして、先代半右衞門氏は名主及び村會議員をつとめ、氏はその長男として明治十九年五月二十九日に生を享け、曩に村會議員に推され、現在は川口區長として專ら部落のために前記の如く貢獻してゐる。長男秀一氏は豫備近衞兵にして昭和十一年の演習には特に表彰を受けた優良者である。

南條村小川臺

小川臺區長

林謹辭

農業、養蠶、養鷄を營み隆昌を呈する當家は、享保

年間に創家されたる舊家である。當主林謹辭氏は先代正作氏の長男として明治十八年五月十七日を以て生をこの世に享け夙に家業に熱心に從事して篤農家と稱され、先年選ばれて村會議員となりしほか消防組部長、養蠶實行組合長に任じ、本村自治產業の伸展に貢獻多く、現時區長の要職に就いてゐる。因に夫人との間には長男健正氏はじめ一男四女がある。

八日市場町

素封家

福島辰三郎

電話八日市場七四番

匝瑳郡に於ける民政黨の領袖として普く知られる氏は、縣會及び衆議院議員の有力候補者にして、消防に對する功績多く、働き盛りの積極的政治家として期待されてゐる。明治二十五年五月十八日福島敬三郎氏の次男に生れ、日本醫科大學の第一回卒業生、現に病院を經營して院長に任じ、兼ねて八日市場信用組合長、匝瑳郡農會長、八日市場農會長、郡學校衞生會長、縣農會役員、匝瑳郡民政會總務、八日市場學校醫（十六年間勤續）、郡醫師會長、消防組頭（十年間）等を兼任し、「將來の政治家は經濟的經驗と素養が必要なり、政治家は己れを堂固にし周圍に及ぼさなければ空虛なるものなり。」との信念を抱いて自己完成に邁進してゐる。竹子夫人との間には長男俊君ほか二男一女がある。

共和村鎌數

農事實行組合長

大松一朗

當家は累代、自治教育に貢獻せる家柄にして、祖父重右門氏は郡會議員、村長、村會議員等を勤めし當村開拓の功勞者である。氏は專ら農事實行組合に意を注ぎ、その功績は「自動製莚器」を購入する等、筆に現はす事の出來ぬ程目覺ましきものにして明治三十七年先代禪上氏の長男に生を享けた。農村に珍らしき進步的イデオロギーの持主にて、その將來を囑望されてゐる。

南條村傍爾戶

傍爾戶區長

大木包祐

當家は本村大木兵衞氏の分家にして一家創立以來三代、農業を營みて副業養蠶を行ひ、篤農家として聞えてゐる。先代伊三郎氏は家業の傍ら村會議員、學務委員等をつとめたる人、氏はその長男に當り、明治二十六年十二月十六日の誕生である。消防組部長たること多年に及んで縣知事よりの表彰二回に及び、國勢調査員二回をつとめ、現時區長、養蠶實行組合長、統計調査員の任にあり家庭には五人の愛孃がゐる

南條村富下

富下區長 **加瀨勘司**

今より約二十年前、青年團支部長時代、婦人會敬老會等の必要を痛感し、卒先これが組織に奔走し、公共のため盡力多く、區民の信望あつき氏は、先代倉松氏の次男にて、明治二十四年十一月三十日生れである。令兄夭逝のため家督を襲ぎ、家業の傍ら村會議員、養蠶組合長、消防組副組頭を經て、富下區長、養蠶組合理事、產業組合理事等を現任する。長男信氏（大正三年生）はむつ夫人との間に一女あり、次男茂氏は神戸市に在住、他に三男榮氏、四男政治氏がある。尙、先代は村會議員區長五回、養蠶組合長等に任じた人材である。

南條村小田部

小田部區長 **並木清一**

小田部區長、養蠶實行組合理事としての氏の功績は實に絶讃に價するものあり、曾て消防組部長、同小頭、同副組頭を歷任して本村消防のため多大の貢献を致し縣知事より表彰され事と共に、氏の功績は永遠に讃美されて餘りがある。抑々當家は並木藏右衞門氏の分家にして初代を淸兵衞氏と稱す、氏は三代目に當り、明治二十七年五月十五日の出生である。こう夫人は匝瑳村內藤家の出にして、長男武男氏は家業に精勵、次男三男氏は橫須賀鎭守府管內の海軍兵、他に愛孃一人がある。家庭は圓滿にして春風駘蕩の感あり、近在の羨望の的となつてゐる。

共和村鎌數

社掌 **品村元右衞門**

星宮神社の社掌にして匝瑳、香取の二郡にまたがる九社の社掌を兼任し盡瘁してゐる氏は俊藏氏の長男、明治十九年十一月二十四日の岳降である。極めて敬神の念深き人格者にして、敬神の念を深めるパンフレットや村誌を企圖し居り、また易學にも造詣深く、神易一體の說を立て、その哲理の研究をなしてゐる。またその傍ら方面委員に推され、村政に盡瘁貢献し衆望を集めてゐる。

共和村鎌數

天照皇大神社司 **梅谷長祥**

當家は天照皇大神第二皇子天穗日命十四世右大臣菅原道眞公の末裔にして代々尾州知多郡英比庄矢口村に住した。後道眞より九世道標の嫡子標定は久松家（現久松伯）の祖にして、次男標長が當家の祖となつた。爾來代々伊勢大神宮に奉仕し、當主より十二代の祖左近太夫長重の代に現地に移つた。當主は明治三十年十二月を以て呱

聲をあげ、大正五年神宮皇學館を卒業した。大正十三年天照皇大神社々司に任ぜられた。故久邇宮大將宮殿下姉君たる慶光院盈君尼公の知遇を受けしは當主の譽れである。

共和村鎌數

天照皇大神社

今から二百八十餘年前、寛文年間、椿湖開拓には伊勢神宮に祈誓したる功多かりしを以て、現地に天照皇大神の神靈を奉祀し、干潟鄕土五千戶の總鎭守として寄た。而して百間四方の地を神域として寄

同社寶物の一

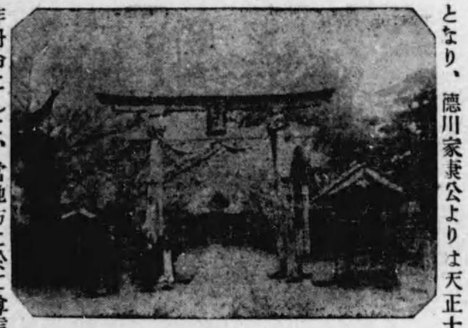
進され、梅谷長重氏祠官に任じ、子孫代々その官を繼ぎ、當主梅谷長祥氏は五十五代目に當る。昭和三年鄕社に列した。病魔退散の神德あり、無料で特別祈念をなし遠く秋田方面にまで知られてゐる。四神の像、御神樂面、湯立釜等の寶物あり、祈年祭（二月一日）、（例祭三月二十七日）、新嘗祭（十一月二十三日）は盛大を極め、三月二十六日より二十八日まで三日間の神樂講大祭は特殊神事として著名である。各宮樣方の御參拜あり、元藏相故片岡直溫氏も來駕された。氏子は

同社寶物の二

香取、君津兩郡に亙る。

匝瑳村松山

松山神社



當社は千數百年前、大同年間に創設され、源頼朝の崇敬篤く、銀百貫及び社領を寄進され、この頃より漸次有名神社となり、德川家康公よりは天正十九年御朱印を賜はりなほ德川時代には地頭より毎年白米四俵を頂戴した。祭神は武神伊弉册命にして、當地方に於て尊信篤きこと隨一といはれ、匝瑳村内に末社を有し明治六年指定村社となり、近く鄕社に昇格の豫定である。元弘年間の千葉公常胤の古書あり、これは東京の千葉家に藏されるものと共に日本に二つきりなく「南無天滿大自在天神」と記されてゐる。大祭は十月十三日、二里山下の野田村濱まで神輿巡御し頗る殷盛を極める。氏子數五百戸、信徒一萬を數へる。神職松山英胤氏は明治九年二月十六日の出生、德川初期より十數代連綿の舊家である。

八日市場町

福善寺

當山の草創はいつの頃にや、今遽かにこれを知るに由ないが、新義眞言宗派に屬する古刹として世に傳へられてゐる。境内山上存立の八十八ケ所大師の像は、房總の地に名高く、今も參詣者群をなして讃歌の絶える時なく、燈明の光はあかあかと點じられてゐる。當山にはまた、その昔、虎御前が袈裟をかけたといふ謂ゆる「虎御前袈裟掛の松」として由緒をたゝへられた松が今も庭前にすく〳〵と生ひ延びてゐる、人呼んで「傘松」となすのが即ちそれで、年と共に色褪せるどころではなく、更に翠緑を増して永い歴史を語つてゐる。現住職石井堯豐師は博識有德の人として崇敬をあつめ、由緒ある當山の復興へと專心してゐる。

平和村川向

川向山長福寺

日比野住職

當寺は新義眞言宗智山派に屬する古刹なるも開基不明、中興の開山を覺惠上人と稱し、爾來現在まで法燈を相繼ぎ相護ること三十二代、本尊は藥師如來にして當地方有數の名刹である。本尊藥師如來の靈驗は頗るあらたかにして、往古より善男善女の參詣引きも切らず、海上郡椎

柴村東光寺の末寺に當る。本堂間口二間半奥行二間半、客殿間口七間奥行五間、庫裡間口四間奥行六間半の堂宇あり、基本財産として宅地八百九十五坪、田一町三反餘、畑三町歩、山林五反八畝餘を有す。檀家總代には戸村德次郎氏、川口常儔氏加瀬退助氏、川口喜重氏である。現住職日比野照吾師は智山專修學院出身の阿奢梨にして、社會事業に關心を有し、曾ては方面委員として活躍、現在寺院内に託兒所を設置經營してゐる。

南條村虫生寺前

慈士山廣濟寺

當寺は建久丙辰年椎七名安藝寺連尊の愛娘供養のため創立されたものにして石屋和尚を開山とするが、別の記錄によれば鏡祖法印の開山とも稱し、石屋、鏡祖兩僧が同一人なるかは不明である。下總國蟲生鬼堂の惡魔除とは當寺發行の護符の稱にして、靈顯頗るあらたかなるを以て知られ、頭の病氣にも特効がある。七百四十年前運慶作といふ鬼面が實物として保存される。檀家は二百四十戸、總代には信田音治郎氏、深田岩吉氏ほか三名、現住職は飯島榮壽師である。

平和村東谷

東谷山安養寺

當寺は新義眞言宗智山派に屬し維新前までは末寺十一ヶ寺あつたが、後ち合併して現在に至つたものである。御本尊は阿彌陀如來をいたゞき、應永二十八年香取郡小畑報恩寺より乘吽上人移住、再興せられしものにて、開基は詳かならざるも其の以前數百年の歴史があるらしい。境内地、宅地、田畑、山林等廣大なる土地を有し、御本尊は行基菩薩の作にて當寺の寶物になつてゐる。また古來より難産除けに多大の靈驗ありて住時は善男善女の群にさしもの廣き境内地も額の如く狹くなりたりと言ふ。現在檀家總代として盡瘁貢獻なしてゐるのは高橋德太郎、高橋喜三郎、高橋丑松、石出源之丞林文造の諸氏にして、住職は中興の祖より三十三代目に當る長與昌憲師である。

君津郡秋元村鹿野山區

白鳥神社

村社

當社は鹿野山の東北方白鳥岳の頂上に鎭座し、日本武尊を祭神としてゐる。當社の由來は明應年中回祿にかゝつて舊記の徴すべきものはないが、古老の口碑に據れば日本武尊が燒津の土賊を掃蕩して海路今の地にわたらせ給ふた時、住民皆なその德を慕ひ、後ち尊の薨去を聞き傳へて哀悼追慕の至情止み難く、御遺留の御劍を奉じて一社を創建、尊の神靈を祀り東國鎭守白鳥明神の名により今に傳ふ。現神職兼務社掌は石井能雄氏である。

香取郡

森山村下飯田
日新小學校

鎌形校長

卒業期を累ねること五十三回、約一千九百の卒業生を送り出してゐる本校は、もと森山小學校と稱し、明治十四年十月の創立、同十八年阿玉川小學校と合併して日新小學校と改稱、現在の村を單位となして學區とし、同三十八年高等科を併設、大正四年增築、昭和十一年總改築して今日に至つてゐる。總努力總親和をモットーとし、總員は總努力に依つて生徒も活氣のある信念に生きる人物を養成することを教育の方針となしてゐる。特殊の施設としては學校の小なる割合に圖書室、家事室、作業室、衞生室があり、しかも衞生室の設備に至つては郡內校中第一に推され寢臺、藥品、器具、機械等を完備してゐる。現在學生徒數約四百五十人、就學並に出席歩合共に良、昭和十一年四月谷津小學校より赴任せる鎌形馨氏が若手校長として多大の期待をかけられてゐる。なほ校醫石毛誠二氏は永年にわたつて現在功を稱へられてゐる。因に中島源之助、木內源太郎、菅井武夫の諸氏は本校の功勞者であり、總改築に當つては特に莫大な犧牲を拂つてゐる。

日吉村
日吉尋常高等小學校

明治九年篠本小學校を篠本東漸寺に設立し明治二十二年町村制實施と共に日吉校に移管され同年七月日吉小學校と改稱し明治三十四年校舍を新築して開校式を擧げ、今日に至つた。爾來歷代校長の眞摯なる教育的精進は既に三十六期村內に幾多の人材を送り出し、又幾多の名士を出身者に持つ。現小川好次校長亦學校經營に誠心盡瘁し、其の施設に行事にその効果を上げつゝあるが、在學兒童數尋常科三五五名、高等科九四名、計四四九名にして、就學歩合百%出席歩合九八、八九%といふ良成績を擧げ、學校當局と後援會の融合一體の努力は益々村兒童教育の爲めに多くの好結果を期待される。

多古町水戸
多古町水戸農事實行組合

當組合は農村經濟更生の趣旨に基き、

從前存在せし各種組合を解散し、昭和六年八月眞に一元的統制戮力の下に設立さる。爾來會員の一致協力は組合長以下の適切明敏なる指揮と相俟ち逐年組合の精神的結合に事業成績の數字の上に確固たる基礎と發展を加へつゝある。總務、生產、受檢、經濟、公民の五部を設けその下に各係あり、組合機能完全、生產、購入、金融、自治、公民教育、衞生の各般に亙り、縣下稀に見る整然たる組織統制は既に郡農會長並に縣知事より優秀組合として表彰されてゐる。組合戶數五十餘農產物生產額三萬八千餘圓、畜產總額一萬二千餘圓を示し、殊に豚、兎、鷄の飼育に顯著な成績を見せてる。堆肥舍棟數四五、發動機、電動機等も十基を數へんとし農業動力化、生產合理化に邁進しつつある。本組合の特色は組織の合理的なると各組合員の一糸紊れぬ協力による事業の遂行であつて、五木田組合長の寧日なき眞摯なる精勵と共に本組合の將來をして益々發展充實が約束されてゐると見るべきである。

組合長理事
五木田茂重郎

五木田組合長

當家は慶長十八年の頃より連綿として續く屈指の舊家にして、代々名主區長を勤めた家柄である。明治三十二年十月十六日宗三郎氏の男として呱呱の聲を擧げ若くして塾に齊家修身の道を研鑽し、曩に消防四部長としてガソリンポンプの購入に當るの他、功績多く聯合會より表彰されし事あり、現に農家總代並に農事實行組合長として七年の久しきに亙り盡瘁してゐる。家庭は夫人との間に一男一女あり圓滿を極む。

神里村
神里尋常高等小學校

本校は明治四十一年九月三十日、神里尋常小學校として生れ、同四十三年神里尋常高等小學校と改む。後ち數度に涉つて校地の擴張、校舍增築され、現在に至る。本校教育は、一、日本精神の鼓吹、二、國民的性格の訓養、三、實踐力の養成、四、鄕土化教育の重視の四點に重心を措く。しかも教授及び訓練の方面に至つては、その施設は萬遺憾なく具備し本校自ら誇りとなしてゐる。在校生徒數は七百餘名、出席歩合は尋常科九六・二一高等科九七・二八を示してゐる。現校長鈴木三郎氏は明治二十九年九月二十三日の出生、佐倉中學校を經て千葉師範學校二部に學び、業卒へて訓導として奉職、後ち本郡萬歲並に中和の校長を歷任して昭和十一年、本校六代目校長として赴任青年學校長を兼務する傍ら、女子青年團長、婦人會顧問、學務委員等をも兼ねて教育事業に關係してゐるが、學校經營に就いては又特に高き識見を有し、趣味として書畫を愛好する。

八都村田部

八都村信用販賣購買利用組合

電話府馬一九番

當組合は明治四十一年六月二十二日の創立で、始めは有限責任八都村田部信用販賣購買組合と稱し、事務所を組合長宅に置き、信用を主となしたが、大正五年現在の事務所を新築、昭和九年六月保證責任に改組、今の名に改稱して現在に至つてゐる。出資一口の金額を十圓とし、組合員數百五十四名、出資總額七千六百四十圓をかぞへてゐる。當組合の設立動機は當田部の區は百六十餘の戸數を有し田、畑、山林等の約三分の一は他町村人の手に歸し、無資産小作者の窺狀言語に絶するものがあり、從つて種種なる弊風續出して停止するなきを見て有志者相謀つて農事研究會を設立、共同貯金による蓄積を以て産業資金の低利貸付を行ふことゝなり、終に今日の盛大を招くに至つたのである。附屬事業として納税組合を統轄し、その成績の良好ならんことを企圖してゐる。また優良組合として大正八年知事より表彰を受けた。現組合長理事は秋葉作重氏、理事に高岡德治郎、佐藤源爾の兩氏、監事に蘆田峰藏宮崎松太郎の二氏がある。

組合長理事　秋葉作重

氏は至極温情味のある篤實の士、本村初代助役、村長、村會議員、當組合長に歴任、その功を稱へられた故榮藏氏の長男、前に村會議員、青年團長、消防部長等に推されて著大の功を擧げ、今、組合長たるの外に方面委員を兼ねてゐるが、人望厚く、一般から敬慕されてゐる。

理事　高岡德次郎

氏は現に村會議員として、また區長として村自治に關與盡瘁してゐる。曾ては學務委員、區會議員、消防部長その他を歴任して功勞のあつた人。

理事　佐藤源爾

曾て縣農會から表彰された氏は、今、學務委員として貢獻してゐるが、曩には二期目の村會議員であり、また區長、田部協行組合長等に與つて功のあつた人望家。

八都村神生

神生信用販賣購買利用組合

當組合は日露戦役後の農村疲弊復興に關心を置き、明治三十九年興農組合を設立したことに起因する。同四十四年十一月有限責任八都村神生興農信用購買組合（當時神生一區）と改め、昭和四年擴張

して仁良區を加へて有限責任神生信用販賣購買組合と改め、同八年三月には保證責任に組織をかへ、同十年更に利用事業をも兼營し、今日に至つてゐる。出資一口の金額は十圓、創立當初四十名の會員は逐年增加して今や二百十餘名をかぞへ出資總額八千六百餘圓に上つてゐる。この好成績は組合長並にその他役員諸氏の指導宜しきを物語ると共に、將來に大きな期待をかけることが出來る。當組合の初代組合長は菅井長松氏で、續いて竹蓋長松氏、高岡常太郎氏等を經て菅井藤與氏が現任中である。尙仁良區には毎日出張して事務を取扱ひ、農業倉庫は組合事務所附近に二ヶ所、仁良に一ヶ所を設け作業場には動力用發動機二臺を置いてある。因に縣及び本部より表彰を受けたこと再三に及んでゐる。

組合長理事　菅井藤與

氏は明治二十一年十一月十六日、區長、助役に推されて村政に盡力、また當組合生みの親としてその功を今に稱へられてゐる故卯之助氏の長男に生れ、曩には村會議員、區長、消防部長等に歴任したが、主として、産業組合の發達へと專心努力した。現組合長となるや政黨とは全く絶縁且つすべての私情を抛つて全精神を組合のために傾倒しつゝある。組合今日の大を成すに至つたもの、また故なしではない。昭和九年に縣産業組合支會から表彰されてゐる。

香取町丁子　楫取宗次

香取町長　勳八等　七十代

連綿と續き八百年の歴史有る當地方切つての大地主たる當家に明治廿年五月十四日生を享けた氏は人格高潔、正義を愛する人望家である。祖父源兵衛氏は名主を勤めし功勞者にて先代己之助氏は家業に精進する傍ら煙草組合長に推されて盡瘁貢獻せる人であつた。當主は千葉師範出身の智慮衆に勝れた英才で三十年間郡内各小學校長を歴任、郡教育界より表彰されし程の育英の功勞者である。また退職後は町長、養蠶聯合組合長、煙草耕作組合長に推輓されて盡瘁、縣道編入問題には特に多大の功勞あり、また勳八等に敍されてゐる。今や氏の努力によりて當町は發展の途上にあり、信望を一身に集めてゐる。家に令閨みつ子さんとの間に宗實氏（二十六歳）あり、家族は八人の圓滿な家庭である。

府馬町府馬　保科幸太郎

府馬町長

頭腦明晰、人格圓滿にして人望を一身に集めてゐる氏は明治六年二月十五日先代利助氏の長男に生を享けた。曩に町會議員を勤むる事多年、現在は町民一致の推選によつて町長の重任に就き、鞅掌精

進町政の發展、町民の親和に盡瘁してゐる。氏はまた政黨に關與せず、只管町民の福利增進を計る事を念願としてその爲には身命を賭しても遂行するといふ眞劍振りである。實に氏の盡瘁せる功は多大なるものにして、枚擧の遑なく、當町の納稅の優良なる成績は氏の指導によつて擧げられしものである。今や當町は氏の如き名町長の下に益々發展の途上にあり、縣下各町村の羨望の的となつてゐる。家には令閨きよ子さんとの間に長男太郎氏、同夫人まつ子さん、他に三男二女がある。

府馬町府馬

助役 宇井太衛

累代太兵衛を襲名せる當町屈指の舊家たる當家は、また地方切つての大地主にて代々名主を勤めて苗字帶刀御免となつた家柄である。祖父太兵衛氏は戶長を經て府馬村初代村長に推戴されて盡瘁せる功勞者である。なほ當家の新宅の祖母は縣議諏訪寬治氏の伯母に當つてゐる。當主は當家六代目にして先代太之助氏の長男として明治二十一年六月十五日生を享けた。曩に區長を勤めてゐたが、現在は助役二期目を就任中であり、農會幹事も兼任してゐる。町民の信望頗る厚く次期町長として期待されてゐる。氏は常に專心町政の圓滿なる發展をはかり、自治體の政黨化を嚴に戒しめ町長を助けて全責任を以て鞅掌し彬々たる治績を擧げてゐる。家庭は春風和煦たり。ます子夫人との間に一男二女あり、長男太兵衛氏は現役兵として現在入營中である。

多古町

多古町長 富澤寅之助

當家は俵藤太秀郷の子孫數百年前に當地に土着せる由緒深き素封家である。先代三右衛門氏は區總代として部落融和に力め、溫厚なる人格を稱へられた人である。當主はその男として明治四年六月十日の岳降、夙に地方自治產業の爲めに專念すること多年、曩に消防組頭、耕地整理委員、區長町會議員、養蠶聯合組合長、信用組合幹事、蠶糸場創立組頭、小學校建築工事係長、多古農學校建築委員等の名、公職を經て現に町長、學務委員として町政の樞機に鞅掌して眞摯盡瘁、確固たる町勢の發揚に精勵してゐる。その溫厚篤實なる人格は巨大なる功績と共に町民多大の信

望と瞻仰を博してゐる。民政黨に屬し、町治の權威として重きをなす。長男三十郎氏は現に消防本部役員を勤めてゐる。

香西村伊地山

香西村長 岩佐定治郎

當家は元祿時代より連綿として十五代續ける當村屈指の舊家にして、古くは井戶姓を名乘つてゐたが、中興の頃より岩佐姓を名乘りし家柄である。氏は明治五年一月一日の岳降にして、後ち當家を繼承した人である。資性圓滿にして篤實練達の人格者、推されて村長を勤むる事、實に二十五ケ年の永きに及び、現にその職にありて尙盡瘁中であり、また農會長をも兼任して產業發展の爲にも多大の貢獻をなしてゐる。なほ曩には村會議員、消防組頭、國勢調査員等其他を勤めし事あり、その功一々枚擧に遑なく、當村一の功勞者として衆望を一身に集めてゐる。氏はまた幼時より漢學を修めし篤學の士にて、現在も讀書を趣味としてゐる。りい子夫人との間に一男二女あり、令息右京氏は東京に在りて敎職に就いてゐる。

大倉村

大倉村長 縣會議員 成毛種吉

當大倉村はもと香取神宮の大玄ツ宮の鄕であると言ひ、また同神宮神庫のあつたところだとも傳へられ、村名はこゝから發したもので、田地三百十町餘、畑地八十八町餘、山林三百八十六町餘を占め、戶數約三戶、人口約一千八百人、生業として農を主となしてゐる。近年副業熱なか〳〵旺んで、特に梨の年產額一萬五千餘圓、葉煙草の一萬三千餘圓が目立つてゐる。成毛氏、今その村長の要職にあるが、氏は先代故啓七氏の長男、明治十年五月十九日、當村切つての大地主の家に生れた人家は幕政當時名主、庄屋として土地開發に貢獻した名門で、既に十代目の氏に及んでゐる。若くして私塾に漢學を修め、夙に公共の事に關與貢獻、曾て郡會議員郡農會副會長、消防組頭、農會長等を歷任、その功勞多大なるものがあつた。現在は村長たるの外、縣會議員、信販購利組合長、津水水害豫防組合長、村會議員香北水害豫防組合委員、下總乾繭組合理事、敎育會長、氏子總代、檀家總代等あらゆる名、公職に與つて謂ゆる八面六臂の活躍を見せてゐる。氏は民政系の溫讓な人、昭和四年二月村長に推薦されて以來引續き三期目の名村長として信望いよいよ厚きを加へると同時に、氏またこの衆望に副ふべく圓滿なる村治の運行を計り、今年度よりは排水機を設置し三萬圓

の豫算を以て排水事業を遂行せんことを目論んでゐる。なほ縣會議員として當村より選出されたのは氏を以て最初としてゐる。

森山村阿玉川

森山村長從七位

菅井武夫

當家は代々農を以つて傳はる土地有數の素封家たり嚴父英三郎氏は日露役に內山旅團に屬して勳七等を受け、軍務にあること十有餘年に及びし人、現に產業組合監事としての赫々たる貢獻は村民の讃仰する處である。氏はその長男として明治三十二年二月二十七日の岳降、茂原農學校卒業後橫須賀野戰重砲隊一聯隊に一年志願兵として入隊、歸鄉後は專ら道會の權威松村介石氏の弟子として小見川道會支部長本田之俊氏の下に森山班を擔當して、村青少年の精神生活の啓培に精勵し、既に十有餘年益々之が發揚に努めてゐる。氏は又夙に村治產業の開發を思念、三十四歲にして區長たり。曩に村會議員、在鄉軍人分會長、學務委員等を歷任、現に村民多大の瞻仰を得て、村長、村會議員、在鄉軍人分會長、學務委員として石毛助役と共に緊密戮力、村政各般の上に斬新不拔の刷新を畫しつゝある。氏は當香取郡將校會副會長たり、且千葉縣下の名組合たる根前農家組合の組合長をも勤め村治の樞器として愈々その明確な存在を示しつゝある。人となり極めて明快、人生悟道の安らかさを持する風格の持主にして政黨に關與せず謙讓の人である。家庭はのい母堂ときよ夫人に一男三女あり常に春風の如き和合の家として知らる。

森山村下飮田

助役

石毛舜次

當家は公德に厚く公共に熱誠なる家系として古くより傳はる土地有數の家柄である。先代正作氏は多年區長、及び村會議員として村治の爲めに貢獻する所甚だ多かつた人である。舜次氏はその男として明治三十三年三月三日に呱々の聲を擧げた。青年時より漢學を研鑽すること久しく修身處世の道義を體得す。資性寡默に溫容、眞摯、熱心な犧牲的精神に富む常に村治上の問題を思念して私心事を顧みることなく、曩に村產業の中軸とも云ふべき、表山產業組合、耕地整理組合、根前農家組合等の創立者の一人として周旋奔走これ努め、創業守成の功績甚だ顯著なるものあり。現に助役、村農會長、村會議員、產業組合理事、郡農會代議員等の村治の樞機に鞅掌して、精勵盡瘁しつゝある。その貢獻は村民の等しく瞻仰する處であり、氏の純粹且つ透徹なる理想との抱負は益々將來の活躍を囑望されてゐる。家庭はツネ母堂並にいは夫人との間に三男あり、春風和樂を極め鄉黨の等しく羨望する所である。

森山村阿玉川

收入役

手賀佐助

當家は村內有數の舊家で代々農を以つて傳はる家柄である。先代彌助氏は多年助役、收入役その他の公職を勤めて村治の上に多大の功績を遺した人である。氏はその長男として明治十七年十一月七日の岳降、天性眞摯溫厚にして謹直の人たり、曩に區長に推され又消防組に關與して貢獻あり縣知事より賞狀を受く、現在は收入役として村財政の樞機に鞅掌し村民多大の信望を博し、村治上に重きをなしてゐる。曾て氏の近くに歌壇の雄檜園氏居を構へあり、偶々歌道に導かれ爾來氏の終生の趣味となり、氏の人格をして益々風雅溫容のものたらしめてゐる。

大山不動山にて

仰ぎ見る登りて見ればあふり山
　なほふじがれのふもとなりけり

華嚴の瀧にて

上野や二あら山の山中に
　何を惧みな瀧つ瀨の音

等の作がある。なほ氏は本社特派員に即興一首をおくられた。

空蟬の我が身の上の上なれば
　書き連らねる心苦しき

良文村五鄉內

良文村長

菅谷浩平

當村の村長にして、村民の尊敬と信望を一身に集めてゐる氏は明治二十三年六月二十日、先代勝次氏の長男に生れた。氏は、數百年來代々名主を勤めし大地主たる當家の當主として恥しからぬ氣品高き人格者である。曩に農會長、青年團長、消防組頭、區長に推されて盡瘁した事があり、現在は村長、信用組合長、耕地整理組合長、檀家總代の重任にありて村政の發展に鞅掌精進してゐる。その功大なるものにして、村道の完成、學校講堂建設は實に氏の手になるもの、又宗教及び納稅に盡し昭和十二年氏の任期中には縣より納稅完納の模範村として當村が表彰を受けた。實に氏こそ文字通りの名村長と言ふべきであらう。家には尊父勝次氏八十四歲にして尙ほ矍鑠、當村一の長壽者である。

山倉村小川

山倉村長

林四郎兵衞

讀書に趣味を持ち溫恭にして篤實なる氏は明治二十一年九月の岳降である。當村一の人望厚き人物にして、現在村長の重任にある。その村政に盡瘁貢獻せる功績は頗る大なるものあり、其の他、各名、公職を兼任してゐるが、氏こそ文字通りの偉大なる功勞者、當村に無くてはならぬ人物であ

る。因に當家は當地方の城主千葉氏の姻戚に當り、當地方屈指の名門の家柄である。累代四郎兵衛を襲名し、先代四郎兵衛氏は縣會議員を明治初年頃勤めて縣治に貢献せる功勞大なるものあり、當主も將來縣會議員として活躍すべき人物、その將來に多大の期待をかけられてゐる。家にはみや子夫人との間に三男二女あり長男正綱氏は澁谷農業大學出身の俊器英才にして、現在本納實業學校に奉職してゐる。

常磐村東松崎

常磐村長 **林 敬司**

昭和五年以來當村々長、産業組合長、消防組頭、農會長等を兼ねて鋭意邁進、村民の輿望に應へつゝある氏は、先代故覺次郎氏の男として明治二十六年七月三十一日、當家五代目の當主に生れ、日本齒科醫學校出身の齒科醫、開業して二十數年に亙り、その方技の確固たる信頼を博し、他方村内の名、公職に推され、曾て縣會議員、同參事會員、民政黨香取郡幹事長、栗山電燈會社重役としてそれ〴〵歷任貢献、其功を大いに稱へられた。村長就任と共に抱負と主張とを進めて村自治及村産業の向上改善道路の改修に盡し、即ち縣道を完成し村中央より八日市場、佐原兩町へ通ずる地方主要道路をも多年の努力を以て終に完成した。また役場並に小學校（青年學校も含む）の新築をも竣成し農村としては稀に見るの宏壯完備な建物たらしめるなど、ます〳〵衆望を高めてゐる。氏は多年本村小學校在校兒童のために齒科診療の一切を無料奉仕して來たがその功によつて、郡教育會から表彰された。なほ令夫人は今、國防婦人會々長の任に在つて、銃後の固めに專念奔走しつつある。

飯高村飯高

飯高村長 **林 藏之助**

氏は明治八年十二月十六日岳降の資性溫厚篤實なる人格者である。大正十四年役場書記に就任、爾來寧日なき村治實際事務への献身的活動は村民より多大の期待を寄せられ昭和五年十一月助役に推され、一意惠心村治の爲に努力、昭和九年一度退職したが、同十二年八月に衆望を一身に擔つて遂に村長に就任、以來全責任を以て鞅掌その功大なるものがある。また村會議員學務委員を兼ねて盡力してゐるが、實に氏は當村一の功勞者にして、村史に記錄さるべき人物である。今や、當村は氏の如き名村長を得て産業、教育、交通に益益發展の途上にある。令息茂氏も溫良な

人物である。

豐和村

豐和村長 **佐藤彦次郎**

佐藤家は相當に古い家柄で、代々農を本業となし、村内有數の資産家として聞える。氏は溫順にして謙讓、多くを語らざれど極めて熱心な實行家、夙くより人望をあつめ、現村長として一村を双肩に擔ひ、公平無私、白紙を以て望んでゐるが、治績着々としてあがり、村民の信頼をして一層强めるものがあり、名村長として令名を謳はれてゐる。

古城村万力

古城村長 正八位 **伊藤 武**

伊藤家はもと本村鍋木塙臺に住してゐたが、文化六年干潟に移住してから現在に至つてゐる。代々農を以て家業とし相繼ぐこと十三代目の舊家である。先代半之助氏は前途有爲の士として多大の望みをかけられてゐたが、惜しくも三十二歳を以て長逝した。當主武氏は陸軍砲兵少尉で正八位、曾て村助役、在鄕軍人分會長等を歷任して功績著大、現在は全村民一致の推薦によつて村長に就任した村内の人望家である。しかも明治三十六年七月生れの春秋裕かな人、謂はゆる脂の乘り切つた氏の手腕にかける期待は特に多大なるものがあり、氏またその心に副はんとして、懸命に努力しつゝある。家庭には祖母タイ子さん、母堂キヨ子さん、それにヨシ子夫人との間に一男三女がある。常に和氣靄々として四隣羨望の的である。

萬歳村

萬歳村長 **菅谷 寛**

氏は大地主、剛と柔とをよく併せ得た果斷の人、現産業組合長理事として多年にわたつて盡瘁、その功著大なるものあるが、昭和十二年の春、全村一致の推薦によつて村長に就任、現時局下の村を脊負つて銃後の護りに備ふることに專心し曩には助役、郵便局長等と相謀つて村内各戸に防毒マスクを頒布してゐる。因に當村は他に類例のない裕福な村で、多額納税者を三人も出してゐる。

萬歳村溝原

助役 **高木庄藏**

當家は千葉家の家臣に出で連綿二十二代を傳ふる當村切つての由緒ある舊家にして、養父廣吉氏は慶應三年八月二十九日の岳降、多年村會議員、助役、村長其の他のあらゆる名譽職を歷任、村治上に殘せる功績甚大にして尙矍鑠たり。村治

の長老として重きをなす。庄藏氏は東城村の素封家鈴木藤平氏の弟たり。明治十八年九月三日に生れ、幼にして秀俊、後懇請されて當家に入り爾來家業に村治に

養父の衣鉢を襲いで完し。元消防部長、收入役を勤め現に助役、農會長たり、村治産業の各般に盡瘁して貢獻する處亦多大なり。村民の信望厚く益々將來を期待さるゝ人格圓滿の人である、家庭は、廣吉氏の外二男二女の子福者にして頗る圓滿、當村屈指の資産家たり。

神代村高部

神代村長 **越川廣藏**

當家は元祿時代笹川より移住せりと傳へられ、八代を經たる當地方有數の素封家である。嚴父佐平氏は、區長、村會議員として村治に盡力し令名を謳はれた人專ら齊家興隆に意を用ひ剛毅の人として知られた。氏はその長男として、明治八年四月十日の岳降、明治三十二年横濱市に獨逸商館ミュルレルバカート會社の設立と共に入りて肥料商の業に從事し爾來各種事業を營みその後材木商を以つて産成した。元助役、村會議員、學務委員等を經て、その才腕人格は村民の輿望を擔

ひ推薦されて村長の重責に任ぜられ爾來、村治諸般に公正改革の巨足を印し、殊に徵稅、土木に於ける功績顯著なるものあり。家庭は三男一女あり。長男は逝去、次男鹿之助（三十七）氏は銚子市に材木商を營み、三男正雄氏（二十四歳）は北海道に於いて水産業に從事してゐて、家門愈々繁榮を極めてゐる。

神代村舟戸

神代村助役 **菅谷萬太郎**

當家はもと筒井順慶麾下の武士、連綿代を累ねる三十八代目、土地に於ける最も古き名ある家柄で、今も農を家業としてゐる。先代七五三松氏は表面公職には就かなかつたが、謂ゆる隱れたる村治の功勞者、且つ精農家の名によつて廣く知られてゐる。當主はその長男、明治十九年十月二十七日今の家に生れた日置流弓術の達人、同流第十七代の指南役である。夙に村治方面に進出、曩に村會議員に推さるゝこと二期、その他學務委員、國勢調査員、農家組合長等に歷任、公平無私の盡瘁ぶりは更に村内の人望を贏得し、今、當村助役の任に在り、村長のよき輔佐者として村自治に當面してゐる。なほ氏は煙草組合長（十三年間關係勤續）村農會評議員を兼ね、この方面にも多大の努力をさゝげてゐる。家には令夫人との間に二男四女の六子あり、長男寛治君

は現青年團分團長として活躍し、その將來に期待さるゝところが極めて多い。

橘村新宿

橘村長 **滑川保治郎**

當家は元祿時代當地に着住し、代代名主を勤めた舊家にして有數の素封家たり。祖父は多年名主、戸長として村治開發に貢獻、尊父隆治郎氏亦村會議員、區長、收入役、御領地總代等の職に歷任し村政の基礎の確立を圖り村民多大の信望を博した人であり殊に柳堀六左衛門氏に師事して漢學に秀でた人であつた。氏はその男として明治十六年三月十五日に生る。十五歳にして戸主となり同志中學卒業後、尙も漢學を究め大正天皇行幸の砌り模範青年として奉迎の光榮に浴す。若冠にして既に肚

裡する處、村治産業の發展を思念、廿七歳にして區長の重責を負ひ、爾來初代青年團長、村會議員、助役を歷任、卓拔なる識見、圓滿なる人格と共にその功績顯著にして信望を擔ひ推輓されて現に村長たり。併せて昭和十一年村産業の中心たる産業組合の設立さるゝやその組合長に推さる。名實共に村諸般の上に才腕を振ひ名村長として益々輿望を厚くしつゝある。因に長男寛氏は駒場農大出の俊才として將來を囑望されてゐる。

東城村

東城村長 **鎌形勁**

當家は代々苗字帶刀を許されたる名主として傳はる舊家にして、その祖は峯之丞といふ人、大阪城落城の後、旭町綱戸木曾義政に仕

へ、その沒落するや一族郎黨と共に當地に土着せしといはれ、嚴父大助氏は三十九歳の時、自宅に塾を開き近郷の門人五百餘名に達し育英の道に功績ある人で六十餘歳にして尙その師並木栗水の下に八里の道を迫ひ、當主勁氏その馬の轡を取りて送りたりと、大助氏は又村長として村治の爲めに功績ありし人である。勁氏はその男として明治二十一年に生れ、嚴父の嚴格なる庭訓の下に生長、明治四十一年第一師團に於て曹長となる。昭和八年助役に任ぜられ、現に村長として、遺訓を守り村治に盡瘁し、その人格と共に村民の信望厚し。令息は當村在郷軍人分會長、青年團長共に出征せし後の留守として、事務一切を處理活動中である。

豐里村森戸

豐里村長 **成毛俊一郎**

當家は村屈指の舊家にして、明治二十九年一月十九日七郎兵衛氏の男に生れた當主は實に十三代目である。尊父は專ら

自治、教育方面に意を注ぎ、村長に推さるゝ事二回、郡會議員を勤めるなどその功大なるものあり、殊に教育界に盡瘁せる功勞多大にして、當村の恩人として今もその名は人口に膾炙する程の功勞者である。當主もまた尊父氏の志を繼ぎ、曩に助役を勤めてゐたが、昭和八年村長に推され、現に盡瘁中であり、その功尊父氏にも劣らぬ程大なるもので、名村長の令聞が高い。家には二男三女あり、長男健太郎君は十七歳で土地の中學に在學中の秀才である、家庭は仲々の圓滿振りで近在の羨望の的となつてゐる。

久賀村

縣會議員

菅澤重義

元貴族院議員
先代重雄氏

當地方切つての舊家にて名門の家柄たる當家、先代重雄氏の長男として生を享けたる氏は手腕卓拔にして識見高邁な少壯有爲の人材である。尊父氏は當村隨一の名望家、元貴族院議員として國家の政治に參與翼贊せる國政の偉大な功勞者である當主もまた現在産業組合長の重任を勤めて、産業方面に盡瘁してゐる外に、縣會議員として活躍して縣政および産業の功勞者、その名聲は縣下に知らぬ者なくその將來に多大の期待をかけられてゐる。實に氏こそ文字通りの偉材である。當家は今や父子二代揃つての國家に、縣に、村に對する著大なる功績は洽く民衆の尊敬と感謝を受けてゐるが、智慮衆に勝れる當主は決して驕らず益々尊敬を高められてゐる。父君は現在東京に在るが家は母堂と夫人の和やかな家庭である。

香取町香取

町會議員
勳七等

香取武憲

町の元老として尊敬と人望を一身に集め敬慕されてゐる氏は明治五年六月六日先代榮藏氏の長男に生れた。當家は二十代近く連綿と續く地方屈指の大地主にして、篤行多き名門の家柄である。尊父氏は四十年近く縣下各地小學校長の重任を勤め、文部大臣に屢々献言し、又香取小學校の創立、校舍新築に盡瘁し初代校長として貢献するなど、その縣育英界の爲に盡せる功一一枚擧に遑なく、表彰も數知れず、記錄すべき功勞者であつた。また當家は累代香取神社に奉仕したるを以て榮藏氏の代より士族となつた。當主もまた教鞭を執る事實に二十又八ケ年の永きに渡り、父

子二代に渡る貢献に功を顯彰され、又郡教育會長より孝道に篤く子弟の薫陶に功あるを以て表彰狀を受けた。なほ小學校に三百圓のオルガンを寄附するなど篤行も多い。また日清、日露の役に出征したる國家の功勞者でもあり、軍功に依り勳七等に敍され、現在は自治方面に意を注ぎ、町會議員、方面委員其他の重任に推され鞅掌精進、盡瘁してゐるが、曩には區長二期を歴任した事もある。家にはあさ子夫人との間に光清（二十四歳）和美（二十一歳）の二氏がある。夫人は國婦愛婦の幹事、裁縫塾を經營してゐる。

府馬町長岡

町會議員
産業組合長

鎌形富五郎

當家は十數代連綿と續く舊家にして累代庄屋名主を勤めし家柄である。代々農を家業として先代吉太郎氏はその傍ら府馬村時代の村長、收入役、村會議員を勤めて功勞頗る大なる人、大正七年に郡會議員に推薦された郡政及び村政の偉大なる功勞者である。當主はその養嗣子、明治十五年十二月十五日岳降の資性謹嚴なる人にて、その中に情味を含む人格者である。村時代の村會議員を四期歴任して、現在町會議員の重任にあり、産業組合長、耕地整理組合長、學務委員も兼任しその自治に産業に教育に盡瘁せる功勞大なるものがある。氏は尚、政黨に關係せず、一意專心村發展の爲に身を投じて努力してゐる。現在家には令閨てい子さんとの間に二男四女あり、長男精氏は村農會副會長、香取郡青年團副團長等を兼任して盡力してゐる。

多古町水戸

町會議員
前助役

平山俊一郎

當家は元祿以來の永い歴史を有する當地方の舊家で、先代初太郎氏は區長、町會議員、國勢調査員（第一回）等に選ばれ、町内のために盡瘁貢献せる町自治の功勞者として今に稱へられてゐる。氏はその長男、明治二十六年十一月十一日の出生、織物工場を經營して既に十年當地方唯一の木綿織工場として著聞し、年産額五千餘圓を數へてゐる。一面氏は父君時代よりの政友派に籍をおいて町自治に活躍し、現に町會議員、商工會理事、土木委員を兼務、それ〴〵盡力してゐる。前には町助役、農會評議員として功があり、また政友系今井代議士の參謀としても名を馳せてゐる。磊落剛毅、英才溢るる士。兩親共に健在、さと子夫人との間に一男三女があり、長男松助君は大正六年の多古農學校出身、特に和歌に趣味を有つてゐる。

神里村山川

助役

宮崎金一郎

當家は十數代連綿と續く當地方屈指の

舊家にして、累代名主、戸長を勤めた名ある家柄である。農を家業としてゐるが先代市太郎氏はその家業に精勵する傍ら夙に自治に意を注ぎ、役場書記、收入役助役を勤めて遂に村長に推され盡瘁貢献せる人、その功勳なからず、特に當村の南校と北校の二小學校を合はせて神里小學校になせるは實に氏の盡力によるものである。なほ村會議員に二十有餘年歴任した程の功勞者、現在は家にありて悠々自適の生活を送つてゐる。

當主はその男、明治二十二年四月十日の岳降である。氏もまた役場書記、收入役を勤めて現在助役の重任にありて村長の女房役を勤めてゐる。その盡瘁せる功は燦と輝き次代の村長として期待されてゐる。なほ曩には區長、區會議員、青年團分團長等にも推されて盡力した事があり、當村に無くてはならぬ人物の一人として人望を一身に集めてゐる

八都村神生

助役 **菅井四郎**

當家は名主戸長を以て傳はる舊家であつて先々代四郎右衛門氏は初代村長たり。村内有數の名望家たり。先代も亦德望家として公共の念に篤く、現在縣下に於ける優秀道路たる縣道山倉線も、その端緒は私財を投じて惡道路の改修に當られたことに口火を切られたものである。當主は當年四十四歳茂原中學校の出身にして、祖父以來の遺志を襲いで、村諸般のことに盡力し寧日なき努力は村民に多大の聲望を得てゐる。若くして村農會副會長たること八年、現在は農會長、助役、學務委員、方面委員、金錢債務調停委員等の要職に有り村政に重きをなす。尙今後地方自治の上に多大の期待をもたれてゐる。

良文村五郷内

村會議員 **竹内豐藏**

當家は先代新藏氏の分家によつて始まり竹内眞太郎氏と從弟關係にある。氏は明治十六年二月十三日長男として岳降す資性溫厚にして活動家である。元消防部長、區長、耕地整理工事主任等を勤め、現在村會議員（五期）學務委員、村土木委員 村農會副會長等の重職に歴任村治の上に多大の功績をなす。耕地整理及び村農會への功勞顯著にして表彰さる。家は夫人みつさん養子夫妻と三人の孫さんあり家庭圓滿なり。因に養子竹松氏は目下支那事變に出征して活躍中なり。

山倉村新里

村會議員 **竹内昌平**

當家は維新當時の我が國砲術の大家として史家の間に知られたる竹内東白の末裔である。嚴父由太郎氏は助役、村會議員、學務委員等を三十餘年間に亙つて勤め村治上に多大の功績のあつた人である。氏はその男として明治二十一年十一月十七日の岳降である。曩に區長消防組幹部たり現に村會議員として村治諸般の上に盡力してゐる。家族はゑつ夫人との間に一男一女あり。長男芳太郎氏（二十八歳）は銃子商業卒業、目下近衛歩兵少尉として、上海方面に出動活躍中である。ゑつ夫人は國防婦人會班長として活躍してゐる。

竹内東白

勤王の兵學者として竹内東白先生の名は一般人士の知悉する所であるが先生は維新時代に於ける砲術の大家として外來銃の權威たるのみならず、獨創的兵器の創案等を爲せし人として今日我が國兵學研究家、兵器史の研究家の間に異常な注意を喚起した人である。先生は大村益二郎、佐野常民、福澤諭吉等の巨人と共に緒方洪庵の塾に學びし人、常に梅田雲濱（源二郎）等と交り、兵學者として外寇を防ぎ邦家を安んずるを以て第一義とした勤王の念熾烈なる人である。實に隱れたる勤王の大兵術砲術家たりしことは既に多くの研究家によつて發表されてゐる。

常磐村南玉造

村會議員 元村長 **那須善作**

當家は代々名主を勤め戸長の家柄として三百五十年を繼承する舊家であり、土地有數の素封家でもある。尊父德太郎氏は曾つて村會議員、收入役、村長等に歴任すること二十有餘年に亙り、村自治の功勞者として今尙村民に敬慕さるゝ人格者である。氏はその長男明治十五年十二月八日に生れ、私立成蹊學舍早稲田大學等に法律學を修め、嚴父の衣鉢を襲いで眞摯公共村治の爲めに精勵曾て村長となり、現在は村會議員として努力してゐる。消防關係にて知事より賞狀を受けしことあり、人格溫容にして、村民の信望厚く、今も村治に多大の期待をもたるゝ人である。氏は趣味として讀書和歌を好み

「かりの世の夢と思へどしばしとて
問はるゝまゝに應へつる哉」

と即吟した。長男秀男君は旭農學校出身青年團副團長、在鄕軍人分會班長として將來の活躍を期待されてゐる。

日吉村篠本

村會議員 産業組合長 土屋理一郎

當家は二百年來の舊家で嚴父氏は町長の職に在ること二期に及んだ。氏は明治十一年七月十四日生れ縣立茂原農學校を卒業し暫く小學校に教鞭を執り、其後專ら地方自治に盡瘁し米穀檢査員、村會議員を經て村長に當選、精勵以て治績大いに上つた。轉じて產業組合運動に入るや村民悉くを加入せしめ全村を擧げて一組合として拮据經營遂に組織改善、役員改選を遂行し顯然として功績を發揚し洽く斯界から囑目されてゐる。氏は性溫厚篤實、出でては全村の儀表として德望高く、入りては良く家を齊へ產を豐かにし、長男正信君は縣立匝瑳中學校五年生、長女靜子さんは他家に嫁し、次女喜代子さんは東京音樂學校を卒へ更に研鑽を重ねてゐる。三女洋子さんは縣立女學校に、四女泰子さん五女芳子さんは小學校に修學中、一家圓滿な子福者である。

吉田村八邊

村會議員 越川嘉助

氏は大正二年千駄ケ谷に本部を有する修養團に入團して以來、自己終生の事業として村治に活躍盡瘁を誓つてからは、村のことゝいへば大小となく、常に率先これに與りつゝあつたが、衆望は期せずして双肩にあつまり、現に五期目の村會議員として重きをなし、防護團副團長を兼ねてゐる。曩には區長、農會總代、產業組合理事、縣方面委員、消防第五部長債務調停委員等を歷任、既に偉大なる功績を樹てゝゐるが、更に今後一村發展伸張の上に、福祉增進の上に多大の盡力を期待される。因に氏は五歲の時に父君長藏氏に死別した奮鬪努力の人。

中村高田

村會議員 柴田庄太郎

村會議員、區長等を勤め今も人の噂にのぼるほどの功勞者であつた柴田半助氏は實に氏の尊父である。當主もまた村會議員、養蠶組合理事、農會總代の重任を勤める資性溫厚篤實な人、盆栽に明るく、明治十八年八月十五日の岳降である。長男太一君は多古農學校出の智慮衆に勝れたる眞面目なる人にて現在家業たる農に從事してゐる。なほ當主の令弟安造氏は東京に於て鐵工場を經營してゐる。

豐和村飯塚

村會議員 佐藤忠三郎

氏は明治二十三年一月十三日國太郎氏

長男として生る。家は土地有數の舊家にして元祿時代以後の記錄に明かである、普通開墾地を新田と呼び、當家を古新田と稱する處に依る最も古き家系と思惟さる。代々農を以て傳ふ、氏は精勵農事に勉め篤農家として知らる。元區長代理として區各戸の融和農事の開發に努力して信望あり、由つて推輓されて村會議員となる。益々村治諸般の事に盡瘁してその興隆に努めつゝあり、氏の溫厚なる人格と共に村政の將來に期待さるゝ人である日蓮宗の信者にして、五女の子福者、匝瑳郡椿海村より長女りんさんに養子を迎へ令孫三男一女あり家庭頗る圓滿なり。

古城村鏑木

村會議員 勳八等 宮應幸太郎

氏は明治十四年一月四日市太郎氏長男として生れ、明治三十五年匝瑳郡和進小學校を振出しに縣下小學校に訓導、校長等を奉職する事三十餘年、縣教育の爲めに多大の貢獻を殘し昭和七年辭職し爾來村政の爲めに盡力なしつゝあるが、氏は生來頭腦明晰にして忍苦不拔の精神に富み獨學力行して檢定により教育界に入つた人である。溫厚なる人格は村民の信望を得てゐる。

趣味としては讀書三昧に耽けることを第一とする人、三男三女の子福者にして、次男勝宜氏は步兵軍曹として支那事變に活躍中である。

萬藏村溝原

村會議員 渡邊新一

當家は三百年以前より傳はる舊家にして先代留吉氏は多年村會議員として功績多く人望厚かりし人である。祖父新左衛門氏又其の一生を通じ村治上に多大の功績を殘し、村會議員、助役、村長等を多年歷任してその巨大なる足跡は村各般に亙り多大の信望を博したのである。新一氏は長男として明治三十六年八月十一日に生れ、元青年團長として村青年の中心的人物たり、現に村會議員、溝原區農會長等を歷任、村治の上に眞摯なる努力を續けてゐるが祖父、嚴父の衣鉢を襲ぎ、公正奉仕の思念に富み堅忍不拔の資性は將來村政の上に多大の期待を以て見られてゐるのである。既に二男一女の子女あり、夫人きちさんと共に家庭頗る圓滿である。

橘村東今泉

村會議員 青柳孝造

當家は元祿年間當地に間口十二間奥行六間柱は全部椎木造りの大屋を建て、時の領主土佐守より千葉の練り石を賜うた由緒深き素封家である。父封廣吉氏は寺

小屋教育を經て、遠藤三左衛門氏に就き齊家修身の道を究め、農事に精勵して篤農家を以て知られた人である。氏はその男として明治二十一年八月一日に呱呱の聲を擧げた、佐倉五十七聯隊を明治四十一年除退後嚴父の衣鉢を襲ぎ家業に從ふと共に村治に思念する所亦甚だ強く、曩に青年團長、消防小頭、産業組合販賣員等を經て眞摯なる貢献をなす殊に産業組合の爲めには寧日なき努力を續け創立以來十九年漸次要職を重ねて第三期目の理事に現任してゐる。蓋し村産業の中樞をなすべき産業組合への功績は著大なるものあり、區村民の多大の輿望と推輓とを以て現に二期目の村會議員として盡瘁してゐる。氏はその溫厚にして精勵の人である。又持明院檀家總代を勤めてゐる。サダ夫人との間に四男二女あり、長男清太郎氏は近衛三聯隊仗儀隊本部詰として名譽を擔ひ、滿期除隊に際しては　天皇　皇后兩陛下より御下賜品を拜した。三男朝吉氏もまた横須賀海軍一等兵として兵籍にあり、第一掃海隊第四號艇乘組員として北支に出動中の武門の家である。

令息清太郎君

豐里村下櫻井

村會議員　**向後春藏**

平田篤胤の高弟にして全國にその名響いた向後喜右衛門氏こそ當主の祖父である。また先代辰之助氏は日清、日露の役に從軍し勳七等に敍された勇士にして村長、村會議員等を歷任せる功勞者であつた。氏はその長男、明治二十年三月十五日に生を享けた。現在、學務委員、村會議員、其他各公職に盡瘁中であるが、曩には消防部長區長の重任を務め、その功大なるものにして、村民の信望を一身に集めてゐる。

香取町新市場

町會議員　**木内幸司**

當町に於ける政友派の第一人者將來町長候補として期待される手腕卓拔な氏は明治三十六年十一月二十五日、累代名主、戸長を勤めし名ある當家に、先代得可氏の長男として生を享けた。曩に農會總代、評議員を勤めてゐたが、現に町會議員、學務委員

消防組頭、農會副會長、香取郡政友會評議員、幹事、大成クラブ幹事の重任にありて、一意專心、全責任を以て鞅掌してゐる。その功一々枚擧に遑なく、町會の實權を握り縣道問題には代表として盡瘁認可を獲得、また消防功勞者としては縣知事より功勞徽章を受け、農産物品評會は從來の慣例を破つて、下小野の小學校に於いて開催、南部二千人の感謝の的となつた。母堂とみ子刀自なほ健在、令閨さだ子さんとの間に一男二女あり、圓滿な家庭である。

府馬町府馬

町會議員　勳七等　**鈴木平重郎**

書畫に造詣深く天資溫厚なる氏は明治十六年十月十五日、累代名主を勤めて名ある當家に生を享けた。今は亡き嚴父猛氏は府馬村四代目の村長にして、村發展の爲に多大の貢献をなせる功勞者であつた。當主又その志を繼ぎ現に町會議員、衛生組合長、區協議員、在鄕軍人分會名譽會員の公職を勤めてゐる

孝子夫人

なほ氏は千葉師範出身の頭腦衆に勝れたる士にして、十八歳の時より教鞭を執り、現在なほ教職に在りて、兒童父兄間の人望頗る厚く、その育英界に盡瘁せる功勞大なるものあり、表彰は數知れず、教育の功勞者として勳七等に敍されてゐる。なほその間に日露の役に衛生部看護長として出征せし勇士である令閨孝子さんは内に在りて夫君を助けること大、夙に賢夫人の譽れ高く、三十年前より裁縫傳習所を開き、現在七十人程の弟子がある。

多古町多古

町會議員　**平山懿夫**

平山家は十六代目の舊家、代々農を本業となして今日に及んでゐる。氏は先代德次郎氏の長男、明治三十年五月十五日の出生、多古農學校出身の日蓮信者で、佐倉聯隊に入營して歩兵上等兵に昇進、除隊後は家業に精進し、他面また町内公共方面に勵興、人望を博するに至つた。曾て第一回國勢調査員として盡力したが現在は町會議員に選ばれて町政に與り、町の圓滿なる發展を目標に邁進、貢献しつゝある前途有爲の士である。家庭にはよね子夫人との間に一男二女があり、和かさを見せてゐる。

神里村虫幡

村會議員　**宮本清市**

質實敦厚なる人格者として村民の尊敬を受けてゐる氏は明治十八年四月十九日生を享けた。後ち先代國松氏の懇望を容

れて當家を繼ぎし人、永年臺灣鹽水港製糖會社に勤務してゐたが、現在は家業たる農に精進しその傍ら村治に意を注ぎ、村會議員、區會議員、產業組合役員の重任にありて全責任を以て鞅掌してゐる。

また當家は十代以上も連綿と續く土地切つての舊家にして累代名主總代を勤めた功ある家柄である。先代氏は警視廳巡査を拜命し臺灣征討に參加せる國家の功勞者であつたがその征討中に病にかゝり惜まれて永眠した。現在家には養嗣子武雄氏がゐる。家庭は圓滿近在羨望の的となつてゐる。

八都村米ノ井

村會議員 正八位 **圓藤重雄**

當家は十餘代連綿と續く舊家にして、代々農を業として來たが先々代より獸醫を開業し現在に至つたのである。氏は明治三十四年九月二十五日、勘次郎氏の長男に生れし人、日本獸醫學校出身の俊才にして、また獸醫少尉でもある。現に村會議員、其他名公職を現任中であるが、曩に助役、區長を勤めし事あり、助役時代の好評嘖々たるもので村民の信望を一身に集めてゐる。また在鄉軍人分會長として表彰を受けた事もある。

良文村五鄉內

村會議員 **相川憲司**

當家は代々地主として知らるゝ舊家にして、祖父源左衛門氏は收入役を永く勤め、區長たること六回、又助役として村治の上に多大の功勞を遺せし人なり。氏は明治三十年七月五日榮十郎氏長男として生る渡邊操氏經營の良文農學校に學び渡邊氏の薫陶を受く、現在村會議員、耕地整理組合長、農會長、戶數割調査員、出納檢査員等の重職にあり殊に村農會に於る盡力は產業組合と協調、實動的機能としての役割を果して遺憾なく農事發展に多大の功績をなす。又耕地整理の負債完了、納稅の成績向上に力を致す所大にして從來村政の中心たるべく期待さるゝ士である。家庭は一男二女のほか夫人とも子さん、さき子母堂と共に圓滿を極めてゐる。

山倉村桐谷

村會議員 **木內要朗**（トシ）

當家は寺の火災に當り記錄等消失して開祖不明なるも、古刀「兼吉」を家寶として傳ふるところより見るも、當地切つての舊家たる由緒を物語つてゐる。父君常次郎氏は多年村長、助役、村會議員、學務委員、その他村治各公名譽職を歷任して、多大の功勞ありし人である。氏はその長男として明治二十七年十一月十六日の岳降、近衞步兵二聯隊に兵役を卒へ元在鄉軍人分會副分會長、國勢調査員、統計調査委員、農會長、消防部長等を歷任して、現在村會議員、產業組合監事、方面委員などを勤め村治、產業の爲めに大いなる力を致し、その溫容にして剛毅なる風格と共に信望あり將來村治の樞軸たるべく多大の期待を以てされる人である。趣味としては讀書三昧の境地を第一とし信仰は淨土宗である。家庭は夫人いちさんとの間に三男四女あり、長男幹氏は前青年團副團長たり、水稻成績優良により銀盃を受けた篤農家である。

常磐村玉造

村會議員 **石井銀治郎**

讀書に趣味を持つ溫厚なる氏は明治二十五年一月三日先代常次郎氏の長男に生を享けた。當家は十代も續く舊家、農を家業としてゐるが、副業に養蠶を營み、尊父氏は村會議員、學務委員其他を歷任し功のあつた人で、昭和十二年九月二十五日八十七歲を以て歿した。當主もまた、現に村會議員として村發展の爲に全責任を以て鞅掌してゐる。家族は九人、常に圓滿なる家庭で羨望の的である。

久賀村大門

元縣會議員 **五木田太郎吉**

當家は豐太閤小田原征伐の際、加藤清正に敗れて當地に歸農した四百年來の舊家、村內に於ける名望家で氏は曾て縣會議員に推されて數々の殊勳を稱へられてゐる。氏はまた常に稻荷山成就院の復興を叫びつゝある一人として名高い當山はその昔大木食上人として著聞する俊辨上人を開基となすもので、上人は大刀根の沿岸小松の鄉大野淸左衛門氏の長男に生れ、十五歲の時薙髮受戒、僧名を俊辨と稱し、祐天上人に私淑し、十八歲にして修業練磨の旅を續け、或は京都智山に留

まり、或は高野山の學寮に登るなどして名匠碩德に就てその蘊奥を究めるところがあつた。三十五歳の時、大門の入作に一宇を建立し、京都伏見の正一位稲荷大明神を分體して大門の鎭守に祭祀し、これが別當として山號を稲荷山、寺號を成就院と稱し、藥師如來を本尊となして開基した。上人五十三歳の時、五穀を斷ち草根木實を食とし、諸國行脚の雲水となり、高山靈地に參籠して專ら衆生の苦患を救ひ、關の東西を巡錫すること實に八ケ年、歸鄕するやその記念として竹生島辯財天を大門谿穴に勸請した。後ち東北に巡錫し、加持祈禱の修力によつて專ら衆生を濟度したが、歸錫と共に日本全國巡錫滿願の碑を當山の後丘に樹てた。思ふに上人が終始一貫の求道修行は宇宙の玄妙を會得し、神變加持祈禱の護法は衆生の災厄苦患一切を除き、その修力は色心不二の妙趣と眞如實相の眞理を極め、大門に隱遁して後ち元文二年十月三十一日を以て會て所造の三摩耶城に入定された。爾來星霜相隔つること二百有餘年、しかもその本誓たる遺訓は日夕信者個々の心理に感應同交して眼前に髣髴し、上人の大慈悲に浴するもの擧げて數ふべくもない。

日吉村篠本

村會議員 勳八等 **江波戸盛太郎**

當家は鎌倉時代より傳承せる眞言宗の舊家、養父三造氏は村會議員として名あり、君は明治十一年七月十四日の生れ十五代目を襲ぐ、日吉尋常高等小學校卒業近衞歩兵第四聯隊入隊、日露戰役に從軍して勳八等を賜はれる上等兵、農家組合幹事に在職した。產業組合に基ける自治發展を念願として公務に盡瘁す。現在は村會議員として村政に與つてゐる。

吉田村神崎

村會議員 **秋葉伊重**

當家は代々名主として太郎右衞門氏を襲名せる舊家である。農事を家業とせしが先代太郎右衞門氏より材木商を創め、盛業中である。氏はその長男として明治十四年一月十日に生れ、資性極めて溫厚篤實にして信望あり、元區長代理、區長として區內融和に盡力、現在推されて村會議員たり。又消防組小頭をも勤め、村治上に貢獻する處尠なくない。長男太一郎氏は現在警視廳巡査を拜命中。

中村南中

村會議員 **飯田善郎**

當家は飯田興市家より分家なし現在五代を傳へる舊家なり。父君萬次郎氏も村會議員として功勞のあつた人、氏はその長男として明治十八年四月廿五日の岳降なり。若き頃より劍道を好み現に武德會多古町支所幹事を務む。精勵して佐原支所長より二回

の感狀を受く。現在村會議員、自治會々長として村自治諸般に全幅の努力を續けて功績あり村民の多大なる信望を受く。長男喜一氏は二十七歳、多古縣立農學校を卒業農事に從事し、ミチ母堂は七十九歳の高齡にして健在なり。

豐和村飯塚

村會議員 **椿惠三郎**

當家は元祿年間以來の舊家にして、尊父寅之助氏は收入役、區長、助役、村長等の公名擧職を歷任すること多年に亙り滅私奉公、鋭意村治に盡瘁し、村產業に村政に多大の貢獻を遺し、その高潔なる人格と共に村民の追慕を受けてゐる。氏はその長男として明治十四年十月十三日の岳降にして、嚴父の遺訓を亞ぎて、常に誠心を本旨とし、眞摯村各般のことに獻身的努力をなし、推輓されて現在區長村會議員として愈々信望を篤め、其功績大なり、農業の外に精米を兼業して繁榮を極む、二男二女の四子あり、長男喜久男氏、既にまた二男一女を擧げ、家庭頗る圓滿である。

古城村六軒家

村會議員 勳八等 功七級 **飯田博久**

飯田家は古城村六軒家部落の草分けの舊家當時、下野國より移住した士分で、苗字帶刀を許された名家門、分家を出すこと十二三軒に及び、古くから名主を勤め、また戶長等を命ぜられた。氏は明治十六年一月二十三日、德藏氏長男に生れ、日露戰爭には野砲兵として第三軍に屬して出征、胸部に銃創を受けて原隊に歸つたが、功に依つて勳八等功七級に叙せられた勇士である。後ち役場吏員として活動精勵し郡長より表彰されて紋服を贈られた。現在は三期目の村會議員 して村政に參與、村會に於ける一方の重鎭として仰がれてゐる。早苗子夫人は前に國防婦人會副會長として盡瘁したことがあり、長男英雄君は旭農學校出身、香取郡養蠶組合に勤務してゐる。

萬歳村溝原

村會議員 **大湊雄治郎**

當家は土地有數の舊家にして、代々農たりしが、祖父の代より材木業を營み、先代忠右衞門氏の時、遇々日露戰役に當り、船舶材としての松杉の異常な値上りは、氏をして一擧相當の資產を築かしめるに到り、氏は又村會議員、區長として村治の上に功勞あり殊に萬歳學校の新築には、特に盡力なし其の功績顯著であつた。雄次郎氏はその長男として明治十四年四月一日の岳降、資性溫厚にして責任觀念に厚く元區長として、部落の和合に努力して德望あり、現在村會議員に推輓され村治に鋭意貢獻なしつゝある。家庭は長男忠良氏（廿七歳）に夫人を迎へ既

に孫さんあり極めて圓滿である。

橋村新宿

村會議員 **柳堀文喜**

元祿時代より連綿と續く當家は商業を家業となして來た家柄である。累代篤學の士が出る家にして、祖父庄左衛門氏は寺子屋教育を經て當村の偉材たりし柳翁に師事し勉學につとめ、村會議員、區長と推されし人格者であつた。當主は先代正則氏の長男明治三十二年二月二日の岳降である。氏もまた幼時より資性英邁を以て聞え、小學校には不自由の身を松葉杖によりて通學、卒業後は獨學にて勉學にはげみ、天性の英才は益々圓熟し衆望を負うて昭和七年に學務委員に推され、次で村會議員に選出、昭和十二年には區長に擧げられ其他の名公職を兼任し盡瘁してゐる。實に氏こそ當村に無くてはならぬ人物にして人望を一身に集めてゐるが、特に青年間の衆望が厚い。家にあさ子夫人との間に一男四女あり、母堂いの子さんなほ矍鑠たるものである。

豊里村下森戸

村會議員 **木内由藏**

明治二十七年十月二十五日先代勘次郎氏の男に生れた氏は資性溫順、人格高潔にして當村自治の功勞者、道路愛護會員として表彰を受けた事がある。尊父氏は篤農家を以て聞えた人で、曾てまた日清、日露の兩役に參戰せる勇士でもあつた。その時の戰功により勳八等に叙せられた。尚ほ耕地整理組合委員の重任を勤めた功勞者でもある。當主は青年時代より村發展の爲に盡し、青年團分團長、消防部長、區長、農會長に推されて鞅掌精進、努力し、現在は村會議員、學務委員、社寺總代を兼ねて盡瘁、その功大なるものあり、まだ五十歳前の働き盛りであり、多大の期待を寄せられ衆望を一身に集め ゐる。令閨たつ子さんとの間に二男三女がある。

香取町返田

町會議員 **伊藤靜壽**

町會議員、弘正會幹事中の白眉、少壯有爲の俊器英才、町政革新の急先鋒として今、活躍貢献してゐる氏は明治三十五年八月二十五日先代作次郎氏の長男に生を享けた。尊父氏も多年區長として町政の爲に貢献したる功ある人、また氏子總代として會計

を監理した人でもある。今、六十九歳の高齢であるが青年に劣らぬ元氣振りでなほ健在、家庭は十人の大家族にて圓滿振りは近在羨望の的となつてゐる。

府馬町府馬

町會議員 **前田佐**

資性圓滿濶達、町の中心人物として尊敬と感謝を一身に浴びてゐる氏は、明治二十年六月八日今は亡き先代丑松氏の長男に生を享けた。曩には區長代理、消防部長を多年勤めて功あり、衆望を集めて町會議員、區長、區協議員、戸數割調査委員、産業組合理事、神社氏子總代に推輓され、一意專心町發展の爲に盡力中であり、その業績一々枚擧に遑なく、今後の町政も氏に俟つところ頗る大である。尚ほ當家は十數代連綿と續きし舊家にして、先代氏は府馬村當時の村長其の他助役、收入役、村會議員、區長、凡ての名、公職を歴任せる功勞者、溫厚なる人格者にて、今もその名を謳はれてゐる。現在家には令閨みの子さんとの間に二男子あり、圓滿な家庭である。

栗源町西田部

消防副組頭 **伊藤德三郎**

元祿年代より連綿相繼ぐこと實に十五代の當家は、村内に於ける屈指の古き家柄で、代々農を以て今日に至つてゐる。先代眞三氏は區民から推されて區長に就任多年區政の上に盡力貢献した功勞は決して尠くない。當主はその男、明治三十五年十一月十日に出生した將にこれからの人、家業に精進する一方村内の事に與り、曩に青年團長に選ばれて村青年層の中心的人物として活躍し、農業報國の根本精神を高揚してこれが實際化に盡すところ大なるものがあり、また消防部長を經て現在は消防副組頭及び養蠶實行組合長の任に在つて鋭意努力を傾注しつゝあるが、その溫厚篤實なる人格と共に、今後に多大の嘱目を有たれてゐる。家は兩親の外に七人の家族で常に和かなうるほひのある生活につかつてゐる。

八都村小見

八都郵便局長 村會議員 勳七等 **田信吉**

盆栽に造詣深き氏は地方屈指の大地主たる當家に明治十四年七月二十二日生を享けた溫厚篤實な人格者であるが内に烈烈たる正義心あり日露戰役に參戰した勇士でもあり、勳七等に叙されてゐる。現在は村會議員（三十年以上）の重任にありて盡瘁中、その功一々枚擧に遑なき程であるが、八都郵便局の創立當初よりの局長として活躍貢献してゐる。なほ當郵便局は三等郵便局として大正十年八月二十一日の創立である。爲替、貯金、郵便其他四名の事務員を以て取扱つてゐるがその成績は縣下に於ても優秀なるもの、

表彰數知れず、昭和五年には東總三等局長會々長より模範局として表彰され、同十二年には成績優良なるにより地方遞信局長から褒狀を受くる等、其他數知れない。なほ郵便貯金成績は、受領六、七三九件で五六、〇九一、一九錢。拂一、五九二件で四八、八五一、二二錢の優秀なるものがある。

良文村久保

村會議員 **細野三爾**

元祿時代より傳はる舊家にして代々地主たり、父君精作氏は、曾つて收入役、助役、村會議員、郡會議員等の名、公職を歴任し、永年村政の上に巨大な足跡を殘し、現在八十三歳の高齢を以て現存され、村政の最長老たり。良文農學校問題及び縣道問題の解決に當りて多大の功績あり村民の信望を集めた人である。氏はその長男として明治十九年十二月十三日に生れ、嚴父の衣鉢を襲ぎ現在村會議員（三期）區長（七回）日本弘道會東部支部評議員等として鋭意村治、部落經濟打開等に精勵してゐる。現在久保區四十戸は納税に於いては、縣下隨一の好成績を擧げ縣當局より度々表彰されてゐる。この完全なる協力一致も氏の熱心なる努力に俟つものであり信望を得てゐる。家族は一男三女あり長男清一氏は既に夫人を迎へて令孫あり、尊父を初め、夫人かねさんなど九人の大家族にして頗る圓滿を極めてゐる。

常磐村玉造

村會議員 **八木常之助**

國勢調査に盡瘁貢献し表彰を受けたる氏は明治十七年九月一日の岳降である。現に村會議員として尚ほも村政に盡力してゐるが、曩には統計委員、養蠶實行組合長の重任を勤めた事がある。長男誠氏（二十五歳）も現在青年團長として村青年の指導に當つてゐるが、その功勲なからず、衆庶の範とされてゐる。その夫人も國防婦人會員として貢献裨益するところ多く、當家の村に盡せる功は燦として光芒を放つてゐる。

中村南和田

村會議員 **並木匡平**

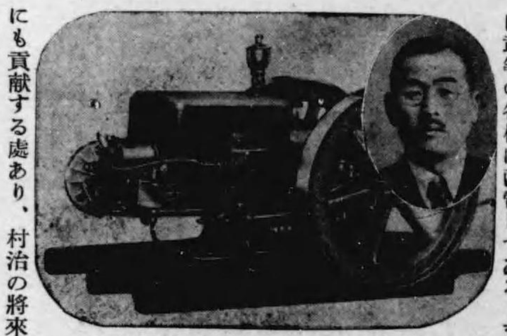
千代田村助役を勤めて功ある鈴木金太郎氏の男に明治二十四年二月十二日生を享けた氏は後ち當家の懇望を容れて先代紋太郎氏のあとを繼ぎし資性溫良なる人物、當家は累代名主を勤めし家柄、養父氏は村會議員に推されし人であつたが、當主も現に村會議員の重任を鞅掌中であり、産業組合

長としても盡瘁してゐる。その功大である、當村産業組合の堅實振りは廣く全國にも有名であるが、それは實に氏の努力によるものである。氏はまた千葉合同銀行に二十八年間勤續、中山支店長に榮進した人でもある。家に養嗣子茂樹君（二十三歳）は家業たる農に從事してゐる。

古城村万力

村會議員 **林元治**

當家は當干潟開發當時山倉村大角より移住し、代々農を以て家業となし次郎三郎を襲名したる舊家である。曾祖父道利氏は號を耕泉と稱して漢學に秀れ寺子屋を開き近郷の子女の教育に多大の薫化を與へた人である。祖父林治氏は明治中葉の頃村書記として自治に關與し、尊父次郎三郎氏は篤農家として知られた人であつた。氏はその長男として明治三十年四月に呱々の聲を擧げ、旭農學校卒業後夙に農具の改良に思念研究して籾剝機の製作發賣を手始めに爾來蘊蓄を傾け「アサヒ發動機（二馬力—四馬力）の完成」を見農村の好評を得て現に香取、匝瑳、海上山武等の各村に直賣してゐる。又日夜改良、廉價製作研究に精勵すると同時に、前統計調査委員、現村會議員として村治の爲めにも貢献する處あり、村治の將來に多大の囑望を受けてゐる人格圓滿の仁士である。家庭はもと母堂並にこと夫人との間に三男二女あり頗る圓滿である。因に長男繁樹君（十八）は匝瑳中學に在學中である。



萬歳村萬歳

村會議員 **花香儀兵衛**

當家は既に十四代を傳へ、元祿年間干潟開拓のとき、當地に居住せる舊家である。祖父儀兵衛氏は曾つて副戸長として村治の上に顯著な功勞を遺した人である氏は明治二十一年三月二十七日敬三郎氏次男として生れ、實兄の逝去後家督を相續す。資性淳厚にして然かも剛毅なり。常に公正なる心事の保有者たり氏の木鐸たる眞面目は村民の人望を得推輓されて村會議員として活躍中である。父君敬三郎氏（七十四歳）母堂さくさん（七十五歳）共に高齢にして健在であり、夫人せゑさん、長男圭司氏夫妻等三夫婦の睦じき家庭は村内にも珍らしく、その圓滿なことは村民の羨望の的となつてゐる。

橘村宮本

村會議員 **飯田平太郎**

東大神の祾宜大人を祖とする由緒深き

當家に、先代萬吉氏の男として明治十六年十二月五日生を享けた氏は資性溫厚篤實、また自力獨行の人である。十歳の時尊父氏に病歿されて家を繼ぎし苦勞を知る人、家業たる農に專心精進し篤農家の聞え高く、また畜産方面にも熱心にして氏の愛育せる芳月號は郡下名種馬として三等賞に表彰された。また小作納稅では模範とされて地主會長より特別賞を受け篤農家としては郡農會長大賀雄次郎氏より表彰狀及び木杯一組を贈られ、なほ肥料の研究は郡內屈指にして、縣より諮問されし事もあり、農會主催の堆肥競技會には優勝し、郡農會より特別賞を贈られる事七回に及ぶ。また人望を一身に聚めてゐる氏は現に村會議員に推されて盡瘁中であるが、曩には區長、區長代理、國勢調査員、農會總代を兼ねて盡力せし事もあり、その功勞なからず、また消防方面にも功がある。長男正治氏は日支事變に出征、壯烈なる戰死を遂げし國家の勳功者、次男清氏も滿洲事變に出動せる勇士である。

豐里村下森戸

村會議員 **宮內清治郎**

曾て區長、青年團長、同副團長、消防部長同小頭を多年勤めて功勞多大なる氏は明治三十五年八月十五日今は亡き高橋重義氏の男に生れた。後ち二十一歳の時當家に望まれて先代丑松氏のあとを繼ぎし人、當家は大阪の役冬の陣に出陣せる宮內孫右門が中興の祖、累代農を家業として來たが、先代より澱粉工場を經營し、當主も現に經營中であり、その傍ら村會議員を現任し各方面に盡瘁、道路愛護會を設立し縣地方課より表彰された事もある。家に母堂とよ子刀自健在、令閨つる子さんとの間に二男一女あり、長男秀夫氏は二十五歳の眞面目な青年である。

府馬町長岡

町會議員 **寺本縫右衞門**

當家は分家の後既に六代に及ぶ舊家にして祖父は曾つて名主總代を勤めた家柄である。代々農を以て傳へ先代岩松氏は區長並に初代の村會議員等を勤めて村政上に多くの貢獻を遺した人である。氏はその長男として明治十三年三月二十二日の岳降、天性溫厚篤實にして眞摯なる人、曩に消防部長、青年團分團長等を歷任し區長一期（四年）を經て功績多く村民の推輓を受

けて昨十二年五月町會議員となる。又傳染病豫防委員及區養蠶實行組合長として盡瘁し殊に養蠶組合業績の向上顯著なるものあり、その功により縣繭市場協會より表彰された。政黨色なし趣味として盆栽、和歌の雅趣を愛好する。

近作

春雨に生ひし早わらび秋のきて
かれはてつとも根をやとゞめむ

我はたゞ思ひのまゝに現し世を
祖先のをしへ守りて渡らむ

縫石

家族はシン夫人との間に四男二女あり。子福者として羨まれる程の圓滿和合の家庭である。長男安雄氏は現に農家組合長たり、三男茂氏は佐倉聯隊より上等兵として支那事變に出征活躍中である。

多古町

町會議員 **小笠原市五郎**

當家は二十五代の家系を傳へ、それ以前は不詳である、代々農を以て本郡栗源村に在つたが二代前に當町に出で居住した舊家である。氏は明治廿七年五月六日の岳降にして、曩に消防第一部の小頭並に部長を七ケ年に亙り勤續、その功勞によつて表彰された。十三年前より新聞取次店を本業とし、東京日日新聞、國民新聞、中外新報等を取扱ひ當町同業界に君臨してゐる。氏は夙に町政諸般のことを思念しその溫厚にして而も剛毅の資性と明敏眞摯の風格は町民多大の信望を擔ひ現に町會議員として活躍、將來町治の上に多大の囑望を以て俟たるゝ人である。家庭はとき夫人との間に二女あり、極めて圓滿和樂他人羨望の的である。

八都村神生

村會議員 **竹蓋透**

當家は現在まで十四代を傳へる土地有數の舊家にして代々農たり、尊父長松氏は永く信用組合長、收入役、村會議員、等の外村各方面の公名譽職に歷任村治の上に多大な足跡を印し今尙七十八歳の高齡を保ち壯者をしのぐ壯健振りを示し村政の長老的存在となつてゐる。氏はその次男として生れ暫く東京に在つたが、長兄の逝去に會ひ家督を繼ぎ、爾來農業と併せ養鷄をも始め既に八百羽に達する飼養をなしつゝあり。理智に富み熱意の仁士として信望あり、元消防小頭たり現に推輓されて村會議員たり。銳意村治に盡力し將來を囑望されてゐる人である。家庭は六人にして極めて圓滿である。

先代長松氏

良文村貝塚

村會議員 **菅佐原源治郎**

先代故勝藏氏は自由黨々員として多年村會議員、助役、郡會議員として功勞あり、又當家は代々名主を勤め、貝塚の草分けとして知らるゝ程の舊家である。氏

は勝藏氏長男として、明治三年十月五日の岳降、嚴父の衣鉢を襲ぎ、元郡會議員助役、養蠶組合長、農會長、學務委員、區長等の要職を經て現在村會議員、土木委員、日本弘道會東部支會長、小見川農學校評議員、村誌編纂主任として村政の上に多大の功勞あり、村治の長老として信望極めて厚し。殊に良文農學校に私財を投じて、現在の縣立小見川農學校まで育て上げたのも氏である。養嗣子直司氏は村書記、令孫秀夫氏は青年團長を勤め曾孫既に三人の繁榮圓滿の家庭である。

常磐村玉造

村會議員 **平山昌示**

氏は明治十七年六月十日、榮助氏の長男に生を享けた。當家は累代農を家業となして來た舊家であるが、昭和三年より雜貨店を開き現在に至つたのである。氏は夙に家業に精勵する傍ら自治、産業、教育、交通に意を注ぎ、曩に産業組合創立委員として活躍貢献し、現在産業組合監事、村會議員、學務委員、村道路委員の重任にありて盡瘁してゐるが、その功績他に比類を見ず特に縣道問題、役場新築、學校問題等には先頭に立ちて東奔西走活躍し、村民の感謝を受けて、衆望を一身に集めてゐる。盆栽、書畫に造詣深く、家族は四人ある。長男茂氏は消防方面に意を注ぎ夫人は國防婦人會員として活躍してゐる

中村南中

村會議員 **飯田虎之輔**

三百年以來代々當地に農を以て繼承された舊家にして、嚴父故縫右衛門氏は村會議員として、多年村政の上に功勞を遺し七十三歳の高齢を保つた人である。氏はその二男として生れた。現在村會議員として、村治に盡瘁して溫厚なる人格と共に信望厚し長男英夫（二十七歳）氏は現在近衛三聯隊歩兵少尉として軍籍にあり、長女勝子さんは裁縫女學校卒業後現在立正高女に在職中にして東京に嫁せり。

古城村萬力

村會議員 **石毛正衛**

當家は分家獨立してより六代目、先代辰巳氏は村會議員、收入役に選ばれて就任したが不幸にして眼病を患ひ、殆んど失明に近くなるに及んで公職を去り、目下は園藝に餘念がない。當主は本村元村

長鈴木安太郎氏の四男にして明治三十年四月二十三日の生れ、後ち同家に入籍した溫厚篤實、書畫俳句等に趣味を有し、曾ては消防部長、國勢及び統計各調査員をつとめ、現在は村會議員として村に重きを措かれてゐる。

萬歳村萬歳

村會議員 **伊知地源一郎**

當家の祖は往昔江州にあり現在尙滋賀縣栗太郡葉山村大字林に本家あり、元當家は江戸に出で當時鑄物の名匠として將軍家の御用を勤め、曾て水戸光圀より感狀と共に直筆の書一幅を受けし事あり。後八日市場に金物業を營み、元祿年間當地干潟開墾の際土地を買受け代々農を以て當地に永住せる舊家である。他國へ來り安住の地を確保せるの御禮として、江戸深川の御鑄工田中七右衛門藤原知義に依頼して釣鐘を鑄、鄕土の菩提寺「一向宗長德寺」に寄進、今も尙殘つてゐる。現に氏は村會議員として、村治の爲めに鋭意盡力、村民多大の信望を博してゐるが、氏は明治十四年七月二十八日の岳降である。

橘村石出

村會議員 **保立誠一郎**

當家は地方切つての舊家累代農を家業となして來た家柄にして祖父半兵衛氏は名主、戸長を勤め自治體開發の基礎をなした功勞者であつた。また先代八十吉氏も耕地整理組合評議員に推されて盡瘁せる人であつたが、惜しくも早逝された。當主はその男明治十三年十一月十三日の岳降である。小學校卒業後、私塾に漢學を學んだ篤學の士、資性溫厚にして昭和六年區長に推され現任中であるが、同十二年には又村會議員に選出され、また憲家總代も現任中である。その盡瘁せる功勲からず、特に銃後の護りには、全責任を以て鞅掌、村民より感謝されてゐる。戰時體制下の非常時の折から、氏の如き努力の人を有する當村は、その前途ます〳〵發展の一路を躍進するであらう。

多古町喜多

町會議員 **土屋靜造**

氏は區長に推さるゝこと二期、溫厚なる君子人である。常に平和なる自治の發達を念願してゐる。今特に町民に選ばれて町會議員に列し宿年の主張顯現へと邁往盡瘁してゐる。生家は遠く天正年間に始祖を發し、海老津城主の家老職を勤めた家柄であつたが、城主の沒落と共に離散、當地に移住して農に歸し、爾來耕鋤

に精勵して現在に至つた名門家で、明治維新までは名主役を勤めた。父君泰藏氏は今、八十五歳の長壽を以てなほ矍鑠たるものがあるが、曾ては區長として多年盡瘁貢献し、また耕地整理委員に推さるるや、鋭意完成を期圖して奔走、期圖成るや退職して悠々今に及んでゐる。當主夫人ちよ子さんは明治十二年生れの溫雅貞淑の人である。

八都村高野

村會議員 **高木勘治**

質實敦厚、蔭の功勞者として衆望を一身に集めてゐる氏は明治十八年十一月一日竹松氏の長男に生れた。當家は三十四代を傳ふ舊家にして、累代長命の傳統である。尊父氏も七十六歳の長壽を完ふせる人にして、また村長、助役を歴任し、日露戰爭には內治の功により勳八等に叙せられし功勞者でもある。當主は現在、村會議員の重任にありて先代にも劣らぬ程の功勞者である。

良文村和泉

村會議員 **七五三武**

當家は代々大地主として傳はり名主を勤めた村內有數の舊家であるが、當家の記錄によると享保年間まで分明し、その以前は年代不詳となつてゐる。父君利三氏は多年區長として、村政に功勞あつた人である、氏はその長男として明治二十八年十二月二十八日に生れ、嚴父の衣鉢を繼ぐ。元區長を勤め現在村會議員として、村政の爲めに貢献してゐるが、氏は史蹟の探究に趣味あり、村誌編纂委員として神社寺院の舊蹟を調査し又權限原の熊野神社拜殿に一千圓を献納し村民多大の賞讃を受けた。資性溫容且つ眞摯、村政上の將來にその寄與を期待されてゐる人である。家庭は一男四女、母堂きよさん、夫人よしさんとの七人、極めて圓滿である。

中村南借當

村會議員 **三枝芳雄**

當家は祖父國五郎氏が三枝桂次郎家より分家したもので父君竹次郎氏は區長を勤めた人である。氏はその長男として明治三十二年四月一日に生る。中村小學校を卒へ多古縣立農學校を卒後爾來農事に專心する精農家であるが、元青年團長、區長代理として活躍し現在は村會議員、消防第五部長在鄕軍人分會副會長、統計調査員、產業組合役員等に歴任し、村治產業の各方面に全幅的精進を續け、村政の將來に多大の期待を掛けられてゐる。表彰も數度に及び、長男庄一君（十八歳）は多古縣立

農學校卒業農事に精勵してゐる。

古城村万力

村會議員 **石井朝光**

當家は干潟開發後鏑木內山宿より移住し來つたもので、二代前の祖八之亟氏は當時部落民の代表として活動大いに貢献した偉材だつた。先代利重郎氏は特に農事に精勵努力し、また明治二十年頃より蠶業を勵んで家運挽回したものである。當主はその長男として明治二十四年二月二十四日の出生、祖父氏の意を體して家業に努めると共に村治にも關與して益々努力貢献し、現に村會議員を始め、養蠶實行組合長、農事實行組合長等に推されてゐるほどの人望家であり、今後の活躍は更に村民の期待をかけられてゐる有爲の士である。

萬歳村萬歳

村會議員 **渡邊廣藏**

明治十九年十二月十五日善兵衛氏の二男に生を享けた氏は、現在當村草分けの舊家たる本家より分かれ、一家を構へてゐる程の自力獨行の士である。資性溫厚なる人格者にして、衆望を一身に集め、推されて自治方面に盡瘁貢献せる事多年、村會議員、潟水害豫防組合議員、區長の重任を勤めその功は燦として光芒を放ち、現在は村會議員として尙ほも盡瘁してゐる。當村は今や文字通りの努力の權化そのものゝ如き氏の盡力により、益々發展する途上にある。家には貞淑溫雅なる゛つ子夫人との間に三男子あり、長男諄氏は二十八歳にて父君を助け、家業の上に從事してゐる。その夫人との間に一男子があり、家庭は仲々の圓滿振りである。

多古町多古

町會議員 **林作二郎**

先代芳藏氏の二男に明治十八年生を享けた氏は資性溫良なる人格者、明治四十年に分家を樹てたる人にして、令兄氏は縣會議員に推輓されて盡瘁せる縣政の功勞者であつたが、氏もまた町會議員二期目を現任中であり、學務委員、信用組合協議員、繭絲場協議員、多古家政女學校商議員等も兼ねて鞅掌してゐるが、その自治に產業に敎育に盡せる功大なるものがある。また曾ては消防組頭の重任にありて盡瘁貢献せし事もあり、鬼熊事件當時の活躍振りは町民の感謝と尊敬を一身に受けた程で

ある。また永年勤續の功により表彰された事もある。なほ現在は富國徴兵相互會社事務取扱所、東京火災保險株式會社代理店、讀賣新聞專賣所を經營して居り、當町に益する處多大なものがある。

八都村

村會議員 八木金作

當家は連綿十二代を傳へる土地有數家にして、先代辰五郎氏は多年區長、村會議員として、部落和合に村治の諸般に多くの功績を殘した人である。氏は明治三十四年十月三十日辰五郎氏次男として生れ、佐原中學を卒へて近衛騎兵に現役を果し、長兄の早逝に會つて家督を繼ぎ、元區長、現に村會議員として眞摯なる努力を傾けてゐる人、資性溫厚にして眞面目村民の人望を得てゐる。家庭は夫人よしさんとの間に二男一女あり極めて圓滿である。

良文村貝塚

村會議員 高橋嘉三郎

當家は良文村草分けにして、往昔三軒の地主で當地を開發し、現存せるは當家と菅佐原治郎左衛門家にして、由緒深き舊家なり。諏訪の臺と云ふ地名あり、貝塚は諏訪の先祖が居住したりとの傳說がある先祖太郎左衛門を祭る諏訪神社ありて村内最古の神社にして、貝塚の石器は三千年以上を經過し考古學上著名なり。當家の祖先は代々名主にして、家寶に藤四郎より受けし土瓶あり七百年前の燒物の始めなりと云はる。又三方の土手に大樹あり當家の建物も當時より存し考古的價値あるものなりと。氏は明治十五年六月十五日巳之助氏長男として生れ、民政黨に屬し村會議員として村治に產業に貢獻する處多し、長男嘉清氏は目下支那事變に活躍中にして家庭頗る圓滿なり。

中村鴻巢

村會議員 宮内康太郎

當家は祖父の代まで嘉右衛門氏を襲名し代代名主を勤め、鎌倉時代の遺書あり當村有數の舊家である。往昔鴻巢のありしと傳へられる直徑一丈三尺に餘る松の枯材が當家に保存されてゐる。氏は文三郎氏長男として明治十一年三月廿四日に生る。中村小學校を卒へ漢學塾に學び現在に於いても漢詩を唯一の趣味とする人である。現在村會議員として、村治に盡力してゐるが蠶業の研究に當つては早くより我が國產業の主要なる位置と、農村の持たさるべき役割に着目し、眞摯これが伸展に務め組合の設立、技術の改良などに多大の功勞あり。又資性溫厚にして信望あり、長

男隣知氏は中央大學を出て東京に於いて實業に就き、次男藏司氏は現在家業に從つてゐる。

古城村万力

村會議員 椎名力

當家は月岡、原遠城寺氏等と共に鏑木城主四天王の一に數へられたる椎名家の後裔で、干潟開墾當時今の地に移住した豪族にして豪農の家柄である。先代初太郎氏は夙に村會議員、學務委員、村長、郡會議員等に推されて活躍貢献して、功績甚だ睹るべきものあり令閥四隣に厚き人であつた。當主は先代の令弟氏の男、明治三十年一月五日の出生、後ち當家を嗣いだ人で、現村會議員、寺社總代等を兼ねて衆望に副はんことを念となしてゐる。

萬歲村萬歲

村會議員 寺島濱治郎

當家は分家して既に四代を累ねてゐる。農を本業となし先代繁松氏は家業に精進努力して、大正八年六月時事新報社より精農家として表彰されたほどである。當主はその長男、明治十八年八月十五日の生れで疾くに家業を助け、一面また村内公共のことに意を注ぐところあり、期せずして衆望をあつめ、現に三期目の村會議員、萬歲村電化製繩組合長、金錢債務調停委員等に擧げられて兼任盡瘁貢献してゐる。なほ萬歲村電化製繩組合は山、畑の少ない當村としては有意義な副業で、現組合員は六十一名を擁し、年產六萬貫、約七千圓の製產高を示し、相當の利益を齎らしてゐる。たか子夫人との間に二男二女あり、長男清左衛門氏またはな子さんを迎へて二子がある。

八都村川上

村會議員 菅井庄一

當家は菅井庄藏家の分家に當り、尊父由藏氏が新宅として一家を創設したもので、當村切つての素封家菅井庄一郎家はその總本家に當る。氏は由藏氏長男として明治三十六年九月二十日に生れ、元區長、消防部長として盡力、溫厚なる人格と共に聲望あり推輓されて村會議員となり、最年少議員として眞摯村治に活動將來を期待さるる人である。殊に村道改修、小學校の統一問題に功績あり。趣味として俳句をなす。家庭は母堂とその夫人の間に一男四

女あり、極めて圓滿である。

良文村阿玉臺

村會議員 八本誠治

大地主として代々名主を以て傳はつた家系で、阿玉臺の草分けとして千年以上を經た舊家である。氏は幸次郎氏次男として、明治十九年一月十九日の岳降である。溫厚篤實なる人格と、思慮深き行動は村民の信頼を受けてゐる。元區長、戸數割調査委員、出納檢査員等を經て、現在は村會議員、產業組合常務理事として村治產業の爲めに盡力しつゝあるが、產業組合の事業に關しては殊に熱心なる努力を續け、多大の功績を擧げてゐる。政黨色なく、神道に歸依して心事を錬る。家庭は既に孫さん二人あり、夫人とよさん、長男仁一氏等七人家族にして頗る圓滿である。

萬歲村關戸 村會議員 高木仲義

當家は元祿年間當村滿原の高木家より干潟開墾の際分家して爾來十代を傳ふる舊家である。氏は佐助氏長男として、明治三十三年十二月二十四日の岳降にして生來研究心に强く、資性剛健にして、熱意に富み家業のみならず村治に對しても是と信ずる處に當りては、率先して眞摯事に當るの人である。現在區長、村會議員として、部落の融和開發に努力するのみならず村自治については、鋭意研究的態度によつて臨み、理知的所論は氏の高潔なる人格とともに、庶人の信望を博してゐる。未だ若くして村政の中樞にあり將來村治の中心的存在として多大の寄與を俟たるゝ人である。家庭は夫人あいさんと二男一女あり、頗る圓滿である。

中村神行 村會議員 佐藤幸太郎

資性溫良、盆栽に造詣深き氏は明治十五年三月十五日先代金吉氏の男に生を受けた。人格高潔なる人望高き人にて、推されて區長代理を務むること多年、現に村會議員、養蠶組合理事、農會理事、產業組合統制調査員の重任にありて盡瘁してゐるが、その功勞頗る大なるものがある。また實兄金藏氏も村會議員を勤めし事あり、長男貞一君は現に青年團副團長として活躍中であるが、この兄弟父子そろつての努力は村民一同より感謝されてゐる。

八都村田部 村會議員 高木仁

先代辰治氏は區長、村會議員、學務委員として村治の上に多大の功勞を殘し殊に田部產業組合の組合長又は理事たること二十餘年、農家經濟更生の爲めに多大の功績ありし人なり。又現神里村長、縣會議員諏訪寛治氏は血緣に繫り、氏の政治的方面にも內外共多大の深い關係ありたり。仁氏は辰治氏の長男として生れ、現に村會議員、農會副會長、學校增築委員として村治の爲めに父君の衣鉢を襲ぎ

て普ねく完し。又村青年團長として、七年の永きに亙り村青年の中樞となつて鞅掌、事業に、指導に精勵して輿望大なり。將來の寄與を期待さる。

良文村阿玉臺

村會議員 遠藤太平

當家は代々地主として古く傳はる家系であつて、遠藤の姓は神官より發すといはる。氏は庄五郎氏男として明治十六年二月十八日に生れ、元區長、消防部長、農會役員等を勤め、現在村會議員として村自治の爲めに大に盡瘁す。政友系に屬し、讀書を趣味とする溫厚なる仁士である。三男二女の子女あり、家庭は極めて圓滿である。神道を信仰す。

中村東谷 村會議員 立花幸

曾祖父氏の代まで多古城主に從つてゐた當家は三百年の歷史ある舊家にして、現在は農を家業となしてゐる。その由緒ある家に明治十九年十一月二十八日、先代重太郎氏の長男に生を享けた氏は、自ら品格具はり、衆望を一身に集めて、村會議員及び養蠶組合理事の重任に推された。氏はまた農學校在學當時、秀才の名を謳はれた俊器英才にして人望厚きも當然であらう。長男一夫氏は農學校卒業と共に家業に就いたる眞面目な青年、二男覺氏は十八歲にして尋常科正敎員の檢定をパスせる稀に見る俊才である。

萬歲村萬歲 村會議員 菅佐原德太郎

當家の祖は本郡良文村の人、元祿年間、干潟開墾の際當地に來つて居を定め、代々農業を營みつゝ當村草分けの家柄として今に傳へた。先代榮三郎氏は明治二十七八年の日清の役時、近衞步兵として出陣參加し、各地に轉戰、大に功勳を樹てるところあつたが、惜しくも臺灣に於て客死した。當主は明治二十六年八月三十日、當家九代目の後繼者として生れた人、夙に家業のために精進努力し、他面村治に關與するところあり、衆望をあつめて統計調査員、青年團長に推されて職を果し、現在は村會議員として村政に與つてゐる。氏は負けず嫌ひの性格、しかも責任觀念に强く、仕事にはいつも熱を以て努力する人である。家には夫人との間に四男子がある。

中村字南中 村會議員 元縣會議長 平山成之助

當家は祖父秀光氏まで代々四十八ケ村の名主代官等を勤めた土地切つての名門舊家にして、尊父龜之助氏は當村々長とその他の名、公職を歷任、村治の上に多大の功績のあつた人である。氏はその長男として明治十五年一月四日の岳降、千

葉醫專を卒へ、一時現在の地に醫師を開業せしも、意ありて上京帝都の中心麴町區平河町に於て開業、その蘊蓄と人格は極めて隆盛を來したが、家の都合に依り歸郷現在の地に開業し爾來地方健康の父として今日に及ぶ。元千葉縣醫師會長たり現に同會顧問として重きをなす。氏は醫業のみならず、縣政上にも亦大いなる足跡を印し、重鎭として信望あり。縣會議員、縣會副議長同議長を歴任、政友會に屬し其の功績大なり。温容の風格と剛毅なる風格を併有するの人たり。養子俊弘氏は、昭和五年醫學博士となり既に千葉市吾妻町に仁靜堂平山外科醫院を開き盛業中である

香取町香取

香取郵便局

本郵便局は三等郵便局にして、昭和七年四月一日請願局として開局した。電信電話事務を昭和十年より開始し貯金、保險其の他の成績は逐年增加、郡内指折りの優秀なる局にして昭和十二年五月表彰を受けた。創設當初からの局長は佐原中學出身の資性英邁なる平山清氏である。當家は累代香取神宮の宮司を務める家柄にしてまた當町一の大地主でもある。當主は元郡會議員、村長として盡瘁せる縣政の功勞者藤ケ崎彌助氏の次男に明治三十七年八月十五日生を享け後ち當家先代正五郎氏の長女久枝子さんと結婚、當家に入りし人である。信仰頗る篤き人格圓滿な人にて、將來の町長として多大の期待をかけられてゐる。家に夫人との間に一男一女あり なほ夫人は佐原高女在學當時才媛の名を稱へられた貞淑な人である。

豐和村大寺

大寺郵便局長 從六位 勳七等

日色長五郎

當家は分家三百年以上を經たる舊家にして伊那、詫摩、宇井、日色と變遷せりといはれ、元ヒシキと稱せしをヒイロと轉訛稱呼さるるに至つたものである。氏は金右衞門氏長男として慶應元年六月に岳降。資性堅忍不拔にして學を好み獨學にして良く小學校教員、中學教師となり後郷土に小學校長として迎へられ、教育の徹底と學校を中心とする町治の啓發に多大の貢献をし既に存命にして顯德の碑を以て遇せらるゝの人、大正八年母堂の言に從ひ歸村して大寺郵便局長となり爾來村治に産業に、村民の精神方面に盡力して剩す所な

き德望家である。從六位勳七等たり。子息の教育にも亦嚴格克くその成果を得て長男武治氏は從七位勳八等に敍され大寺郵便技師として二十有餘年、二男謹爾氏は從五位勳四等海軍中佐たり。三男四郎氏は奈良縣畝傍中學に在勤し、令孫一郎氏は廣島高等師範卒業後房州鴨川中學に在勤し、夫々一家をなしてゐる。

府馬町府馬

郵便局長 從七位 勳七等

繪鳩麟爾

繪鳩家は本村草分けの舊家、且つ大地主であり名主庄屋を勤めた名望家である。祖父良右門氏は明治七年に府馬郵便局を創設して初代局長となつた通信界の功勞者、また父君伊之吉氏は二代目局長たるの傍ら郡農會長、郡會議員、小見川農工銀行頭取、その他村内に於けるあらゆる名、公職に參與、政界及び實業界の大立者とし重きをなした。氏は元宮内大臣石原健三氏に見出されて大成した人、鵜澤代議士と無二の親交あり、曾て又府馬町耕地整理事業を郡内に率先して興し、約三百町歩を完成し、育英事業に關しては七人の博士を生み出すなどその功績擧げて數ふべからざるものがあり、有功章その外表彰を受くるまた幾度なるを知らない。その長逝するや縣下から贈られた花輪は實に七十數個の多きに達し、以てその偉大なる足跡を窺ふに足りる。本町は氏の功績を永遠に傳ふべく、今、鵜澤代議士の後援を得、現遞信大臣永井柳太郎氏の撰文、若槻男の篆額になる碑文を役場構内に建設しつゝある。當主麟爾氏はその次男、明治二十六年八月二十一日の出生、曾て郡青年團長、縣青年團理事を歴任、現在は郵便局長に消防組頭の要職を兼ねてゐる。佐原中學の出身、官系の青年團を民間青年團に組織變更の際に東奔西走し、終に氏の主張によつて縣聯合青年團を組織するに至つた。氏はまた同團千葉縣第一回代表として滿鮮地方を視察するところがあつた。消防組頭としても大に盡力金馬籠四條を有し、縣下に於ける優良な成績を擧げてゐる。なほ氏は郵便局長として多數の表彰を受け、從七位勳七等に敍されてゐる。因に當家は昭和十一年九月二十四日、朝香宮孚彦王殿下御宿舍の光榮に浴し、本町民の譽れとなしてゐる

府馬郵便局

從七位勳七等繪鳩麟爾氏を三代目の局長に仰ぐ當局は、明治七年十一月三日の開局、以來六十又五年間を經た郡内最古の歴史を飾るもの、現三等集配局

として本町、良文村、八都村を集配區域内に置いてある。内外電信、航空郵便の取扱は一ケ年八百通、貯金現在高は約三十八萬圓、各種保險年金等の加入は二千六百口、しかも逐年三百位づゝの增加を見せ、郡内一の好成績を以て表彰されてゐる。現事務員六名、傭人七名。電話は府馬一番と六〇番である。

古城村万力

郵便局長 **戸村勝雄**

戸村家は村切つての舊家且つ名望家で酒醸造を業として明治の末期まで繼續し、二代前の祖六右衞門氏はよく家政を整へた人、その義弟禎知氏また當村初代村長として令名を謳はれた。當主は明治三十五年八月十五日の出主、夙に東都に出でゝ實業學校に學んだ秀才、歸來村、郡、東部聯合青年團長に推され、熱血燃ゆるの意氣を以て青年指導に與り、昭和二年縣一名の青年團代表として大日本聯合青年團海外視察團員に加はり、鮮滿内蒙地方の實地視察に上つたことがある。また村農會長、郡農會議員、方面委員、選擧肅正委員等にも就任、自治の振作に貢献した。昭和九年數千金の私費を投じて請願による郵便取扱所設置の目的を果し、同局長を拜命した。爾來氏の卓逸せる手腕は地方民の讃仰と併せて上司の認むるところとなり、取扱所設置後三年目にして三等局に昇格現在に至つてゐるが、當地方村民の通信便益に格段の差を見せ、氏の人望ます〳〵深きを加へてゐる。つる子夫人は千葉女子師範の出身で、一男二女がある

東城村小南

郵便局長 **青野庸太郎**

當村青野姓の總本家たる當家は當地方屈指の舊家、代々苗字帶刀を許されたる名門の家柄にして、祖父庄三郎氏は官選戸長を勤めし村開拓の功勞者であつた。また先代助三氏はその養嗣子にして村長助役、村會議員、學務委員、區長等を歷任せる當村の偉大なる功勞者、昭和九年七十一歳の高齡を以て歿した。當主はその長男、明治十四年八月二十四日岳降の人格圓滿なる士、大正十一年郵便局創立以來局長の職に就き、なほ推輓されて現に村會議員、區長の重任にあり、鞅掌精進してゐるが、その自治に盡瘁せる功勞なくない。なほ當郵便局は縣下に於ても優秀なるもの、これ一に氏の努力によるものにて、氏は今や衆望を一身に集めてゐる。長男榮一氏は今、三十五歳の働き盛りである。

古城村万力

學務委員 前村會議員 **荒井茂雄**

當家は約三百年程以前、茨城縣より移住せる舊家、先代勇氏は書畫骨董に造詣深く、俳句に明るい資性溫恭なる人格者

であつた。推されて助役、村會議員、學務委員等を歷任する事多年、その盡瘁せる功勞大なるものがある。當主はその男明治二十九年十一月廿五日の岳降にして曩に村會議員として盡力したが、現在は學務委員に推されて努力中である。家には母堂きせ子さんは六十七歳にして尙ほ健在である。

八都村田部

學務委員 **宮崎松太郎**

先代松五郎氏は七十七歳の長壽を保ちし人、日宮神社の氏子總代であつた。當家は土地有數の資産家系である。氏は先代松五郎氏長男として明治十七年に生れ現在は學務委員として專心學事に盡力され又西雲寺檀家總代及び、元日宮神社總代として、崇神敬佛の念に厚く溫厚なる人格は村民の間に信望頗る高きものあり長男傳治氏は目下支那事變に出征して勇奮健闘中であつて、家庭は常に極めて圓滿で、村民の悉くが羨望する所である。

常磐村南玉造

學務委員 **宮崎豐二**

當家は元祿時代に山倉部落より移住し來た當村屈指の舊家にして、先代鶴吉氏は村自治に三十年も携はりし功勞者である。氏はその長男として明治十九年六月一日の岳降。曩に村會議員、産業組合理事、消防部長の重任に推され盡瘁したが、現在は學務委員、區長八期目を勤め、村切つての功勞者として信望を集めてゐる。長男功君は村の模範青年にて青年團長を勤めし事がある。

日吉村篠本

學務委員 産業組合專務理事 **川島平三郎**

當家は鎌倉時代以來連綿として傳はれる名家である。氏は明治十三年八月三日生、日吉尋常小學校卒業の後は專ら漢學を研鑽した。溫厚なる君子人で長者の風あり前後二回に亙つて村長に推され、また消防組頭、助役、村會議員及び産業組合監事等の公務を負ひ、常に盡瘁勵精功勞甚だ顯著なものがある。

古城村万力

學務委員 元村會議員 **實川廣**

明治三十年一月一日生れの氏は讀書に趣味を持つ人格高潔なる人。尊父庄藏氏は農事の傍ら夙に村治に意を注ぎ、區長、村會議員を勤むること多年、村切つての功勞者である。當主もまた村會議員、收入役等に推されて盡瘁した事あり、現在は學務委員畜産組合代議員、社寺總代、消防組顧問

として鞅掌精進してゐる。その功頗る大なるものにて、消防功勞者として村より表彰を受けた事がある。家には父君尙ほ健在まつ子夫人との間に二男四女がある

中和村西入野

學務委員　**宮內眞藏**

當家は開祖不明なるも土地有數の舊家にして代々農を傳ふ。氏は曾つて明治中葉の三國干涉問題に若き熱血沸ぎる感慨あり海軍に志願し、高千穗艦に乘組、蔚山沖海戰に拔群の功ありし人、一等兵曹となりて歸鄕後は專ら齊家奉公のことに溫厚眞摯なる努力を續け、村治各般の上に功績あり、現に學務委員として村敎育の爲めに盡瘁してゐる。

神代村大久保

學務委員　元村長　**野口昭**

當家は苗字帶刀を許されたる名門の家にして、名主、戶長を勤めた當村草分けの舊家である。先代源五左衞門氏も戶長役場時代、村民總代に推されし功勞者であつた。當主はその長男、明治七年五月三日生れの獨力獨行の人、敎職に在る事實に三十年餘に亙る育英界の功勞者にして、退職後は

また、村長、村會議員其他に推薦され、學校擴張に、役場新築に、道路問題に盡瘁貢獻し、その功一々枚擧に遑がない。現在は學務委員としてなほも挺身盡力してゐる。

山倉村桐谷

學務委員　**石毛三之助**

當家は代々名主戶長を勉め十一代を傳ふる舊家である。祖父佐兵衞氏は殊に技藝に長じ、茶簞笥、瓦等を作り今尙之を保存してゐる。養父嘉右衞門氏は助役、村會議員、學務委員等を歷任して、村治の爲め多大の功績を殘した人で昭和六年まで七十七歲の長壽を全うした。氏はその養子となりし人明治六年三月十二日に生れ、元收入役、國勢調査委員、統計調査委員等を歷任現在學務委員たり、村治の爲め多年貢獻する處甚大である。

長男巖氏四十二歲）又產業組合桐谷總務、前消防部長等を勤め將來を囑望されてゐる人である。家庭は夫人はなさんとの間に四男三女あり、極めて圓滿である。因に夫人は國防婦人會の役員として活躍してゐる。

神里村虫幡

元村長　**小山田傳次郎**

當家は當村屈指の地主にして當主は五代目、明治七年九月二十日先代清次郎氏の次男に生を享けた。令兄氏は幼にして

歿せしため氏が家を繼いだのである。尊父氏は明治三十四年より三期に涉り村長を歷任し尊敬を一身に集めた人望家であつたが、當主もまた村長を勤めて盡瘁する事、昭和七年四月より昭和九年二月迄

その功大なるものである。現在はすべての公職を辭してゐるが、村の元老として重きをなし、人望篤き事他にその比を見ない。氏は現在公職は勤めてゐないが氏の孫に當る小山田彬氏はその所長たる神里郵便取扱所の事務に專念努力してゐる。なほ當郵便取扱所は昭和十年の創立にも關はらず、同十二年には成績優良、無事故なるを以て東京地方遞信局長より表彰を受けた。

香取町返田

元助役　**椎名源壽**

當地方切つての地主として、名主、戶主を勤めた名門の家に明治三十六年二月十八日生を享けた氏は外柔內剛の智慮衆に勝れた士である。先代竹松氏は二十三歲の若さで夭折した人であつたが、當主は二十九歲の

時すでに助役に推されて盡瘁貢獻し家名を近在に響かせた。家屋稅調査員をも曩に勤めてゐたが、現在は大成クラブ創立當初からの幹事として活躍貢獻、今や町政の新鋭として將來に多大の望みを囑されてゐる。家には母堂みの子刀自、令閨さよ子さんとの間に一男五女がある。

古城村鏑木

學務委員　**鏑木林藏**

當家は鏑木城主の同族の末裔にして、當村屈指の舊家鏑木家（當主壽一郎氏）より分れたる土地有數の豪農である。養父保氏は多年村長、村會議員、學務委員その他を歷任して村治に多大の功勞あり人望篤く殊に敎育事業に於ける功績は特筆に値し今尙村民に追慕されてゐる、又書畫骨董の雅を愛好した趣味豐な人であつた。氏は明治十六年九月に生れ乞れて常磐村秋山家より養子となりし人、爾來家業に專心し篤農家の譽高く又前村會議員、現學務委員として村治の上に貢獻なしつゝある。家庭はあき母堂並にとみ夫人との間に四男二女あり、長男謙二氏は前青年團長たり現に消防部長、區長代理として活躍、村治の將來に多大の囑望を以て俟たるゝ人、有爲の才幹である。

山倉村大角

學務委員　**林伊之助**

氏は皇室中心、日本精神發揚の思念强く現に學務委員として村敎育の爲めに盡瘁して功あり、村民の信望をあつめてゐるが、曾つて伯父塚本松之助氏を賴つて

渡米二十六年間カリフオニヤ州に於て獨立サイダー製造業を爲した、後感ずる所あつて歸郷專ら農事に專心してゐるが、家庭はとり母堂と夫人つるさんとの間に六男三女あり家庭頗る圓滿である。因に氏は明治十九年四月の岳降である。

常磐村玉造

元村長 勳七等

秋山丑吉

當家は甲州武田信玄の近臣にして武田家滅落後當地に來たり、其後秋山左京なる者野平伊賀守に仕へ家老職を勤めたが小田原城の滅亡と共に、農に依り爾來今日に及べる舊家にして、祖父初代五郎右衛門氏は家運を復興し酒醸造を營み苗字帶刀を許され稀れに見る仁慈の德者として現に碑文に顯德されてゐる。先代五郎右衛門氏も名主、戸長村會議員として功績のあつた人である。氏はその長男として明治二年七月十一日に生れ、性來書畫文學のことを愛し、現に日本美術協會員として數度の榮冠を擔ひ亦書漢詩を良くす。元村長、助役、郡會議員、村會議員として地方自治に功勞多大にして、高潔なる人格はよく村治に公正徹底の裨益を招來し村民多大の信望を博す。現在は朝夕畫筆と共に餘生を送る。長男堅次氏は四十八歳にして現に村會議員たり。令孫滿馬君は支那事變に活躍中なり。

吉田村谷

學務委員 元郡會議員 元村長 勳八等

大木健之助

萬治元年以來今に續く當家は累代名主及び戸長を勤めた名ある家柄である。その家に先代兵左衛門氏の長男として安政五年六月二日に生を享けた氏は文字通り溫厚篤實なる人格高潔な人物、現在村の元老として尊敬を一身に集め、なほ學務委員の重任を老軀を提げて盡瘁中でありまた家業たる農に精進してゐるなどその健在振りは驚嘆の眼を持つて見られてゐる。少年時より苦學力行漢學を修め、善く德を積みし篤學の士で、衆望を一身に集め推輓されて盡瘁貢獻せる功績枚擧に遑なく郡會議員に推されし事二回、郡參事村長は前後四回、其他數知れず、日露戰役當時は村長の要職に在つて內治の功を樹てその功により勳八等白色桐葉章を賜つたなほ其他の表彰一々枚擧するに遑なく、キングより表彰を受けたこともある。養嗣子愛三

郎氏は現在日吉小學校に教鞭を執つてゐるが、その前途に多大の期待をかけられてゐる。

飯高村金原

產業組合理事 元村長 勳七等 功七級

及川林次郎

當家は二百七八十年前、岩手縣より移住せる舊家にして、先祖の中には常延寺の住職を勤めし人もあり、累代名主戸長に推されて盡瘁せる家柄である。代々書道を良くし、氏も書道、讀書に明るき質實敦厚な人格者である。先代常吉氏は村會議員、收入役、區長を歷任せる功勞ある人、當主はその長男にて明治十一年生れの人望家、推されて村長、助役、村會議員、在鄕軍人分會長其他を勤める事多年、現在は產業組合理事としてなほも盡瘁してゐる。氏はまた近衞四聯隊に入隊後、第一軍に從ひ日露戰役に參戰せる步兵曹長の國家の功勞者でもあり、その時の功により勳七等功七級に叙され、現在軍友會を組織して、老兵の親睦融和に尙ほも努力し、尊敬と感謝を一身に受けてゐる。家族は長男忠治氏（三十九歳）の他九人の圓滿家庭である。

豐和村內山

養蠶組合長 元村長

村上信雄

藤原氏の子孫たる當家は播州姬路より當地に移住して來た當村屈指の舊家にして累代醫を家業となして來た家柄である。開祖は「晴庵」と言ふ人にして外科手術に優れ、先代道太郎氏は帝大醫科大學出身の俊才、後ち當村に開業したが、不幸夭死し、當主また祖先の遺業を繼ぎ研究の爲上京したが、病弱の爲め且つ父君の死に會ひ目的を達する事が出來なかつた。明治二十年一月五日の岳降、曩に村長、助役、村會議員、學務委員其他の重任を勤めし當村一の功勞者にして、特に小學校新築、學級の變更には目覺ましき功を樹て、村民の尊敬と感謝を一身に集めてゐる人格高潔な士である。現在は養蠶實行組合長寺院總代に推されて全責任を以て鞅掌してゐる。尙ほ長男齊氏（二十九歳）は昭和醫專出身の俊才にして、現在も同校に止まり、醫學の研究に熱中してゐる。

中和村長部

產業組合長 元村長

高木千太郎

當家は天正時代より當地に居住し、淸水天領と稱し、代々苗字帶刀を許された舊家にして開祖は帶刀と稱せりと、氏は慶應三年五月仁左衛門氏の長男として生る。大原幽學を崇拜して、常にその敎を

守り、身を修むること正剛にして、直ちに以て實行なし村青年子女の指導上にその裨益せる處甚大なり。元村長、助役、村會議員、各委員等總ての公職を歴任して村治に及ぼせる功勞極めて顯著なり。

現在尙老軀を驅つて村産業の中樞たる産業組合長として、精勵壯者をしのぎ、多數村民感謝の聲澎湃たるものあり。氏は趣味として和歌を良くす。長男千々輔氏も亦現に區長村會議員として活躍、多大の信望を得、氏の衣鉢を襲ぎて完き人、既に三男一女の孫さんあり、家庭圓滿を極めてゐる。

神代村窪野谷

學務委員 元助役 勤八等 **高木幸索**

氏は明治元年九月當村屈指の舊家たる高木家に於て永く名主、戸長を勤めてその德望を稱へられた佐右衛門氏の次男として呱々の聲を擧げてから、明治十八年分家して一家を創立した。爾來齊家修身多年肚裡する處村治開發のことに專念、村民多大の人望を擔ひて曩に助役たること三回、村會議員、學務委員、第一回國勢調査員、消防組頭、農會評議員其他に歴任して功績極めて顯著なるものあり。

現に國防婦人會、青年團、在鄕軍人分會各顧問、學務委員、帝國在鄕軍人會特別會員として令名あり、村政の長老として重きをなす。長男宗平氏（五十二歳）も亦氏の衣鉢を襲ぎ、前在鄕軍人分會幹事、青年團長、消防副組頭、農家組合長等に歴任し、現に農會審査員として村産業の發展に盡瘁してゐる。三男仲氏は中島飛行機製作所に勤め、四男金次郎氏は千葉師範附屬訓導より榮進して八都小學校長となり、教育界の將來に於ける氏の功績は多大の囑望を以て期待されたが、惜しくも昨年長逝した。

東城村小南

方面委員 元村長 **嶋田辰五郎**

當村に於ける長老の一人として衆望を集めてゐる氏は、先代孝藏氏の男として、明治十五年三月十五日の岳降である。日露戰役には佐倉聯隊の留守を守り、その功勳なからず、また自治方面に盡瘁せる功績も目覺ましきものにて、村長、助役、村會議員其の他各公職に推され努力する事多年、現在は方面委員、軍友會副會長として鞅掌精進してゐる。家庭には三男二女があつて頗る圓滿である。

古城村秋田

學務委員 **成田農夫雄**

當家は延寶年間出羽秋田地方より當地に移住なし爾來連綿十二代を傳へたる舊家にして、五六代頃より産を爲し今日に及びたる素封家である。祖父要作氏は曾つて戸長、村長其他を歴任して功勞あり八十三歳の高齢を保つた人、祖母千代子刀自も亦裁縫熟を開き近鄕の子女を指導し昭和三年七十六歳にして歿するや敎子に追慕顯德の碑を建設せらる。父君佐久司氏も村會議員、學務委員、助役等に歴任して多大の貢献を殘し村民の感謝を受けてゐる。氏はその長男として明治二十三年十月十八日に呱々の聲を擧げ、祖父並に父君の衣鉢を襲いで村治諸般の上に鋭意盡瘁して村民に信望あり推輓されて現に學務委員前村會議員三期、國勢調査員、土木委員等を歴任して三代相傳の貢献功勞は村民に多大の感銘を與へてゐる。家庭はみつ子母堂とけい子夫人にして、夫人は國防婦人會理事たり。

栗源町西田部

産業組合長 **平野金示**

當家の祖は源氏の後裔として天正年間に始まる。松崎民部南條延一をたすけ里見と戰つて勝利の大功を樹て、其の後野に下り姓を平野と稱した土地有數の由緒ある家系にして、代々帶刀御免の舊家で祖父は村民を集め自家を塾として教育功勞を表彰された人である。養父幹氏は縣會議員二期、村長、町長、其他の名譽職を兼ねて町治上に偉功あり、町政の巨頭として町民の普く瞻仰を受けた功勞者であつた。實父瀧藏氏亦教育功勞者として明治十六年文部省より表彰された人である。氏は明治二十三年の岳降、小見川農學校出身にて天性溫厚篤實の憫憐の情に厚き紳士である。現に産業組合長として、從來組合發展の癌であつた不良貸付に直截的整理を斷行すると同時に縣當局と交渉の結果一萬圓の低利資本を受け組合事業の純正再興の爲めに寧日なき努力を續けてゐる。組合員亦此の處置に協力絶大の聲援を寄せてゐる。因に家族はとく子夫人との間に一男五女あり、極めて圓滿和樂の家庭を營んでゐる。

豐和村大寺

元村長 **林竹松**

村長、助役、收入役、村會議員、學務委員、消防組頭、其他三十有餘年間自治に盡瘁貢献し、當村一の功勞者、元老として尊敬を集め、現在は和歌、俳句、書

畫に心を寄せつゝ自適の生活を送つてゐる氏は明治五年十一月五日の岳降である

當家は元祿時代の中興の祖より十三代も續く當村屈指の舊家、累代治左衛門を襲名し、幼名を竹松と稱して來た家柄である。先代治左衛門氏は十四ケ村の總代を勤めし地方自治の功勞者であつたが、當主もまた學校問題小作爭議等には大英斷を以て之を圓滿に解決するなど、その勞甚大なるものがあり、尙ほ人に知られぬ篤行も甚だ多く資性溫厚な人格者である。現在長男稔氏も父君の志を繼ぎ、在鄉軍人分會長、消防小頭の重任にありて盡瘁してゐるが曩には青年團長として令名を馳せた英邁なる人望家、茂原農學校出身の俊才にして陸軍步兵少尉であつて、その將來は多望多囑である。

中和村米込

元村長 **宇井與一郎**

當家は元祿以來七代を傳へる舊家にして、當地有數の素封家である。氏は明治十年十月三日與次右衛門氏長男として岳降、幼時より才氣煥發にして、秀才を以て知られ、長ずるに及び、村自治各般のことに獻身的な努力を重ね、人格淳厚溫和にして而かも剛直たり、村民にその德を推されて、村長、助役その他各名、公職を歷任し、功績多大なり。夫人ちよさんは同郡神代村の人、二男あり、次男廣氏は既に分家して、長男賴章氏（四十歲）相續人として家業に精勵中である。賴章氏夫人りゆさんも亦神代村菅野家の人たり、未だ子なく家庭極めて圓滿である。

神代村窪野

元村長 **高木用平**

當家は千葉氏の滅亡によりて農に轉じた其の一族であると傳へられる土地の草分け、甚兵衛家の女と婚姻して家を興し、爾來世代を襲ね後十數代を經たる舊名家であり、代々鎭守社の守を務めたと傳へられる。氏は明治十一年六月伊右衛門氏長男として生れた村長、助役、收入役、學務委員、農會長國勢調査員などの重職にあり、多年村治村政の爲めに多大の功績あり、殊にはやくより產業組合の必須なるを認め、專ら之が設立に盡力し、遂に實現したるは氏に依る所大なりとされる。一男七女の子福者にして、長男嚴氏は小見川農學校卒業、現在青年團分團長である。

古城村秋田

前村長 **內田義太郎**

當家は土地有數の舊家にして、代代地主として傳はる。嚴父故芳松氏は曾つて學務委員、村會議員等を多年歷任、村內學事並に村治上功績のあつた人である。氏はその長男として明治二十一年十二月七日に生れ、縣立銚子中學校に學び爾來家業を襲ぎて前村長三回、村會議員、農會長其の他あらゆる公職に多年歷任して、功績多大なり。村小學校の改築、校庭の擴張、納稅施設、河川の改修、道路の愛護等に於ける業績は又殊に顯著にして、現に方面委員たり。村自治の中樞的存在として村民多大の信賴を受く。人格高潔にして、公正なる持論と溫容の風格は氏をして益々今後の村治上に巨大な期待を持つて見らるゝに到る。

豐和村內山

元村長 **石井熊太郎**

當家は代々名主戶長を勤めたる當地有數の素封家にして、祖父は酒造業を營みしことあり。又伯父石井玄龍氏は水戶家侍醫であつた近鄉に知られた名望家たり。氏は金次郎氏長男として明治十三年六月の岳降にして若き時より讀書を好み、人格篤實にして溫容迫らざる風格を有する紳士なり。元村長、助役、村會議員、消防組頭其他の名、公職に歷任して甚大なる功績を殘し、自治功勞者として表彰された德望の人である。現在は學務委員として且又村政の長老として、學事に精勵、閑時讀書に耽けるの生活にあり。養子治雄（明治三十五年）氏は慶應大學理財科出身にして村役場にあり。よし夫人は當村國防婦人會々長たり。

古城村六軒家

元村長 元縣會議員 **宮野昌平**

當家は野州佐野庄藤原氏の後裔にして寬文年間椿瀨開發の率先移住者六戶の一たり現に六軒家の字名を殘す土地切つての舊家たり。且代々素封家として功を致せる名家である。氏は慶應二年十二月二十八日要藏氏長男として岳降す。天性穎異にして學を好み常陸の塙氏に學び、伊藤士孚氏に經史を修めてその銳俊を知らる。若くして民權伸展の大理想の下に自由黨に入り、政友會を經て在黨實に五十餘年。其の間村

會議員、助役、村長其他の名譽職に鞅掌して、その巨大なる足跡と功績は枚擧に堪へず。郡會議長、縣會議員、として地方自治に竭せる處亦縣道復活に産業諸組合にその功績實に顯著なり。氏は其の圓滿にして恬淡、該博にして謙虛なる人格と共に衆人皆其の德行を讃へてやまず。生存中既に元内務大臣望月圭介閣下の篆額になる頌德の碑を建てられ村政の元老たり。長男良平氏（五十四歳）は前在郷軍人分會長、前消防組頭たり。家庭は良平氏夫人ふきさんとの間に一男二女あり令孫正次氏（二十六歳）は旭農學校の出身である。常に春風和樂の家庭である。

神代村平山

元村長 吉田清太郎

當家は土地屈指の舊家吉田家より分家して四代目である。二代目周藏氏は塾を開き書道の教授をなし、弓術砲術に通じ小見川藩に仕へて帶刀御免の家柄たり。三代目清左衞門氏は不二道教團に屬しその主範として博愛主義を高揚した人道の士であつた。四代目即ち當主清太郎氏は二十一歳にして長逝した泰一氏長男として明治十四年三月二日の岳降、氏は二十歳にして村會議員に推され其肚裡する處總て之れ村治

村産業の發展擴充を思念する以外になく該博なる叡智高潔圓滿なる人格は村民多大の信望を博し、爾來三十有餘年學務委員、消防部長、村長、其の他公名譽職を歷任して功績頗る顯著なるものあり、香取郡共濟會より自治功勞者として表彰されしことあり。氏は又大和流の弓道に長じ殊に矢の作製に當つては隱れたる權威として知らる。家庭はさく夫人との間に四男一女あり、夫人は東京渡邊裁縫女學校の出身にして、近郷の子女に裁縫を指導し敬慕されてゐる。長男は逝去二男清氏（三十歳）は久保農學校卒業後農事に精勵、青年團、郷軍分會等に役を勤め將來を囑望されてゐる。

古城村秋田

元村長 石川吉太郎

當家は延寶年間常陸國より移住して來た當村屈指の舊家にして、祖父氏の頃は庄屋を勤めた名ある家柄である。先代啓介氏もまた村會議員其他を歷任せる功勞ある人格者であつた。當主はその長男、明治七年三月三日の岳降である。氏は稀に見る意志强固な剛毅磊落なる人望家にて、村長、助役、村會議員其他に推されて盡瘁貢獻する事多年、その功勳なからず、助役時代には當時の村長を助けて水門事件の圓滿なる解決をはかり、戰時の將兵にも劣らぬ程の功を樹てた。現在は凡ての公職を退いて悠々自適の生活を送つてゐるが、村の元老として村民の信望と尊敬を一身に集めてゐる。家には三男一女あり、長男清氏は資性溫厚なる士にて家業に從事してゐる。

神代村窪野谷

元村助役 勳八等 功七級 高木清一郎

當家は往昔椿海の堤防を築き當初漁業を行ひ後開墾に從事農業に轉じた當村の草分けとして代々名主戶長を勤めた舊家である。嚴父清左衞門氏は多年村會議員、收入役等を歷任村治に盡した人である。氏はその長男として明治十一年五月の岳降、日露戰役に近衞步兵四聯隊に屬し勳功あり勳八等功七級を受く。爾來村助役、村會議員（三期）學務委員等の要職に歷任して且つ自治の爲めに多大の功勞ありし人である。二男三女の子福者にして長男豐治氏（三十六歳）は早稻田大學政經科卒業千葉縣廳に奉職せり。

古城村鏑木

元村長 平山忠義

當家の祖は高望王に始まり七世日奉直季武藏國平山村に平山家を創む。其十九世の孫平山光高、慶長年間に鏑木村に移り當主まで二十九代を傳へたる、土地切つての舊家であり、且又素封家として知られてゐる。岳父皐治郎氏は村長その他の公職を歷任し村自治の上に多大の功績あり殊に村内融和と教育のことに絕大なる功勞あり、現に顯德碑ありてその殁するや村葬を以てせられた高德名望の仁士であつた。氏も又その長男として、明治二十六年四月十八日に生れ慶應大學理財科を卒へ嚴父の衣鉢を襲ぎ、村長其の他の名、公職を歷任して村治諸般に亙り多大の功勞あり現在は教育會長として、專ら教育のことに盡力なし村民多大の輿望を擔つてゐる因に家庭は愛子母堂、靖子夫人と一男二女あり極めて圓滿である。

常磐村東松崎

元村會議員 飯田總三

當地方民政黨の重鎭として活躍したる氏は明治四年四月二十八日先代善作氏の長男に生を享けた。當家は天正以來の豪農にして、苗字帶刀を許されたる名門、代々名主、戶長を勤めし家柄である。また屋敷内に妙

見堂を祭り堂宇は古の物にして、彫刻、老杉等由緒深きを思はしめ、累代これを守護神として祀つて來た。當主は現在、村の元老とて尊敬と信望を一身に集めてゐるが、曩には村會議員、學務委員、消防組頭を歴任、その功枚擧に遑なく、鬼熊事件の時には消防組頭の重任にありて活躍した。嗣子内藏治氏（四十二歳）も現に農會總代、養蠶實行組合長の重任に推され盡瘁してゐるが、父子揃つての盡力に當家は村民感謝の的となつてゐる。

萬歳村關戸

元村會議員 **菅谷傳右衛門**

當家は實父平助氏が分家して一家を創設したものである。祖先は天海と共に熊野より來た山伏といはれ、十一代に至る古き家系にして祖父傳左衛門氏は村治の功勞者である。氏は明治十二年十二月十六日平助氏長男として生れ、曩に區長村會議員を歴任して、村自治並に部落の和合開發に努力し多大の聲望を博し、現在は産業組合の理事として、組合事業の擴充發展に就いては肝膽を碎き、村産業の開發に盡瘁しつゝある。家庭は七人で孫さん三人あり、夫人かねさん、相續人保太郎氏（四十歳）並に保太郎氏夫人にして家庭極めて和合圓滿である。因に信仰は天台宗である。

古城村萬力

元村會議員 勳八等 **新井保**

曾て隻腕の闘士として村會議員、學務委員の重任を負ひて縱横に活躍した熱誠の士である。氏は、日露戰役に第一軍に屬して出征、八家子附近の戰闘に衆に魁けて奮戰終に敵彈に中つて左腕を切斷勳八等に敍せられた勇士である。氏の家はもと常陸から移住したもの。父君元藏氏は士官學校第二十二期の卒業生、第一師團の大隊長として活躍した勳三等功四級の陸軍歩兵大佐であつた。父子相承の武門の家として譽が高い。

良文村五郷内

耕地整理組合副組合長 **菅谷武雄**

氏は村青年を代表する新進氣鋭の士にして、將來の村長候補である。明治三十二年四月三日、地方屈指の大地主たる當家に先代毅氏の長男として生を享けた。曩に青年團長、軍人分會長に推され盡瘁した事があり、また故渡邊操氏經營の良文農學校を卒業せる俊才でもある。現に耕地整理組合副組合長、檀家總代に推され鞅掌精進、村發展の爲に盡瘁貢献してゐる。實にその功勞目覺ましきものにして、村長、村會議員の重任に推される日も遠い事ではないだらう。家には溫厚篤實なる尊父氏、母堂と共に健在、令閨とき子さんとの間に一男三女があり、人の羨む程の圓滿振りに近在の評判になつてゐる。

古城村鏑木

神社總代 元村會議員 正八位 **林直重**

累代名主、戸長を勤めたる當村屈指の舊家林嘉兵衛家八代より分れたる當家の開祖を善兵衛といふ自力獨行の人であつた。岳父吉平氏は收入役、村會議員等を歴任せる自治の功勞者、先代善一氏は威海衛の守備に就きし名譽ある人、氏はその男にて明治三十三年五月十日の岳降である。村青年の指導に當り、青年間の衆望を一身に集めてゐる人望家にして、曩に村會議員、區長、消防部長、學務委員、在郷軍人分會長其他を歴任せる稀に見る功勞高き人表彰數多く、また陸軍騎兵少尉にて正八位に敍されてゐる。現在は神社總代のみより勤めてゐないが、郡商工會幹事、塙甘藷出荷組合長の重任にありて縣産業界の爲に鞅掌精進してゐる。家には母堂すみ子さん健在、令閨かね子さんとの間には三男四女がある。尚ほ母堂は珍しき女丈夫にして、先代氏の亡き後、女手一つで當主を育てた賢女である。また當主夫人は國防婦人會班長として盡瘁してる。

府馬町長岡

區長 勳八等 **鎌形孝太郎**

和歌に造詣深く資性溫厚篤實にして村民の信望頗る厚き氏は明治四年十月二十八日、代々名主總代を勤めたる當家に生を享けた。曾て村會議員、産業組合理事、消防部長、耕地整理委員、戸數割調査員等を多年歴任、その業績頗る厚く衆望を集めて、區長、出征軍人會長、養蠶實行組合長、區協議員等に推輓され、現にその重任にありて縣産業界に鞅掌中であり、その貢献せる功大である。氏はまた横須賀重砲兵第一聯隊に入營、のち日清、日露の兩戰役に參加せる勇士にて、赫々たる軍功を樹て其の功により勳八等旭日桐葉章を受け尚次弟悌吉氏、三弟信六氏も共に日露の役に出征當家はかくて一家より三名の從軍者を出したる名譽の家柄である。

栗源町岩部

區長 **石橋龍三**

當家は連綿二百三十餘年を傳ふる舊家にして先代新太郎氏は區長、町會議員、助役、郡會議員等を多年に亘り歴任し地方自治の上に輝かしき功績を遺し町民の澎湃たる輿望をうけた人であつた。氏はその嫡男とし

て明治十九年十一月十五日の岳降、曩に栗源小學校訓導並びに實業補習學校教師として村青年子女の陶冶に精勵して功績大なるものがあり、現在は嚴父の衣鉢を襲ぎ村産業の爲めに寧日なき努力を續けてゐる。區長、相互補助組合長、火葬組合長、養豚組合長、青年團專任指導員、土木委員、保安組合長、害蟲驅除豫防委員、各種品評會審査員として眞摯なる精勵は氏の溫厚なる人格と共に町民の感謝する處となつてゐる。家族は栗夫人（四十九）との間に二男四女あり、長男幹雄君は農學校在學中である。

多古町水戸

水戸區長　**關　平三郎**

當家は元祿年間の開祖、農を家業として今日に至つた當地關家の總本家と呼ばれてゐる。氏は明治十五年十月三十日、同區茂助氏の次男に生れ、二十一歳の時當家先代藤吉氏に迎へられた人、家業に精勵努力、よく現在の家礎を築き上げた人望家、今、區長として部落の圓滿なる向上へと拍車をかけてゐる。なほ藤吉氏は嘉永元年十一月五日生れの當年九十一歳、元氣、壯者を凌いで餘生を樂しんでゐる。

神里村虫幡

區長　**成毛民三郎**

資性溫厚、穩健な人格の持主たる氏は明治十八年八月二十日生をこの世に享けた。當家は當村切つての舊家にして、また代々篤農家としてその名四隣に響く家柄、副業に養蠶、煙草をやつてゐるが、當主の養蠶にくはしき事は廣く人々に知られ、長野の片倉製絲にも關係して居り、品評會等には連年優秀なる成績を以て表彰されてゐる。氏はまた家業に精勵する傍ら夙に村治にも意を注ぎ、現在、區長として鞅掌精進してゐるが、人望厚き事他にその比を見ず、尊敬と感謝を一身に浴びてゐる氏はまた信仰厚き人にして、天台宗の熱心な信者でもある。長男申作氏は現在支那事變に出征して彼の地に勇名を轟かしてゐる。次男氏も兵役に關係あるが、現在は家にありて、父君を助け家業に精進してゐる。

八都村神生

區長　**高岡常三**

文字通りに溫厚篤實にして人格者たる氏は、明治十三年七月二十一日の岳降である。當家は累代農を以て家業となして來たが、先々代及び先代竹松氏は養蠶業に意を注ぎ、村民の冷笑を押し切つて率先して明治三年頃より桑園を拓き經營宜しきを得て、現在の隆盛を見るに至つたのである。氏はまた家業の傍ら村治にも意を注ぎ、現に區長として區民の爲に盡瘁貢獻をなし衆望を一身に集めてゐる。

日吉村二又

區長　**川島和助**

氏は明治五年十月十五日光氏長男として呱々の聲を擧げた。天性矜憫の情に厚く、溫厚篤實にして協和の風格は村民のひとしく瞻仰する處であり、擧げられて區長たり部落の融和發展に寄與する處多大、且つ前に村會議員として盡瘁貢獻し功勞は沒すべからざるものあり、殊に區内統合和樂の實績は瞠目すべきものがあつて信望益々高揚されてゐる。氏は民政黨に屬し村内戮力一致自治向上を念願して寧日なき人たり。不幸昨年夫人に長逝されたが、後に一男二女あり、長男孝夫君は未だ十二歳にして小學校在學中である。當家は相當古き家系なれども當地に居住せるは實父光氏より創始されしものである。

豐和村内山

産業組合長勤七等　**林平太郎**

氏は明治十七年四月二十日政五郎氏長男として岳降、日露戰役に從軍して多大の勳功あり、勳七等を受く、爾來貯蓄普及に自ら戶別訪問をなし、或は恩給一ケ年分を在鄕軍人分會に基金として寄附なし大いに分會事業の發展に努め、曩に消防小頭、在鄕軍人分會副會長等を勤めて現在は産業組合長として、村産業の發展に盡瘁してゐる。氏は性仁慈に富み、書畫讀書を好んで、日蓮宗の信仰を持つ眞摯の人である。

中和村米込

區長　**奈良利秋**

當家先代利吉氏は九代を傳ふる舊家にして又有數の素封家たり、先考利吉氏は曾つて村長村會議員、助役等の他各方面の名、公職を歷任して、村治の上に多大の功績を遺し、村民の尊敬を受けた人である。氏はその四男として明治四十一年十五日に生れ三兄の死去に遇ひ家督を相續す。旭農學校卒業後、專ら家業に精勵し、現在區長として區内融和の爲めに努力してゐるが、次期村會には當然推さるべき人物にして資性溫厚且つ誠心熱意に富む、將來村自治の上に嚴父の衣鉢を襲ぎ多大の嘱望を以て迎へられてゐる。夫人つねさんは萬歲村の人、家庭極めて圓滿である。

當主利秋氏

萬歲村溝原

區勳八等長　**高木保太郎**

當家に當地の最舊家たる高木（靜治）家の分家にして十餘代を傳ふる有數の舊家たり。氏は明治十五年三月五日源太郎

氏長男として呱々の聲を擧げ、日露の戰役には乃木第三軍の勇兵として拔群の勳功を樹て勳八等白色桐葉章を賜る。爾來農事に精勵、專ら區長として部落の發展融和に盡瘁し多大の信望を博してゐる。家庭は長男治平氏（三十歳）を始めとして四男二女の子福者で頗る圓滿である。

東城村八重穗

農會長 **高橋正雄**

當家は板倉公より苗字帶刀を許された舊家名門にして、先代清治氏は永らく村長、助役、收入役、村會議員、學務委員、其の他自治に關する、公職を歷任して多大の功績あり村民の德望を集めた人である。氏はその長男として、明治三十年十二月十九日に生れ佐原中學卒業後、青年團長二期、消防組頭、區長、收入役等を歷任し、現在は農會長、學務委員、在鄕軍人分會名譽代議員として、村治に盡瘁殊に村農會に於ける貢獻は顯著にして、村治の將來に多大の期待を受けてゐる、人格圓滿にして人望あり、嚴父の衣鉢を襲いで全き人である。家庭はちやう母堂、くら夫人と四男二女あり頗る平和である。

豐里村笹本

笹本區長 **大網富衞**

先考豐松氏

現に區長、農家組合顧問を兼任し全責任を以て鞅掌してゐる氏は、明治二十二年十一月二十四日先代豐松氏の男に生れた。曾ては青年團副團長を經て團長を勤むる事四年、消防部員より部長に榮進し二十有餘年盡瘁し、また區長代理に推されし事もあり功勞くない。なほ尊父氏も村會議員、區長農會長を多年勤め、村自治發展の基礎を固うした功勞者、村當局より賞旗三本を贈られた。また風流人で和歌、俳句に造詣深き人でもある。

府馬町古內

區養蠶實行組合長 **鈴木治左衞門**

明治十七年四月五日生れの氏は獨立獨行の氣性に富む人物にして、今は亡き先代治郎助氏の男、當家は鄕社熊野神社の創建されし頃よりの約千年の由緒ある舊家にて、累代熊野神社の神官を勤めし家柄である。その家より分家せる氏は農を家業とし、その傍ら現に區長、及び養蠶實行組合長として盡瘁中である。書畫に造詣深く人望頗る厚く、現在家に二男三女あり、長男正道氏は青年團分團長として現に盡瘁中であるか、その將來に多大の期待を寄せられてゐる。因に當家の近くに古內下の觀世音菩薩堂あり、下の病に御靈驗あり參拜者頗る多く、又產土神として天滿天神を合祀してゐる。毎年二回春秋二十五日が例祭日である。

神里村山川

區長 **宮崎俊雄**

資性溫厚篤實なる氏は明治二十七年三月三日先代平四郎氏の男に生れた。當家は三省會を組織せる宮崎清太郎氏の令妹氏が分家したる家柄である。なほ同氏は青年夜學校を開設した功勞者でもあり、當村一の偉大な人物であつた。本村清水寺にある碑は村民が氏の德を欽慕して建てしものである。當家先代氏もその志を繼ぎ、三省會の會長を勤め、青年間の人望厚い人格者であつた。當主また三省會の幹事として盡瘁してゐたが、同會を改めて青年團と農事組合に分立させた功勞者である。曩に農會總代、消防部長の重任にあつたが現在は區長、區會議員等を勤めてゐる。氏はなほ篤農家として聞え、養蠶の成績は特に優秀なるもので郡、及び村より表彰を受けたこともある。家に一男一女あり、女兒は小學校に在學中であるが、成績優秀の由である。

八都村竹之內

區長 **岩立信一**

當家は當村屈指の舊家たる岩立家より分家して四代目の家系である。氏は明治二十二年十一月二十八日永らく區會議員、區長等を勤めて部落の爲めにその溫厚なる人格を稱へられた故清松氏の長男として生れた。若き頃より資性明快剛毅にして砲兵第十五聯隊に入營異常の成績を示して歸鄕後は區會議員、在鄕軍人分會理事、副會長會長等を歷任して功勞あり退任の際記念火鉢を贈呈されてゐる。現在は區長、八都村畜耕組合長、八都村農會總代、在鄕軍人分會顧問として村治產業の上に貢獻しつゝあり、村民の信望又頗る厚く。政黨關係なく趣味として盆栽を愛好する、

昭和八年帝國在郷軍人會より分會功勞表彰を受けた當村分會の長老である。家庭はタカ夫人との間に六男一女の子福者圓滿を極めてゐる。

良文村阿玉臺

土木委員
前村會議員
菅谷仁兵衛

當家は累代名主を勤めたる家柄にして三百年以上の歴史ある當村屈指の舊家である。先代庄次郎氏は七十三歳の長壽を完うせし人、氏はその長男として明治二十年六月二十日生をこの世に享けた。資性溫厚なる人格者にして、終始村政に意を注ぎ、前に村會議員、消防部長、戸數割調査員、區會議員に推され、盡瘁貢献努力した事がある。現在は土木委員、傳染病豫防委員の重任にありて盡瘁してゐるが、その功勲なからず、殊に本村還狀路線の工事完成には血と汗を以つて努力遂に完成して村民の感謝と尊敬を受けてゐる。家は母堂ちか子刀自七十二歳にしてなほ矍鑠、令閨くに子さんとの仲に三男二女があり、長女せい子さんは神代村菅谷政雄氏に嫁してゐる。

飯高村小高

消防組頭
勳八等
功七級
石井乙治郎

先代德松氏

凱旋當時の當主

德松氏長男として明治十四年七月二日の岳降にして當家は農業及び鍛冶職を營み併せ蠶業をも行ふ。日露戰役に黑木第一軍に從軍して滿洲の野に轉戰して勳功あり勳八等功七級を賜り砲兵軍曹に任ぜらる。日蓮宗を信仰して熱意に富み資性剛毅にして公正を好む。私設當時より村消防の事に盡力して功勞多く表彰され現在消防組頭たり。又區長として、區の融和開發に多大の盡力をなし、區民の信望厚し。三男三女の子福者にして、長男等(二十八歳)氏は青年團班長を勤め家業を襲ぎ、家庭圓滿を極む。

豐和村大寺

消防副組頭
日色章三

當家は元祿時代よりの舊家にして代々豪農を以て傳はる家系である。岳父松太郎氏は村長、助役、村會議員、學務委員その他凡そ村自治の公職の總てを歴任した人で當村自治の最大の功勞者ともいふべく日清、日露、日獨各役に村長たり、良く處理して勳七等を受ける學校敷地問題等に公正を以て不言實行村民多大の信望を博した。氏はその三男として明治二十四年一月七日の岳降、千葉師範學校卒業後十有餘年教育界に在り、嚴父の歿に遇ひ家を襲ぎ、溫厚篤實、常に村諸般の事に努力して、現に消防組頭として將來

村治の上に多大の期待を受けてゐる。

萬歳村萬歳

方面委員
井上治右衛門

當家は武藏國の住人井上治右衛門丞忠直と稱し、幕府に仕へた相當の家柄で、元祿年間、當時泥海だつた干潟開墾に從ひ、その開拓使として派遣され、終に永住したもので代々附近三十四ケ村の大總代、大名主として盡瘁し、今に遺れる褒紋章入りの多數の拜領物が昔を物語つてゐる。治右衛門氏を襲名して相繼ぐこと十三代目である。當主は明治九年九月二十日、海上郡鶴卷村の縣會議員の家に生れた人、當家先代氏に懇望されてその後を嗣ぎ、夙に人望を博して村會議員、産業組合監事等を歴任し、それ〴〵業績を稱へられてゐる。現在方面委員として盡力してゐる。夫人との間に二男三女あり、長男董君は旭農學校出身の陸軍歩兵少尉で、今、在郷軍人分會長の任に在つて鋭意努力してゐる。

神代村東和田

元農會長
上代志津馬

當家は千葉家の一族に發し、土地最古の舊家たり、現に上代嘉門之介所持の薙刀を家寶として傳へ、元當村は上代村と稱へ、當家一族は今尚千葉氏一族を亡したる里見氏にもじる里芋の耕作をなさざる慣例である。先代貞次郎氏は當村南北に別れて抗爭せるとき推されて村長たり其の他自治に關係すること十數年餘今尚其功績を讃へられてゐる。氏はその長男として明治六年三月四日に生れ、岳父の衣鉢を襲ぎもと村會議員、學務委員、消防組頭として盡瘁圓滿なる人格と共に德望あり殊に農會長としての八ケ年間に亙つて功績は顯著なるものがあつた。因に家庭は氏に子なく元村長宇井兵作氏の令孫儀平氏を養子に迎へ、既に令孫金吾君(二十歳)あり頗る圓滿を極めてゐるが儀平氏も將來を囑望される人である。

神代村平山

前青年團長
吉田知三

當村青年間の衆望を一身に集めてゐる氏は、明治三十三年八月二十日生をこの世に享けた。當家は天明大地震以來當地に土着せし當村屈指の資産家にして、累代名主、戸長を勤め、苗字帶刀を許されたる名門の家柄である。先代耕三氏また村民の懇望により村長の重任に就き、村治の圓滿なる發展に盡瘁貢献し、尚ほ教育方面には最も意を注ぎ、その功大なるものにて、教育の、自治の功勞者として村民より慈父の如く敬慕され人格者であつた。當主も又、青年團長、消防部長同組頭、學務委員を歴任し、衆望を集め自治方面への出馬を村民より望まれたが若年の故を以て辭し、現在は小作人對地

主問題の融和福利を念願として盡瘁してゐる。なほ特筆すべきは小作人に貯蓄心を植付ける爲め、共同貯蓄、肥料代共同貸與等の事業に努力してる事である。家にはまき子夫人との間に一男二女あり、圓滿を極め羨望の的となつてゐる。

神里村内野龍谷

區長 **小山田倉吉**

當家は當村小山田姓の總本家として且最舊家たり。記錄物は惜しくも火災の爲め消失したが代々庄屋、名主等を勤めた家柄である。先代幸藏氏は多年區劃整理委員、區長等を勤めて功勞のあつた人である。氏はその三男として明治二十七年六月十五日に生れ家系を繼いだ（長男辰之助氏は隣村八都村菅井家に入り前村長たり）、前に青年團分團長、消防部長、區會議員等を歴任、又大正六年千葉縣巡査を拜命、銚子警察署等に勤務せしことあり、現に區長納稅組合長、受檢組合長に推され、村治産業の上に恪勵する溫厚篤實の人にして村民の信望が厚い。趣味として書畫を好む、家庭はトモ夫人との間に二男あり家庭極めて圓滿である。

府馬町府馬四ッ塚

宇井澱粉工場

電話府馬一八番

宇井工場主 當町屈指の穀物商兼肥料商宇井乙次郎

氏が多年研究調査に基いて昭和九年十月創立したる當工場は、構内地域三千餘坪最新式の設備を完備され、工場長鈴木鏃男氏機械主任、販賣主任を兩翼とし、優秀なる從業員五十人を統率し最善の工率を擧げつゝあるが、地元たる當町所産の甘藷、米、麥を以て澱粉製造及び精麥の業を營んでをる。昭和十一年現在の製造高四十萬石に上り爾來逐年增産の一路を進み、前途頗る洋々たるものがある。來年を期して栗本町に地を相し第二工場開設の準備は今や着々として進捗しつゝある。操業は午前六時半より午後五時半に至り、法規に從ひて快適に行はれ、全員渾然輯和して時を定め遊覽觀光等の催を以て勞資協調の美風を發揮してゐる。

鈴木工場長

實川氏

菅谷氏

良文村貝塚

敎諭 正八位 **遠藤延平**

當家は遠藤孫左衛門の分家にして既に十代を傳へ代代名主を勤めたる舊家である。岳父半平氏は十八歳にして役場書記となり爾來村會議員、助役、村長其の他各公、名譽職を歴任して村治上に巨大なる足跡と功績を殘し殊に私財を投じて、學校、村道問題に盡力し、又氏子總代とし豐玉神社の鄕社昇格に功あり縣當局より表彰さるゝ等、その寡默にして溫厚圓滿の人格と共に村民多大の敬迎を受け現在は信用組合理事として東京に在住して斯業發展に精勵されてゐる現に五十七歳。氏はその長男として明治三十七年七月二十五日に生れ。正八位陸軍豫備少尉、小見川農學校教諭として活動の傍ら、前消防副組頭、青年團分團長、軍人會幹事等の要職を經て、現に香取郡將校會幹事、農會幹事等の重要なる職に在り、將來村自治の中樞に參畫すべき人材として多大の嘱望を以て俟るゝ眞摯熱意の人格者である。氏はまた陸上競技に千葉縣リレー代表として明治神宮大會に出場したるトラックの猛者である。家庭はまさ母堂健在、けい夫人との間に二男三女の子福者にして、頗る圓滿なる和樂の家庭を營んでゐる。

久賀村高津原

勳八等 功七級 **萩谷作次郎**

氏は明治十六年一月七日の岳降にして海上郡木芝村猿崎の出である、當家は代代名主を勤めた舊家たり、現在當村に材木、製材の業を營み盛業中であるが、曾つて明治三十七年三月日露の役に第三軍に從軍し松樹山の戰に於いて、拔群の勳功あり功七級を受けた。現に在鄕軍人分會長として獻身的活動を續け、村民の感謝を受けてゐる。同分會員は四百三十餘名に達し、その統制は他の模範たりと。

日吉村坂上

從七位 **青柳要三郎**

氏は明治卅二年八月二十一日要三郎氏長男として呱々の聲を擧げ、縣立茂原中學校卒業大正八年歩兵五十七聯隊に入隊歩兵中尉に任ぜられ、歸鄕後在郡軍人分會長として十ヶ年續任多大の功績を擧げ現に香取郡聯合分會及び香取郡將校會副會長として銃後諸般のことに精勵の傍ら村會議員、消防組頭として村自治の上にも盡瘁する處あり、氏の剛毅濶達にして高潔圓滿の人格は村民の澎湃たる信望を呼んでゐる。當家は四代前青柳（秀）家より分家した舊家で祖父の時代より釀造

業以て傳はる素封家であり、現在酒類醸造を營んで聲價あり。氏は又齊家興隆に盡瘁されつゝあるが、村政の將來、樞機に參與すべき材幹として多大の嘱望を以て俟たるゝ人である。

飯高村片子

在郷軍人分會長
前青年團長

那須

當家は分家後三代續く家柄にして初代の頃は醤油醸造業を營み、二代目、即ち先代國三氏は千葉合同銀行八日市場支店長、栗山電燈株式會社重役等の重職を勤める傍ら村長の重任に在りて盡瘁せる人格圓滿な功勞者であつた。當主はその長男、明治三十五年十月三日生れの資性潤達な人、曩に青年團長、消防本部々長、區長を勤めてゐたが、現在は在郷軍人分會長其他の公職に推されて盡瘁貢献、分會員九十名を擁しその指導に當り銃後の護りに任じてゐる。家に七人の家族あり圓滿である。

古城村

政治家

林

當村屈指の舊家林家の總本家として名ある當家に岳降せる氏は當地方政友會の重鎮にして先代勇太郎氏の長男である。茂原農學校出身の智慮衆に勝れたる人材にして今、五十一歳の働き盛り、現代議士今井健彦氏とは深い緣故ある人にて、今井氏の選擧事務長の重任を負ひ、大いに活躍功を樹てし人でもある。その國家の功勞者今井氏を輔佐する氏の名は、國家治績の上に永久に殘るものである。また氏の甥に當る博氏は日大商科出身の俊才にして現在滿鐵ニューヨーク出張所に勤務してゐるが、その今日の榮譽を得たるは實に氏の後援によるもので、それを以て見ても氏の人格を知る事が出來るであらう。なほ長女ゆき子さんは府馬町宇井氏に嫁いでゐる。

神代村窪野谷

勳七等
功七級

宇井兵之亮

當家は數百年を經た豪農にして苗字帶刀を許され、小見川藩の御納戸金御用をなした家柄である。祖父兵作氏は村長、助役その他各委員に歴任すること四十年多大の功績あり數度表彰された德望の人であつた。且書道を好み劍道の名人にして八十二歳の高齢を保つた。嚴父龜吉氏又村會議員、學務委員等に多年歴任功績

祖父兵作氏

ありし人なり。氏はその長男として明治十五年八月五日に生れ、日露戰役に從軍歩兵伍長として勳功あり勳七等功七級を受く。資性公正にして篤實家を以て知られ元消防組頭、在郷軍人分會長、現在八木山區戸主會長として盡力なし信望を集めてゐる。母堂並に夫人二男三女の家族にして、長男藤司氏（三十歳）は在郷軍人分會長、青年團分團長として將來を期待さるゝ人で既に令孫三人あり家庭頗る圓滿である。

八都村川上

勳七等
功七級

高木泰三

當家の先祖は高木七兵衛と稱へ代々七兵衛を襲名して二十六代連綿の家系を傳へる土地切つての舊家にして、名主、組頭等を勤めた家柄である。天正年中祖先の三十三年忌法要を行ひし古記錄を有してゐる。元祿十二年黒部川の改修の事業を遂行する等の家歴を持つ名門である。祖父七兵衛氏は附近城跡を調査し夫々碑を建立して史蹟保存に盡した人、嚴父東皐氏は寺子屋時代より村青少年の教育に意を注ぎ又書家として知られた人にして氏はその三男として明治十三年十月六日に生れ元良文村に在りし同志中學を卒後八都小學校に教鞭を執ること二十有餘年に亙りその間日露役に出征第一軍に屬し勳功により勳八等功七級を賜ひ、在郷軍人分會長、青年團長として青年の指導に專心し教職中勳七等に昇敍された功勞者である。縣教育界、在郷軍人分會より表彰さる事數度に及ぶ。現在は區長、社寺總代として部落民の瞻仰を一身にあつめてゐるが、資性溫容にして常に人の師表たる生活態度は村民の尊敬を受けてゐる趣味は焦風と號し俳句をよくす。長男誠一（三十二歳）氏亦教育家にして三代相傳の教育の家たり、次男眞次氏も農民道場の講師を勤めてゐる。

橘村羽計

區長

山内進

當家は當村屈指の舊家にして、家號を彌右衛門と言つた名ある家柄である。先代松之助は智慮衆に勝れた人、區長、村會議員を多年歴任せる功勞者にて、また千葉郡史編纂者岩堀先生と交友あり、氏も區劃整理圖面完成に努力、後年田畑區劃上に大なる功績を殘した。當主はその養嗣子、明治二十六年十二月十一日生れの資性溫厚篤實な人格者、現に農會總代、信用組合理事の重任にあり、區長には昭和十二年に推された氏は非常時下の時局を認識し、銃後の護りに任じるため勤勞奉仕班を設立當村各區の先鞭をなした。また畜産方面に造詣深く、縣畜産組合の種馬昭花號を管理し種馬の改良に盡瘁、その昭花號の種にて生れた名馬は縣下に十四頭あり仔馬聯合品評會に二等賞を受けた。家に

母堂さと子さん健在、令閨はな子さんとの間に一男子あり。

山倉村桐谷

小學校長 石毛功

當家は先代まで代々醫家として傳はる。其祖は遠く源義家が阿部川の戰功以來特に醫術を修めて仁惠を施したるの遺志を繼承せる故なりと碑文に見ゆる舊き名門である。嚴父孝太郎氏は郡會議員、村會議員、村長千葉醫師會副會長として、地方自治の並に醫術の道に貢献せる處大にして、清節溫容の人格と共にその功績は今尚は世に謳はれてゐる。常に修身齊家の道を體驗せる人であつた。氏はその長男として明治廿四年一年六日に生れ、佐原中學を卒へて、縣教育界に入り多年子弟の訓育に盡瘁し現在小倉第一小學校長として、村教育の爲めに努力なしてゐる。不言實行而も謹嚴なる風格は、學校經營を始め教育諸般に顯著なる實積を擧げ村民の信望を集めてゐる。家族はいつ夫人との間に二男三女あり、長男恕君（二十二歳）は目下日大醫科在學中にして、夫人は國防婦人會副會長として銃後の役割に精進してゐる。

飯高村飯高

勳八等 功七級 玉澤五郎

明治十六年二月十六日先代市郎左衛門氏の男に生れた氏は、盆栽、小鳥の飼育に趣味を有する溫厚な人格圓滿な人である。氏はまた日露戰役に從軍せる勇士にて、松樹山の戰には決死隊に參加、單身敵陣に突入、武勳を樹て勳八等功七級に叙されたが、その際身に數彈を受け負傷した。だが懷中にあつた二十錢銀貨の爲に生命を救はれ、その折れ曲つた銀貨は今も保存してゐると言ふなま〳〵しい戰傷記念を持つ國家の功勞者である。養嗣子胤次郎氏は現在家業たる下駄商に精進してゐるが、氏も世田谷野砲兵隊の出身である。

橋村谷津

區長 越川清四郎

神代村花香四郎左衛門氏の次男に生れたのち當家先代次郎左衛門氏の懇望を容れて累代名主を勤めし名ある當家に入りし氏は明治二十四年一月二十九日の岳降である。小見川農學校の前身校を卒業せる資性英邁溫穩なる人にして、二十八歳の時に區民一

致を以て區長に推され、以來十年間續任し、村長の下にあつて區政改革、區發展の爲に盡瘁、その功大なるものがある。特に氏の努力によつて成る勤勞奉仕班の活動は本村の特色にして、道路愛護、馬糧蒐集に盡してゐる。また夜警團の管理等に萬全を期してゐる。實に氏こそ區にとつて無くてはならぬ人物、區民の尊敬と感謝を一身に浴び、なほも盡力中である。よね子夫人との間に二男子があつたが長男氏は浚し、次男俊治氏が家を繼ぐ人である。

古城村鏑木

區長 植田保

當家は累代傳藏を襲名せる當村屈指の舊家にして、開祖傳藏氏は往昔海邊より大佛像を持ち來り、堂宇の建造に奔走した信仰厚い人であつた。また當主母堂きく子刀自（七十二歳）も信仰厚き人にして、天理教の信者であるが、その爲に永年の病氣の苦痛を忘れ全快し、現に宣教所を村内に設け信者は百人以上を數へる程である。また先代傳藏氏は二十三歳頃より役場に入り爾來村長、助役、村會議員を歴任せる自治功勞者であつた。當主はその甥、明治三十一年十二月十九日の出生にて、先代氏の懇望により當家を繼ぎし人である現在區長として區民の爲に盡瘁してゐるが、曩には青年團分團長、消防部長、小頭を勤めた事のある功勞者、また信仰厚く、母堂と共に天理教を信仰してゐる。家には令閨せい子さんとの間に四男一女あり、長男實君は旭農學校在學中の俊才である。

神代村平山

元消防組頭 伊藤博正

當家は二十四代を傳ふる村内屈指の舊家名門にして、祖父源藏氏は小見川藩の名主、戸長等を勤め帶刀御免の家柄である。屋號を四郎左衛門と稱した。嚴父八之助氏は二十一歳にして村會議員となり昭和十一年七十二歳の逝去まで實に前後四十餘年間に亙り學務委員、助役、村長其の他あらゆる公名譽職に歴任して德望功績並び稱せられし人にして、自治功勞者として知事より紋服を受くること數回殊に、村婦人會、處女會、戸主會等を起し村治は先づ家庭からの信念を實行した人として讃へられてゐる。氏はその長男として明治十七年九月呱々の聲を擧げ、消防組頭、國勢廟査員等を勤めたが、專ら嚴父の公職を輔け自身は齊家の道に盡瘁した人現に嚴父の衣鉢を襲ぎ、戸主會處女會、婦人會等に重きをなし圓滿潤達なる人格と共に爾後村治上の中樞的な人物として多大の嘱望を以てされる人である。家庭はなみ夫人との間に二男三女あり長男久吾君（明治四十三年生）は茂原農學校出身にして前途洋々の青年である。

古城村万力

女子青年團長 **石毛正策**

明治三十四年三月二十四日先代眞太郎氏の男に生を享けた氏は千葉師範卒業の智慮衆に勝れたる俊器英才、十又六年各地の小學校に奉職し現在は古城小學校の次席訓導としてなほも育英の爲に貢献、生徒より慈父の如く慕はれてゐる。またその傍ら青年學校、青年團理事、女子青年團長の重任にありて、青年男女の教育に盡力してゐる。又當家は元祿年間山倉村より移住せる當村切つての舊家にして、祖父只八氏は明治初年頃戸長を勤めし人、先代氏も村長、助役、村會議員、學務委員を歴任し衆望を一身に集めて最終の郡會議員に推されし人格者、自治の爲に東西奔走、その功勞は枚擧に遑がない。昭和五年十四歳を以て歿したがその殘せる功績は燦然光茫を放ち、今も人々は無言のうちにも感謝を捧げてゐる。なほ家庭には當主夫人智可子さんとの間に照治君あり、母堂たけ子刀自なほ健在、夫人は國防婦人會副會長として活躍してゐる。

橘村石出

農會長 **岩田敬三**

當家は本村屈指の舊家にして代々藤兵衛を襲名した名主を勤めた名門である。また祖父の代まで酒、醤油の醸造をなした。嚴父藤兵衛氏は當村初代の村長として村治各般のことに多大の功績を殘し又縣會議員として縣治の爲めにも大いなる足跡を殘した人である。嚴父も亦區長、學務委員として多くの貢献のあつた人、氏はその男として明治三十九年三月四日岳降、成田中學卒業後、盛岡高等農林を卒へ、昭和八年橘村郵便局長となり、傍ら村治の上にも盡瘁する處あり、曩に青年團長、助役たり、現に方面委員、學務委員、農會長として、貧困救濟に、學事に、農事に精勵し、眞摯且溫容なる人格と共に將來村の中樞に活躍すべき材幹として多大の嘱望を受けてゐる。

府馬町長岡

酒造家 **鎌形三四郎**

電話府馬一二番

商標の一

十名の從業員を使用し、敷島富貴のみにて年に參萬石の醸造高を示す當家は通稱長岡酒屋と稱し、明治三十八年當主の努力により創業せられしものである。その當初は使用人三名よりなかつたか、氏は堅實を旨とし着々歩を進め現在の隆盛を見るに至つたのである。府馬町近接町村に販路を有し、一府六縣及び千葉、香取郡の各博覽會及び品評會に常に出品、その表彰枚擧に遑なく、近頃では、昭和十二年四月の郡品評會に特選賞を受けた當主は資性溫厚また篤實なる士にて、その中に俊敏の氣性あり、獨立獨行の人物にて當に製品の向上に留意し左黨より好評を得てゐる。

そ の 二

古城村鏑木

元青年團長 **鏑木壽一郎**

當家の開祖は寛永年間千葉家に屬した鏑木主膳頭にして千葉家沒落の後農に下り爾來十三代を傳ふる土地有數の舊家である。又享保年間本田隼人正の名主たり又御領の名主等代々名主を勤めた記錄あり、嚴父順爾氏は曾つて村會議員、區長等を歴任し功勞あり將來を嘱望されてゐたが惜しくも、大正十四年四十二歳にして村民痛惜の中に逝いた。當主はその長男として明治四十年九月五日に生れ、千葉中學卒業後、青年團長、消防部長等に歴任村青年の中心的人物として活躍してゐたが、足に病を得て、職を退き靜養の傍ら讀書にいそしんでゐる。將來村治の上に多くを期待される人である。資性溫厚にして家庭極めて圓滿である。

橘村

前助役 勳八等 **宮口儀三郎**

當家は通稱古屋と稱され土地切つての古き家系であり且つ草分けとしての舊家である。農を以て家業とし代々名主を勤めた由緒の家である。又古くより寺子屋を開き近郷の子弟を訓育した。氏は故孫十郎氏の男として明治八年六月七日の岳降若くして石橋尚藍氏に師事して漢字を修め、日露戰役に從軍して勳八等に叙さる氏は夙に村治各般のことを思念、曩に區長、區會議員、消防部長を多年歴任して村會議員に推され學務委員、助役等の重職に就き顯著なる治績を擧げた。又村全體を統制す

る養蠶組合を興しその組合長たり、笹川繭市場設立に努力して理事となり村産業の爲め功績大にして、今尚氏の溫厚篤實の資性と共に村民多大の敬仰感謝を受くる處となつてゐる。學校建築、蠶業組合に關して功勞を表彰され現在は村治の長老として重きをなし趣味として盆栽の道に雅趣三昧に浸つてゐる。家庭はカク夫人との間に二男一女あり。長男祥男氏に既に令孫二男一女があつて極めて圓滿なる家として知らる。

古城村鏑木

前學校長 勳八等 **高木卯之助**

氏は故喜平氏の二男として慶應二年十月三日に生れ高木家は千葉家の族より分れ高木一族の大本家より分家後十五代を傳へ代々喜平を襲名、名主戶長を勤めたる舊家なり。幼より資性堅忍不拔にして苦學力行、檢定を經て、教育界に入り、縣下の國民教育に專心すること四十餘年に亙るの久しきその功績顯著なり。殊に當村に於ける期間の長かりしことは、氏の教育的貢獻の厚かりしと共に村民の信望厚きに因る其後海上高等普通學校教頭となる。昭和八年同校退職以來、現在古城村誌編纂に努力を續けてゐる。二男二女あり皆よく功成り一家を爲せり。

橘村東今泉

區長 **伊藤慶一**

現に區長の重任にありて出征家族の慰問其他に區民の福利增進を計り身命を賭して鞅掌精進努力してゐる氏は明治三十年八月三十日先代勝藏氏の男に生を享けた。當家は農を家業となして來た家柄で、また戶長役場時代に區總代を勤めし功績ありし家でもある。氏も現在、區長の他に耕地整理組合の爲めに盡瘁してゐるが、曾ては區長代理を二期歷任し、消防部長は多年勤めて功勞なからず、當消防組は氏の部長時代に金馬籠使用を許されて賞狀を受けた。また青年團設立前に青年風紀革新運動を起し學習會を組織、その幹部として努力、青年團の成るやその分團長に推されて盡瘁した事もある。氏は今や壯年期にあり多大の期待をかけられてゐる。家に母堂イェ子刀自健在、令閨テイ子さんとの間に一男一女がある。

橘村青馬

區長 **横田勇太郎**

當家は村內屈指の舊家にして、代々名主を勤め、平左衛門家として傳はり現に天保年間のものとして領主に對し御貸付金引受證文並に天保九年の城主よりの免

租の書付等を保存され、當家が青馬の草分けとしての由緒深き素封家であることを物語つてゐる。嚴父平左衛門氏は石橋尙藍氏の門下にして嘉永二年の岳降、現在九十一歲の高齡で健在である。氏はその男として明治三年十月十五日に呱呱の聲を擧げ幼にして當村の碩學岩堀角次郎氏に師事し漢學を修め、齊家修身に恪勵、現に戰時下の區長として衆望を擔ひ部落の融和に精進してゐる。殊に曾つて鎭守改築に當つては率先工事委員として假宮一棟を寄進する等敬神の道に貢獻した。氏は天性矜愍に富み溫厚篤實村民の親愛と瞻仰は厚きものがある。趣味として盆栽の造詣深く殊に漢詩に長ず

恭賦一詩　奉賀即位大典

擧禮西都幸紫宸　昭和歲次戊辰春

叡明即位名千古　聖主君臨世一新
與誇金甌無缺國　也欣忠孝至誠民
廊廟丕構基于此　遙拜盛儀祝令辰

祝家翁米壽

回顧老來歲月空　光陰夢裏去忽々
唉兒綠髮旣成雪　喜父慈顏尙似童
膝下煎茶談世事　燈前呼酒唱豳風
豈言壽福全相伴　奉賀當年八々翁

中和村清和

實業家 **宮負松治郎**

二十餘年間米國カリフオルニア州にて「ヨコハマ・ランドリー」商會を經營し、遠近にその名が響いた氏は明治二十年七月二十一日菅谷七太郎氏の三男に生れた。のち先代松之助氏の望みを容れて當家を繼ぎし自力獨行の人。歸朝後現在三井生命保險株式會社の代理店を營み、本村第一の人先覺で立志傳中に大書記錄すべき成功者である。また令閨とら子さんは國防婦人會分會長として、支那事變出征者の家族の慰問其他に寧日なき活躍を續けてゐる女丈夫にして、その反面貞淑溫雅なる賢夫人である。間に子供なく、今は北海道にゐる氏の實兄七藏氏の末子、享之君を養子としてゐる。同君は現在匝瑳中學校在學中の俊才であり、家は圓滿な家庭にして、當家は近在の羨望の的である。

東城村夏目

實業家 **布施儀三郎**

當家は干潟開發以來當地に居住せる舊家にして旣に七代を傳へ、三代は漢學に長じ、塾を開き近鄕青年の薰陶に努力した人、四代目與右衛門氏は當家の中興の人にして安政三年酒釀造業を創め爾來四代一世紀に亙り海上、香取兩郡を販賣の根幹として、千葉一圓に盛業を續けてゐる。關東、千葉、香取等の各品評會に一

等の榮冠を得た、銘酒「神明」の聲價は愈々高まりつゝある。養父與太郎氏は、家業の隆盛のみならず、村長、助役、村會議員、その他の公職に歴任して村治の上に巨大な足跡を印し、名村長として今尚村民の記憶に新なる人である。

當主儀三郎氏は明治三十年十二月二十四日の生れ一等水兵として曾て横須賀海兵團に在りし人、歸郷後當家の養子となり、爾來家業に精勵して今日に及ぶ。氏は幼より俳句を好み現在在郷軍人會、青年團等に盡力しつゝあり將來を嘱望されてゐる。

橋村宮本

方面委員
前農會長

林初太郎

資性溫順、德望普き氏は明治四年十月一日先代八左衛門氏の男に生を享けた。當家は當村開拓の舊家にして、尊父氏は區民の衆望を一身に集め區長代理に推され、盡瘁貢献せる人であつたが、當主も現に方面委員小作調停委員、金錢債務調停委員の重任にありて村民幸福增進の爲に鞅掌精進してゐる。曾ては農會長、區長、村會議員に推されて盡瘁せし事あり、その功大なるものがある。特に農會長として殖産發展の向上に努力せる業績は今も赫々と輝き、その功枚擧に遑なく、當農會を縣農會の指定農會になせるも、一に氏の盡瘁によるものである。氏は今や當村の元老として重きをなし、尊敬と感謝を受けてゐる。長男敏雄氏には同夫人りの子さんとの間に一男四女がある。

香取町香取

元町會議員
權少講義

香取重忠

香取家の始祖は香取神宮經津主神に供奉して當地に至り、二代前の祖重高氏の代まで内苑の神主として奉仕した名門の家柄である。先代重信氏は香取公園に私財を投じて觀光亭を創設した人、權少講義の教職にあつた。當主はその男、明治十七年二月三日の出生、疾くより農事に就いたが、十八歳の家運の挽回に奮起して刻苦精勵、大に財を作るや更に材木商を兼營、現在では材木商として近郷に異彩を放てる成功者を以て著聞し、津宮村に汐製材工場

を設立し、長男重信君をしてこれに當らしめてゐる。今、氏は祀祐社幹事、香取神宮奉賛會評議員、大成クラブ顧問等を兼ねて盡瘁貢献してゐるが、前には町會議員に當選すること三度、區長、青年分團長などして町治に關與努力してゐる。なほ香取町初代の商工會長、香取神宮神幸大祭には召立長として總勢二萬人の指揮者として奉仕してゐる。氏は今、政友系に席を措き、政黨爭ひを町政に及ぼさることを念とし、町治の圓滿な發展を目指して盡力してゐる。その近詠はよくこれを語つてゐる。

政民の爭ひやめてこの四とせ
町のためにとむつみてしかな

因に氏は香取神宮々司より三ツ組銀杯、また大岩村長より銀杯を贈られて共に表彰されてゐる。

香取町返田

區長

藤田嘉重

資性溫良、人格圓滿なる氏は明治二十二年八月十五日先代勘太郎氏の長男に生れた。當家は累代名主、庄屋たる家柄、尊父氏も町會議員、區長、學務委員、氏子總代、農會長を兼ねて盡瘁せる功勞者また信用組合長として、創立以來二十年間盡力し、郡より表彰を受けた人でもある。當主も現に區長、氏子總代、戸數割調査員、受檢組合長の重任にありて盡瘁中であるが、

特に區長としての功績は大なるものである。現在當區の農産物の成績は町に於ても優秀なるものにして、職としては實に氏の努力に依り區民は尊敬と感謝を寄せてゐる。今や氏の盡瘁により當區はますます發展の途上にあり、氏こそ文字通りの功勞者である。家には令閨つる子さんとの間に七男一女あり、長男徹氏（二十九歳）とよし子夫人との間には女三人の令孫がある。

良文村久保

素封家

高橋辰司

先代正氏は村會議員四期區長五期に亙り多年村政並に部落和合に功績のあつた人である。代代地主として德望ある家系にして、當主辰司氏は明治二十五年の丘降、多年消防組部長、區長代理として盡力したが、現在は區會議員、農家組合長として部落の發展に盡瘁してゐる。最近農會組合員は約五十名にして農産に、納税にと好成績を擧げてゐる將來村政に活躍を嘱望される人である。なほ消防に關しては多年盡瘁の功大なるものあり、年功章を受け縣より表彰された事あり家庭は五男三女の子福者で圓滿を極めてゐる。

橋村東今泉

前助役 遠藤孝之助

祖父蒔次郎氏は當家中興の祖ともいふべく幕末の頃寺小屋教育を以て近隣の子弟に多大の薫化を與へ、齊家修身全く德望を以て知られた。嚴父三左衛門氏は天保九年の岳降天性俊英溫厚にして、柳堀東墅氏に漢學を修め、明治十七年役場書記を振り出しに助役、村長、其の他の重職に在ること實に二十有餘年村治産業の上に遺せる功績顯著なるものあり衆望頓に高かりし人なり。氏はその長男として明治四年四月に生る。幼にして尊父の下に漢學を修め資性溫厚篤實にして眞摯剛毅常に村治各般の事を思念して、收入役、村會議員、區長、耕地整理組合評議員、檀家總代、助役等の重職に歷任し、治績巨大なるものがあり、村民多大の瞻仰を受けつゝある。趣味として讀書三昧の境地を好み、また書を良くす。家庭はヤス子夫人と、長男三左男氏にハツ子夫人を迎へて既に令孫一男三女あり常に春風の如く和樂圓滿を極めてゐる。

素封家 良文村和泉 向後聰夫

當家は先代源太郎氏代々大地主として名主を以て傳はつた名家で、向後源兵衛氏の祖父が次男を連れて分家し酒の釀造を創め、祖父仙右衛門氏は村制施行前に役員として功績あり、尊父源太郎氏亦二十八歳にして村會議員、學務委員、收入役、助役として村治上に致せる功勞甚大である。小學校々舍の新築、臺地切下げ、産業組合創立、巡還道路完成等に盡力殊に二十歳の時村内二分して抗爭の際、挺身本城久右衛門氏と共に之が解決に成功したことは今尚村民稱讃の的となつてゐる。氏はその次男として明治三十二年五月十五日に生れ、前青年團長農家組合長等々を勤め現に消防部長として活躍殊に當村尋五以上の兒童八十餘名で少年消防隊を組織し和泉第五部はその原動者となり夜警その他に從事せしめる等、その指導啓發に當り功績あり。

溫和にして剛毅なる資性と共に、村政の將來に多大の期待をかけられてゐる人である。くら子母堂なほ健在、家庭を見つつ餘生を樂めば、夫人藤子さんは常によくこれを慰め、他方夫君の隻腕となつて孜々内助に勗めてゐる。

橋村新宿

前村會議員 根本源治郎

當家は古き由緒に富む家系を傳へ先代故次郎左衛門氏當地に來り爾來家運興隆に孜々として精勵克く一家をなせり。氏はその男として明治九年八月十日の岳降にして嚴父の衣鉢を襲ぎ笹川塾に修學、後鋭意努力し赤腕能く家勢著大を致せり。恪勵勤勉の活模範として曾て村長より賞狀を受け飯田善次（前村議）氏と共に周知さるゝ處である。又人格極めて謹直村民の推輓厚く擧げられて前村會議員たり、村治の上に貢献する處尠からず、長男滿太郎氏は明治二十八年に生れ、北海道旭川聯隊除隊後、消防區部長、本部長として活動曾つて消防に關し表彰さる。又青年團幹部として村青年の指導に貢献せる處多大なり、家庭は長男滿太郎氏夫妻に二男二女の令孫あり、極めて圓滿和合の家である

素封家 良文村和泉 向後源利

「和泉の源兵衛」家として代々大地主である當家は、鎌倉時代に起りし舊家である。寺檀家總代として二百數十年前の堂宇建立に當つてその七分を負擔なし、千五百石以上の收穫ある廣大なる耕地を有し名主として聞えた家系である。その分家數三十餘家に及び、現在當萬歳村には和泉町場と稱する地名あり、その由來を語つてゐる。尚鄕倉あり米四俵を獻納したので現在も正月四日には鎭守より招待の慣例となつて殘つてゐる。祖父利七氏は助役として、嚴父喜三郎氏は區長、村會議員、青年團長として共に村政の爲めに大いに盡力なし功勞があつた人、氏はその長男として明治三十八年十二月二十一日に生れ、元青年團長として村青年の中心たり、現在村畜耕會副會長、軍人分會評議員として村治に眞摯なる努力を續け、その溫厚公正の資性は村民に信望あり、村治の將來に多大の囑望を以て待たるゝ人である。家庭はまつ母堂、夫人きよさんの外弟友治氏あり（支那事變に名譽の負傷）また一男二女の子女あり、極めて圓滿である。

橋村宮本

前村會議員 飯田善次

當家先代貞治氏は明治元年十八九歳の當時、當家を興せる人にして、從つて當主は二代目、明治九年十月一日の岳降である。人格圓滿なる人にて、曩に區長を歷任する事昭和四年より二期、村會議員には昭和九年に推輓され、また農會評議

員、消防部長を兼ねて盡瘁その功大なるものあり村民より感謝された。氏はまた篤農家として聞え郡より功勞顯著として表彰を受けた事がある。文字通り溫情の人、盆栽に造詣深く、サボテン、オモトの栽培には當村一の智識あり、その庭園は見事なものである。令閨よね子さんは昭和十二年十月惜しくも病歿したが、現在長男兼一氏同夫人のぶ子さんとの間に武男君あり、極めて圓滿な家庭である。

良文村阿玉臺

正八位 **宮崎藤一郎**

當家は代々名主且つ大地主として舊き家系を有する素封家たり。祖父藤太郎氏は戸長たること二回並木栗水先生の高弟として漢學に長け、嚴父藤兵衛氏亦故渡邊操先生の高弟として漢學、農耕に通じ村長、助役、收入役、農會長その他あらゆる村公、名譽職に歷任し、その功績甚大にして、溫容なる人格と共に村民の信望厚く現に尙村治の長老として重きをなす。氏はその長男として膝下に衣鉢を襲ぎ、正八位陸軍步兵少尉となり、後在鄕軍人分會長となるや銳意十年の眞摯なる貢獻は昭和九年帝國在都軍人會有功章を閑院總裁宮殿下より賜はり、縣下稀有の最高表彰を受くるの光榮に浴した。又青年團長、消防組頭、農會長、青年學校指導員として、村治に貢獻する處多大なり。公平無私、淳厚溫和の人格は村民の間に聲望あり、將來村政の中心人物と目されつゝあるが明治卅年十月二日の岳降にて未だ壯年前途多くを期待さる。家族は祖母さい子刀自、嚴父藤兵衛氏は健在、ふじ夫人との間に一男三女あり。夫人は國防婦人會阿玉臺會長を勤め極めて圓滿である。因に令弟省三氏は辯護士たり、次弟信正氏は三菱重工業會社員たり。

橋村羽計

元村會議員 勳八等 **小澤豐松**

一家より五名の兵役關係者を出し木杯一組を賜つた名譽の當家は當村の舊家、小澤安己氏の家より分家せられたる家柄、また小澤家は五ケ村の名主を勤めた功ある名門の家柄である。なほ先代兵藏氏は篤農家として地方に聞えた人であつた。當主はその男、明治十四年三月一日の岳降にして、習志野騎兵十六聯隊に入營し、日露の役に出征した勇士である。その時の戰功に

より勳八等白色桐葉章を賜つた。曩に村會議員、區長、青年團長、農會組合長其他を兼ねて多年盡瘁せる功ある人にて、村自治の功勞者として尊敬を一身に浴びてゐる。なほ長男清一氏も現に消防小頭の重任に在り進んで鞅掌精進、努力してゐるが、火の見櫓の完成に付き功ありその將來に多大の期待をかけられてゐる。

良文村五鄕內

素封家 **竹內眞太郎**

當家は八代連綿たる地主として代代名主の家系たり村內有數の素封家たり。先代傳右衞門氏は村會議員、助役を經て村長となり、永年村治の上に盡瘁して、村開發の恩人たり。區長、學務委員等も勤め、良文小學校を創設しその初代校長たりし人である又明治初期の自由黨々員として活躍された。當主眞太郎氏はその長男として明治三年三月十二日に岳降區長を永年に亙り勤め部落發展に盡す處大なり。又耕地整理組合評議員たり、良文農學校小見川移轉に當つては多大の功勞ありし人なり。

令息猶之亮氏

長男猶之亮氏は五鄕內區長代理、耕地整理組合評議員として活動中にして、資性溫厚にして、事に當り眞摯なる人、將來村治の上に多大の寄與すべき人として期待さる。因に氏は明治二十九年三月の岳降家庭頗る多人數にして而も極めて圓滿である。

良文村和泉

素封家 **小堀誠爾**

當家は過去帳によると二百有餘年を經たる舊家にして、代々地主として名主を勤めた名門である。嚴父力松氏は當年八十二歲の壽翁にして、多年區長、村會議員、學務委員助役等を歷任して功勞多大なり。殊に學校問題に於いて貢獻顯著なるものあり。村內最長老として人望が高い。氏はその長男として明治十七年二月一日に生れ、元公設消防組の創設に當つて盡力し消防部長たり。現在區長として部落融和發展に盡瘁してゐるが、氏の區長となるや必ず變事の出來に遭遇するは洵に珍とすべきことで、即ち大正十二年には大正震災

小堀力松氏

昭和六年には地租修正問題起り、同十二年には今回の日支事變が口火を切つてゐる。氏は今、納税に、銃後の統制にと充分なる成果を擧げ溫厚篤實の資性と共に部落民に絶大の聲望を博してゐる。夫人やすさんとの間に三男あり皆夫々夫人を迎へ家を齊し七人の令孫を擧げ相共に繁榮してゐる。

香取町多田

町會議員 **香取佐忠**

當家は當町屈指の古き家系を傳ふる舊家にして、代代名主を勤め且つ一二を爭ふ大地主として聞えたる名門でがる。祖父忠右衛門氏は戸長、庄屋なり、尊父喜治氏は民政黨幹部として、町會議員、收入役等を歴任將來を囑望された博識、圓滿の人格者であつたが、僅か三十九歳の若さを以て町民痛惜の中に病歿した。氏はその長男として明治二十五年四月十八日の岳降、佐原中學卒業後一年志願兵たり、曩に區長在郷軍人分會長、農會長として盡瘁現に町會議員、方面委員、軍友會長、弘正會長、檀家總代等の、重職に在り町政諸般の事に多大の功績を殘す。殊に當町民政黨の重鎭として昨十二年五月元町長たる額賀、岡澤、林三長老を顧問とし、町有士六十名を會員に網羅弘正會を組織、その會長に就任、町政の一大勢力を形成し町自治の將來發展上に一エポックを劃した功勞者である。趣味として、柔道、書畫、盆栽を好み、しかも盆栽にかけては既に素人の域を脱した天晴れな腕前を有つてゐる。氏はまた事に富り眞摯熱意に當み、而も該博圓滿の人格は町民絶大信望を擔ひ次期町長を以て期待さるゝ巨頭である。因に家庭はちやう夫人（四十二歳）との間に五男四女を數へる大の子福者にして頗る圓滿和樂を極めてゐる。

八都村米ノ井

素封家 **日下部直木**

當家は當地有數の素封家にして、氏は當部落の名門醫家を以て傳はる同姓日下部家に生れ養子となりし人、明治三十一年四月七日に生れ大正七年佐原中學卒業後、教育界に入り一身を投じ、熱と愛とを注いで兒童撫育に從ふこと大正十三年まで七年間、鋭意專念努力するところがあつた。退職して以來は專ら部落開發に盡瘁し推輓されて現に區長、統計調査委員の要職にあり、將來の村治上に多大の期待を以て目さるゝ人である。趣味として太公望の境地を愛し、信仰は天臺宗である、トリ夫人との間に五男一女あり、家庭極めて圓滿である。

森山村阿玉川

村會議員 **菅谷彦太郎**

當家は村内屈指の素封家たり、その祖先は清右衛門と稱し日本畫を良くせる人といはれてゐる。先代村造氏は多年村長、區長、學務委員、郡會議員等を勤め、縣會議員に推されしも辭退した人、地方自治に村政に巨大な功績を遺してゐる。氏は明治四十五年五月十一日に生れ縣立茂原農學校に於てその俊才を知られ請はれて當家の養子となり爾來齊家に勉め、曩に青年團長として、村青年多大の信頼を受く現に村會議員、學務委員として村治の上に斬新氣鋭の頭腦を以て、眞摯なる貢献をなしつゝある。明快にして溫和高潔の人格と共に將來村治中樞の要職に鞅掌すべき材幹として多大の囑望を以て俟たるゝ人である。趣味はテニス、カメラに深く、家庭には子母堂健在、きよ子夫人との間に二男一女あり、極めて圓滿である。

良文村五郷内

素封家 **向後武三郎**

當村は米國渡航者百餘名に上り、主としてリビングストーンのヤマトコロニーを農業地として成功者多數を出してゐるが、氏は明治九年一月十一日生れにして、向後清次氏の養子として、夫人はるさんと結婚、二十七歳の時渡米して、カリフオルニアで洗濯業を經營、主としてサンフランシスコの外人相手に盛大な營業成績を擧げ多年の進取的努力は氏をして多大の產をなさしめ、立志傳中の人として昭和三年歸朝した。爾來前區長、村會議員、現在は方面委員、耕地整理組合理事として村政の爲に貢献してゐる。長男惣次氏は現在桑港に於て、クリーニング商を隆盛に經營中である。家庭は次男唯司氏、東京にあり極めて寡人數である。既に令孫十二人あり。

山倉村桐谷

素封家 **木内毅**

先代好郎氏は土地有數の資產家たり、豪農として近郷に聞えてゐるが、その開祖は極めて古きも、寺の火災によつて判然しない。昔より酒釀造を營んで來たが祖父竝に嚴父の代に廢してゐる。代々名主戸長等を勤めて土地の中心をなした素封家である。祖父倉吉氏は村長その他の村治名

公職を歴任して明治三十年四十三歳にして歿した。先代好郎氏又二十二歳にして村書記となり村長、村會議員、米穀檢査員、農會長等を歴任郡會議員にも推輓されたが昨年一月五十七歳を以て惜しくも長逝した。二代共に村治の中樞に眞摯なる態度を以て臨み何れも村政上に巨大な足跡を印し村民の感謝追慕を受け、其の人格を慕はれてゐる。氏はその長男に生れ當年四十一歳。高等蠶糸學校卒業後京大經濟科を卒へ現に富士瓦斯紡績株式會社取締役たり、各方面に將來を囑望されてゐる人である。母堂てる子刀自は當村前村長石毛孝太郎氏の息女で、男まさりの健氣な人、今、令孫毅君（十六歳）の養育に當つてゐる。

日吉村二又

素封家　**大木正橘**

當家は元祿時代より傳はる村内有數の舊家、素封家である。先代内藏造氏は多年村長、區長、村會議員、助役等の村政の中樞に鞅掌して巨大なる足跡を印した功勞の人であつた。氏は明治七年五月三十日の岳降、幼より俊秀を以て聞え請はれて當家に入り爾來齊家に勤めた人、資性溫情篤實にして剛毅清廉の志强く而も村治に對し誠心思念する所あり曩に學務委員、區長、村會議員、收入役等の重職に歴任して村政各般の上に多大の功勞を致し現に戸數割調査委員として恪勵され村民の澎湃たる聲輿を受けてゐる。長男政氏（三十九歳）家に在り、次男通氏は上海に、三男理一氏は北支香月部隊にと夫々出征して華々しく活躍中であり、その譽れ高き武門の家名は、四隣から羨望されてゐる。

豐和村飯塚

素封家　**及川貫一**

當家は其の開祖年代は不明なるも文化文政の頃家運隆昌を極め、代々庄屋名主戸長を勤め苗字帶刀を許されたる舊家にして、地方有數の豪農の家系たり、代々林藏を襲名し今尚林藏なる小字あることも家柄を知り得る。祖父常吉氏は明治二十二年市町村制施行初代の助役として村自治の確立發展に盡力爾來數度村長に推され、その都度、村諸施設に產業に多大の功績を遺せり。意志强く、自治に明るき讀書人として德望厚かりし人である。養父榮氏も祖父の衣鉢を襲ぎ、村會議員、產業組合役員としてその人格識見手腕共に將來村政の中樞に馳驅すべき巨材なりしが不幸にして昭和三年三十八歳を以て逝去す、爾來ヨシ子母堂は孤節を守り遺子フクさんの育英に專念、當主貫一氏を養子に迎へ家を繼承す。氏は東京日本大學に齒科醫學を修め現在尙在京研究中である。因にヨシ子母堂は前村長那須善作氏の令妹、夙に家庭の好内助者として令名が高い。

神代村櫻井

農家實行組合長　**菅谷淳三**

當家は土地屈指の舊家たる菅谷家（現當主昌訓氏）より五代前に分家したる家系にて三代目當主は學に通じ塾を開き近郷の青年子女を指導した人である。嚴父太右衛門氏は曾て助役、村長其他の公、名譽職を歴任して村自治の上に巨大な足跡と功績を殘した村政の長老である。現在は六十歳にして隱居なし、俳句、詩、歌の雅道に專念してゐる。氏はその長男として明治三十九年の岳降、東京駒場大學園藝實科を卒へ、その蘊蓄を傾けて農事に專念してゐるが、曩に青年團長、消防部長、統計調査員に擧げられ現に農家實行組合長として貢獻、將來村治中樞の器材として囑望される眞摯溫厚の人である。家は嚴父並になみ母堂、みつ夫人との間に三男あり、春風和樂の家庭である。

橘村宮本

名望家　**飯田文雄**

祖父助作氏

當家は當村屈指の舊家として且又名望の家門たり、祖父助作氏は弘化四年に生れ、天性高潔溫容の人として衆望を負ひ明治三十三年助役に就任爾後村長、農會長其の他の公職に歴任、村治の發揚に產業の興隆に大いなる業績を擧げてその功により勳七等青色桐葉章を受く、その功績亦村民より澎湃たる感謝と瞻仰とを寄せらる。和歌に長じ、出征家族慰問に自作の歌詞を贈るなど未だに村民の記憶深きものとして遺つてゐる。尙當主文雄氏は故兵輔氏の長男として明治三十二年九月十九日に呱呱の聲を擧げ曩に消防部長として賞狀を受けしことあり。當村に地主、小作の協調機關として生れた協行組合の三代目組合長として現に同組合の本旨のみならず農村年青の愛農精神の鼓吹等に能動的な活躍を發揮しつゝある。氏も亦祖父に似て和歌に通じ一昨年西日本一周の團體旅行を長詩形に歌作して發行配布してゐる人格明快にして濶達の人、篤農家として將來に多大の囑望を以て俟たる家庭はアキ母堂健在、イク夫人との間に五男二女あり子福者たり頗る圓滿な家庭である。

八都村米ノ井

素封家　**青柳千代治**

當家は十數代を傳ふる古き家系にして

土地有數の資産家である。嚴父武雄氏は區長、村會議員、學務委員、村長等の重職に歷任し村治政の上に大いなる足跡を遺せし人である。殊に縣道改修に當りては、現助役菅井四郎氏の嚴父と共に多大の功績ありて今尙人口に膾炙してゐる。幾多村治上の功績にて昭和六年キング賞を受けたる功勞者である。當主は武雄氏の長男として明治四十四年九月十四日の生れ。佐原中學の出身で、前途有爲の青年として囑望されてゐる。家庭は夫人ときゑさんと一男二女あり圓滿を極め、村内の名門にして現助役菅井家、元村長木内新次郎家も親戚たり。

良文村久保

村會議員 菅谷勘三郎

氏は吾國ラジオアマチュアーとして知るゝ人殊にDX遠距離受信に關しては斯界の權威である。内外ラジオ專門雜誌に筆を取る。極めて多趣味にして圍碁に於いては土地に並ぶものなく、又篆刻をよくし縣社東大神の社印は氏の手になるものである。村治方面にも亦多大の勢力家たり、曩に青年團長、現在村會議員、學務委員、青年團顧問、氏子檀家總代、香取郡聯合青年團幹事、縣青年團指導委員民政黨香取郡支部幹事長の要職にあり、村治村政の各般に眞摯なる貢獻をなしつゝあるが、氏の博識圓滿の人格は村民多大の信望を博し將來に一層の期待を以て俟たるゝ人である。尙當家は當村屈指の大地主として代々名主を以て傳はる舊家であり氏は明治三十四年二月七日の岳降にして未だ春秋に富み佐原中學の出身である。家庭は夫とめ母堂健在、忠子夫人との間に二男二女があり、頗る和平圓滿を極めてゐる。因に忠子夫人は良文國防婦人分會長として銃後のために盡力してゐる。

香取町返田

氏子總代 伊藤素介

先考清太郎氏

慶長九年甲辰九月に開創せらて以來、連綿何代も續く當家は當地方屈指の大地主である。また名主、戸長を勤めて功のある家柄、現在庭内にある愛宕大權現の社は、その由緒の深きを思はせる。なほ祖父勘解衞氏は多年名主を勤め、町政施行以來助役、町會議員に推され、また返田神社の氏子惣代は五十餘年歷任せる偉大な功勞者、その盡力を感謝されて返田神社の境内に頌德碑が建立された。先代清太郎氏もまた、町長、町會議員、助役其他の重任に推され全責任を以て執掌せる人、縣道問題、學校增築には特に功あり、町の元老として人望を一身に集めた

人であつたが、昭和七年に惜しくも病の爲に不歸の人となつた。當主はその長男明治二十九年五月二十日の岳降である。現在父君の志を繼ぎ氏子惣代として盡瘁してゐる。なほ區政に功勞多き人にて衆望を一身に集め今後に多大の期待をかけられてゐる。家には母堂ふぢ子さんなほ健在、令閨ふみ子さんとの間に二男三女がある。

日吉村篠本

平山匡男

當村に於て隨一の素封家平山清吉氏は、創家以來星霜を閱すること八十有餘年良く巨富を成して傲らず、良く施し良く救ひ公共を念として贊翼助力を務めて怠らず、遠近洽くその德風に化し鑽仰頗る篤いものがある。同家より分家したる平山權治氏は良く祖父の庭訓に從ひ學を修め業を習ひ、夙に志を地方自治の上に抱き一意專心公に奉じて年あり、現に村助役の重任に推され、上司を輔佐し下僚を誘拔し、村治の成績大いに擧り内外咸な氏が功勞を稱してやまない。また傍ら產業組合事業に多年盡瘁し畫策經營宜しきを得、今や氏はその理事として黽勉太だ努め效績極めて著大なものがある。氏の令嗣、匡男君は大正七年九月二十七生、鄕校を經て縣立多古農學校に學び優秀なる成績を以て卒業し、今や家業に沒頭しつゝ他日の雄飛を期してゐる。

萬歲村溝原

素封家 菅谷幸司

當家の開祖は不明であるが、相當の舊家で、代々農を本業となして來た。先代故傳右衞門氏は初め房治郎氏と稱したが後ち襲名して傳右衞門氏と改めた。幼少時より漢學を修め、家業に精進すると共に村治方面に關心を有し、自治に對する明達眼識は人望を集め、村會議員、學務委員、農會長、村長等に歷任貢獻し、明治四十一年には萬歲、中和、神代三ケ村の耕地整理組合聯合會長として耕地整理事業に盡力、その業績は今に稱へられてゐる。當主幸司氏は大正六年五月二十一日、その三男に生れ、昭和十一年度匝瑳中學校の卒業生で、將にこれからの進出飛躍を待望されてゐる。因に氏は二兄氏とも不幸にして夭折した故を以て、家を嗣いだ人で、母堂いし子さんは健在、餘生を樂しんでゐる。

先代傳右衞門氏

神代村東和田

宮崎忠雄

當家は四代前當村切つての舊家たる宮

崎長左衛門家より分家後代々忠左衛門を襲名して酒醸造業を傳へる家柄である。二代目忠左衛門氏は村長として村内二分抗爭の弊を斷ち、村會議員、學務その他の委員として幾多の功績を遺し現在尙其功勞を追讃されてゐる人である。嚴父三代目忠左衛門氏も村會議員、區長を永年勤めて功勞あり、その他の名公職にも度度推輓されたが、家業に專心する爲め、辭退した有德の人であつた。忠雄氏はその三男として明治四十一年二月に生れ、若年にして家業を繼ぎ專心その繁榮に努力してゐるが氏も亦、祖父、嚴父の後を受けて當然將來村治の上に重要なる役割を果すべく約束付けられた人である。宮崎酒造場と稱し、その品質と芳醇さは定評ある銘酒にして「神光」の商標は益々近鄕の市場に擴大販路を確保しつゝある各種品評會に常に入賞してゐる。使用人十數名にして、あさ子夫人との間に既に子供さん二人があり、頗る圓滿な家庭である。

橘村靑鳥

村會議員 勳七等功七級 **小野元平**

當家は往昔鹿島より來り當土に居住したるものにして、既に三十代を傳へる土地切つての舊家として知らる。古く當家奧庭に不動尊を祀りあり村民の信仰が厚い。氏は佐市氏の男として、明治十四年七月一日に生る。若くして岩堀角次郎氏に就いて漢學を學び修身齊家の道を修す。日露戰爭の時砲兵として出征奉天より開原まで轉戰して拔群の功あり、金鵄勳章、勳七等功七級を賜ひ、曹長に進めらる。資性極めて誠實剛毅にして、曩に靑年團、消防（部長）等に歷任、區長代理として盡瘁するなど、その功績顯著なるものあり、依つて推輓されて村會議員として益々村治の上に精勵村民の輿望を擔つてゐる。趣味として盆栽に通じてゐる。家庭はミネ子母堂、ヤス子夫人、長男壽男氏と一女あり極めて圓滿である。

豐里村下櫻井

元消防小頭 **宮内弘**

先代兼太郎氏

當家は累代村政の爲に盡瘁して功ある家柄、祖父孫衛門氏は村長、助役、氏子總代を多年勤めて功枚擧に遑なき德望者

日露役當時內治の功により勳七等白色桐葉章を賜つた

また先代兼太郎氏は資性溫良にして村書

記を振り出しに村會議員、區長、養蠶組合長、其他を兼任し功勞大にして表彰數知れず、昭和七年惜しくも病歿された當主はその男、明治三十一年九月十九日生をこの世に享け、靑年團副團長を勤め、近衛三聯隊に入營し、除隊後は消防小頭養蠶組合長其他を兼ねて盡瘁した事があつた。また實弟顯正氏は日支事變に出征橫須賀鎭守府同年兵中最初の功勞者として勳八等を賜つた勇士である。

八都村神生

素封家 **惠畑良平**

氏は讀書を以て第一の趣味となし、敬神の念篤く、自からなる溫容の風格を持てる紳士である。當地有數の資產を擁し佐原中學の出身、前村會議員、現在消防部長、信用組合理事として村自治產業の爲めに盡力す。先代安五郎氏も永らく區長、村會議員其他を歷任功勞のあつた人である。因に氏は明治三十三年十二月の岳降である村政の將來に大いなる期待を以て俟たるゝ人である。

良文村和泉

素封家 **向後晋**

當家は代々の大地主たり名主を勤めたる家系にして祖父故辰藏氏は良文村初期の助役並に村長として多年に亙り村治の上に功績あり殊に學校改築に當りては大いにその手腕を示し名村長としての德望高かりし人である。晋氏は明治三十三年十一月十七日の岳降。家名を襲ぎて辱しめず、その溫和、眞摯なる熱意は氏をして、一村治將來の上に多大の期待を以て俟たしめる。現在消防部長たり、銳意村內融和のことに努力しつゝある。家庭は二男三女の子福者にして、祖母けいさんは八十一歲の高齡にして現存、母堂もとさん、夫人きみさんと共に極めて圓滿である。

豐里村東笹本

村會議員 **竹內利一**

先代利七氏

當家は清和源氏の流れを汲む佐佐木高綱の後裔にして代々土地產業の興起に或は融和に多大の貢獻を繼承する土地切ての名門である。祖父政藏氏は當村水利開發に治績あり。嚴父利七氏は幼にして鬼才英俊を以て知られ、當初村小學校敎員、役場書記を經て助役となり、次いで村長に推さる。その間祖父の遺策たる耕地整理の完成、

學校、役場、公會堂の建築設置、或は村教育の啓發に自宅を分割使用する等、常に高潔恬淡、高邁剛毅の天性と清廉自利を省みざる態度は村民の翕然たる瞻仰となり、その功績は深き感謝を呼び、大正十年三月感謝狀と置時計を贈られ、歿後尙その功績を讃へられてゐる人である。

當主利一氏はその嫡男として明治三十一年十月二十五日に呱々の聲を擧げ、氏亦名譽の家系を襲いで全し。曩に青年團の分團長、副團長、團長として十有一年の間日本精神の啓培に愛農精神の强化に努力又劍道の指導に當る等青年陶冶の上に大なる足跡を殘す。尙消防小頭、農會副會長たり、農會組合を設置して、これが「產業組合の機能」への伸展を企圖なしつゝある。現に村會議員たり、殊に當村二毛作の發展は多く氏の功に俟つ處多大なりといはる。將來村治の中樞に鞅掌すべき材幹として重きをなす。家族はトク母堂、イヨ夫人との間に五男二女あり、人の羨む子福者として圓滿な家庭である

良文村貝塚

素封家 **菅谷源兵衞**

當村切つての大地主として代々名主として四十三代に亙る舊家である。先代故善五郎氏は村長、助役、村會議員、區長、社寺永代總代等の名公職にあり多年村政諸般のことに多大なる功績のあつた名望の人、氏はその長男として、明治二十四年九月十二日の岳降、佐原中學校卒業後嚴父の遺業を守り、學務委員、區長、消防組頭として、現在村自治に盡瘁し、村會議員（數期）青年團長、參道工事委員長等の要職にあり功勞多し。消防方面に二十五年間の盡力多大として表彰された。りか子夫人は國防婦人會副會長である。四男三女の子福者で、家庭圓滿なる長者として名望あり、現在多額納稅者である。

良文村久保

素封家 **渡邊正雄**

當家は先代名主の家系を傳へる舊家にして地主たり

先代渡邊操氏は土地教育の上に專心數十年亘大なる足跡を印し、その陶冶育英を受けて、現在社會各方面に名を成せし人勘からず、その人格と學識の德化に及ぼせる處蓋甚大なり。明治十七年村內に無逸塾舍を創設して經書詩文を講ず、後大六天山下に講堂を新築、同志中學校と改稱、更に明治三十四年良文村立農學校として文部大臣の認可を受け、同卅八年私立に變更し郡より補助を受く、これ即ち現縣立小見川農學校の前身にして、校長たること三十七年、卒業者二千餘人卒業

者には政界その他多數の成功者あり。大正九年村內久保に頌德碑を建立して、その高德を偲ばる。又弘道會支會長たり。正雄氏はその長男として明治三十五年三月七日生る。嚴父の遺訓を守りて人格高潔なる人である。因に養嗣子順（二五）氏は目下支那事變に出征活躍中である。

多古町大原

素封家 **大谷達雄**

當家は當町內屈指の舊家である大谷家（現町會議員、在鄕軍人分會長）より六代前に分家したる土地有數の素封家である。父君德次氏は未だ喜多村と稱せし時耕地整理組合を興し自ら委員長となり、明治三十七年より二年間に亙り實に九十餘町歩の耕地を整理し現在尙部落民の感謝と瞻仰を受けてゐる。その他助役、村會議員、町會議員、學務委員として自治行政に於ける治績も亦巨大なるものあり多年に亙るその貢獻は町民の澎湃たる輿望を擔ひ町政の重鎭たりし溫厚篤實の紳士であつた。氏はその長男として明治二十九年十二月二十三日に生れ、茂原農學校卒業後、專ら齊家修身に精勵し、高潔剛毅の人として知らる。家庭は大谷本家より嫁したる夫人との間に二男一女あり極めて圓滿である。

良文村五郷內

養蠶組合長 **青柳三郎**

先代長久郎氏

當家は先々代まで名主を勤めた舊家、土地切つての大地主で、祖父氏は釀造業を初め當主は材木業をなしてゐる。父君長治郎氏は若冠二十歲にして戶長たり村自治制施行と共に、區長、村會議員（五期）學務委員を經て村長に就任、村治上多大の功勞を遺す。又蠶業に率先盡瘁私立養蠶傳習所の開設、製糸を興す爲めに良水社を開き、良文農學校經營の主樞としての貢獻等村產業興隆の始祖ともいふべく村民に多大の信望を博した人である

多古町島

素封家 **郡司勘兵衞**

當家は先々代まで名主を勤めた舊家、合代議員、氏子總代、縣蠶病豫防委員、縣蠶業取締委員、香取傳習所教師等の要職を歷任し、村治政のため殊に蠶業のために、努力その功績多大なり。氏は現在嚴父の遺稿を整理中にして、近く發刊の豫定である。家庭圓滿を極め長男哲也氏は（三十一歲）軍人分會班長たり、既に令孫三人あり。

當主三郎氏はその長男として明治十三年十一月二十五日の岳降にして現在養蠶組合長郡養蠶聯

梅印金瘡膏及び梅印北斗香の調劑本家

を以て治く世に知られた當家は、今より百五十年前、オランダ人について金瘡膏及び北斗香の調劑術を學び、生家に於てこれを開業せんと欲したが、生家はもと材木商として旺んに營業しつゝあつたところから、止むなく分家獨立して斯業を經營したのが、實に當家の初代で、爾來引續き今日に至つてゐる。先代勘兵衛氏は幼名を春吉氏と稱し、家業の傍ら町政方面に進出、町會議員四期、區長二期に就任、町治績に大なる貢献をなしてゐる。當主はその三男、明治十四年八月二十七日の出生、もと要之助氏と呼んだが、今は父君の名を襲ぎ、家業の繁榮に鋭意し、その盛名を呼かしむるなからん事を念となしてゐる。長女靜子さんは東京藥專女子部出身藥劑師の免許を得て、東京市澁谷區遠藤家より益雄氏を養嗣子に迎へて家業を助けてゐる。因に遠藤家は財閥の亘頭鄉誠之助男並に畫壇の長老横山大觀氏等とは親戚關係の名家、益雄氏は青山學院卒業の俊才である。（寫眞は壯年時代のもの）

八都村米ノ井

學務委員 日下部 昇

氏は明治二十年の岳降にして十代を經たる舊家である。先代まで農を以て業となす。氏は京都醫專卒業の後、青森縣、群馬縣等の衛生技師を勤め、昭和五年歸鄉してより爾來村衛生、村民の健康に努力を重ね、前村會議員、現學務委員たり又學校醫として村兒童の身體發育に關し功績尠からず村民の聲望を得てゐる。家庭は琴子夫人と令息あり圓滿である。氏は大の大公望であり造詣が深い。

古城村鏑木

順誠堂 吉田 醫院

內科、外科に優れてレントゲンの施設迄あり、近隣に定評ある當院の院主は慶應大學醫學部出身の耕一氏である。氏の家は一千數百年以上の由緒深き家柄にして累代源法印を名乘りたる修驗者であつた。當家には平將門が滯在せし事もあり京都の陰陽師吉田龍山の子が當家に入つた後、吉田姓を名乘るやうになつたと言ふ歴史もある。先代琢治氏は獨力獨行の人にて明治二十六年當地に開業、その傍ら村會議員、校醫として盡瘁貢献、村民の感謝の的となり、なほ日露戰役には陸軍三等軍醫として出征、その功により正八位勳六等を賜つた人である。其の後村民一致を以て郡會議員、村長、在鄉軍人分會長に推され、その功尠なくない。當主も亦、現在村會議員の重任にありて村治の爲に貢献してゐる。尙ほ各小學校の

吉田醫院主

校醫、健康、簡易の保險醫としても盡瘁地方醫界に盡せる功は目覺ましきものである。其他貧困者救濟に關し無料治療する等篤行が多く、村民より感謝されてゐる。家には母堂ふき子さんあり、令閨きみ子さんとの間に子二男一女がある。

八都村小見

田口腔外科醫院

田口醫院主

外科の設備完全にして、近在地方民に多大の便宜を與へてゐる當院は昭和十一年十二月の開院であるが、爾來、日未だ淺しといへども日に〳〵發展を見て現在に至つた。院長は日本齒科醫大出身の田精一氏である。氏の家は古く累代米穀商を營んで來たが、先代吾郎氏の代は農を家業とせる家柄、なほ尊父氏は區長等に推されて盡瘁せる功ある人にして、當主はその男、明治四十五年一月二十六日生れの資性英邁な俊才である。日醫大卒業後は千葉醫大附屬病院に勤務し後母校附屬病院に勤務、昭和十一年十二月歸鄉と共に當地に開業せるもの、出征兵士遺家族及び避難民に對しては特別計ひにて治療するなど感謝されてゐる。

中和村清和

中和醫院

中林醫院主

院長林豐丈氏は明治十二年六月八日の岳降にして石川縣の出身である。金澤專門學校を明治三十七年に卒業して、東京市板橋區專賣局病院に勤務すること十餘年、東京市內長崎町小學校々醫として十餘年兒童身體の英育に努力すると共に長崎東町三丁目一八九番地に於いて開業しその仁術は廣く町民の信望を博してゐたが、昭和十一年末當村に招聘されて中和醫院を開業せり。爾來村健康の父として醫術のことにその深き蘊蓄を傾注して村民の信頼と人望を得てゐる。資性溫和にして慈愛の風格は、氏の讀書盆栽の趣味と併せて親しみある人として村民の喜び迎へる處となつてゐる。家庭は勝枝夫人との間に四男子がある。

神代村東和田

博愛堂病院

當院は村內健康と衛生の司として村醫たること三代に亙る。開祖東行氏は不二道修養團體を組織して其主腦として道を說くと共に、病氣に苦しむ人々を家傳藥

先考剛氏

を以て治療して諸國を廻つたといふ仁慈の人に始まる。元神崎押砂より當地に移住して押砂忠次郎と稱せし由なり。祖父貞順氏は當院の開設者にして、永く蘭學を長崎に於いて修め、檢定により醫師となり醫術の貢献のみならず、村長として自治的方面にも功勞のあつた人で、その名は現在でも慕ひ呼ばれてゐるほどである。嚴父剛氏は東京濟生學舎を卒へて村醫となり祖父氏の衣鉢を襲ぎ、醫術に村自治に多大の功あり多年村長外多くの公職に推された人である。本院長木内勝男氏は明治三十八年二月十五日の生れにして京城帝國大學醫學部卒業後、更に引續き三年間の研究を積み、現代醫學の蘊奥を極め昭和八年歸國父祖氏傳來の衣鉢を襲ぐ、人格溫厚にして仁慈に富み、今後村民の健康を保して餘り有る器宇なり。氏も亦將來村治の中樞に貢献すべく期待さるゝ人である。家庭は祖母きくさん、さた母堂、とよ夫人、二男一女にして極めて圓滿である。

木内病院長

東城村小南　和田醫院

産婦人科の他に內科、小兒科、外科の診療に從事し、名聲遠近に普く當醫院は橋村石出にも分院を開設した程の繁忙振りにて、看護婦四名が患者のよき友として奉仕してゐる。院長榮三郎氏は明治十九年十一月十二日、香取郡の名門である木內孫兵衛氏の二男に生れ、後ち當家先代伊四郎氏の懇望を容れて當家に入りし人格圓滿な士である。當家は累代醫を家業とし、特に産婦人科には勝れた家柄、先代氏は千葉醫學專門學校卒業の俊器英才にして、また衆望をあつめて村長に推され、盡瘁貢献すること、實に十數年に及びし功勞者であつた。當主は愛知醫大出身の俊才、後ち日本赤十字病院、順天堂病院などに於て研究に從事し現在に及ぶ。資性溫厚な人格者であり、家には母堂ぶん子刀自なほ矍鑠、令閨久代子さんとの間に一男二女がある。

古城村鏑木　産婆　高木クニ

當家は先代玉吉氏を以て六代とする舊家にして、女史は若くして當村の出身鏑木醫學博士を頼つて上京順天堂病院に看護婦となる。間もなく關東大震災に遇ひ後慶應病院に入り同産婆養成所を拔群の成績を以て卒業して、東京保護科兒童係助産婦主任に任ぜられ、昭和十年婦長に就任し、後ち辭職と共に鄉土に歸り産婆業を開き現在に至る。村に於ける衞生設備殊に産婦衞

生の合理的方面と施設の必須なるとを痛感して、實兒にあたる前村議高木治郎藏氏を通じ無料診斷斯業に依る救濟等に鋭意精勵して村民の感謝を受けてゐる。尙婦長時代安産具の發明をなし新案特許を得るなど斯界に於ける功績顯著にして普ねく知らるゝ人である。明治三十五年十二月九日の生れ。因に夫君典弘氏は多年東京市役所に職を奉じた人にして、一女がある。

香取町　官幣大社　香取神宮

當神宮は國土開拓の大業を訖へて天孫を本土に迎へ奉り皇運無窮の基を開かれたる經津主神を祀る。古來朝廷の御崇敬最も厚く、明治四年官幣大社に列せられた。祭神は武運長久守護の神、國運開發の神、民業司導の神として、御神德あられたかであつて、齋き奉る御鎭座の地は一に楫取と稱へられ水路險惡の所として海上守護の御神德を祈願し奉つたのであつた。神殿創造は實に神武天皇十八年の事に屬す。現存の社殿は德川綱吉公元祿十三年の造營に繫り横現造の粹を鑑む。今や皇紀二千六百年記念として昭和十一年から七箇年計畫にて改修工事中である。

境內總面積一萬四千三百五坪、境外社有地として一萬二千五百六十八坪、神域は老杉蓊鬱、殊に後苑の櫻馬場及び表參道の櫻樹は翠紅相映發して森嚴華麗を極める。神寶に貴重なるもの極めて多く、古文書も亦た決して尠くない。因に當神宮の祭典は、毎年四月十四日をトして盛大に執行されてゐる。

佐原町篠原　村社　八坂神社

當神社は境內八百二十七坪に達し本殿屋根は銅葺きにして社務所其の他の社宇整然たる神域をなす。祭神は素盞嗚命である。古くは天王臺の地に在りしを天和年中現在の處に遷せしものにして、現に同町上宿在天王臺に八坂神社奥岩と稱する石祠あり、その古き由緒を物語つてゐる。社格は村社なるも鄉社の資格を備ふ。氏子數九百戸、氏子總代は昭和十三年改選の結果加瀨庄次郎、荻原甲太郎、小林甚四郎、松浦忍、山村新治郎、山野庄介栗原友吉の諸氏當選。現神職は椎名周四郎氏であるが、人格圓滿の人として尊崇されてゐる。例祭は毎月五日であるが、七月十日より十二日まで施行される祭典は、特に種々の催し物などがあり、近鄉近在稀に見る雜踏を極める。

神里村大字清里字油田

大宮大神 神官 森 丑松

當社の正殿は大已貴命、右相殿素盞嗚命左相殿日本武尊を祀る。社格は現在無格なるも、その由緒極めて古く、二回に亙る大火災に記錄を消失せるは痛惜されてゐる處である。當社は元油田村鎭守神であつた、現神職家の遠祖森出雲は天種子命の裔にして、往古出雲の國より來り命の神德を鄕人に稱說し鄕人大いにその德を慕ふ、出雲大社より御分靈觀請を奬められ、大同元年二月二十二日社殿を創建して產土神と崇む、左相殿日本尊武は元當社より北方半里の別領土に白鳥神社として鎭座ありしを元祿十一年三月に合祀して社殿を改築、其の後大宮三社大明神と奉稱して境內の繁茂せる大樹が釀もす崇嚴なる神域と共に近鄕の尊崇殊に厚かつたものである。境內の老樹は天保八年正月、文久二年正月の兩火災に殆んど枯損し、現在の樹木は其の後の補植になるものである。附近に香取神宮一の鳥居油田の大淸水等あり往昔牧場有り名馬の產地として知らる。又當社の由緒を證する出雲大社の書並に卜部朝臣の神道裁許狀等を所藏す。祭典は例年正月二十二日天下泰平、國家安全の祈禱を執行、九月二十二日、十一月二十三日は年穀豐穰報賽祭を執行する。

常磐村東松崎

鄕社 松崎神社

當社は鄕社で、宇迦之御魂命外三柱を祭神となし、養蠶、家內和合等の神と言はれてゐる。攝社末社に安產神社、天滿大神を有す。寶龜三年二月九日の創建に係り、松崎稻荷大明神と稱してゐたが明治二年松崎大神と改め、其後松崎神社と改稱したものである。その昔坂上田村麿東夷征伐の際參拜し、鏡一面と征矢を納めてまた源賴朝、鏑木彈正、千葉家、德川家康等の尊崇厚く家康は御朱印地三十石を贈つたといふ由緒深きものがある。

松崎社司

境內地一千餘坪、本殿、拜殿、幣殿の他に玉垣、牛小舍、社務所等あり、社前の大公孫樹は弘法大師當國巡錫の砌、携へし杖を植えしものにて、弘仁年間より千餘年今尙ほ繁茂する古木と言ふ。寶物に水戸光圀の納めし葵紋付戶帳、支那傳來の木鼓あり、每年三月十五日が例祭日である。社司松崎重雄氏の家は累代當社の神職を勤める家柄にして、平野範治、平野誠之助、大川尋の三氏が總代として盡

瘁してゐる。

神里村木內

鄕社 木內大神

當社は鄕社で、豐受姫命を祭神としてゐる。創建は大同年中で小田原北條氏、千葉氏、德川家康等武將の尊崇篤く、伏見天皇の宸筆の北條氏の寄進せる粟田口吉光の短刀を寶物として藏してゐるなどその由緒が深い。明治六年に至り鄕社に列せられ、同二十七八年及三十七八年兩戰役後陸軍省より戰利品を奉納せらる。境內千六百餘坪、古松老杉天を摩し地を覆ひ蓊鬱として萬古の靈地を偲ばしめ、社內西隣一帶には夥しき貝塚がある。祭日は每年四月一日、此日縣より供進使の參向がある。氏子數は一千五百戶、總代として小松崎喜太郎、木內市次郎、伊藤元治、森川三省の四氏が全責任を以て鞅掌してゐる。なほ現在の社司は木內大樹氏である。

橘村宮本

東大神社

當社祭神は鸕鷀草葺不合尊の后に立たせ給うた海神(わだつみの)の御女に在はす玉依姫命である。相殿は古來神祕と傳へられ、近世に至りその一柱は鸕鷀草葺不合尊にましますと稱されてゐる。その創立は遠く人皇第十二代景行天皇の御宇にして、畏き由緒に富む、東夷征討の日本武尊能褒野に薨じ給へるとき天皇御追慕の御情やる方なく、尊御平定の跡を御巡視あらせられ、五十三年八月伊勢に幸し、東海に轉じて當國八尾岡に御渡し給ふ、群卿交々還輿を奏す、行宮に駐りますこと七日、十月甲午春臣命に勅して一社を營み、玉依姫命を齋きまつらしめ給ひ、東宮又は八尾社と稱へ奉るといふ當社これなり。其他神威の赫々たる將又皇室、武門の崇敬最も厚かりし事地方稀に見る大社なり殊に一葉一門中の東氏の崇敬最も篤く代代寄進頗る多かつた最も古くは東宮又は八尾社と奉稱し、堀河天皇の御代宣旨あ

社殿の一

り總社玉子大明神の稱號を賜ふといふ。應永二十三年に成れる御身體の寶函に玉子大明神云々の文字見え、傳享德三年後花園天皇の勅額には總社玉子大明神の神號を刻し、德川家康の朱印狀には惣社大明神とあり、家光以下代々將軍の朱印狀並に國華萬葉記、和漢三才圖繪等々は單に總社明神と記し、孝明天皇勅額には東庄大社と書かせられ、現今は東大神又は東大社と稱せられる俗には又古來オウジン樣と稱へらる、其の名遠近に聞えてゐた。境內は八尾山の地にして往古は境內の規模廣壯を極め星霜と共に縮少し、現在は總坪數千五百坪、殊に社殿を圍む一劃は千古不磨の大樹鬱蒼として畫なほ暗かりしが大正六年九月颱風のため主要大樹七十餘株を倒し、昔日の森嚴冷然の氣を減少せしめたことは未だに痛惜されてゐる。氏子は往古十二鄕であつたが中世三十三鄕と稱し、現在八ケ町村三千七十餘戸に及ぶ。境內の北方道を隔てゝ雲井崎あり社司飯田氏の有たりしを開きて神苑となし大正元年更に擴張し、老松の間に櫻樹あり、楓、躑躅又之に點綴し北方大利根を隔てゝ、遙か鹿島灘を望み眺望絕佳、四季夫々の雅趣豐なる名勝として知らる。又谷を隔てゝ三丁東方に朝日岡あり古來白旗山と呼び、「景行天皇東幸の砌輿蹕を此に駐め給ひ、時に侍臣捧持の幡を帝座に設く」爲めにこの名がある と傳へられてゐる。寶物には孝明天皇の勅額をはじめ奉り、御體寶函、寛永鍔ロ德川家康、家光の朱印狀の他多數あり。現社司は飯田直枝氏にして人格高潔の人として名聲あり。因に當社は大正八年縣社に列せり。

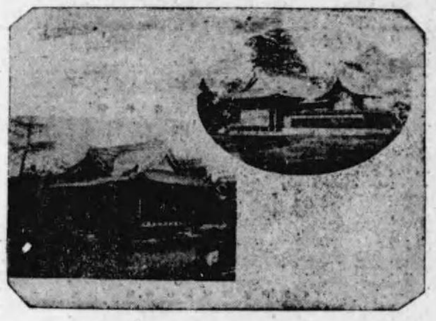
そ の 二

府馬町府馬

愛宕神社

當社は鎌倉時代より悠久の歷史をもつ神社にして、境內一千五百餘坪老樹鬱蒼として掩ひ繁り本殿は二百段の石段の山上にあり自づと莊嚴なる神域をなしてゐる。祭神は火產靈神、大雷神、高龗神にして、高倉天皇の御宇治承四年源賴朝公義兵を擧げたるとき、千葉常胤公、粟飯原左衞門尉常朝に命じ御勸進なせし舊跡と傳へられる。「弘治二年頃度々火災あり千葉氏これを心痛新調の靈劍と神石を捧げて社殿を改造したるに火災忽ちに止む」といふ古き由緒より火難、旱害除の神として知らる。例祭は毎年十月二十四日、神爭祭は毎年七月十四、五の兩日盛大に執行され近鄕の參拜者萬餘に達し雜

踏を極める。氏子の數は七百餘戸で、當府馬町全部とそれに山倉、八都の兩村に及んでゐる。現在の氏子總代は前田佐、鈴木嘉左衞門、宇井太衞、鎌形富五郎、宇井都三智、布施員一、木內淸志の諸氏で、岩磐城二現社司は、人格高潔にしてなか〳〵圓滿の仁士で、多數人の信望を得てゐる人である。



愛宕神社（御拜殿）

（本殿）

古城村鏑木

鏑木祠宇

鏑木武男氏

當祠宇は天御中主神、高御產神を初め神御產神、國常立尊、天神七代、地神五代、人皇三代其他誕國之神々を祭神とし明治十七年鏑木儀左衞門氏の創建にかゝる。當家は千葉常胤の後裔にして累代豪族と聞えし家柄なるも、明治初年頃は家運衰退せしを以て信仰にて回復せんと當祠宇を建立せしものである。除病難、開運、武運長久に靈驗あり附近村民の信仰厚く百五十戸以上の信徒がある。なほ當鏑木家當主武男氏は先代正胤氏の養嗣子明治二十三年七月九日生れの人格高潔な人尊皇崇敬の念厚く人望家である。現在東京丸の內鏑木汽船株式會社取締役の職を勤めてゐるが、匝瑳普通學校卒業後大患に罹り到底立つ事出來ずと思はれたが只管鏑木祠宇に祈り遂に健康回復して今日を見るに至つた信仰篤く、鏑木汽船株式會社社長たる令兄秀胤氏と共に當祠宇の費用を全部負擔し、信徒よりは寄附を受けず眞の信仰團體として今日に至らしめた。家に令閨てつ子さんとの間に二男一女がある。

佐原町東上川岸

佐原支教會

東大教會相馬分教會

當支教會は明治二十一年に創立され、當地方に於ける天理教の宗教的地盤の確保に巨大な足跡を印しつゝある。初代會長は木村淸一郎氏であるが現在既に六ケ所の部下教會を有してゐる。豐里村、小

見川町、香西村、銚子市内三ケ所等がそれである現會長石上平作氏は明治九年十月一日の岳降にして資性溫厚篤實の人信者に多大の信服を得てゐる人である。氏の息石上善作氏（明治三十九年生）も豐里宣教所長たり現在支那事變に於いて上海方面に出征活躍中である。當支教會は大正十一年十月改築、昭和八年支教會に昇格現在に及ぶ。因に石上正平會長は當郡豐里村下櫻井の出身である。

佐原町寺宿

長妙山淨國寺

日蓮宗に屬する當山は長澤伊豆守の開山にかゝり、淨妙院日施を開基となしてゐる。御本尊は三寶尊、境内に清正公の像を安置し毎月舊二十三日にその緣日がある。門前には南無妙法蓮華經の文字を刻みし小松石の見事な寶塔が由緒の深きを語つてゐる。本寺は眞淨寺、寶物に日蓮上人の高弟日朗の作と傳へられる日蓮上人の像が藏されてゐる。現住職は立正大學卒業の小島春雄師、師は當寺住職を勤める事、十四ヶ年に及び、なほ短歌に造詣深く東京に於て短歌雜誌胡弓、青窓を主宰す。また各公職を兼ねて盡瘁中であり、人々より感謝されてゐる。

香取町追野

東光山惣持寺

新義眞言宗智山派に屬する當山は京都智積院の直末の寺院にして、末寺觀照院光明院、寶藏院其他六ケ寺を有する當地方屈指の名刹である。本尊は愛染明王、二千坪餘の境内地及び田畑、山林を五町歩有し、現在の寺堂は百五十年前大火災に遭ひて建立されしもの、寶物として天竺鈴を藏して有り、その鈴は數千年前のものである。毎年舊一月二十一日、九月二十一日大護摩をなす。四月九日より五日間は札參り、十二月二十三日より三日間は星祭りが行事として行はれてゐる。久保木兵吾、高城芳三郎、久保木正衞の三氏が大世話人として貢獻尠なからず、普通世話人が六十九名である。因に先住職山野照硯師は名識にして傑僧と稱へられ、權大僧都の位階にあつたが昭和十二年十一月二十八日、惜しくも六十五歳を以て遷化された。その長男照雄師が現住職にて明治三十六年四月三日の出生、佐原町觀照院住職も兼ねてゐる。

小見川町小見川

壽永山善光寺

當山は清賢山が開山の祖にして天正年間の創建である。天台宗山門派に屬し阿彌陀如來を本尊とする。九ケ寺の末寺があつたが明治維新の際これを廢し當寺のみ殘り、又明治二十四年火災に遭つて山門佛體のみしか殘らなかつたが、寄附金二萬圓を得て明治三十七年に現在の寺堂を

建立以來繁榮を極め、檀家小見川町及近在に及び當町一の寺院である。毎年盆の法要十月十夜講には附近の善男善女の參詣者多く、又佐藤尙忠先生の檀家寺でもあり初代松本幸四郎の墓もある。本尊其の他の佛像が寶物とされてゐる。現在角田達五郎、根本矢太郎、田村留次郎、渡邊富次郎の四氏が總代として盡瘁貢獻中二十六世山口良延師が現住職にて既に三十年間勤める。

大倉村大倉

大倉山清寶院

當山は臨濟宗妙心派に屬し、二十三教區第八部宗務支所である。開山は二條城主の弟にして香西村大龍寺に修行を積みし速庵禪師、その城主の懇請により當寺を建立せるもの、本尊は聖觀世音菩薩である。本寺は大龍寺、村内の慈眼院が末寺にて、當村一の寺院として村民の尊崇頗る厚い。篠塚初太郎、成毛種吉、鈴木哲三郎、成毛精一の諸氏が檀家總代として盡瘁中であり、現住職は安藤弘道師、師は十五代目にて、現在臨濟宗妙心寺派宗務支所長である。

神里村虫幡

弘富山清水寺

當寺の御本尊は十一面觀世音にして弘法大師の作として有名である。天長四年九月堂宇燒失の砌、その遷座不明となりしが、仁壽元年五月慈覺大師が當國へ顯密兩敎の弘普巡錫ありし時「境内竹藪の上に五色の雲たなびき井中より女人出で筍に向ひ禮拜筍左右に開きて中に十一面の尊像あり安產子育の御告げをなす」との由緒深き故事により靈驗あらたなるを以て近鄕のみならず遠隔の地にも知らるゝ古刹である。境内廣壯にして大伽藍既に星霜を經て朽廢せんとするに當り現住職三十二世山本良榮師は之が修理を志し、日々護摩供を修して萬餘の信者に呼び掛けてゐる。その完成も近きことならん。尙ほ當寺子育觀世音御緣日は舊曆一月十七日、七月十七日、取子身上安全祈願は毎月十七日、試育講社大護摩修行は新曆四月十五、十六、十七日、十月十五十六、十七日、大念佛會は舊曆七月二十二日、十月二十二日となつてゐる。これら緣日は極めて盛大である。毎年節分厄除大護摩の修行も施行される。

八都村神生

法雲山新福寺

當山の開基は足利尊氏の弟足利直義の奥方、開基は圓覺寺の管長たりし天澤禪

師、淮開山を碧天禪師として、聖觀世音菩薩を御本尊とする。開山は慶安年間にして今年が五百五十九年忌に當る由緒深き寺院である。當寺は前本村字仁良に在りといふ說と現在より奥山にありたりとの二說あれど兩說共確證なく、享保二年時の住職耆山江崎谷禪師住職の鑄造せる鐘に前年堂寺其他燒失のことあり。現在の七間に六間の本堂も其の後の建築になるものである。又中興の開山巧嶽宗成禪師より數代の住職を通じて般若經六萬卷を石に刻す。現在最後の住職たる沙門珪山海和尙の銘ある重さ一間の供養塔あり一字一石に刻せし石其の下に埋むと稱さる。常時は禪宗妙心寺派としての行事の外に毎年二月八日和尙先導にて信者一統村内各戸に立ちて祈禱をなし、又毎月一日十五日村内の老人を集めて祈禱する行事がある

江崎谷禪師

實物として般若經及開山の傳法書を傳へてゐる。境内に毘沙門、藥師の二堂ありて檀家は本村神生、仁良の一部で約百二十戸、現住職は第十七世江崎祖髓和尙で妙心寺に修業、後埼玉縣半林寺の副住職たりし有德明智の人、大正三年當時住職となり村民の信望が厚い。

常磐村東松崎

勝榮山能滿寺

當山の開基は房州正木大膳大夫にして正木左近大夫の兄に當る日運上人なり。四百餘年を傳へる由緒多き日蓮宗の古寺にして、御本尊は三寶尊である。開基以來鬼子母神を祀り、尙備中高松稻荷山より最上位經王大菩薩を勸請しあり共にその靈驗あらたかを以て知られ、信者踵を接してゐる。本堂正面の天女壁畫と古色蒼然たる天井の彩色は堂宇の壯嚴を偲ばせてゐる。鐘樓門は二十六代目日溫上人の建立になる。殊に本堂に安置される日蓮上人の尊像は由緒深きものといはれてゐる。現住職は佐賀縣の人、目下立正大學在學中の鳥飼海暘氏にして大正三年の岳降である。父君鳥飼祐顯師は目下當寺に在つて、留守を與り、祈禱其の他をなし、附近人士をしてその修行と人格の深きを慕はしめてゐる。祐顯師は九歲の時日蓮宗に入り、尊父に付きて十五歲迄修行、後福岡縣八幡市高橋日慈師及伊藤本智師に付き修行し昭和四年當村人士の懇望により當寺に至り、海暘氏を住職として自らは加持祈禱に衆生濟度の行を續けてゐる人である。四男の子息あり殊に四男昭雄君は未だ十歲にして書を良くし、

鳥飼海暘師

泰東書道院、大日本教育書道聯盟其他より賞狀數多を受け將來を囑望されてゐる

飯高村昌山

妙見山妙福寺

當地方の名刹たる當寺は日蓮宗に屬し日蓮上人を本尊とする。圓乘院日授師の開基に係り、清行院日祐師が開山の祖、中本山にして八王子、飯高、横濱等に四ケ所の末寺がある。廣大な境内地には本堂、庫裡の他に鐘樓、山門の建造物が由緒の深きを思はせ、また昌山妙見宮は二千年以前の名作靈像にして、聖德太子が守屋を退治したまう折り、この像が童子となり現はれ太子をたすけたと言ふ深き歷史のあるもの、當寺の寶物は多く日蓮上人眞骨三粒、日祐上人其他の眞筆曼荼羅數百卷、十戒の本尊其他が藏されてゐる。また妙見宮には元祿年間水戸光圀公參拜せられ、現在信者は東京横濱房州方面迄及んでゐる。現住職は加藤智淸師にて檀家の信望頗る厚く、又その傍ら飯高村方面委員として盡瘁貢獻、その功勞なくない。

加藤智淸師

豐和村飯塚

龍尾山光福寺

當山は日蓮宗に屬する古刹にして、日蓮上人を本尊とする。應永年間日用上人の創建に係り、明治四十三年日圓上人の努力によつて改築されて現在に至つたものである。中本寺にして末寺飯塚區に於て三寺を有す。一町歩に渡る境内には本堂の他に祖師堂、鐘樓堂、羽黑堂を有し近在の信者多く、羽黑堂には齒に關する佛を祀つてゐる。寶物は狩野正運筆涅槃像畫一幅、御本尊、茶曼羅、日亨上人筆があり、現住職は松本泰明師である。

松本泰明師

古城村鏑木

高巖山長泉寺

當寺は享祿年間、時の城主鏑木信濃守胤定が印旛郡勝胤寺より移し建立せるものにて、明治初年まで秋葉神と共に祀つ

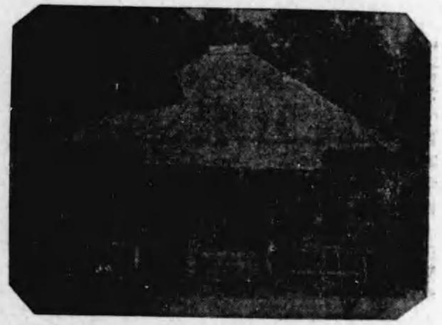
淺井師

てゐた。明治十九年旱害の際、秋葉神に雨乞をなし、爲めに大雨至り旱害より救はれ、秋葉堂を建立したと言ふ由緒深きものがあり、御本尊は如意輪觀世音である。境内には本堂、秋葉堂の他に鐘樓、庫裡、子安堂があり、子安觀音を祀りて子安講を開いてゐる。土造の觀音の首、板碑が寺寶として藏されてゐる。現住職淺井鐵城師は二十四代目に當り、佛教會分會長として盡瘁してゐる。

萬歳村溝原

北陸山東榮寺

檀家二百餘戸を有し、法燈相繼ぐこと七十八世の當山は、天平十四年行基菩薩の開山にかゝるもので、天台宗に屬し觀音菩薩を本尊となしてゐる。上總國長福壽寺を本寺となし、四ヶ寺の末寺を有してゐる。境内は約四段歩、本堂、觀音堂鐘樓、庫裡表門等偉容を示し、行基菩薩が自ら刻んだ觀音菩薩、釋尊出山十六羅漢圖その他奈良朝時代の不動尊、地藏菩



薩などの寶物を秘藏してゐる。現住職山崎豪信師は地方に聞えた有德の人し、芳雪惠和尚禪師の再開山になるもの

高橋般那師

は敏堂恭大和尚禪師を開山の祖として、臨濟宗に屬する名刹である。鎌倉時代に源義經が當地へ落ち延び陣屋を張り現在寺の後方にある「一夜堀」はその際掘れるものにして、其の後靜御前が一堂を建てしものと言はれ、鎌倉建長寺と同時代のもの紋所も千葉氏のものにあらず鎌倉の紋所である。尚ほ境内に「虚空藏菩薩」を安置せる一堂があるが、村に何か變事あればこの堂より火柱があがり事前に村民に知らせると言ふ。この堂の他に本堂庫裡鐘樓が境内にあり、阿彌陀如來を本尊とする。又本寺は瑞穗村光福寺の客末寺である。佐藤平兵衛、石井辰五郎、佐久間龍太郎、角田熊吉の諸氏が檀徒總代として、鞅掌精進、盡瘁してゐる尚ほ現住職は三十代目高橋般明師でその名近隣に高い。

神里村油田

天澤山崇福寺

當山

豐和村内山

金台山妙廣寺

當寺は大同元年空海開闢の山として金台山智光寺と稱し門末三十有六ケ寺眞言

宗の總本山であつたが、第三祖日祐尊者に歸依したるも門末法類等の異議あつて改宗を見合せとなり中山第七祖に至り、荏間弘左衛門、林雅樂之輔、鈴木左京之輔等新に境内を寄進して玆に眞言の山を捨て、日蓮宗金台山妙廣寺と改め、永享九年九月十五日當山を開山せり。當寺は古き由緒と歴史に富む。曾つて光圀公の立寄られし事あり、光を給うた妙光寺と稱せられしも其後又妙廣寺と稱へるに到つた。修行僧開眼の逸話等もある。權律師日玉上人を開山とし、寺寶として日蓮上人御眞筆其の他がある寺宇は、本堂（八五間×六、五間）庫裡（九、五間×四、五間）鐘樓、山門釋迦堂その他巷然と完備してゐる。現住職は四十世鈴木教善師である。明治十六年五月二日茨城縣に生

鈴木教善師

れ、東洋大學を卒へて、神奈川縣足柄下郡に於いて修行すること十有餘年、東京小檀林教師たること二十有餘年、現に佛教事業協會評議員、千葉縣方面委員、修法師監事、協議員として、只管宗教報國のために盡瘁、且つその温容にして高潔なる人格は共に多くの善男善女の厚き信望をうけつゝ法運の隆興へと心を注いでゐる。

豐和村大寺

天竺山龍尾寺

當寺は眞言宗智山派にして開基は行空上人とあるも、その以前なるものゝ如し藥師如來を御本尊として尊崇厚く由緒に富む。弘法大師四十二歳の頃當地に巡錫して眼病者多きを知り杖を地中に立て水

石井住職

を出して治療せしめた之即ち藥師如來堂の始めなりと、又嵯峨天皇の頃の旱魃による古傳説あり、龍尾を納めて龍尾寺と稱す。現在成田信仰館にも當寺より出でたる古代瓦有りその他諸古物多くして當時の古きを如實に物語つてゐる。本堂兼客殿八間に十一間、庫裡五間に八間、藥師堂、不動堂、鐘樓など整然として境内千三百餘坪に上り、寶物として、龍尾及龍玉を保存す。本寺格にして末寺三あり檀家は大寺區及び鏑木百六十戸、現住職は石井堯快師にして、師は宗教報國の眞念に厚く、結社密嚴教會十善報國講社長並に詠歌師範其の他本山役員等をも歴任して氏の人格と共に多大の尊敬を受けてゐるが、氏の嚴父氏も當寺住職として多年に亙り功績を遺した人である。因に師は明治二十五年九月廿八日の岳降である當寺の櫻の大木並に老大樹は珍樹として有名であり、現住職が昭和五年に奉祀した不動尊は男女厄除けとして靈驗あり、參詣者の後を絶たない。

安房郡

館山北條町

館山北條町役場

當町は三百五十年以前里見義康築城の地であつて、爾後幾多の消長變遷を經過して明治五年館山町を創始せられた。同年北條町も開創せられ兩々相並びて縣下有數の港都として整備充實せられた。斯くて時代を閲する毎に發展向上し、館山町は産業交通の要津として北條町は郡治の中樞として町勢大いに振興し、遂に昭和八年四月兩町合併を完了し館山北條町として新生面を開き町域を擴大し施設充實改善され特に東京灣頭を扼する良港としてその性能實力發揮されつゝある。最近現在戸數四千二百三十一戸、人口總數二萬千二百餘、幼稚園、尋常高等小學校青年學校、圖書館は何れも兩町の舊域に在り、縣立安房中學校、同安房高等女學校、同安房水産學校、町立北條實科高等女學校、私立安房高等家政女學校、同明倫義塾の諸校備はる。館山海軍航空隊は館山海岸數萬坪を占め防空使命の爲日夜猛訓練に勵精して居る。其他官公署の設け多く、産業實業の諸工場諸團體の活躍目ざましきものあり、八幡神社は尊崇者多きこと關東隨一とされ、鏡浦海水浴場城山等の名所亦た尠くない。有爲の士を網羅せる町當局は常に熱誠以て施政に盡し町勢進運の前途洋々として刮目待つべきである。因に現町長は正七位勳七等の石崎常夫氏である。

稻都村

稻都村役場

郡の中央に位置して、四面山に圍繞された本村は、東北から西南に延び、中央を山名川貫流して池之内、中、御庄、山名の四大字に分れてゐる。面積〇・六〇四方里、戸數三百餘戸、人口一千五百餘を占め、その殆んどが農を生業となし、米麥を主産物としてゐる。縣道市場那古線南部を横斷し、東は豊田村を經て丸村に、西は國府村を過ぎて那古町に通じて交通に便し、小學校の外に補習學校、青年學校及び男女青年團、在郷軍人分會等の社會團體があり、また村農會、畜産組合、煙草組合、耕地整理組合、木炭同業組合、信用組合などの産業關係の團體等も完備し今後の發展を約束づけられてゐる。なほ村社四、寺院六があり、吉田登氏村長として現任中、一身を挺して盡瘁してゐる。

稻都村長 吉田登

當家は本村に於ける舊家、名望家として知られ、先々代周藏氏は村自治に貢献大なる功勞者にして村民の人望厚く令名また高い。當主は明治二十四年九月十日の出生にして先代忠太郎氏は當主幼少の頃逝去せられたる爲め、氏は先々代の手により薫陶撫育された。夙に自治公共の事に竭し、助役、村會議員二期、消防組頭その他各種公名譽職に歴任して各方面に功績を累ね、人望極めて高い。

白濱町白濱

白濱尋常高等小學校

本校は明治七年の創立に係り、同三十年高等科併置、四十一年乙濱校を併せて翌年校舍改築、その後再三教室講堂等の増改築を行ひ今日に至つた。聖旨を奉體して國民道德を涵養し善良なる國民の育成につとめ、時代の風潮と環境並に實生活を凝視し郷土に即せる人物の養成に努力し、殊に實業教育の重視、勤儉貯蓄の奬勵、奉仕作業の指導、敬神崇祖の涵養は本校の特色とされ、質實剛健の校風と共にその名は縣下に著聞する。海軍大佐龍崎留吉氏、工學博士成瀬政男氏は共に本校出身者中の異彩である。兒童千餘名就學歩合九九パーセント七二、出席歩合九九パーセント八九を示す。校長には山本安義、鈴木安太郎、早澤健之丞、長谷川房治郎、鈴木貞良の諸氏が就任し、現校長は德望著き秋山潔氏、なほ職員は二十二名をかぞへる。

豊房村神餘

神餘尋常高等小學校

本校は明治七年の設立に係り、同二十六年校舍建築、大正十三年現在の地に移つた。豊房村神餘を學區とし、産業組合を以て統一せる人情純厚の山間部落である。兒童に日本人たるの職分を自覺せしむると共に、産業組合教育により相互扶助、共存同榮の精神を涵養しつゝあり、兒童數二百三十名、就學歩合九八パーセント七一、出席歩合九七パーセント八九を示し、體操研究會の如き特殊施設を有し成績良好である。現校長は川名眞太氏ほか職員は五名をかぞへる。

千歳村白子

千歳尋常高等小學校

本校は明治三十五年の設立に係り、學級十二、兒童五百名をかぞへ、職員は十七人である。青年學校を附設し、各種施設整ひ、體育方面に於ては特に良好である。現校長久保田太一氏は隣村九重村の産、先祖善右衞門氏は信仰心深く、阿彌陀佛を脊負つて日本全國の神社寺院を巡拜し淨財を奉納せりと傳へ、その時の阿彌陀佛及び集印帖は今なほ當家に存し家

實とされる。當主太一氏は八十代目、千葉師範の出身にして、當校へは昭和八年の赴任、正八位勳八等を有し、高等官八等待遇を受けてゐる縣育英界の功勞者である。

稲都村

山名修養團消防部

當修養團は出征兵士の送迎及び同遺家族慰問並に稲刈扶助等をなすほか、道路改修工事、農村青年の思想向上等の修養及び社會奉仕をなすと共に、消防事業に盡瘁しつゝある特殊團體として縣下に著名である。團長は安田清氏（明治三十六年生）にして令弟唯司氏は、青年團長に任じてゐる。常務理事は田原菊治氏である。功勞者には大島茂助、中村光、平野一郎、杉田親之丞、蓑浦安太郎、須田喜市、小柴公平、溝口茂一郎、安田梅吉、小宮定治の諸氏にして、支部は四ヶ所にあり、完全な統制連絡の下に、活動してゐる。

千倉町北朝夷

外房信用販賣購買利用組合

電話千倉八番

當組合は千倉町及び健田村を區域とし組合員一千七十餘名、出資總額三萬九千八百圓を算し、區域内の金融並に販購利の事業を圓滑ならしめ、組合員の享受する利益は大なるものがある。貸付總額十九萬三千八百餘圓、貯金二十二萬二千圓購買價額三萬四千一百餘圓、販賣價額二萬一千三百餘圓、利用料八百餘圓の事業概況を示し、準備金及び積立金は二萬二千圓を算し、基礎の堅實なること郡内屈指といはれ、農業倉庫は四十五坪一棟を有する。組合長には設立以來押元才司氏が就任し來り、理事は堀口滿司氏、石井健成氏、鈴木一良氏、監事は青木源治氏鈴木利一氏にして、健田村へは出張所を置き、所長には卓越せる頭腦と溫厚なる人格を有して德望高き鈴木倉吉氏が擧げられてゐる。

豐田村

豐田信用販賣購買利用組合

明治四十三年二月三日、信用單位組合として創立されし當組合は其後幾多變遷を經て現組合長吉野森治氏、理事長佐久間要藏氏、其他各役員と事務係員の努力により、現在の販賣、購買を新設せるものである。なほ出資總額は九千九百四十圓、組合員數四百八十名にて一口の金額は十圓である。貸付總額九萬八百十圓、貯金十二萬四千九百三十九圓餘、購買五萬四百七十七圓餘、販賣價額八萬八千圓の縣下屈指の優秀なる成績である。大正七年には產業組合中央會千葉支會長より表彰を受け時計を授與された。なほ昨年より利用部を設置して、廣大なる農業倉庫及び同作業場を建築し、精米粉、肥料粉碎、籾摺繩仕上機等を備付けて益々發展の途上にある。尙ほ吉野組合長は明治十一年生れの頭腦明晰、また溫厚篤實なる人格者、多年和田小學校に敎鞭を執り

退職後は自力にて農村子弟に國漢數の敎授をなし、外にありては村會議員其他を兼任して居り、その功一々枚擧に遑がない。佐久間理事長も村會議員、助役其他を歷任せる人、また推されて郡會議員の重任を勤めし事あり、人望を一身に集めてゐる村幹である。

丸村珠師ヶ谷

有隣信用販賣購買利用組合

當組合は明治四十三年十一月、故矢部氏、現組合長三幣氏等の肥料共同購入より端を發し有限責任を以て創立され、昭和八年資金五圓を十圓に改正、保證責任に變更したもので創立以來三十有餘年に亙る組合長以下百十餘人組合員の一致協力によつて、業績逐年向上發展し現在既に銀行其他よりの借入金なく、納稅の如きも稀に見る好成績を見せ、組合の根本主旨たる、產業理想鄕として和樂共榮の境地を具現してゐる。出資總額四千四百餘圓、貸付金一萬五千圓、貯金二萬三千圓、購買八千圓、販賣三千圓、利用料八百圓の數字を示し、農業倉庫一棟、作業場一棟の完備あり、當組合の將來は唯發展の一途を以つてトされてゐる。

組合長理事 三幣寅吉

明治元年生、當組合の創始者にして、村長、助役、牧入役の外村治產業の凡ゆる樞要の機に鞅掌して巨大な治績を擧げた村屈指の功勞者である、且又巨頭として村民の瞻仰澎湃たり。家庭は夫人並に嗣子常吉夫妻と令孫三男三女あり圓滿を極む。

理事從六位勳七等 鷹岡福太郎

明治五年生、千葉師範卒業後、千葉尋常小學校長、母校を經て野田高女校長等敎職四十年の敎育界の功勞者である。長男誠一氏は商大出身でありなほ勳八等矢部林藏（村會議員）、尾形貞治（元村會議員）、鷹田享（元村會議員）の諸氏は現監事。

東條村

東條村信用販賣購買利用組合

組合員四百九十五人、出資總額二萬七千七百圓を算する當組合は、貯金二十三萬圓を數へてその多額の故を以て表彰を受けしことあり、その他貸付三萬圓、購買年二萬三千圓、販賣年七萬圓に上る事業成績を示し、購買は農家に負債の不利なるにより現金取引となし、雜貨品を廢し農業必需品に限つてゐる。組合長は創立當初から鳥海孝太郎氏である。氏は明治十三年八月十九日の誕生にして、溫容の中に威嚴を含む。實父は清次氏と稱し村會議員、和泉耕地整理組合長等の要職をつとめた。氏は東京帝大農科を明治三十六年卒業、數年間母校に助手をつとめ歸鄕後は、耕地整理組合に多大の盡力をなし、また郡會議員、縣會議員、村長等にも歷任、現に當組合長たるほか郡農會長、村農會長、村會議員、方面委員等の要職を兼ねる。尙長男及び次男は支那事

變に出征中である。

豐田村西原

丸豐田耕地整理組合

當組合は明治三十七年日露役遼陽陷落の機に記念事業として、荒地乾田への灌漑希求久しかりしを、故石井芳造、加瀬嘉一郎氏等主任となつて創設されたものである。頭初丸、豐田、南三原の三村聯合なりしを南三原退き、丸豐田耕地整理組合となつた。耕區は丸村、石堂、石神珠師ケ谷、深田、豐田村丸本、沓見等である。丸石堂にある小谷池の工事は大正十一年より五年間の繼續工事として地平下三十尺に及び耕區一圓の荒蕪地は良田と化し、滿々たる紺碧色の水は七十五町歩に亙る灌漑をなしてゐる。工事負債金五萬圓も既に半額に減じ村産業の上に多大の利益を齎してゐる。現組合長は創始者の一人加瀬嘉一郎氏、副組合長は青野民造、石井常吉兩氏である。

（組合會議員）

石井利三郎　御子神京之助　尾形福太郎
八代　平吉　田山　善樹　鈴木正三郎
伊藤　森治　川上長五郎　加瀬　只一
菰岡　宇一　菰岡　源藏　齋藤　幸吉
石井八太郎　大塚　大藏　大藏　加瀬源太郎
丸　孝　伊藤　要藏　石井小以知

（組合評議員）

渡邊　長吉　石堂　忠司　鷹岡　享
矢部　林藏　平井彌太郎　鈴木　馨
鈴木萬次郎　牧野平次郎　菰岡　衞
石井　常吉　石井小以知　粕谷　平藏
加瀬　角造　原田　作藏　行縄　桑藏
吉野　貞藏

組合長理事　加瀬嘉一郎

當家は房州白濱に源頼朝が上陸せし時功有る名主たりし加瀬家に苗字帶刀を許され、後豐田村に住し三戸に杉の老樹ありて家の標とせりと、三戸に杉の老樹ありて家の標とせりと、口傳せらるゝ屈指の舊家にして、尊父源一郎氏も多年村役人等なせし人、氏は三十七歳にして郡會議員となりその他産業組合の設立に盡瘁、村會議員、區長として地方自治並に村政の上に巨大な功績を殘し現に村の元老として多大の信望を擔ふ人格者、家庭はヤス夫人、長男哲氏夫妻に既に令孫あり、頗る圓滿である。

千倉町

千倉町長　勳八等　小西鍋吉

敬神崇祖尊皇愛國の大道を顯現するを以て町政治の指導精神としてゐる氏は、明治四年の岳降にして、千葉縣師範學校卒業の教育家的肌合の村幹である。夙に朝夷、忽戸、富浦、和田、千葉の各小學校に訓導或は校長となつて後千葉縣視學に拔擢され、次で佐倉高等女學校長に轉任、更に千葉市原、香取各郡社會教育主事に歷任し、その間千葉縣教育會地方委員長、同評議員並に理事等の要職を兼ね、縣下教育界

に貢献稗益するところ甚大であつた。現在は千倉町長たるほか安房郡町村長會副會長並に千葉縣町村長會評議員に推されて縣下町村長中に異彩を放つほか、安房國防協會副會長として重きをなしてゐる識見豐富にして手腕卓越、町民の信望頗る厚く、敬神崇祖思想の徹底、愛國精神の涵養は大にその實績を擧げてゐる。

和田町

和田町長　劍持安太郎

町政の刷新向上の爲に全力を擧げて盡力してゐる氏は明治元年七月四日、二百五十年間連綿と續く當家に先代傳藏氏の長男として生を享けた。稀に見る人格高潔な人物にて町長、助役、消防組頭、漁業組合長に推輓されて勤むる事多年、現在も町長、漁業組合長の重任にあり、また農會長も兼任、老境の身を挺してなほ自治、産業の爲に鞅掌精進してゐる。その多年に亙りて盡瘁せる業績大なるものあり、表彰敎擧に遑なく、當町の第一人者として、元老として衆望を一身に集め尊敬されてゐる。また漢學を學びし事のある篤學の士にて、長男憲治氏とその夫人得子さんは現在東京に在り、長女菊枝さんは横須賀にゐる。

鴨川町

鴨川町長　服部岩吉

豪放磊落、加ふるに果斷を以てし、力量の人と稱される氏は、服部家四代の當主にして先考熊次郎氏の長男に當り、明治二十年五月を以て健かな呱々の一聲をあげた。同四十年旭川歩兵第二十八聯隊に入營、在役中は模範兵といはれ、皇軍の華と評された。抑々當家は代々海産物商を營み來りしが、氏は除隊後祖業を繼承すると共に更に米穀商をも兼營して益益家産を大ならしめ、兼ねて鴨川町會議員に當選四回、また土木委員たること三期、自治に貢献頗る多く、活動的手腕家との定評を得た。その後全町民の輿望を擔つて町長に就任、引續き今日に至り消防組頭及び學務委員を兼ね、消防組に關しては特に業績顯著なるものがある。家庭には母堂さき刀自のほか、夫人むめさん（愛國婦人會分會長）、長女よねさん、養嫡貞治氏等がゐる。

白濱町青木

白濱町長　早川嘉左衞門

氏は資性溫厚堅實苟も邊幅を飾らず、一意公事につくすこと實に三十有餘年、單に本村自治界の覇者たるのみならず、縣下町村長中の異材として一般にその手腕力量を認められてゐる。抑々早川家は里見氏の家來たりし家柄にして、一時白濱北方の山地に住居せることあるも、今から三百年前に當白濱に來り、爾來代々漁を業としたが、先代繁松氏は傍ら農業も兼營した。